

国立研究開発法人
国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所

精神保健研究所年報

第 34 号 (通巻 67 号)

令和2年度

National Institute of Mental Health
National Center of Neurology
and Psychiatry
———2021———

国立研究開発法人
国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所

精神保健研究所年報

第 34 号(通巻 67 号)

令和2年度

National Institute of Mental Health
National Center of Neurology
and Psychiatry

———2021———

巻頭言

令和 2 年度の精神保健研究の業績年報をお届け致します。どうかお目通しの上、皆様からの忌憚のないご指導をお願い申し上げます。

令和 2 年度は Covid-19 の流行を受け、研究活動が大きく制限されました。特に地域での支援、交流活動に制約が生じたことは、精神保健医療研究にとって大きな問題でした。当研究所では厚生労働省と協力して、大規模なストレス調査を実施するなど、国民の負託に応えた研究を精力的に推進してきました。以下に、私たちの研究の一端をご紹介します。

公共精神健康医療研究部では、精神医療を提供する支援者の質の向上という観点から、医療実施状況のモニタリングやデータ分析を通し、医療従事者の活動状況や効率的に医療を提供するための資源の実態を明らかにする研究活動を行っております。薬物依存研究部では、薬物問題を抱える刑務所出所者のコホート研究を通じて、保護観察と地域精神保健福祉をつなげるシステムを国内各地に構築しつつ、厚生労働省依存症治療拠点事業における薬物依存症の全国センターとして、治療・支援の普及・均てん化を行っております。行動医学研究部では、PTSD にメマンチンが有効との有望な成果を得るとともに、摂食障害治療センター設置運営事業に取り組んでおります。児童・予防精神医学研究部では、地域の子ども達を対象としたコホート調査から、自閉スペクトラム症と発達性協調運動障害の両特性に緊密な関連があり、修学前児童のメンタルヘルスにネガティブな影響を及ぼすことを見だし、これに関する国民への情報発信を行っております。精神薬理研究部では、ストレスによる行動変化の背景に眼窩前頭皮質－扁桃体回路終末シナプスにおけるカルシウム透過性 AMPA 型グルタミン酸受容体の動員が関与している可能性を報告し、また、同胞マウスの社会的敗北場面を撮影したビデオの目撃によりマウスがストレス反応を示すことを世界で初めて明らかにしました。精神疾患病態研究部では、全国多施設共同研究にて複数の精神疾患の共通な脳病態を明らかにし、精神疾患の薬物治療のエビデンスプラクティギャップを明らかにし、そのギャップを埋める講習を全国展開しております。睡眠・覚醒障害研究部では、厚生労働科学研究事業において、健康維持に資する「睡眠の質」評価指標を開発し、これに基づく啓発活動の有用性検証調査を進めております。知的・発達障害研究部では、神経心理学的評価に基づく神経発達症の病態解明、COVID-19 感染拡大化における神経発達症の児童と養育者の生活の質に関する研究を推進しました。地域・司法精神医療研究部では、当事者や家族の研究参加 (Patient and Public Involvement; PPI) を促進することによる研究の質の向上を図っております。ストレス・災害時こころの情報支援センターでは、災害時 PFA 研修を推進しております。

これ以外にも多くの意欲的な研究、活動が行われております。社会の役に立つ十分な成果を挙げるためにも、どうか皆様のご指導、ご協力をお願い申し上げます。

2021 年 3 月

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所 所長 金 吉晴

目 次

I. 精神保健研究所の概要	1
1. 創立の趣旨及び沿革	1
2. 内部組織改正の経緯	9
3. 国立精神・神経医療研究センター組織図	12
4. 職員配置	13
5. 精神保健研究所構成員	14
II. 研究活動状況	17
1. 今年度の活動概要	17
2. 公共精神健康医療研究部	18
3. 薬物依存研究部	22
4. 行動医学研究部	42
5. 児童・予防精神医学研究部	55
6. 精神薬理研究部	65
7. 精神疾患病態研究部	74
8. 睡眠・覚醒障害研究部	95
9. 知的・発達障害研究部	106
10. 地域・司法精神医療研究部	120
11. ストレス・災害時こころの情報支援センター	137
III. 研修実績	142
IV. 令和元年度委託および受託研究課題	154

I. 精神保健研究所の概要

1. 創立の趣旨及び沿革

I. 創立の趣旨

本研究所は、精神衛生に関する諸問題について、精神医学、心理学、社会学、社会福祉学、保健学等各分野の専門家による学際的立場からの総合的、包括的な研究を行うとともに、国、地方公共団体、病院等において精神衛生業務に従事する者に対する精神衛生全般にわたる知識、技術に関する研修を行い、その資質の向上を図ることを目的として、昭和27年1月、アメリカのNIMHをモデルに厚生省の付属機関として設立された。

II. 精神衛生研究所の沿革

昭和25年に精神衛生法が制定された際、国立精神衛生研究所を設立すべき旨の国会の附帯決議が採択された。これを踏まえ、厚生省設置法及び厚生省組織規程の一部が改正され、昭和27年1月、千葉県市川市に国立精神衛生研究所が設置された。

研究所の規模について、当初、厚生省は、1課8部60名程度の組織を構想していたが、財政事情等により、総務課、心理学部、生理学形態学部、優生学部、児童精神衛生部及び社会学部の1課5部30名の体制で発足した。また、附属病院をもつことの重要性は、当時から認識されていたが、病院の新設は困難な情勢であったため、隣接する国立国府台病院と連携、協力することとされた。

その後、知的障害に対する対策の確立が社会的に求められるようになったことを受け、昭和35年10月1日、新たに精神薄弱部を設置するとともに既存の各部の再編と名称変更が行われた。この結果、研究所の組織は、総務課、精神衛生部、児童精神衛生部、社会精神衛生部、精神身体病理部、精神薄弱部及び優生部の1課6部となった。

昭和36年には、国立精神衛生研究所組織細則が制定され、部課長のもとに心理研究室、生理研究室、精神衛生相談室及び精神衛生研修室の4室が置かれた。それとともに、昭和35年1月から事実上行われていた精神衛生技術者に対する研修業務が厚生省設置法上の業務として加えられて医学科、心理学科、社会福祉学科及び精神衛生指導科の研修が開始されることとなり、研修業務が調査研究と並ぶ研究所の重要な柱として正式に位置づけられることとなった。

昭和40年には、地域精神医療、社会復帰対策の充実等を内容とする精神衛生法の大改正に伴い、社会復帰部が新設されるとともに、新たに精神発達研究室及び主任研究官(3名)が置かれた。また、昭和46年6月には、社会精神衛生部にソーシャルワーク研究室が設置された。さらに、昭和48年には、人口の高齢化に伴って、痴呆性老人等いわゆる「恍惚の人」が社会問題化したのを背景に、老人精神衛生部が、翌昭和49年には、同部に老化度研究室が新設された。

昭和50年には、精神衛生に関する相談が精神障害者の社会復帰と深く関連することから、社会復帰部を社会復帰相談部に改組、精神衛生相談室を同部に移管した。また、昭和53年12月には、社会復帰相談庁舎が完成し、精神衛生相談をはじめとする精神障害者の社会復帰に関する研究体制が強化された。昭和54年には、研修各科の名称が医学課程、心理学課程、社会福祉学課程及び精神衛生

指導課程に改称されるとともに、新たに精神科デイ・ケア課程が新設された。翌昭和55年には、研修庁舎が完成し研修業務の一層の充実が図られた。

Ⅲ. 国立精神・神経センター精神保健研究所の設立

国立精神衛生研究所は、このような着実な歩みをたどった後、昭和61年10月、国立武蔵療養所及び同神経センターとともに国立高度専門医療センターとして発足した国立精神・神経センターに発展的に統合された。ここに、国立精神・神経センター精神保健研究所は、国立高度専門医療センターの一研究部門として、精神保健に関する研究及び研修を担うこととなった。その際組織改正により、総務課が庶務課とされ、精神身体病理部と優生部が統合されて精神生理部とされたほか、精神保健計画部及び薬物依存研究部が新設された。その結果、統合前の1課8部8室は、1課9部19室となり、研究・研修機能の強化が図られた。

半年後の昭和62年4月には、国立精神・神経センターに国立国府台病院が統合され、二病院二研究所を擁する国立高度専門医療センターが本格的に活動を開始した。これに伴い、庶務課は廃止され、精神・神経センター運営部（国府台地区）に研究所の事務部門（主幹、研究所事務係）が置かれた。また、同年10月には、心身医学研究部の新設と精神保健計画部システム開発研究室の増設が認められ、平成元年10月には、社会復帰相談部に援助技術研究室が設置された。

さらに、平成11年4月には、精神薄弱部が知的障害部に名称変更されるとともに、薬物依存研究部が組織改正により、心理社会研究室、依存性薬物研究室、診断治療開発研究室の3室編成となった。

平成14年1月に精神保健研究所が創立50周年を迎え、創立50周年パーティの開催、記念誌の発行、公開市民シンポジウムを行った。

平成15年10月には司法精神医学研究部が新設され、3室体制で、研究員の増員も認められ、研究所の組織は、11部27室体制（精神保健研修室を含む）となった。

平成17年4月には精神保健研究所は小平（武蔵）地区に移転し研究活動を開始した。

平成18年10月には自殺予防総合対策センターの新設により、自殺実態分析室・適応障害研究室・自殺予防対策支援研究室の3室と、成人精神保健部に犯罪被害者等支援研究室・災害時等支援研究室の2室の増設が認められた。

平成21年6月に精神保健に関する技術研修の事務担当が政策医療企画課から研究所事務係へと移管され、また10月に精神生理部に臨床病態生理研究室が設置され3室編成となり、研究所の組織は11部33室（精神保健研修室含）となった。

Ⅳ. 独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所へ改組

国民の健康に重大な影響のある特定の疾患等に係る医療に関し、調査、研究及び技術の開発並びにこれらの業務に密接に関連する医療の提供、技術者の研修等を行う独立行政法人の名称、目的、業務の範囲等に関する事項を定めることを目的とした、「高度専門医療に関する研究等を行う独立行政法人に関する法律」の施行により、それまでのナショナルセンター6組織が平成22年4月1日に独立行政法人化された。

我が国立精神・神経センターは「精神疾患、神経疾患、筋疾患及び知的障害その他の発達の障害に係る医療並びに精神保健」を担当する「独立行政法人国立精神・神経医療研究センター」となり、精神保健研究所も内部の組織が改正された。

自殺予防総合対策センターは、自殺実態分析室、適応障害研究室、自殺予防対策支援研究室の3室編成。

精神保健計画部は、精神保健計画研究部へ名称変更され、統計解析研究室、システム開発研究室の2室編成。

薬物依存研究部は、心理社会研究室、依存性薬物研究室、診断治療開発研究室の3室編成。

心身医学研究部は、ストレス研究室、心身症研究室の2室編成。

児童・思春期精神保健部は児童・思春期精神保健研究部へ名称変更され、精神発達研究室、児童期精神保健研究室、思春期精神保健研究室の3室編成。

成人精神保健部は、成人精神保健研究部へ名称変更され、精神機能研究室、診断技術研究室、認知機能研究室、犯罪被害者等支援研究室、災害等支援研究室の5室編成。

老人精神保健部は、精神薬理研究部へ名称変更され、精神薬理研究室、気分障害研究室の2室編成。

社会精神保健部は、社会精神保健研究部へ名称変更され、社会福祉研究室、社会文化研究室、家族・地域研究室の3室編成。

精神生理部は、精神生理研究部へ名称変更され、精神生理機能研究室、臨床病態生理研究室の2室編成。

知的障害部は、知的障害研究部へ名称変更され、診断研究室、治療研究室、発達障害支援研究室の3室編成。

社会復帰相談部は、社会復帰研究部へ名称変更され、精神保健相談研究室、援助技術研究室の2室編成。

司法精神医学研究部は、制度運用研究室、専門医療・社会復帰研究室、精神鑑定研究室の3室編成。

以上、自殺予防総合対策センター及び11部、計33室となった。

また、研究所の事務部門は、主幹が研究所事務室長となり、研究所事務係とともに、研究所の所属となった。

平成23年4月、事務部門の組織変更が行われ、研究所事務室は総務部の所属となった。

平成23年12月には災害時こころの情報支援センターの新設により、情報支援研究室の1室が認められた。

以上、自殺予防総合対策センター、災害時こころの情報支援センター及び11部、計34室となった。

平成24年1月、千葉縣市川市の地に国立精神衛生研究所が設置されてから、創立60周年を迎え、記念祝賀会を開催し、創立60周年記念誌を発行した。

平成27年4月1日、独立行政法人から国立研究開発法人へ改組。

V. 国立研究開発法人後の編成等

平成28年4月1日、自殺予防総合対策センターを廃し自殺総合対策推進センターを新設、自殺実態・統計分析室、自殺総合対策研究室、自殺未遂者・遺族支援等推進室、地域連携推進室の4室編成。

以上、自殺総合対策推進センター、災害時こころの情報支援センター及び11部、計35室となった。

平成29年10月1日、社会精神保健研究部（1部3室）を廃止し、その機能の一部を精神保健計画研究部へ移管（1室）、併せて精神疾患病態研究部（1部2室）を増設。

平成30年4月1日、精神保健研究所の組織改編を行った。

社会復帰研究部（1部2室）と司法精神医学研究室（1部3室）を地域・司法精神医療研究部として統合、臨床援助技術研究室、精神保健サービス評価研究室、司法精神保健研究室、制度運用研究部の3室編成。

心身医学研究部（1部2室）と成人精神保健研究部（1部5室）を行動医学研究部として統合、精神機能研究室、診断技術研究室、認知機能研究室、災害等支援研究室、ストレス研究室、心身症研究部の6室編成。

災害時こころの情報支援センター（1室）をストレス・災害時こころの情報支援センターへ改名、情報支援研究室、犯罪被害者等支援研究部の2室編成。

精神保健計画研究室（1部3室）を精神医療政策研究部へ改名、保健福祉連携研究室、政策評価研究室、精神医療体制研究室、NDB集計企画担当室の4室編成。

児童・思春期精神保健研究部（1部3室）を児童・予防精神医学研究部へ改名、児童・青年期保健研究室、精神疾患早期支援・予防研究部の2室編成。

精神薬理研究部（1部2室）2室を改名、分子精神薬理研究室、向精神薬研究開発室の2室編成。

知的障害研究部（1部3室）を知的・発達障害研究部へ改名、発達機能研究室、知的障害研究部の2室編成。

精神生理研究部（1部2室）を睡眠・覚醒障害研究部へ改名。

以上、自殺総合対策推進センター、ストレス・災害時こころの情報支援センター及び9部、計33室となった。

令和2年4月1日、自殺総合対策推進センターを廃止、厚生労働大臣指定（調査研究等）法人のち支える自殺対策推進センターに業務を継承。

令和2年11月1日、精神医療政策研究部を公共精神健康医療研究部（1室（NDB集計企画担当室）を廃止）に名称変更。

以上、ストレス・災害時こころの情報支援センター及び9部、計28室となった。

沿革

事項 年次	所 長	組 織 等 経 過
昭和25年5月		精神衛生法国会通過（精神衛生研究所設置の附帯決議採択）
26年3月		厚生省公衆衛生局庶務課が設置の衝にあたる
27年1月	黒沢 良臣 (国立国府台 病院長兼任)	厚生省設置法並びに組織規程の一部改正により精神衛生に関する調査研究を行う附属機関として、千葉県市川市に国立精神衛生研究所設置総務課，心理学部，生理学形態学部，優生学部，児童精神衛生部及び社会学部の1課5部により業務開始
35年10月		心理学部を精神衛生部に，社会学部を社会精神衛生部に，生理学形態学部を精神身体病理部に，優生学部を優生部に名称変更し，精神薄弱部を新設
36年4月		精神衛生研修室，心理研究室，精神衛生相談室及び生理研究室を新設
36年6月		厚生省設置法の一部改正により精神衛生技術者の研修業務が追加され，医学科，心理学科，社会福祉学科及び精神衛生指導科の研修開始
36年10月	内村 祐之	
37年4月	尾村 偉久 (公衆衛生局長 が所長事務取 扱)	
38年7月	若松 栄一 (公衆衛生局長 が所長事務取 扱)	
39年4月	村松 常雄	主任研究官を置く
40年7月		社会復帰部及び精神発達研究室を新設
41年7月		本館改築完成（5カ年計画）
44年4月		総務課長補佐を置く
46年4月	笠松 章	
46年6月		社会精神衛生部にソーシャルワーク研究室を新設
48年7月		老人精神衛生部を新設

49年7月		老人精神衛生部に老化度研究室を新設
50年7月		社会復帰部を社会復帰相談部に名称変更 精神衛生相談室を精神衛生部から社会復帰相談部の所属に改正
52年3月	加藤 正明	
53年12月		社会復帰相談庁舎完成（2カ年計画）
54年4月		研修課程の名称を医学課程，心理学課程，社会福祉学課程及び精神衛生指導課程に名称変更し，精神科デイ・ケア課程を新設
55年4月		研修庁舎完成（講義室・図書室・研修生宿舎）
58年1月	土居 健郎	
58年10月		老人精神衛生部に老人保健研究室を新設
60年4月	高臣 武史	
61年5月		厚生省設置法の一部改正により，国立高度専門医療センターの設置を決定
61年9月		厚生省組織令の一部改正により，国立高度専門医療センターの名称と所掌事務が決定
61年10月		国立高度専門医療センターの一つとして，国立武蔵療養所，同神経センターと国立精神衛生研究所を統合し，国立精神・神経センター設置 ナショナルセンターの1研究所として精神保健研究所に改組，精神身体病理部と優生部を統合し精神生理部としたほか，精神保健計画部及び薬物依存研究部を新設，1課9部19室となる
62年4月	島藺 安雄 (総長が所長事務取扱)	厚生省組織規程の一部改正により，国立精神・神経センターに国立国府台病院が統合し，2病院，2研究所となる 庶務課廃止，研究所に主幹を置く
62年6月	藤縄 昭	
62年10月		心身医学研究部（ストレス研究室，心身症研究室）と精神保健計画部システム開発研究室を新設
平成元年10月		社会復帰相談部に援助技術研究室を新設
6年4月	大塚 俊男	
9年4月	吉川 武彦	
11年4月		薬物依存研究部で研究室の改組があり，心理社会研究室と依存性薬物研究室となり，診断治療開発研究室を新設

		精神薄弱部を知的障害部に名称変更
13年1月	堺 宣道	
14年1月		精神保健研究所創立50周年
14年6月	高橋 清久 (総長が所長事務取扱)	
14年8月	今田 寛睦	
15年10月		司法精神医学研究部を新設（制度運用研究室，専門医療・社会復帰研究室，精神鑑定研究室）
16年4月	金澤 一郎 (総長が所長事務取扱)	
16年7月	上田 茂	
17年4月		市川市（国府台）から小平市（武蔵地区）に移転
17年8月	北井 暁子	
18年10月		自殺予防総合対策センターの新設（自殺実態分析室，適応障害研究室，自殺予防対策支援研究室），成人精神保健部の増設（犯罪被害者等支援研究室，災害時等支援研究室）
19年6月	加我 牧子	
21年10月		精神生理部に臨床病態生理研究室を新設
22年4月		独立行政法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所となる 8つの研究部の名称を変更（精神保健計画研究部，児童・思春期精神保健研究部，成人精神保健研究部，精神薬理研究部，社会精神保健研究部，精神生理研究部，知的障害研究部，社会復帰研究部）し，知的障害研究部に発達障害支援研究室を新設，11部33室（室長定数29）となる 所長補佐及び自殺予防総合対策センター副センター長を置く
23年12月		災害時こころの情報支援センターの新設（情報支援研究室）
25年4月	野田 広	
25年7月	福田 祐典	

27年4月		国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所となる
27年9月	富澤 一郎	
27年12月	中込 和幸	
28年4月		自殺予防総合対策センターを廃し自殺総合対策推進センターを新設（自殺実態・統計分析室，自殺総合対策研究室，自殺未遂者・遺族支援等推進室，地域連携推進室）
29年10月		社会精神保健研究部を廃止 精神疾患病態研究部を新設（基盤整備研究室，病態解析研究室），精神保健計画研究部精神医療体制研究室を増設
30年4月		4つの部を2つの部へ統合，また部名及び室名変更等再編し結果，2センター，11部35室から9部33室となる
31年1月	金 吉晴	
令和2年4月		自殺総合対策推進センター（4室）を廃止、厚生労働大臣指定（調査研究等）法人いのち支える自殺対策推進センターに業務を継承
2年11月		精神医療政策研究部を公共精神健康医療研究部（1室を廃止）に名称変更し、現在の1センター9部28室となる

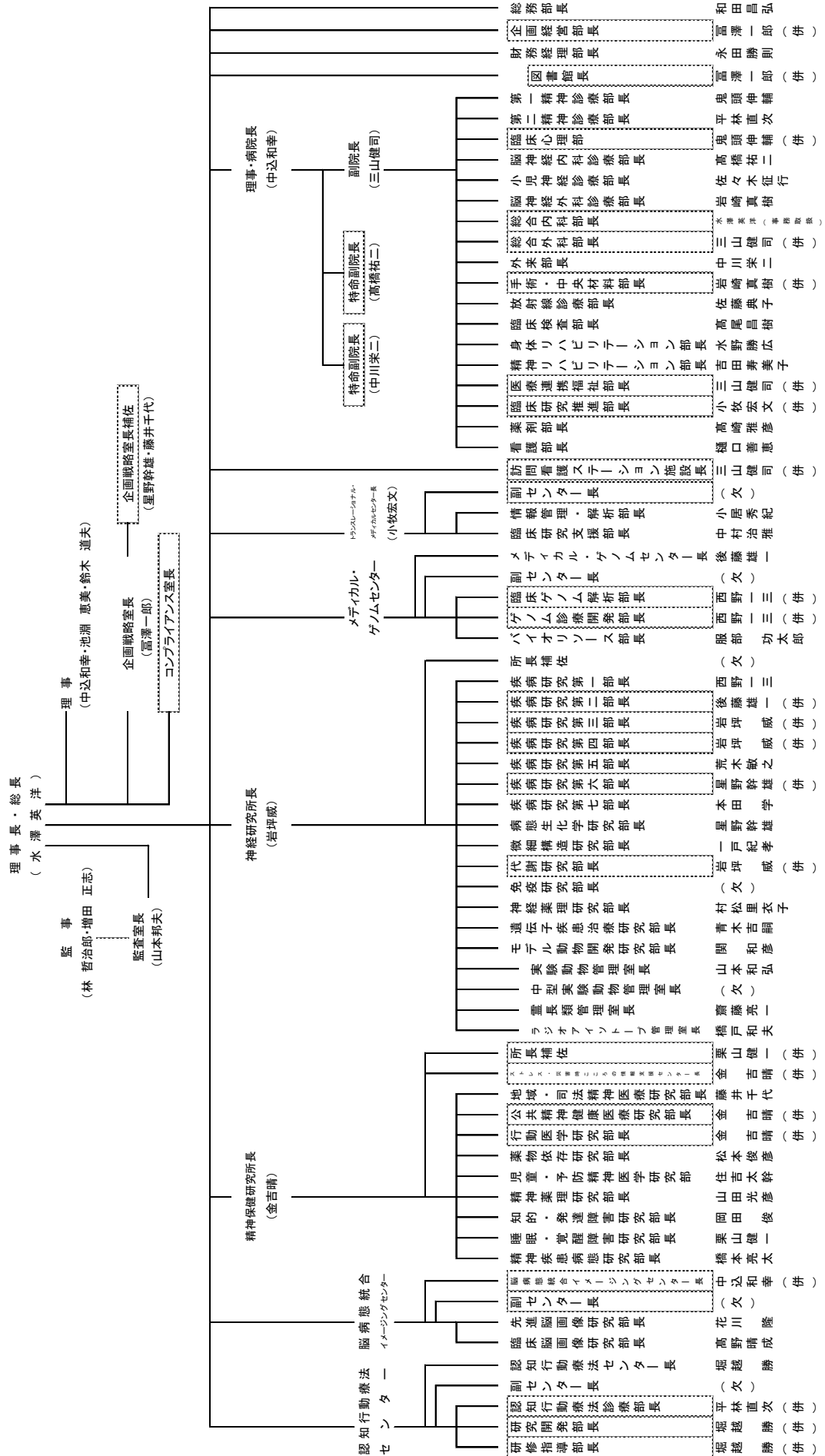
国立精神・神経センター精神保健研究所									独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所	
62年4月	62年10月	元年10月	11年4月	13年4月	15年10月	18年10月	20年6月	21年10月	平成22年4月	平成23年12月
運営部庶務第二課 精神保健研修室	運営部庶務第二課 運営部企画室 精神保健研修室			運営部政策医療 企画課 精神保健研修室		運営局 政策医療企画課 精神保健研修室	運営局 政策医療企画課 精神保健研修室 庶務課 研究所事務係		研究所事務室 研究所事務係	
						自殺予防総合対策センター 自殺実態分析室 適応障害研究室 自殺予防対策支援研究室			自殺予防総合対策センター 自殺実態分析室 適応障害研究室 自殺予防対策支援研究室	
										災害時こころの情報支援センター 情報支援研究室
	精神保健計画部 統計解析研究室 システム開発研究室					精神保健計画部 統計解析研究室 システム開発研究室			精神保健計画研究部 統計解析研究室 システム開発研究室	
	薬物依存研究部 薬物依存研究室 向精神薬研究室		薬物依存研究部 心理社会研究室 依存性薬物研究室 診断治療開発研究室			薬物依存研究部 心理社会研究室 依存性薬物研究室 診断治療開発研究室			薬物依存研究部 心理社会研究室 依存性薬物研究室 診断治療開発研究室	
	心身医学研究部 ストレス研究室 心身症研究室					心身医学研究部 ストレス研究室 心身症研究室			心身医学研究部 ストレス研究室 心身症研究室	
	成人精神保健部 成人精神保健研究室 診断技術研究室 心理研究室					成人精神保健部 成人精神保健研究室 診断技術研究室 心理研究室 犯罪被害者等支援研究室 災害等支援研究室			成人精神保健研究部 精神機能研究室 診断技術研究室 認知機能研究室 犯罪被害者等支援研究室 災害等支援研究室	
	老人精神保健部 老化研究室 老人精神保健研究室					老人精神保健部 老化研究室 老人精神保健研究室			精神薬理研究部 精神薬理研究室 気分障害研究室	
	児童・思春期精神保健部 精神発達研究室 児童期精神保健研究室 思春期精神保健研究室					児童・思春期精神保健部 精神発達研究室 児童期精神保健研究室 思春期精神保健研究室			児童・思春期精神保健研究部 精神発達研究室 児童期精神保健研究室 思春期精神保健研究室	
	社会精神保健部 社会福祉研究室 社会文化研究室 家族・地域研究室					社会精神保健部 社会福祉研究室 社会文化研究室 家族・地域研究室			社会精神保健研究部 社会福祉研究室 社会文化研究室 家族・地域研究室	
	精神生理部 精神機能研究室					精神生理部 精神機能研究室		精神生理部 精神機能研究室 臨床病態生理研究室	精神生理研究部 精神生理機能研究室 臨床病態生理研究室	
	精神薄弱部 診断研究室 治療研究室		知的障害部 診断研究室 治療研究室			知的障害部 診断研究室 治療研究室			知的障害研究部 診断研究室 治療研究室 発達障害支援研究室	
	社会復帰相談部 精神保健相談研究室	社会復帰相談部 精神保健相談研究室 援助技術研究室				社会復帰相談部 精神保健相談研究室 援助技術研究室			社会復帰研究部 精神保健相談研究室 援助技術研究室	
					司法精神医学研究部 制度運用研究室 専門医療・社会復帰研究室 精神鑑定研究室	司法精神医学研究部 制度運用研究室 専門医療・社会復帰研究室 精神鑑定研究室			司法精神医学研究部 制度運用研究室 専門医療・社会復帰研究室 精神鑑定研究室	

I 精神保健研究所の概要

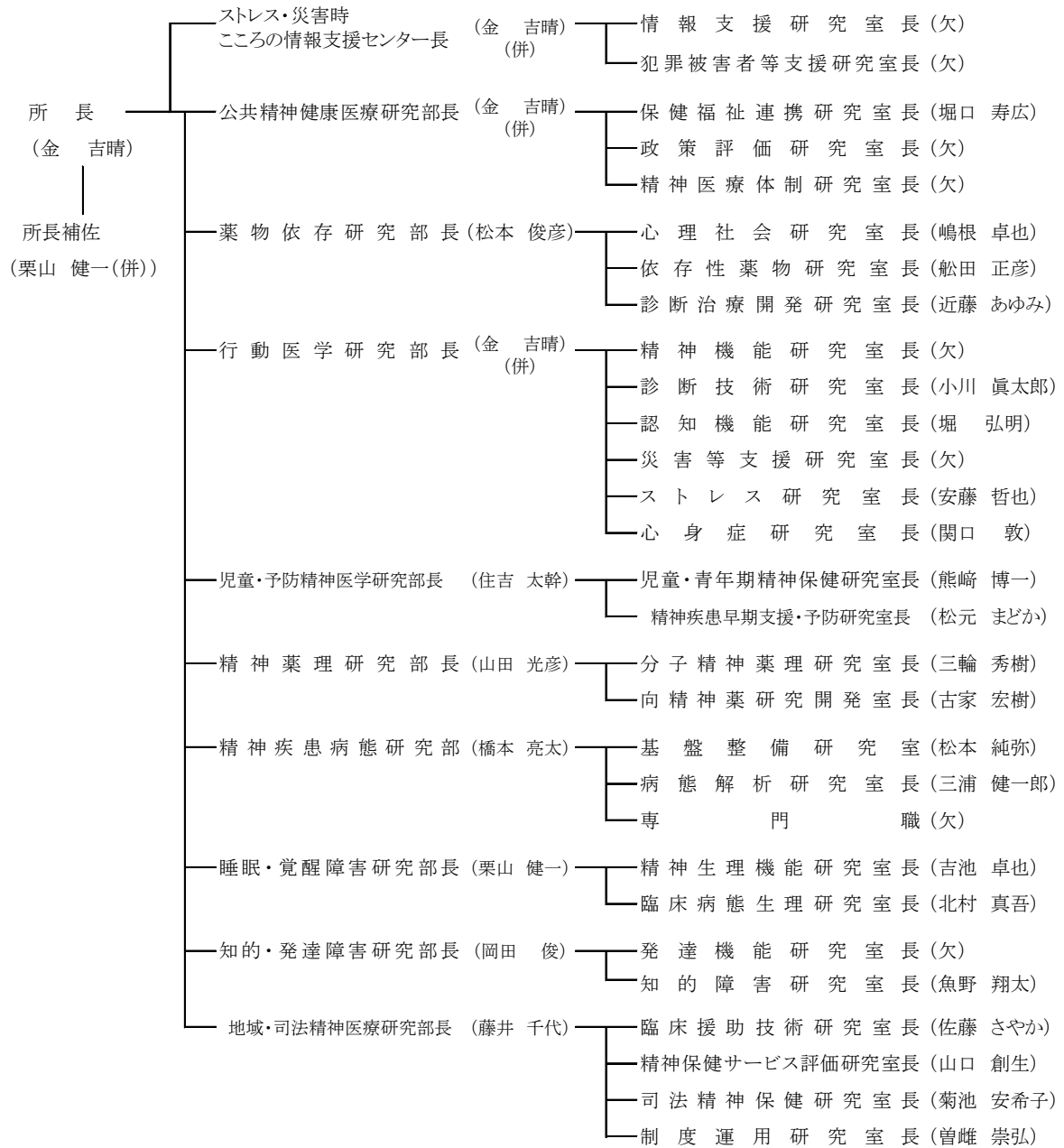
国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所					
平成27年4月	平成28年4月	平成29年10月	平成30年4月	令和2年4月	令和2年11月
研究所事務室 研究所事務係		研究所事務室 研究所事務係	研究所事務室 研究所事務係	研究所事務室 研究所事務係	研究所事務室 研究所事務係
自殺予防総合対策センター 自殺実態分析室 適応障害研究室 自殺予防対策支援研究室	自殺総合対策推進センター 自殺実態・統計分析室 自殺総合対策研究室 自殺未遂者・遺族支援等推進室 地域連携推進室	自殺総合対策推進センター 自殺実態・統計分析室 自殺総合対策研究室 自殺未遂者・遺族支援等推進室 地域連携推進室	自殺総合対策推進センター 自殺実態・統計分析室 自殺総合対策研究室 自殺未遂者・遺族支援等推進室 地域連携推進室		
災害時こころの情報支援センター 情報支援研究室			ストレス・災害時こころの情報支援センター 情報支援研究室 犯罪被害者等支援研究室	ストレス・災害時こころの情報支援センター 情報支援研究室 犯罪被害者等支援研究室	ストレス・災害時こころの情報支援センター 情報支援研究室 犯罪被害者等支援研究室
精神保健計画研究部 統計解析研究室 システム開発研究室		精神保健計画研究部 統計解析研究室 システム開発研究室 精神医療体制研究室	精神医療政策研究部 保健福祉連携研究室 政策評価研究室 精神医療体制研究室 NDB集計企画担当室	精神医療政策研究部 保健福祉連携研究室 政策評価研究室 精神医療体制研究室 NDB集計企画担当室	公共精神健康医療研究部 保健福祉連携研究室 政策評価研究室 精神医療体制研究室
薬物依存研究部 心理社会研究室 依存性薬物研究室 診断治療開発研究室		薬物依存研究部 心理社会研究室 依存性薬物研究室 診断治療開発研究室	薬物依存研究部 心理社会研究室 依存性薬物研究室 診断治療開発研究室	薬物依存研究部 心理社会研究室 依存性薬物研究室 診断治療開発研究室	薬物依存研究部 心理社会研究室 依存性薬物研究室 診断治療開発研究室
心身医学研究部 ストレス研究室 心身症研究室		心身医学研究部 ストレス研究室 心身症研究室	行動医学研究部 精神機能研究室 診断技術研究室 認知機能研究室	行動医学研究部 精神機能研究室 診断技術研究室 認知機能研究室	行動医学研究部 精神機能研究室 診断技術研究室 認知機能研究室
成人精神保健研究部 精神機能研究室 診断技術研究室 認知機能研究室 犯罪被害者等支援研究室 災害等支援研究室		成人精神保健研究部 精神機能研究室 診断技術研究室 認知機能研究室 犯罪被害者等支援研究室 災害等支援研究室	災害等支援研究室 ストレス研究室 心身症研究室	災害等支援研究室 ストレス研究室 心身症研究室	災害等支援研究室 ストレス研究室 心身症研究室
精神薬理研究部 精神薬理研究室 気分障害研究室		精神薬理研究部 精神薬理研究室 気分障害研究室	精神薬理研究部 分子精神薬理研究室 向精神薬研究開発室	精神薬理研究部 分子精神薬理研究室 向精神薬研究開発室	精神薬理研究部 分子精神薬理研究室 向精神薬研究開発室
児童・思春期精神保健研究部 精神発達研究室 児童期精神保健研究室 思春期精神保健研究室		児童・思春期精神保健研究部 精神発達研究室 児童期精神保健研究室 思春期精神保健研究室	児童・予防精神医学研究部 児童・青年期精神保健研究室 精神疾患早期支援・予防研究室	児童・予防精神医学研究部 児童・青年期精神保健研究室 精神疾患早期支援・予防研究室	児童・予防精神医学研究部 児童・青年期精神保健研究室 精神疾患早期支援・予防研究室
社会精神保健研究部 社会福祉研究室 社会文化研究室 家族・地域研究室					
精神生理研究部 精神生理機能研究室 臨床病態生理研究室		精神生理研究部 精神生理機能研究室 臨床病態生理研究室	睡眠・覚醒障害研究部 精神生理機能研究室 臨床病態生理研究室	睡眠・覚醒障害研究部 精神生理機能研究室 臨床病態生理研究室	睡眠・覚醒障害研究部 精神生理機能研究室 臨床病態生理研究室
知的障害研究部 診断研究室 治療研究室 発達障害支援研究室		知的障害研究部 診断研究室 治療研究室 発達障害支援研究室	知的・発達障害研究部 発達機能研究室 知的障害研究室	知的・発達障害研究部 発達機能研究室 知的障害研究室	知的・発達障害研究部 発達機能研究室 知的障害研究室
社会復帰研究部 精神保健相談研究室 援助技術研究室		社会復帰研究部 精神保健相談研究室 援助技術研究室	地域・司法精神医療研究部 臨床援助技術研究室 精神保健サービス評価研究室 司法精神保健研究室 制度運用研究室	地域・司法精神医療研究部 臨床援助技術研究室 精神保健サービス評価研究室 司法精神保健研究室 制度運用研究室	地域・司法精神医療研究部 臨床援助技術研究室 精神保健サービス評価研究室 司法精神保健研究室 制度運用研究室
司法精神医学研究部 制度運用研究室 専門医療・社会復帰研究室 精神鑑定研究室		司法精神医学研究部 制度運用研究室 専門医療・社会復帰研究室 精神鑑定研究室			
		精神疾患病態研究部 基盤整備研究室 病態解析研究室	精神疾患病態研究部 基盤整備研究室 病態解析研究室	精神疾患病態研究部 基盤整備研究室 病態解析研究室	精神疾患病態研究部 基盤整備研究室 病態解析研究室

3. 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター組織図
(令和3年3月31日)

は兼任ポスト



4. 職員配置(令和3年3月31日現在)



5. 精神保健研究所構成員（令和2年度）

[illegible]

I 精神保健研究所の概要

児童・予防精神医学研究部	住吉 太峰	松元 まどか 熊崎 博一	藤里 綾子 白間 綾 飯島 和樹		Andrew Mark Stickley 二貴 貴 原口 英之 細野 太一 長谷川 由美 石川 大貴 (2. 6. 1~2. 6. 30) ○山野 真由子	岩瀬 寿子 ○本郷 浩子		佐藤 綾	立森 久照	柳尾 陽子 坂崎 秀俊 中村 悠子 中村 幸 上野 佳奈子 敷井 裕光 青木 保典 石井 良平 住吉 チカ 川崎 康弘 鈴木 道雄 菊知 充	小坂 郁雄 池澤 聡 (2. 7. 15~) 松本 若生 (2. 11. 10~) 上原 隆 (2. 12. 28~)			和雄 和雄 渡部 俊 近藤 達 岩田 達 齊藤 彩 山田 悠至 柳川 拓磨 麻田 雅輝 (2. 11. 10~) 吉田 篤史 (2. 12. 15~)
精神薬理研究部	山田 光彦	古家 宏樹 三輪 秀樹	國石 洋 小林 桃子		山田 美佐 中武 優子 ○松谷 真由美 ○村松 浩美	野田 隆政 関口 正幸 (2. 6. 29~)				稲垣 正俊 岡 義高 川島 修一郎 白川 昌 清原 昌史 中嶋 勝彦 長本 直裕 西山 隆	澤 幸祐			諸國 正敏 (~2. 11. 30) 大槻 護華 川島 友子 後藤 玲央 早田 悠太郎 瀧田 公彦 湯浅 夏夏 石井 季雄
精神疾患病態研究部	橋本 亮太	松本 純弥 三浦 健一郎	長谷川 尚美		○山縣 麗美子 ○木村 哲也 ○高村 晶子 (~2. 4. 30) ○荒野 純子 (2. 4. 16~3. 1. 31) ○島田 園子 (2. 4. 17~2. 9. 18) ○松本 愛奈 (2. 11. 1~2. 11. 30) ○細谷 多奈子 (3. 1. 13~) ○野沢 衣服 (2. 5. 1~2. 12. 31) ○佐藤 千重子 (2. 8. 1~) ○田村 友里江 (2. 9. 1~)	山口 綾子 (2. 7. 1~) 大重 清津子 (2. 9. 23~)			久保田 智希 (2. 7. 1~) 三浦 拓人 佐藤 突朗 宮川 希 竹田 康二 (2. 4. 13~) 柏木 宏子 (2. 4. 13~) 高野 晴成 (2. 11. 16~)	市橋 香代 高江洲 義和 山田 恒 堀 渡邊 新一郎 松本 直通 松田 健 大石 智 菊地 正隆 橋本 直樹 近江 薫 宇野 祥太 家本 明登 長本 健 吉田 正俊 藤本 美智子 岡田 直大 阿竹 聖和 古郡 規雄 (2. 10. 15~) 酒井 佳水 (2. 10. 26~) 石丸 悠一郎 (2. 12. 1~) 山下 典生 (3. 1. 1~)	榎 楊 上田 正俊 池田 泰正 小野 悠秀 山崎 高志 石井 美咲			小澤 未来男 稲垣 彰 小山 聡明 工藤 紀子 村田 篤信 岡田 研一 小笠原 一能 橋崎 隆志 榎野 智子 中村 静 小宮 俊次 坂元 龍馬 伊藤 颯妃 (2. 4. 13~) 飯田 仁志 (2. 9. 1~) 出水 友理亜 (2. 11. 1~)
睡眠・覚醒障害研究部	栗山 健一	北村 真吾 吉池 卓也	綿原 成子 河村 英 (3. 1. 1~)		綿原 直子 (2. 8. 1~2. 9. 30) 岡部. しのみ (2. 12. 1~) 寺間 友重 (3. 2. 1~) 堀口 海子 (3. 2. 1~) ○源馬 未来 ○瀬間 由美子	○柳原 朱 ○車馬 結奈	○大崎 美奈子	長谷川 洋代	都留 あゆみ 松井 健太郎 羽織 恵 (2. 6. 1~)	小澤 真太郎 兼坂 佳孝 大川 匡子 村上 雄一 本多 真 上田 正明 池田 正明 山寺 亘 守口 善也 阿部 高志 福水 道郎 福本 みのり 有竹 清夏 亀井 健一 渡辺 和人 三島 和夫 四島 義彦 阿部 又一郎 高橋 英彦 肥田 昌子 玉置 麗子 鈴木 正義 村上 裕樹 吉村 道孝 太田 英伸 渡部 直子 (2. 10. 1~)			上田 健太郎 中嶋 英子 元村 祐貴 大丸 淑樹 石澤 麻美 柳崎 基生 長尾 泰希 岡枝 佳奈 柴崎 知集 大沢 智博 東風谷 祐子 新藤 かおり 大槻 伸 (2. 5. 1~) 山元 健太郎 (2. 7. 1~) ○深海 優希 (2. 11. 1~) ○南 温彦 (2. 12. 1~3. 2. 28) ○佐野 一紗 (2. 12. 1~3. 2. 28) ○栗野 萌華 ○磯野 結衣 ○西村 理紗 ○須良 菜々美 ○佐藤 真美 ○佐藤 美夕 ○佐々木 陽香 (以上3. 3. 8~)	

知的・発達障害研究部	岡田 俊	北 洋輔 (～2.8.31) 魚野 翔太 (2.7.1～)	江頭 優佳 林 小百合 (2.11.1～) 訓園 正敏 (2.12.1～)		○白川 由佳	○井上 さゆり		秋月 由紀子	中川 栄二 (2.11.1～)	井上 祐紀 加我 敦子 重司 樹臣 竹市 明 安村 佳美 加賀 真澄 稲垣 政英 (2.5.1～) 宇佐美 千重 曾田 千重 辻井 麻亜 佐藤 弥	高橋 長秀 金生 周 久島 尚子 稲田 美保 黒田 徹 吉川 浩 小沢 浩貴 若重 裕治 (以上2.6.1～) 高野 裕治 (3.2.1～)	奥村 安寿子		崎原 こた之 雅子 中村 柚葉 林 小百合 (～2.10.31) 上田 理崇 田中 美歩
地域・司法精神医療研究部	藤井 千代	佐藤 さやか 山口 創生 菊池 安希子 曾嶋 崇弘 (2.10.1～)	小塩 靖崇 松長 麻美 塩澤 拓亮 川口 敬之	小川 亮 阿部 真貴子 ○岡野 茉莉子 ○榎垣 早苗 ○田中 純子 ○細谷 章子 ○藤本 悠 ○五十嵐 百花	土屋 治美 三編 靖子 (2.12.1～)	三編 靖子 (～2.11.30)		坂田 靖弘 平林 直次 佐竹 直子 柏木 宏子 竹田 康二 白田 謙太郎 (2.6.1～) 上嶋 大樹 (2.10.15～)	瀬戸屋 雄太郎 伊藤 順一郎 橋 薫子 吉田 光耀 杉山 直也 美濃 由紀子 三澤 孝夫 曾嶋 崇弘 (～2.9.30)	河野 綾明 松本 佳和 榎本 美和 (2.10.1～) 横山 恵子 (2.12.1～)			久永 文恵 安間 尚徳 松本 衣美 田村 早織 (2.6.1～)	
地域・司法精神医療研究部 所沢アクトリーチ事業			(看護師) 中西 清晃 (副看護師長) 下平 美智代 (医療社会事業専門員) 西内 絵里沙 真行寺 伸江 (作業療法士) 大迫 直樹		□白井 香 □曾 由寛									

Ⅱ．研究活動状況

1. 今年度の活動概要

Ⅰ．概要

1) 人事

令和 2 年度の精神保健研究所所長は前年度に引き続き金 吉晴が所長を務めた（行動医学研究部長，ストレス・災害時こころの情報支援センター長，5 月 1 日より公共精神健康医療部長を併任）。

本年度の常勤研究員人事は，下記のとおりである。

4 月 1 日に、知的・発達障害研究部長 岡田 俊，行動医学研究部診断技術研究室長 小川眞太郎，地域・司法精神医療研究部研究員 小塩靖崇が採用された。7 月 1 日に、知的・発達障害研究部知的障害研究室長 魚野翔太が，10 月 1 日に、地域・司法精神医療研究部制度運用研究室長 曾雌崇弘が採用となった。

令和 2 年度退職者は，精神保健研究所付 山之内芳雄（5 月 29 日付），行動医学研究部研究員 伊藤真利子（7 月 31 日付），知的・発達障害研究部発達機能研究室長 北 洋輔（8 月 31 日付），行動医学研究部ストレス研究室長 安藤哲也（3 月 31 日付）であった。

2) 概況

精神保健研究所は，患者さんやご家族，国民に役立つ研究を実践し，国の精神保健福祉政策策定に貢献するシンクタンクとしての機能を担う一方で，研究発表分野でも精力的な活動を行っている。令和 2 年度には英文原著 193 編，和文原著 19 編，英文総説 8 編，和文総説 109 編，英文著書 1 編，和文著書 44 編を報告した（分担執筆含む）。また，学会発表としては国際学会で 25 件，国内学会で 207 件の発表を果たした。主要学会等では，若手研究者を中心に優秀賞や奨励賞等の学会賞を計 14 件受賞した。詳細は各研究部の活動状況を参照されたい。新型コロナウイルス感染拡大予防のため延期とした第 31 回精神保健研究所研究報告会を令和 2 年 12 月 21 日にオンライン開催し，優秀発表賞（青申賞）に近藤あゆみ（薬物依存研究部），若手奨励賞に中武優子（精神薬理研究部）が選ばれた。また，第 32 回精神保健研究所研究報告会（令和 3 年 3 月 15 日オンライン開催）では，優秀発表賞（青申賞）に船田正彦（薬物依存研究部），若手奨励賞に國石 洋（精神薬理研究部）が選ばれた。

精神保健研究所は，専門家を対象とした各分野の研修（精神保健福祉，薬物依存，摂食障害，発達障害，災害時心理対応等）を行っている。令和 2 年度は新型コロナウイルスの影響により中止を余儀なくされた研修があったが，感染対策を講じた対面研修とオンライン開催へ切り替えた研修，計 6 課程を実施し合計 310 名が受講した。詳細は後述した。

2. 公共精神健康医療研究部

I. 研究部の概要

当研究部の英語標記である **Public Mental Health** が示すように、精神疾患の予防や精神疾患からの回復、精神健康の維持と向上を目的とし、幅広い研究活動を発展させることを目指している。今年度は昨年度に引き続きモニタリングを研究活動の主軸におき、地域で効果的に展開するための具体的かつ実現可能な方法を提示する方策を構築するとともに、時代に即したデータの提供に取り組んでいる。並行して、精神医療を提供する支援者の質の向上という観点から、医療従事者の活動状況や効率的に医療を提供するための資源の実態を明らかにする研究活動を行っている。これらの活動は、部内のみならず他研究部や全国の精神病床をもつ医療機関、行政機関等と幅広く協調することで、公共の精神医療や精神健康に資する研究部としてのミッションを達成していくものと考えている。

部長：山之内芳雄（～4/30）、金 吉晴（5/1～併任）室長：堀口寿広、研究員：臼田謙太郎、羽澄 恵客員研究員：西 大輔、三宅美智、末安民生、竹島 正、野口正行、高橋邦彦、安西信雄、鈴木友理子、今井健二郎、杉山雄大、東 尚弘、長瀬幸弘、米田 博、稲垣 中、岡山達志（9/15～）、リサーチフェロー：月江ゆかり、古野考志、岡山達志（～8/31）科研費研究員：橋本 壘、岡崎絵美、赤羽華珠、研究生：久保田明子、中村江里、本屋敷美奈、後藤基行、北村真紀子（1/15～）、辻田あづさ（2/22～）科研費研究補助員：穴澤恵美子、鴨志田由美子、科研費研究助手：清水悦子、原田かおる

II. 研究活動

1) 精神医療政策への萌芽的取組と行政効果検証に関する研究（精神・神経疾患研究開発費）

実効性をもって精神医療政策が実装されていく方法論の確立を目指し、本研究では政策効果についてモニタリングする策の開発をすすめてきた。課題1では、レセプト病名と臨床診断の照合を行うことで、レセプトデータから臨床診断を推定するためのアルゴリズムを構築している。これにより、正確な患者数の推計が実現可能となりうる。課題2では、診療記録のテキストデータを用いて長期入院を予測するため、自然言語処理技術の開発を行っている。課題3では、精神保健指定医の研修効果やその測定のための尺度開発をすすめている。（臼田、堀口、羽澄、月江、橋本）

2) 医療の質指標の開発に向けた精神科医療の見える化プロジェクト（PECO）

精神科入院医療環境の変化に伴い、わが国でも医療の質を考える際に外形的なものからプロセスやアウトカムを求められるようになってきた。そこで、各病院の提供している医療が「見える」化するシステムを作成し、PECO-Psychiatric Electronic Clinical Observation - PECO システムとして運用を継続している。PECOにより蓄積されたデータを分析することにより、入院治療を受けた患者がどのような動態をたどるのか、あるいは地域における医療資源必要量はどれくらいかなど、あるべき医療体制の姿の検討における資料になりえると考えた。（山之内、三宅、月江、古野、臼田、羽澄）

3) 6NC 連携による医療政策研究

当センターをはじめとする6つの国立高度専門医療研究センター（6NC）の研究者が協力し、匿名レセプト情報・匿名特定健診等情報データベースを用いて、NCが担う重要疾患等に関するエビデンスを創出し、政策調査・提言に関わる基盤情報を提供することで、「根拠に基づいた政策立案」や政策評価に貢献することを目指す。

令和2年度は、研究班内での実務担当者の選定などの体制構築を行い、定期的な担当者会議を行い研究班にて情報交換や各分野の解析手法などについての議論を行った。またNDBデータを解析

するための環境構築として、解析室の構築、解析用サーバーの準備等を行った。（臼田，古野）。

4) トラウマインフォームドケア（TIC）に関する行政機関調査

子ども期の逆境体験の頻度の高さと影響の大きさが明らかになったこと等から、近年「トラウマインフォームドケア(TIC)」が注目されている。しかし、わが国において TIC の実践に向けた取り組みは進んでいるとは言えず、また行政的な取り組みなどもまだ全国的に広まっているとは言えない。精神保健福祉センター、保健所は地域精神保健福祉活動の推進における中核的役割を担っており、将来的に我が国で TIC を実践していく際に、地域における土台となる両機関の TIC の実践状況やニーズを調査することは重要であると考え、TIC に関する全国調査を実施した。（臼田）

5) 医療的ケア児のインクルーシブ保育を実施

人工呼吸器や胃ろう等により医療的なケアを必要とする児童いわゆる「医療的ケア児」をもつ家族のレスパイト（休息）を確保しワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を実現する目的で、東京都三鷹市および武蔵野市の参加を得て設置された協議会に参加して、身近な地域の医療機関が中心となり子どもの状態をよく知る職員が付き添い一般の保育所を利用する「インクルーシブ保育」の実施に協力した。（堀口）

6) 精神科入院医療における心理職の役割の現状に関する調査

精神科入院医療における心理職の活動状況や、心理職が今後一層貢献していくうえで必要となる知識技能等を明らかにするため、全国の精神病床を有する病院の心理職の長を対象に調査を行った。本調査の成果を通して、精神科入院医療における心理職の役割や在り方に関する示唆を得ることを目指していく。

（羽澄，堀口，臼田）

Ⅲ. 社会的活動に関する評価

(1) 市民社会に対する一般的な貢献

- ・ 小平市役所 定例健康相談（岡山）

(2) 専門教育面における貢献

- ・ 武蔵野大学 非常勤講師（臼田）
- ・ 立教大学 非常勤講師（羽澄）
- ・ 小石川東京病院 臨床心理学的研究および実践指導（羽澄）
- ・ 斉藤病院 看護研究指導（月江）
- ・ 目白大学 人間学部 心理カウンセリング学科 助教（橋本）

(3) 精研の研修の主催と協力

(4) 保健医療行政政策に関連する研究・調査，委員会等への貢献

- ・ 国土交通省 総合政策局 安心生活政策課：移動円滑化のために必要な旅客施設又は車両等の構造及び整備に関する基準等検討会 構成員（堀口）

(5) センター内における臨床的活動

- ・ NCNP 病院の行動制限最小化委員会（毎月第 4 水曜）において、PECO で得られたデータ集計をもとに、NCNP 病院での医療の質向上に向けた取り組みを行った。（山之内，月江）

(6) その他

- ・ 所沢市精神障害者アウトリーチ支援事業（月江）

IV. 研究業績

A. 刊行物

(1) 原著論文

- 1) Horiguchi T, Uchiyama T, Ozawa A, Matsubasa T, Watanabe K, Adachi J, Inada N: Opinions on qualifications of surveyors of care for children with disabilities in Japan. Journal of Intellectual Disability -Diagnosis and Treatment 8(1): 82-89.
- 2) Horiguchi T, Takanashi K, Sato S, Sone N: Estimation of abuse by teachers in special needs schools in Japan. Journal of Intellectual Disability -Diagnosis and Treatment 8(1): 113-119.
- 3) Hazumi M, Nakajima S, Adachi Y. Is 4 - month - old infants' night waking affected by mothers' responses to them? A cross - sectional survey in Japan Nursing Open 8: 882-889, 2020.
- 4) Hazumi M, Ito W, Okubo R, Wada M, Honda M. Development and validation of a hypersomnia-specific beliefs scale. Sleep Medicine 75: 256-262, 2020.
- 5) Okayama T, Usuda K, Okazaki E, Yamanouchi Y. Number of long-term inpatients in Japanese psychiatric care beds: trend analysis from the patient survey and the 630 survey. BMC psychiatry 20(1) :522-522, 2020.
- 6) Susukida S, Usuda K, Hamazaki K, Tsuchida A, Matsumura K, Nishi D, Inadera H. Association of prenatal psychological distress and postpartum depression with varying physical activity intensity: Japan Environment and Children's Study (JECS). Scientific reports 10(1) :6390-6390, 2020.

(2) 総説

(3) 著書

- 1) 臼田 謙太郎: 精神疾患患者の動向.精神医学と精神医療. 一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集. pp302-311. 東京, 2021.

(4) 研究報告書

- 1) 臼田謙太郎: 精神医療政策への萌芽的取組と行政効果検証に関する研究. 精神・神経疾患研究開発費. 令和 2 年度 総括研究報告書. 2020.
- 2) 堀口寿広: レセプト病名等情報から臨床診断を推定するロジックの開発に関する研究. 精神・神経疾患研究開発費. 令和 2 年度 分担研究報告書. 2020.
- 3) 臼田謙太郎: 医療記録を用いた医療観察法病棟入院患者の入院長期化予測に関する研究. 精神・神経疾患研究開発費. 令和 2 年度 分担研究報告書. 2020.
- 4) 羽澄 恵: 精神保健指定医の研修実施に関する政策評価. 精神・神経疾患研究開発費. 令和 2 年度 分担研究報告書. 2020.
- 5) 臼田謙太郎: 精神保健福祉センターと保健所における TIC に関する実態把握. 厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）. 令和 2 年度分担研究報告書. 2020.
- 6) 羽澄 恵: 眠気に伴う精神的苦痛が中枢性過眠症の治療経過に与える影響. 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（若手研究））令和 2 年度 総括研究報告書. 2020.
- 7) 羽澄 恵: 精神科入院医療における心理職の関与が医療の質に及ぼす影響～縦断的な診療記録システムを用いて～. 公益財団法人政策医療振興財団研究助成金 令和 2 年度研究助成報告書. 2020.

(5) 翻訳

(6) その他

- 1) 堀口寿広，高梨憲司，佐藤彰一，曾根直樹：特別支援学校における虐待件数の国際比較．小児保健研究 79 巻講演集 Page120，2020.

B. 学会・研究会における発表

(1) 学会特別講演, 教育講演, シンポジウム, ワークショップ, パネルディスカッション等

- 1) 堀口寿広，高梨憲司，佐藤彰一，曾根直樹：特別支援学校における虐待件数の国際比較．第 67 回日本小児保健協会学術集会．福岡，2020.11.4-6.

(2) 一般演題

(3) 研究報告会

(4) その他

C. 講演

- 1) 堀口寿広：クリティカルパス．日本精神科病院協会通信教育第 6 回 SENIOR コース．福岡，2020.11.17.

D. 学会活動

(1) 学会主催

(2) 学会役員

- 1) 堀口寿広：公益社団法人 日本小児保健協会 代議員.
- 2) 堀口寿広：公益社団法人 日本小児保健協会 小児保健奨励賞研究助成選考委員.
- 3) 堀口寿広：公益社団法人 日本小児科学会 小児科サブスペシャリティ連絡協議会 第三者委員.

(3) 座長

- 1) 堀口寿広：多職種のための投稿論文書き方セミナー．第 67 回日本小児保健協会学術集会．福岡，2020.11.4-6.

(4) 学会誌編集委員等

- 1) 堀口寿広：公益社団法人 日本小児保健協会「小児保健研究」誌 編集委員長.
- 2) 堀口寿広：「チャイルド・ヘルス」誌 編集協力者.

E. 研修

F. その他

3. 薬物依存研究部

I. 研究部の概要

薬物依存研究部は、「麻薬・覚せい剤等に関する実態調査結果に基づく勧告」（総務庁，平成10年5月）により，機能強化が要請され，平成21年度より研究室の改組及び1研究室の新設がなされ，下記のように3研究室体制となっている。

心理社会研究室

- (1) 薬物乱用・依存及び中毒性精神障害の実態調査研究に関すること。
- (2) 薬物依存の発生要因に係わる心理学的及び社会学的調査研究に関すること。
- (3) 薬物依存の予防及びその指導，研修の方法の研究に関すること。

依存性薬物研究室

- (1) 薬物依存の発生要因に係わる精神薬理学的調査研究に関すること。
- (2) 依存性薬物の薬効に係わる精神薬理学的及び心理学的調査研究に関すること。
- (3) 中毒性精神障害に係わる精神薬理学的及び心理学的調査研究に関すること。

診断治療開発研究室

- (1) 薬物依存及び中毒性精神障害の診断技術及び治療法の開発の研究に関すること。
- (2) 薬物依存及び中毒性精神障害の治療システムの開発の研究に関すること。
- (3) 薬物依存及び中毒性精神障害の診断技術及び治療法の研修に関すること。

人員構成は，次のとおりである。

部長：松本俊彦，心理社会研究室長：嶋根卓也，依存性薬物研究室長：船田正彦，診断治療開発研究室長：近藤あゆみ，リサーチフェロー：富山健一（5月～），猪浦智史，客員研究員：浅沼幹人（岡山大学脳神経機構学分野），尾崎 茂（東京都保健医療公社豊島病院），宮永 耕（東海大学健康科学部），和田 清（埼玉県立精神医療センター），成瀬暢也（埼玉県立精神医療センター），森田展彰（筑波大学医学医療系），谷渕由布子（同和会千葉病院），三島健一（福岡大学薬学部），境 泉洋（徳島大学大学院），山田正夫（神奈川県立精神保健福祉センター），池田朋広（高崎健康福祉大学健康福祉学部），平田豊明（千葉県精神科医療センター），高野 歩（東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科），本田洋子（福岡市精神保健福祉センター），大嶋栄子（NPO法人リカバリー），池田和隆（東京医学総合研究所），三好美浩（岐阜大学医学部看護学科），高岸百合子（駿河台大学心理学部），鈴木秀人（東京都監察医務院，），奥村泰之（東京医学総合研究所），引土絵未（日本女子大学，4月～）古田島浩子（東京医学総合研究所，4月～），山口重樹（獨協医科大学，6月～），宮地尚子（一橋大学大学院社会学研究科，6月～），高橋 哲（お茶の水女子大学生生活科学部，6月～），村瀬華子（北里大学医療衛生学部，7月より）科研費研究員：米澤雅子，富山健一（～4月），喜多村真紀，伴恵理子，加藤 隆，瓜生美智子，併任研究員：今村扶美，川地 拓，山田美紗子（以上，病院臨床心理室），船田大輔，宇佐美貴士，村上真紀，沖田恭治（以上，病院第二精神科），研究生：青尾直也，今井航平，加藤重城，橋本美保，花岡晋平，福森崇之，大澤美佳，高木のり子，田中紀子，邱冬梅，山田理沙，山本泰輔，熊倉陽介，大宮宗一郎，青木彩香，阿久根陽子，菊池美名子，池上大悟，江島智子（6月～），水野有紀（9月～）

II. 研究活動

A. 疫学的研究

1) 全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査

本調査は，1987年以降ほぼ隔年で実施されてきたものであり，精神科医療現場における薬物関連精神疾患の実態を把握できる，わが国唯一の悉皆調査である。2020年調査では，対象施設1558施設のうち，1217施設（78.1%）の協力を得て，232施設（14.9%）の施設から総計2859例の薬物関連精神疾患症例が報告された。2020年調査では，危険ドラッグ症例の減少が顕著である一方で，睡眠薬・

抗不安薬、市販薬症例の増加が認められた。調査全体としては、薬物関連精神疾患症例の増加が見られる一方で、最近1年以内に薬物使用症例は横ばいの傾向であり、近年、薬物問題を抱える人の精神科医療へのアクセスが改善し、精神科医療のなかで断薬している人が増えている可能性が示唆された。（厚労科研：医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業。松本俊彦，嶋根卓也）

2) 保護観察の対象となった薬物依存症者のコホート調査システムの開発とその転帰に関する研究

本研究は、保護観察所と精神保健福祉センターなどの地域支援機関との橋渡しをしながら、保護観察の対象となった薬物事犯者の長期転帰を調査する、「Voice Bridges Project」である。令和2年11月末までに、全国20箇所の精神保健福祉センターから計508名の保護観察対象者が調査に参加し、今年度は、VBP開始後初の3年間の追跡完了者からのデータを収集することができ、約1年経過後の累積断薬継続率は約90%、2年経過後の累積断薬継続率も約90%であった。（厚労科研：障害者政策総合研究事業。松本俊彦）

3) 飲酒・喫煙・薬物乱用についての全国中学生意識・実態調査（2020年）

本研究は、わが国で唯一の全国の中学生を対象とする薬物使用に関する疫学研究である。令和2年度は、COVID-19感染拡大を受け、全国調査が中止となった。そこで、過去データを再分析し、母集団（全国の中学生）における飲酒・喫煙・薬物乱用の経験率および経験者数を推定し、その経年的変化を明らかにした。その結果、飲酒・喫煙および有機溶剤の生涯経験率は、2010年から2018年にかけて有意に減少していた。大麻の生涯経験率は、2010年から2018年にかけては有意な増減はみられないが、2014年から2018年にかけては有意に増加していた。（令和2年度厚生労働行政推進調査事業費補助金：医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業。嶋根卓也，猪浦智史，邱冬梅，和田 清）

4) 民間支援団体利用者のコホート調査と支援の課題に関する研究（ダルク追っかけ調査2020）

本研究の目的は、民間支援団体利用者の予後と支援の課題を明らかにすることである。6回目のフォローアップ調査（3年6ヶ月時点）では、455名（40施設）の予後を追跡することができた。新規利用群の累積アブステナンス率（薬物）は、FU1（80.9%）、FU2（66.0%）、FU3（56.7%）、FU4（52.6%）であった。覚醒剤症例において、アブステナンスのオッズ比は、自助グループ不参加群に比して参加群において高く、さらに、自助グループ参加頻度との間に量-反応関係が認められた。（厚労科学研究：障害者政策総合研究事業。嶋根卓也，高岸百合子，喜多村真紀，猪浦智史，引土絵未，山田理沙，近藤あゆみ，米澤雅子，松本俊彦）

5) 新規危険ドラッグの乱用実態把握のための効果的な調査手法の確立

本研究の目的は、薬物使用者が多いレクリエーション・セッティングの一つとして野外フェスティバルの来場者を対象とした調査を通じて、大麻使用者の特徴を明らかにすることである。その結果、本研究のデータからは大麻使用者におけるアルコール関連の問題性は見いだせなかった。国内の大麻使用者の多くが北米における大麻合法化（医療目的、嗜好目的の両方）に賛同していた。大麻使用経験のない者であっても、大麻の医療目的での利用には賛同していた。（厚労科学研究：医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業。嶋根卓也，山田理沙，船田正彦）

6) 覚せい剤事犯者の理解とサポートに関する研究

全国の刑務所で収容されている覚せい剤事犯者に関する実態を明らかにすることを目的とした。覚醒剤使用の引き金（トリガー）には、性差があることが明らかになった。男性は、性行為や金銭が引き金になっている場合が多いのに対して、女性はネガティブな感情やボディイメージへの対処、月経に関連する不快症状が引き金となっていた。うつ病などネガティブな感情への対処方法を学ぶこと、自己イメージを修復すること、月経周期に関連する身体的・感情的な変化を認識することは、女性薬物依存者に対して適切な治療とケアを提供する上で役立つ。（厚生労働省：依存症に関する調査研究事業。嶋根卓也，近藤あゆみ，高岸百合子，喜多村真紀，伴恵理子，松本俊彦）

7) 薬物使用と生活に関する全国高校生調査

2018年度の調査データをもとに、学術論文の作成および教育現場向けのファクトシート（大麻使

用)を作成した。家族構成による親の飲酒と高校生におけるビンジ飲酒との関連性を調べ、母親が飲酒する場合、母親が飲酒しない場合に比べて高校生のビンジ飲酒のリスクは 1.5 倍高くなった。両親が不在の家庭は、飲酒をしない両親がいる家庭に比べて、高校生のビンジ飲酒のリスクは 4.4 倍高いことが明らかとなった。青少年期におけるビンジ飲酒を予防するために、親がいる家庭および不在の家庭に向けた介入プログラムが重要である。(厚生労働省：依存症に関する調査研究事業。嶋根卓也，猪浦智史，和田 清，松本俊彦)

8) HIV 感染症を伴う薬物使用障害の臨床的特徴と治療・回復支援に関する研究

覚せい剤取締法違反による新規受刑者のデータベースを二次的に解析し、HIV 感染の背後にある危険な性行動に着目し、薬物依存との関係を検討した。ロジスティック回帰分析の結果、性交時の覚醒剤使用は、男性受刑者 (5.86 倍)、女性受刑者 (2.58 倍) の両方において、危険な性行動のリスクを有意に上昇させていた。また、女性受刑者においては、注射器の共有経験 (1.60 倍) も危険な性行動のリスクを有意に上昇させていた。覚醒剤使用と危険な性行動との関連性には性差があることが示された。本研究の知見は、性差に着目しつつ、覚醒剤使用者に対する危険な性行動を軽減させるようなハームリダクションプログラムを日本の薬物政策に含めることの重要性を示唆している。(精神・神経疾患研究開発費。嶋根卓也，近藤あゆみ，松本俊彦)

9) 全国データに基づく薬物乱用領域の SDGs 指標の提案

本研究では、国内で公表されている既存データベースをもとに地域住民における違法薬物の使用状況、青少年における予防教育の実施状況、精神科医療施設における薬物依存治療の状況から日本の SDGs3.5 指標案を検討することを目的とした。経年的な研究プロジェクトや政府統計を情報源とするデータの蓄積性や継続性を踏まえ、1) 地域住民における違法薬物生涯経験率、2) 学校における薬物乱用防止教室実施率、3) 精神科医療施設における物質使用障害者の主たる薬物の構成比率、4) 薬物依存症の患者数および診療機関数を日本の SDGs3.5 指標とすることが妥当と結論付けた。(厚労科学研究：地球規模保健課題解決推進のための行政施策に関する研究事業。(松本俊彦，嶋根卓也，猪浦智史))

10) 薬物使用のモニタリング調査に関する国際比較研究

本研究は、アジア諸国内における、薬物依存・乱用のモニタリングシステムの構築を促進することを目的として、定期的に薬物使用のモニタリング調査を実施しており、薬物使用状況がわが国と共通しているタイ国に注目し、薬物使用のモニタリング調査に関する国際比較研究を推進した。本年度はタイ国で実施されている薬物使用についてのモニタリング調査の概要、および研究方法について調査し、両国で比較可能な研究調査項目について検討した。(令和 2 年度厚生労働科学研究費補助金：医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業。猪浦智史，和田 清，嶋根卓也)

B. 臨床研究

1) 薬物使用障害に対する多様な治療法の開発

本研究の目的は、すでに我々が開発した薬物依存症集団療法 (SMARPP) ではカバーできない様々な問題——すなわち、併存精神障害や感染症、性差などの個別的要因、および、治療セッティングを含めた多様なニーズ——を抱える薬物使用障害患者に対する治療法を開発することである。

今年度の本研究では、従来の治療法では十分な効果が得られず、個別性への配慮を要する集団が同定されるとともに、既存の薬物依存症集団療法に代わる治療法として、精神科急性期病棟における短期入院治療プログラム (FARPP)、作業療法プログラム (リアル生活プログラム) の開発が行われた。

(精神・神経疾患研究開発費，松本俊彦，嶋根卓也，近藤あゆみ，船田大輔，村上真紀，今村扶美)

2) 薬物使用障害の治療転帰に関する個別的要因の影響に関する研究

2017 年 1 月から 2018 年 12 月までの 24 ヶ月間に NCNP 薬物依存症外来) を受診した新規患者 226 名のうち、治療開始から 1 年後の転帰について検討した。その結果、治療開始から 1 年後の薬物依存重症度には有意な改善が認められた一方で、治療効果があがりにくい要因のひとつとして、「統合失調症スペクトラム障害および他の精神病性障害群」、「双極性障害および関連障害群」、「解離症群／

解離性障害群」等の併存が示唆された。（令和元年度精神・神経疾患研究開発費、近藤あゆみ）

3) 精神保健福祉センターにおける家族心理教育プログラムの普及と評価に関する研究

平成 29 年 9 月から平成 30 年 12 月までに精神保健福祉センターまたは医療機関を訪れた 115 名に対して、登録時、登録後 6 ヶ月、登録後 1 年の 3 時点における自記式アンケート調査への回答を依頼した。そのうち、登録時及び登録後 1 年時の情報が得られた 73 名について、2 時点の前後比較を行うことで家族支援及び家族心理教育プログラムの効果評価を行った。その結果、家族の健康状態の改善、希望が増大、本人の治療・支援状況の改善が確認された。（令和元年度厚生労働科学研究費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業、近藤あゆみ）

4) 女性薬物依存症者の回復支援に関する研究

医療機関、回復支援施設、更生保護施設を利用する女性薬物使用当事者 10 名を対象とし、インタビュー調査の手法を用いて、回復過程において対象者が抱える生活上の困難や支援ニーズを聞き取った（観察研究、事例研究、インタビュー調査）。その結果、①乱用に至るまでの体験、②断薬を阻害するもの、③断薬の契機、④被支援経験とこれからの生活を構想する上での困りごとおよびニーズの 4 つであった。本研究により、女性薬物依存症者の回復に関する阻害要因や課題が明らかにされた。女性の薬物依存問題への取り組みには、薬物使用に先立ち起きている精神的・身体的・環境的問題を広く視野に入れた包括的な評価と継続的な支援が重要であると考えられた。（厚生労働省依存症に関する調査研究事業、近藤あゆみ）

5) 物質使用障害を抱える女性に対する治療プログラムの開発と有効性評価に関する研究

物質使用障害を抱える女性に対する治療プログラムのワークブックを作成した。作成にあたっては、「Seeking Safety A Treatment Manual for PTSD and Substance Abuse」と「Recovery from Trauma, Addiction, or Both Strategies for Finding Your Best Self」を参考とし、安全かつ総合的に改善を目指す独自の包括的プログラムを開発した。今後は、ワークブックとセラピスト・マニュアルを完成し、2 つの医療機関で介入を開始し、現在も継続中である。（日本医療研究開発機構 障害者対策総合研究開発事業、松本俊彦、近藤あゆみ）

6) 様々な依存症に対する個人認知行動療法プログラムの開発と効果検証に関する研究

本研究は、物質依存とギャンブルなどの行動嗜癖に対する個人認知行動療法プログラムを開発し、その有効性を検証することを目的としている。今年度はワークブックとセラピスト・マニュアルを刊行し、ランダム化対照試験を実施する NCNP 病院（薬物依存症担当）、ならびに、国立病院機構久里浜医療センターおよび国立病院機構肥前精神医療センター（アルコール依存症・ギャンブル障害担当）の各施設の倫理委員会からの承認を受け、2021 年度の介入開始体制を整えた。（日本医療研究開発機構 障害者対策総合研究開発事業、近藤あゆみ、松本俊彦、船田大輔、今村扶美、高岸百合子）

C. 基礎研究

1) フェンタニル類縁化合物の中枢作用解析法に関する研究

本研究では、12 種類のフェンタニル類縁化合物について運動活性に対する影響およびオピオイド受容体活性化強度の検討を行った。a) 行動解析：実験には、ICR 系雄性マウスを使用した。フェンタニル類縁化合物の投与により、著明な運動促進作用が発現した。b) オピオイド受容体作用：オピオイド μ 受容体発現細胞（CHO- μ 細胞）を利用して、オピオイド受容体作用を解析した。フェンタニル類縁化合物の添加により、濃度依存的な蛍光発光が確認された。c) オピオイド受容体活性強度と中枢神経作用予測：12 種類のフェンタニル類縁化合物による運動促進作用と、CHO- μ 細胞実験で得られた μ 受容体活性化強度の相関性を検討した。フェンタニル類縁化合物による運動促進作用と μ 受容体活性化強度には、有意な相関性が確認された。フェンタニル類縁化合物による中枢興奮作用は μ 受容体活性化強度の解析から予測できると考えられる。本研究から、フェンタニル類縁化合物は主にオピオイド μ 受容体に作用することから、CHO- μ 細胞を利用した蛍光強度解析データは、有害作用の推測に利用できる可能性が示唆された。（厚労科学研究：医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業、船田正彦、富山健一）

Ⅲ. 社会的活動に関する評価

(1) 市民社会に対する一般的な貢献

- ・市民向け講演会：(Ⅳ. 研究業績 C. 講演 参照) ・報道：(Ⅳ. 研究業績 F. その他 参照)

(2) 専門教育面における貢献

- ・研修会・研究会

第 11 回薬物依存症に対する認知行動療法研究会, 2020 年度厚生労働省依存症治療拠点機関設置運営事業 (薬物依存症回復施設職員研修, 依存症治療指導者・依存症相談対応指導者・地域生活支援指導者養成研修 (薬物))

- ・各種教育研修会等への講師派遣 (Ⅳ. 研究業績 C. 講演 参照)

- ・大学

早稲田大学人間科学学術院非常勤講師 (松本俊彦), 国立大学法人東京医科歯科大学非常勤講師 (松本俊彦), 国立大学法人東京大学非常勤講師 (松本俊彦), 国立大学法人岡山大学大学院医歯薬学総合研究科非常勤講師 (船田正彦), 東京薬科大学薬学部非常勤講師 (嶋根卓也), 津田塾大学非常勤講師 (嶋根卓也)

- ・その他

日本アルコール・薬物医学会雑誌査読者 (近藤あゆみ, 嶋根卓也)

日本薬剤師会雑誌査読者 (嶋根卓也)

(3) 精研の研修の主催と協力

(4) 保健医療行政政策に関連する研究・調査, 委員会等への貢献

- ・政府委員会

厚生労働省医薬・生活衛生局「薬事・食品衛生審議会」臨時委員 (松本俊彦), 厚生労働省医薬・生活衛生局「依存性薬物検討会」構成員 (松本俊彦), 文部科学省生涯学習政策局「青少年を取り巻く有害環境対策の推進 (依存症予防教育推進事業)」技術審査委員 (松本俊彦), 厚生労働省精神・障害保健課「依存症の理解を深めるための普及啓発」に係る企画委員会委員 (松本俊彦), 文部科学省初等中等教育局「児童生徒の自殺予防に関する調査研究協力者会議」(松本俊彦), 厚生労働省医薬・生活衛生局「大麻等の薬物対策のあり方検討会」検討委員 (松本俊彦, 船田正彦, 嶋根卓也), 厚生労働省「依存症に関する調査研究部会」副部会長 (嶋根卓也), 文部科学省補助金 (健康教育振興事業費補助金)「喫煙, 飲酒, 薬物乱用防止教育に関する指導参考資料改訂委員会」委員 (嶋根卓也), 厚生労働省薬物乱用防止啓発訪問事業「効果検証」(嶋根卓也)

- ・その他公的委員会

東京地方裁判所登録精神保健判定医 (松本俊彦), 独立行政法人医薬品医療機器総合機構専門委員 (松本俊彦), 東京都危険ドラッグ専門調査委員会専門委員 (船田正彦), 福岡県特定危険薬物指定専門委員 (船田正彦), 精神保健福祉士国家試験委員 (近藤あゆみ), 埼玉県地方薬事審議会薬物指定審査委員会 (富山健一)

- ・研究成果の行政貢献

・厚生労働省医薬・生活衛生局「大麻等の薬物対策のあり方検討会」の検討会資料として, 「薬物使用に関する全国住民調査」, 「飲酒・喫煙・薬物乱用についての全国中学生意識・実態調査」の研究成果を報告した (厚生労働省).

法務省法務総合研究所の令和 2 年版犯罪白書の説明会 (ミニシンポジウム) に参加し, 「覚せい剤事犯者の理解とサポートに関する研究」や「民間支援団体利用者のコホート調査と支援の課題に関する研究」の研究成果を報告した (法務省).

(5) センター内における臨床的活動

毎週月・木曜日に薬物依存症外来での診療を行うとともに, デイケアにて薬物再乱用防止のための集団認知行動療法プログラムを実施している (松本俊彦, 近藤あゆみ, 嶋根卓也).

Ⅳ. 研究業績

A. 刊行物

(1) 原著論文

- 1) Matsumoto T, Kawabata T, Okita K : Risk factors for the onset of dependence and chronic psychosis due to cannabis use: Survey of patients with cannabis-related psychiatric disorders. *Neuropsychopharmacol Rep*. 2020;00:1–10. <https://doi.org/10.1002/npr2.12133>
- 2) Inoura S, Shimane T, Kitagaki K, Wada K, Matsumoto T : Parental drinking according to parental composition and adolescent binge drinking: findings from a nationwide high school survey in Japan. *BMC Public Health*. 2020;20(1):1878. <http://doi.org/10.1186/s12889-020-09969-8>
- 3) Kondo A, Shimane T, Takahashi M, Takeshita Y, Kobayashi M, Takagishi Y, Omiya S, Takano Y, Yamaki M, Matsumoto T : Gender Differences in Triggers of Stimulant Use Based on the National Survey of Prisoners in Japan. *Subst Use Misuse*. 2020 Oct 24;1-7. doi: 10.1080/10826084.2020.1833930
- 4) Yamada R., Shimane, T., Kondo, A., Yonezawa, M. and Matsumoto, T. : The relationship between severity of drug problems and perceived interdependence of drug use and sexual intercourse among adult males in drug addiction rehabilitation centers in Japan. *Substance Abuse Treat Prevention Policy* 16, 5 (2021). <https://doi.org/10.1186/s13011-020-00339-6>
- 5) Funada M, Takebayashi-Ohsawa M, Tomiya K: Synthetic cannabinoids enhanced ethanol-induced motor impairments through reduction of central glutamate neurotransmission. *Toxicol Appl Pharmacol*. 2020 ;408:115283. doi: 10.1016/j.taap.2020.115283
- 6) Tomiya K, Funada M: Synthetic cannabinoid CP-55,940 induces apoptosis in a human skeletal muscle model via regulation of CB₁ receptors and L-type Ca²⁺ channels. *Arch Toxicol*. 2021; 95(2):617-630. doi: 10.1007/s00204-020-02944-7
- 7) 宇佐美貴士, 松本俊彦 : 10代における乱用薬物の変遷と薬物関連精神障害患者の臨床的特徴. *精神医学* 62(8) : 1139-1148, 2020.
- 8) 嶋根卓也, 邱 冬梅, 和田 清 : 日本における大麻使用の現状: 薬物使用に関する全国住民調査 2017より, *YAKUGAKU ZASSHI*, 140(2), 173-178, 2020.
- 9) 山田理沙, 嶋根卓也, 船田正彦 : レクリエーション・セッティングにおける危険ドラッグ使用パターンの男女別検討, *日本アルコール・薬物医学会雑誌* 54(6), 272-285, 2020.
- 10) 谷 真如, 高野洋一, 高宮英輔, 嶋根卓也 : 覚せい剤取締法違反により刑事施設に入所した刑の一部執行猶予者の心理・社会的特徴, *犯罪心理学研究*, 57(2), 1-15, 2020.
- 11) 金澤由佳 : 「TJ」と「TC」からなる日本型「治療的司法」の考察—国会議事録を手がかりに—*治療的司法ジャーナル* (4), 3-9, 2021.
- 12) 金澤由佳 : 精神障害者に対する強制的な医療からの示唆 : 特集 共生社会と人権, *老年精神医学* 32 (2), 101-105, 2021.

(2) 総説

- 1) Ikeda K, Ide S, Takahashi-Omoe H, Minami M, Miyata H, Kawato M, Okamoto H, Kikuchi T, Saito Y, Shirao T, Sekino Y, Murai T, Matsumoto T, Iseki M, Nishitani Y, Sumitani M, Takahashi H, Yamawaki S, Isa T, Kamio Y : Required Research Activities to Overcome Addiction Problems in Japan. *Taiwanese Journal of Psychiatry*, IP: 10.232.74.23, 2021.
- 2) 松本俊彦 : 薬物依存症の対策. *日本医師会雑誌 特集 痛みの診断と治療最前線* 149(1):56, 2020.
- 3) 松本俊彦 : 麻酔科医の薬物依存 徹底分析シリーズ 誰に相談したらいいのか 救いの道は, ある. *Lisa* 27(4) : 432-437, 2020.

- 4) 松本俊彦：薬物依存症と孤立. 精神科治療学 35(4) : 385-390, 2020.
- 5) 松本俊彦：十代の自殺死亡率. 小児内科 52(5) : 657-660, 2020.
- 6) 松本俊彦：ハームリダクションについて. 精神科治療学 35(5) : 541-545, 2020.
- 7) 村上真紀, 松本俊彦：Self-harm in over8s : long-term management (NICE clinical guideline,CG133). 精神医学 62(5)増大号 : 775-778. 2020.
- 8) 松本俊彦, 今村扶美：薬物依存症－認知行動療法の手法を活用した依存症集団療法「SMARPP」. 精神療法 増刊第7号 : 136-147, 2020.
- 9) 松本俊彦：依存症は「孤立の病」アディクションの対義語はコネクション. 看護 72(9) : 88-89, 2020.
- 10) 松本俊彦：向精神薬乱用・依存を防ぐために臨床医にできること. 中央区医師会雑誌 33 : 5-7, 2020.
- 11) 松本俊彦：ゾルピデムの依存リスクは低くない. L i s a 27(7) : 676-678, 2020.
- 12) 松本俊彦：薬物依存症の治療. CLINICAL NEUROSCIENCE 「ドラッグ」の神経科学 38(8) : 1001-1004, 2020.
- 13) 松本俊彦：麻薬中毒者届出制度の意義と課題. 精神神経学雑誌 122(8) : 602-609, 2020.
- 14) 宇佐美貴士, 松本俊彦：2.物質関連障害および嗜癖性障害群 1)物質関連障害. 臨床精神医学 49(8) : 1219-1226, 2020.
- 15) 松本俊彦：行動嗜癖と物質依存症. 日本医師会雑誌 149(6) : 1041-1044, 2020.
- 16) 松本俊彦：依存症から物質使用障害・嗜癖性障害へ. 精神科治療学 35(9) : 1005-1009, 2020.
- 17) 松本俊彦：保護観察の対象となった薬物依存症者のコホート調査システムの開発とその転帰に関する研究－「声の架け橋」プロジェクト (Voice Bridges Projects). 刑法雑誌 59(3) : 432-439, 2020.
- 18) 松本俊彦：アルコールとうつ, 自殺 「死のトライアングル」に引き込まれないために. 月刊保団連 1334 : 4-10, 2020.
- 19) 松本俊彦：薬物使用者を支える地域づくり ハームリダクションに依拠した薬物使用者の支援. 公衆衛生 84(12) : 801-806, 2020.
- 20) 沖田恭治, 松本俊彦：アディクションに関わる不安とその対応. 精神科治療学 35(12) : 1349-1354, 2020.
- 21) 松本俊彦：「津久井やまゆり園」入所者殺傷事件に見る, 障害者差別・偏見を生み出す背景. 保健師ジャーナル 77(1) : 39-43, 2021.
- 22) 松本俊彦：ハームリダクションとは何か? 作業療法ジャーナル 55(1) : 52-56, 2021.
- 23) 松本俊彦：コロナ禍における薬物依存症支援－「三密」と「不要・不急」の治療的意義. こころの科学 HUMAN MIND SPECIAL ISSUE 2021 コロナ禍の臨床を問う : 70-81, 2021.
- 24) 池田朋広, 青木彩香, 石川亜弓, 江島智子, 長谷川恵子, 種田綾乃, 小松崎智恵, 久永文恵, 松本俊彦, 大島 巖：併存性障害(重複障害)者を支援するためのE B Pツールキットの照会. 精神科治療学 36(1) : 109-113, 2021.
- 25) 勝又陽太郎, 松本俊彦：いじめと自殺. 精神医学 63(2) : 199-207, 2021.
- 26) 松本俊彦：依存症・嗜癖をみるための標準的知識と技能. 精神科治療学 36(2) : 201-207, 2021.
- 27) 松本俊彦：外出抑制による依存症への影響と対策－コロナ関連自殺を防ぐ. 公衆衛生 85(3) : 151-155, 2021.
- 28) 嶋根卓也. 薬物乱用状況のアップデート：薬物使用に関する全国住民調査 2019 より. Newsletter KNOW (麻薬・覚せい剤乱用防止センター), 第103号, p2-5, 2020.
- 29) 嶋根卓也：薬物依存症者の理解とサポート, 法律のひろば 74(1), p57-66, 2021.
- 30) 嶋根卓也：薬物乱用防止のために地域の薬局ができること. 調剤と情報 27(1), p89-96, 2021.

(3) 著書

- 1) 松本俊彦：物質使用症．研修医の為の精神科ハンドブック，医学書院，東京，pp57-59，2020.
- 2) 松本俊彦：精神医学の観点から見た裁判での議論．パンドラの箱は閉じられたのか，創出版，東京，pp170-175，2020.
- 3) 松本俊彦：心はなぜアディクションに捕捉されるのかー痛みと孤立と嘘の精神病理学．アディクション・スタディーズ 薬物依存症を捉えなおす 13 章，日本評論社，東京，pp12-25，2020.
- 4) 松本俊彦：なぜハームリダクションが必要なのかーつながりと包摂の公衆衛生政策．アディクション・スタディーズ 薬物依存症を捉えなおす 13 章，日本評論社，東京，pp116-139，2020.
- 5) 松本俊彦：愚痴は生きのびるための技術だ．「死にたい」「消えたい」と思ったことがあるあなたへ，河出書房新社，東京，pp63-72，2020.
- 6) 松本俊彦：C 物質依存と精神保健福祉．系統看護学講座 別冊 精神保健福祉，医学書院，東京，pp265-279，2021.
- 7) 松本俊彦 編：アディクション・スタディーズ 薬物依存症を捉えなおす 13 章，日本評論社，東京，pp1-253，2020.
- 8) 松本俊彦，仮屋暢聡 監修：理系脳を鍛える！ Newton ライト 2.0 精神の病気 依存症編 スマホ，ギャンブル，アルコールなど，依存症がよく分かる．ニュートンプレス，東京，pp1-79，2021.
- 9) 井原 裕，斎藤 環，松本俊彦 監修：こころの科学 HUMAN MIND SPECIAL ISSUE 2021 コロナ禍の臨床を問う，日本評論社，東京 pp1-192，2021.
- 10) 松本俊彦 編：「死にたい」に現場で向き合う 自殺予防の最前線．日本評論社，東京，pp1-205，2021.
- 11) 嶋根卓也：第 8 章 性的マイノリティ・HIV 感染者の理解と支援．物質使用障害の治療 多様なニーズに応える治療 回復支援（松本俊彦編著），金剛出版，東京，pp141-155，2020.
- 12) 嶋根卓也：薬物乱用教育とスティグマ．アディクション・スタディーズ 薬物依存症を捉えなおす 13 章（松本俊彦編），日本評論社，pp201-214,07,2020.
- 13) 近藤あゆみ：依存症のリハビリテーション．最新精神保健福祉士養成講座 3 精神障害リハビリテーション論第 5 章第 2 節，pp220-231，02，2021.
- 14) 近藤あゆみ：薬物依存症者をもつ家族に対する相談支援．令和 2 年版再犯防止推進白書，01,2021.

(4) 研究報告書

- 1) 松本俊彦：保護観察の対象となった薬物依存症者のコホート調査システムの開発とその転帰に関する研究．厚生労働科学研究費補助金障害者政策総合研究事業（精神障害分野）再犯防止推進計画における薬物依存症者の地域支援を推進するための政策研究（研究代表者 松本俊彦）総括・分担研究報告書：pp11-61，2021.
- 2) 松本俊彦，宇佐美貴士，船田大輔，村上真紀，沖田恭治，谷渕由布子，山本泰輔，山口重樹：全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査．令和 2 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業）薬物乱用・依存状況の実態把握と薬物依存症者の社会復帰に向けた支援に関する研究（研究代表者 嶋根卓也）総括・分担研究報告書：pp41-104，2021.
- 3) 船田正彦：危険ドラッグの検出技術開発に関する研究．令和 2 年度精神・神経疾患研究開発費「危険ドラッグの有害作用発現機序の解明と評価技術開発に関する研究（主任研究者：船田正彦）」令和 2 年度実績報告書．2021.
- 4) 船田正彦：危険ドラッグ及び関連代謝産物の有害作用解析と乱用実態把握に関する研究．令和 2 年度厚生労働科学研究費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業）「危険ドラッグ及び関連代謝産物の有害作用解析と乱用実態把握に関する研究（研究代表者：船田正彦）」令和 2 年度総括・分担研究報告書．pp1-17，2021.

- 5) 船田正彦：合成カンナビノイドの中枢作用解析法に関する研究. 令和2年度厚生労働科学研究費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業）「危険ドラッグ及び関連代謝産物の有害作用解析と乱用実態把握に関する研究（研究代表者：船田正彦）」令和2年度分担研究報告書. pp18-27, 2021.
- 6) 船田正彦：精神活性物質の迅速検出法ならびに有害作用評価法開発に関する研究. 令和2年度厚生労働科学研究費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業）「危険ドラッグ及び関連代謝産物の有害作用解析と乱用実態把握に関する研究（研究代表者：船田正彦）」令和元年度総括・分担研究報告書. pp1-7, 2021.
- 7) 船田正彦：合成カンナビノイドをターゲットとした細胞毒性検出細胞の作出. 令和2年度厚生労働科学研究費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業）「精神活性物質の迅速検出法ならびに有害作用評価法開発に関する研究（研究代表者：船田正彦）」令和2年度分担研究報告書. pp 8-16, 2021.
- 8) 嶋根卓也：薬物乱用・依存状況の実態把握と薬物依存症者の社会復帰に向けた支援に関する研究. 令和2年度厚生労働行政推進調査事業費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業「薬物乱用・依存状況の実態把握と薬物依存症者の社会復帰に向けた支援に関する研究（研究代表者：嶋根卓也）」総括・分担研究報告書. pp1-13, 2021.
- 9) 嶋根卓也, 猪浦智史, 立森久照, 北垣邦彦, 邱 冬梅, 和田 清：飲酒・喫煙・薬物乱用についての全国中学生意識・実態調査. 令和2年度厚生労働行政推進調査事業費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業「薬物乱用・依存状況の実態把握と薬物依存症者の社会復帰に向けた支援に関する研究（研究代表者：嶋根卓也）」総括・分担研究報告書. pp15-39, 2021.
- 10) 嶋根卓也, 高岸百合子, 喜多村真紀, 猪浦智史, 引土絵未, 山田理沙, 近藤あゆみ, 米澤雅子, 新田慎一郎, 近藤恒夫：民間支援団体利用者のコホート調査と支援の課題に関する研究（ダルク追っかけ調査 2020）. 厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）再犯防止推進計画における薬物依存症者の地域支援を推進するための政策研究（研究代表者：松本俊彦）令和2年度総括・分担研究報告書. pp63-90, 2021.
- 11) 嶋根卓也, 猪浦智史, 山田理沙：新規危険ドラッグの乱用実態把握のための効果的な調査手法の確立. 令和二年度厚生労働科学研究費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業「危険ドラッグ及び関連代謝物の有害作用解析と乱用実態把握に関する研究（研究代表者：船田正彦）」研究報告書. pp58-103, 2021.
- 12) 近藤あゆみ, 鶴岡晴子, 大上裕之, 加賀谷有行, 酒井ルミ, 佐藤嘉孝, 松岡明子, 竹ノ内薫, 森由貴：精神保健福祉センターにおける家族心理教育プログラムの開発研究. 令和2年度厚生労働行政推進調査事業費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業「薬物乱用・依存状況の実態把握と薬物依存症者の社会復帰に向けた支援に関する研究（研究代表者：嶋根卓也）」分担研究報告書. pp173-184, 2021.
- 13) 猪浦智史, 和田 清, 嶋根卓也：薬物使用のモニタリング調査に関する国際比較研究（2020年）. 令和2年度厚生労働行政推進調査事業費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業「薬物乱用・依存状況の実態把握と薬物依存症者の社会復帰に向けた支援に関する研究（研究代表者：嶋根卓也）」分担研究報告書. pp181-217, 2021.

(5) 翻訳

(6) その他

- 1) 松本俊彦：治療の最前線に立つ医師が警鐘を鳴らす 芸能人と薬物. 依存をやめられないワケは. 婦人公論 1540：116-119, 2020.

- 2) 松本俊彦：依存症，かえられるもの／かえられないもの 8 「ダメ．ゼッタイ．」によって失われたもの．みすず 62(5)：18-28, 2020.
- 3) 松本俊彦：依存症，かえられるもの／かえられないもの 9 泣き言と戯言と寝言．みすず 62 (8)：2-12, 2020.
- 4) 松本俊彦：薬物依存症について多くの人に知ってほしいこと．生き直す 私は一人ではない 232-238, 2020.
- 5) 松本俊彦：【帯 推薦文】「心の酔い」を覚ます共同体．アルコールクス・アノニマスの歴史－酒を手ばなした人々をむすぶ アーネスト・カーツ（著）笠井賢太・岡崎直人・菅仁美（訳），2020.
- 6) 松本俊彦：人はなぜ依存症になるのか？-その理解と回復支援-．目白大学心理カウンセリングセンター年報 18：3-22, 2020.
- 7) 松本俊彦：【書評】自殺学入門 幸せな生と死とは何か 末木新著．精神療法 46(6)：872, 2020.
- 8) 松本俊彦：依存症，かえられるもの／かえられないもの 10 （最終回）人はなぜ酔いを求めるのか．みすず 62(11)：2-11, 2020.
- 9) 松本俊彦：ストロング系チューハイはもはや「薬物」対策が急務だ！．文藝春秋オピニオン 2021年の論点 100：212-213, 2020.
- 10) 渡邊洋次郎，松本俊彦：自己責任社会で弱さを抱えて生きていく－薬物・アルコール依存の経験から考える－．季刊 福祉労働 169：123-132, 2020.
- 11) 松本俊彦：第 5 章 子どもたちが飢えているのは，大人の失敗談－精神科松本俊彦さんに聞く．学校，行かなきゃいけないの？ 雨宮処凛 著：135-159, 2021.
- 12) 松本俊彦：人はなぜ薬物依存症になるのか？～予防と回復支援のために必要なこと～．町田市医師会広報誌 588：1-2, 2021.

B. 学会・研究会における発表

- (1) 学会特別講演，教育講演，シンポジウム，ワークショップ，パネルディスカッション等
- 1) 松本俊彦：【ランチタイムセミナーⅡ】人はなぜ依存症になるのか？．第 19 回日本トラウマティック・ストレス学会，（オンライン），2020.9.21～2020.10.20.
- 2) 松本俊彦：【シンポジウム 62】わが国における市販薬乱用の実態と課題．第 116 回日本精神神経学会学術総会，（オンライン），2020.9.29.
- 3) 松本俊彦：【シンポジウム 98】摂食障害における食行動異常と物質使用との交代性サイクルは嗜癖なのか？．第 116 回日本精神神経学会学術総会，（オンライン），2020.9.30.
- 4) 松本俊彦：【シンポジウム 6】最近の精神科医療における薬物乱用の動向．第 28 回日本精神科救急学会学術総会（オンライン），2020.10.10.
- 5) 松本俊彦：【シンポジウム 2 精神】アディクションとトラウマ支援者が気づくとの意義と気づいた後にしたいこと．第 36 回日本ストレス学会・学術総会，（オンライン），2020.10.24.
- 6) 松本俊彦：【招待講演 10】人はなぜ依存症になるのか？．日本臨床麻酔学会第 40 回大会，（オンデマンド配信），2020.11.6～30.
- 7) 松本俊彦：【シンポジウム 7】アディクション研究拠点設置において薬物依存症研究に求められるものは何か．第 55 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会，（オンライン），2020.11.23.
- 8) 松本俊彦：【シンポジウム 10】大麻使用による依存症と慢性精神病の発症リスク要因に関する研究：精神科医療施設における大麻関連精神障害患者に対する調査から．第 55 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会，（オンライン），2020.11.23.
- 9) 松本俊彦：【シンポジウム 8】精神科医療におけるベンゾジアゼピン受容体作動薬関連障害の現状と課題．第 55 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会，Web 開催，2020.11.23.
- 10) 松本俊彦：【教育講演 1】ハームリダクションとは何か～わが国の課題と可能性．日本犯罪心理学会第 58 回大会，（オンライン），2020.11.21～31.

- 11) リサ・ナジャヴィッツ, 松本俊彦:【対談】トラウマと薬物使用からの回復〜Seeking Safety〜. 日本犯罪心理学会第 58 回大会, (オンライン), 2020.11.21〜31.
- 12) 松本俊彦:【学術講演】ハームリダクションとは何か?—つながりと包摂の公衆衛生政策—. 第 27 回日本精神科看護専門学術集会, (オンライン), 2020.12.5.
- 13) 松本俊彦:【シンポジウム 18】日本におけるハームリダクション的実践の可能性. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会, (オンライン), 2020.11.27〜12.25.
- 14) 松本俊彦:【シンポジウム 5】薬物依存・乱用. 第 33 回日本総合病院精神医学会総会, (オンライン), 2020.12.7〜13.
- 15) 松本俊彦:【シンポジウム 4】睡眠薬は安全?: 高齢者に睡眠薬を処方する際に注意すべきこと. 第 35 回日本老年精神医学会, (オンライン), 2020.12.21.
- 16) 松本俊彦:【教育講演 8】ハームリダクションとは何か?—わが国の課題と可能性—. 第 40 回日本社会精神医学会, (オンライン), 2021.3.4.
- 17) 船田正彦:【シンポジウム】大麻を巡る国際社会の動向とわが国の現状. 「激動するわが国の薬物乱用・依存問題: 最近のトピックス」. 第 116 回日本精神神経学会学術総会, 宮城 (オンライン), 2020.9.29.
- 18) 船田正彦:【シンポジウム】船田正彦: 大麻の有害性: 細胞を利用した有害作用の評価. 「大麻についての基礎から臨床まで」. 第 55 回日本アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 福岡 (オンライン), 2020.11.23.
- 19) 嶋根卓也:【シンポジウム】「オピオイド鎮痛薬, 乱用のその先」, 仲間と共に回復する薬物依存-ダルク追っかけ調査より-. 第 55 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, (オンライン), 2020.11-22-23.
- 20) 嶋根卓也:【シンポジウム】「HIV 感染症と薬物使用 (依存) の予防」, Understanding and supporting drug users with HIV infection in Japan. 第 34 回日本エイズ学会学術集会, (オンライン), 2020.11.27-29.
- 21) 嶋根卓也:【シンポジウム】「HIV 感染症と薬物使用 (依存) の予防」第 34 回日本エイズ学会学術集会 (オンライン), (オンライン), 2020.11.27-29.
- 22) 嶋根卓也:【シンポジウム】「薬物乱用・依存」. 第 33 回日本総合病院精神医学会総会 (オンライン), 2020.12.7-13.

(2) 一般演題

- 1) Yamada R., Shimane T., Kondo A., Yonezawa M. and Matsumoto T. : The relationship between the perception of “drugs-sex connection” with unprotected sex behavior in rehabilitation centers for drug addiction in Japan. the CINP 2021 Virtual World Congress, 26-28 February, 2021.
- 2) 山本泰輔, 木村尚史, 玉腰暁子, 松本俊彦: 覚せい剤依存症患者の 性別ごとの特性と治療予後の関連. 第 79 回日本公衆衛生学会総会 2020 (オンライン), 2020.10.20.
- 3) 大宮宗一郎, 嶋根卓也, 近藤あゆみ, 高岸百合子, 小林美智子, 酒谷徳二, 服部真人, 喜多村真紀, 伴恵理子, 松本俊彦: 薬物関連問題と飲酒問題を有する覚せい剤事犯者の特徴: 信頼感に注目した分析から. 第 55 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会 (オンライン), 2020.11.22.
- 4) 引土絵未, 嶋根卓也, 小高真美, 秋元恵一郎, 加藤隆, 来栖次郎, 栗坪千明, 山村せつ, 吉野美樹, 松本俊彦: 薬物依存症者の就労に関する研究: 特例子会社を対象とした依存症者の就労に関する意識調査. 第 55 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会 (オンライン), 2020.11.22.
- 5) 船田大輔, 今村扶美, 外山 愛, 田川美保, 吉野直記, 近藤あゆみ, 堀越 勝, 松本俊彦: 市販薬依存症と複雑性 PTSD を併存し, 切迫した自殺行動を呈した際に CPT を施行した患者の治療経

- 過. 第 55 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会 (オンライン), 2020.11.23.
- 6) 山田理沙, 嶋根卓也, 近藤あゆみ, 米澤雅子, 松本俊彦: 薬物依存症者を対象とした薬物使用の影響によるコンドームを使用しない性交渉に関連する研究. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会 (オンライン), 2020.11.27-29.
 - 7) 児玉知子, 大澤絵里, 浅見真理, 戸次香奈江, 松岡佐織, 嶋根卓也, 松本俊彦, 三浦宏子, 樺田尚樹, 横山徹爾: 日本における Universal Health Converge の達成状況と課題. 第 35 回日本国際保健医療学会学術大会日本国際保健医療学会 (オンライン) 2020.11.1-3.
 - 8) 嶋根卓也, 小林美智子, 高橋 哲, 竹下賀子, 高岸百合子, 大宮 宗一郎, 近藤あゆみ, 高野洋一, 山木麻由子, 松本俊彦: ミニセッション S5「覚せい剤事犯者の理解とサポート: 性差に着目した分析, 覚せい剤事犯者における薬物依存症の重症度と再犯との関連: 性差に着目した分析. 第 55 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会 (オンライン), 2020.11-22-23.
 - 9) 高岸百合子, 嶋根卓也, 小林美智子, 高橋哲, 竹下賀子, 大宮宗一郎, 近藤あゆみ, 高野洋一, 山木麻由子, 松本俊彦: ミニセッション S5「覚せい剤事犯者の理解とサポート: 性差に着目した分析, 覚せい剤事犯者が自覚している薬物使用の引き金とメリット・デメリットとの関連. 第 55 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会 (オンライン), 2020.11-22-23.
 - 10) 近藤あゆみ, 嶋根卓也, 高橋哲, 小林美智子, 高岸百合子, 大宮宗一郎, 高野洋一, 山木麻由子, 松本俊彦: ミニセッション S5「覚せい剤事犯者の理解とサポート: 性差に着目した分析, 覚せい剤事犯女性の出所後の薬物依存症治療. 第 55 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会 (オンライン), 2020.11-22-23.
 - 11) 引土絵未, 嶋根卓也, 小高真美, ほか: 薬物依存症者の就労に関する研究: 特例子会社を対象とした依存症者の就労に関する意識調査. 第 55 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会 (オンライン), 2020.11-22-23.
 - 12) 大宮宗一郎, 嶋根卓也, 近藤あゆみ, 高岸百合子, 小林美智子, 酒谷徳二, 服部真人, 喜多村真紀, 伴恵理子: 薬物関連問題と飲酒問題を有する覚せい剤事犯者の特徴: 信頼感に注目した分析から. 第 55 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会 (オンライン), 2020.11.21-22.
 - 13) 小林美智子, 服部真人, 酒谷徳二, 嶋根卓也, 谷真如, 高橋哲, 大宮宗一郎: 薬物依存, アルコール依存, ギャンブル障害の各問題から見た覚醒剤事犯受刑者の特徴. 第 55 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, (オンライン), 2020.11-22-23.
 - 14) 服部真人, 小林美智子, 嶋根卓也, 高橋哲, 高岸百合子, 大宮宗一郎, 谷真如: 薬物依存と他の依存 (アルコール・ギャンブル) の併存が疑われる薬物事犯者の特徴. 第 58 回日本犯罪心理学会 (オンライン), 2020.11.21-22.
 - 15) 山田理沙, 嶋根卓也, 近藤あゆみ, 米澤雅子, 松本俊彦: 薬物依存症者を対象とした薬物使用の影響によるコンドームを使用しない性交渉に関連する研究. 第 34 回日本エイズ学会学術集会 (オンライン), 2020.11.27-29.
 - 16) 猪浦智史, 加藤 隆, 嶋根卓也: 薬物依存症回復支援施設における生活習慣病予防教室の試み. 第 55 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, (オンライン), 2020.11.23.
 - 17) 喜多村真紀: DV 加害者における自己主張抑制の問題について; 一般成人男性との比較から. 第 57 回日本犯罪学会総会 (オンライン), 2020.11.28.
 - 18) 金澤由佳: 日本型「治療的司法」の行方. 第 21 回法と心理学会 (オンライン), 2020.10.24-25
 - 19) 金澤由佳: 精神科医療における人権制限 —改正新型インフルエンザ等特別措置法(2020)を手がかりに—. 第 16 回司法精神医学会 (オンライン), 2020.11.12-13.
 - 20) 金澤由佳, 熊倉陽介, 伴恵理子, 宇佐美貴土, 高野 歩, 松本俊彦: 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の流行に伴う VBP および薬物依存症地域支援への影響に関するアンケート調査〜Voice Bridges Project: 「声」の架け橋プロジェクト〜. 第 9 回更生保護学会 (オンライン), 2020.12.5-6.

- 21) 金澤由佳：刑法第 39 条の存在とは一旧刑法第 40 条に着目して一．第 40 回 社会精神医学会（オンライン），2021.3.4-5.

(3) 研究報告会

- 1) 松本俊彦：保護観察の対象となった薬物依存症者のコホート調査システムの開発とその転帰に関する研究．令和 2 年度厚生労働科学研究費補助金「再犯防止推進計画における薬物依存症者の地域支援を推進するための政策研究（研究代表者：松本俊彦）」研究成果報告会，Web，2021.3.19.
- 2) 松本俊彦：全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査．令和 2 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金「薬物乱用・依存状況の実態把握と薬物依存症者の社会復帰に向けた支援に関する研究（研究代表者：嶋根卓也）」研究成果報告会，Web，2021.3.19.
- 3) 嶋根卓也，猪浦智史，立森久照，北垣邦彦，邱 冬梅，和田清：飲酒・喫煙・薬物乱用についての全国中学生意識・実態調査．令和 2 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業「薬物乱用・依存状況の実態把握と薬物依存症者の社会復帰に向けた支援に関する研究（研究代表者：嶋根卓也）」研究成果報告会，WEB 開催，2021. 3. 19.
- 4) 猪浦智史，和田 清，嶋根卓也：薬物使用のモニタリング調査に関する国際比較研究（2020 年）．令和 2 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業「薬物乱用・依存状況の実態把握と薬物依存症者の社会復帰に向けた支援に関する研究（研究代表者：嶋根卓也）」研究成果報告会，（オンライン），2021. 3. 19.
- 5) 嶋根卓也，高岸百合子，喜多村真紀，猪浦智史，引土絵未，山田理沙，近藤あゆみ，米澤雅子，新田慎一郎，近藤恒夫：民間支援団体利用者のコホート調査と支援の課題に関する研究（ダルク追っかけ調査 2020）．厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）再犯防止推進計画における薬物依存症者の地域支援を推進するための政策研究（研究分担者松本俊彦）研究成果報告会，（オンライン），2021. 3. 19.
- 6) 猪浦智史，嶋根卓也，北垣邦彦，和田 清，松本俊彦：全国の高校生における親の飲酒習慣と生徒の暴飲との関連．国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所令和元年度研究報告会（第 31 回），（オンライン），2021. 3.15.

C. 講演

- 1) 松本俊彦：ステイホーム「アディクションと家族」～依存症をもつ親の治療と子の居場所～（オンライン）．特定非営利活動法人 東京ソテリア主催 講演会，東京，2020.6.23.
- 2) 松本俊彦：薬物依存症予防教育について（オンライン）．公益社団法人 ギャンブル依存症問題を考える会主催 「ダメ絶対」だけではなく依存症予防教室モデル授業，青森，2020.8.5.
- 3) 松本俊彦：薬物依存症予防教育について（オンライン）．公益社団法人 ギャンブル依存症問題を考える会主催 「ダメ絶対」だけではなく依存症予防教室モデル授業，鹿児島，2020.8.21.
- 4) 松本俊彦：わが国の薬物対策に今必要とされているものは何か？．厚生労働省医薬・生活衛生局主催 薬物乱用防止に関する勉強会，東京，2020.9.2.
- 5) 松本俊彦：「孤立の病」としての薬物依存症．特定非営利活動法人 脳の世紀推進会議主催 第 28 回脳の世紀シンポジウム，東京，2020.9.16.
- 6) 松本俊彦：BPD の支援について．BPD 家族会主催 ボーダーラインパーソナリティ障害家族会講演会，東京，2020.9.21.
- 7) 松本俊彦：薬物依存症のエキスパートが語る依存症治療の最前線．学校法人日本教育財団首都医校主催 スペシャルゼミ（特別講義），東京，2020.9.25.
- 8) 松本俊彦：ハームリダクションについて．一般社団法人創精会松山記念病院主催 依存症治療拠点機関における講演会，（オンライン），2020.9.25.

- 9) 松本俊彦: アルコールとうつ, 自殺～「死のトライアングル」を防ぐため. 大塚製薬株式会社主催 第8回京都産業精神保健ネットワーク研究会, (オンライン), 2020.10.17.
- 10) 松本俊彦: 人はなぜ薬物依存症になるのか～回復のために必要なこと. 町田市教育委員会主催 まちだ市民大学 HATS 人間学「人間関係学」講座, (オンライン), 2020.11.4.
- 11) 松本俊彦: 自傷や自死念慮を持つ子ども・若者への対応等. チャイルドラインいわて主催 公開講座「生きづらさを抱える子どもたちを理解するために」, Web, 2020.11.8.
- 12) 松本俊彦: 人はなぜ依存症になるのか?～予防と回復支援のために必要なこと～. 一般社団法人町田市医師会主催 学術講演会, (オンライン), 2020.11.16.
- 13) 松本俊彦: 薬物依存症治療の最前線. ヤンセンファーマ株式会社主催 第19回武蔵野地域精神医療懇話会, 東京, 2020.11.27.
- 14) 松本俊彦: 「自傷」一見えない心の傷に気づいて支えるにはー. 特定非営利活動法人横浜市精神障害者家族連合会主催 令和2年度市民精神福祉フォーラム, 神奈川, 2020.11.28.
- 15) 松本俊彦: 【基調講演】精神障がいをもつ親と子の暮らしー依存症を中心としてー. 特定非営利活動法人 東京ソテリア主催 講演会, 東京, 2020.11.29.
- 16) 松本俊彦: 向精神薬乱用・依存を防ぐために精神科医にできること. 大塚製薬株式会社主催 アデクションからの回復を考える会講演, 京都, 2020.12.5.
- 17) 松本俊彦: 薬物依存を考慮した不眠症治療薬. エーザイ株式会社 エーザジャパン主催 不眠症ウェブセミナー, (オンライン), 2020.12.10.
- 18) 松本俊彦: 思春期と自殺. 一般社団法人日本家族計画協会主催 思春期保健セミナー (e-ラーニング), 東京, 2020.12.16.
- 19) 松本俊彦: 現代のリストカット治療について. きずときずあとのクリニック主催 講演会, 東京, 2020.12.17.
- 20) 松本俊彦: 【学術講演】ハームリダクションとは何か?ーつながりと包摂の公衆衛生政策. 第27回日本精神科看護専門学術集会 in Web, (オンライン), 2020.12.5.
- 21) 松本俊彦: 人はなぜ依存症になるのか～「安心して人に依存できない」病としての依存症. 東京都立中部総合精神保健福祉センター主催 令和2年度東京都依存症対策普及啓発フォーラム, オンライン, 2021.1.13.
- 22) 松本俊彦: 人はなぜ薬物依存症になり, いかにして回復するのか. 公益社団法人長野県社会福祉会主催 令和2年度累犯障がい者・高齢者の支援を考えるセミナー, オンライン, 2021.1.15.
- 23) 松本俊彦: 自殺を考える人の心理やコロナ禍の影響など. NHK アナウンス室主催 自殺を知る勉強会, (オンライン), 2021.1.15.
- 24) 松本俊彦: もしも「死にたい」と言われたら. 一般社団法人新潟市薬剤師会主催 多職種支援者のための勉強会, (オンライン), 2021.1.16.
- 25) 松本俊彦: 薬物依存症からの回復～刑罰よりも治療, 排除よりも包摂を目指して～. 武蔵野市主催 第18回精神保健福祉講演会, Youtube 配信, 2021.1.24.
- 26) 松本俊彦: アルコール, 薬物 (処方薬・市販薬を含む), ギャンブル等の依存症に関する基礎知識について. 群馬県こころの健康センター主催 令和2年度依存症県民セミナー, MP4 動画, 2021.1.29.
- 27) 松本俊彦: コロナ孤立で人とつながれない! どう生きていくのか考える. 認定 NPO 法人地域精神保健福祉機構主催 第70回こんぼ亭月例会, (オンライン), 2021.1.30.
- 28) 松本俊彦: 【座長, 指定発言】不安と不眠とその治療ーBZのこれまでとこれからー. エーザイ株式会社主催 不眠診療 Web セミナー, Web, 2021.2.3.
- 29) 松本俊彦: まずは知ろう, 依存症ー死に至る病にお寺ができることー. 智山青年連合会主催 令和二年度第2回講習会, 東京, 2021.2.8.
- 30) 松本俊彦: 薬物依存症をもつ人を地域で支える. 東京大学医学部付属病院精神神経科主催 東京

- 大学職域・地域架橋型価値に基づく支援者育成 C コース, 東京, 2021.2.20.
- 31) 松本俊彦: ハームリダクションとは何か? わが国における可能性と課題. 大日本住友製薬株式会社主催 神奈川県精神科 Web セミナー, (オンライン), 2021.3.1.
 - 32) 松本俊彦: 薬物依存症からの回復に必要な物は何か?. 大日本住友製薬株式会社主催 第 22 回 KPUM 総合病院精神医学研究会, (オンライン), 2021.3.6.
 - 33) 松本俊彦: 自傷行為の理解と援助. 大日本住友製薬株式会社主催 こころといのちのライブ配信講演会, (オンライン), 2021.3.9.
 - 34) 松本俊彦, 横川恵美子, 北島直幸, 早瀬京铸: 社会問題としてとらえる依存症. 厚生労働省社会援護局障害保健福祉部主催 依存症の理解を深めるための普及啓発事業 薬物依存症対策シンポジウム, (オンライン), 2021.3.10.
 - 35) 松本俊彦: 人はなぜ依存症になるのか〜思春期の薬物乱用. 愛媛県小児科医会, Web, 2021.3.14.
 - 36) DEEN, 今田耕司, 松本俊彦, 森まどか: Re-START みんなで考えよう依存症のこと 第一部 応援ライブ&トーク「依存症を知ろう」. 厚生労働省社会援護局障害保健福祉部主催 依存症の理解を深めるための普及啓発事業 依存症の理解を深めるための音楽イベント, YouTube, 2021.3.17.
 - 37) 松本俊彦: 保護観察の対象となった薬物依存症者のコホート調査システムの開発とその転帰に関する研究. 令和 2 年度厚生労働科学研究費補助金 (松本班) 研究成果報告会, Web, 2021.3.19.
 - 38) 松本俊彦: 全国の子精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査. 令和 2 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金 (嶋根班) 研究成果報告会, (オンライン), 2021.3.19.
 - 39) 松本俊彦: コロナ禍における精神医療 (アディクション, 自傷, 自死). 神奈川大学心理相談センター主催 講演会, (オンライン), 2021.3.21.
 - 40) 松本俊彦: アルコールとうつ, 自殺〜死のトライアングルを避けるために〜. 大塚製薬株式会社主催 オンライン学術講演会, (オンライン), 2021.3.23.
 - 41) 松本俊彦: 今あらためて「依存」を知ろう. 民間相談機関連絡協議会 東京ボランティア・市民活動センター共催 第 33 回都内民間相談機関研究協議会, (オンライン), 2021.3.26.
 - 42) 嶋根卓也: 薬物事犯の再犯とダルクの再犯率について, とちダルクが出来るまでと, 出来てから 9 年の歩み. 北海道で更生と再犯防止を考える会主催研修会 (オンライン), 2020.9.12.
 - 43) 嶋根卓也: 依存症からの回復 (薬物乱用・依存) 多文化・国際協力の実践 (3) 講演, 津田塾大学学芸学部多文化・国際協力学科, (オンライン), 2020.10.19.
 - 44) 嶋根卓也: 薬物乱用防止教育とスティグマ「ダメ, ゼッタイ」からの脱却は可能か. NPO 法人全国薬物依存症者家族会連合会主催 2020 やっかれんフォーラム (オンライン), 2020.11.1.
 - 45) 嶋根卓也: 仲間と共に回復する薬物依存-ダルク 追っかけ調査より. 仲間と主に歩む会主催アルコール問題を考える集い, 東京, 2020.11.29.
 - 46) 近藤あゆみ: 家族の中の境界線. 港区みなと保健所主催依存症に関する講演会, 東京, 2020.12.15.
 - 47) 近藤あゆみ: 家族の回復〜心理的境界線をひくことで家族間の信頼と尊重を取り戻す〜. 一般社団法人神奈川断酒連合会主催家族セミナー, 神奈川, 2021.3.14.

D. 学会活動

(1) 学会主催

(2) 学会役員

- 1) 松本俊彦: 日本アルコール・アディクション医学会 理事
- 2) 松本俊彦: 日本社会精神医学会 評議員
- 3) 松本俊彦: 日本精神科救急学会 理事
- 4) 松本俊彦: 日本青年期精神療法学会 理事
- 5) 松本俊彦: 日本司法精神医学会 評議員

- 6) 船田正彦：日本アルコール・アディクション医学会 評議員
- 7) 船田正彦：日本神経精神薬理学会 評議員
- 8) 船田正彦：日本薬理学会 評議員
- 9) 嶋根卓也：日本アルコール・アディクション医学会 評議員
- 10) 近藤あゆみ：日本アルコール・アディクション医学会 理事

(3) 座長

- 1) 松本俊彦：【座長】シンポジウム 6 多様化する依存症と精神科救急. 第 28 回日本精神科救急学会学術総会 Web (ライブ), 2020.10.10.
- 2) 松本俊彦：【座長】共催セミナー13 COVID-19 とオピオイドクライシス：医療におけるステイグマ. 日本臨床麻酔学会第 40 回大会, (LIVE 配信), 2020.11.14.
- 3) 松本俊彦：【座長】教育講演 17 依存症からの回復過程における語る場の持つ意味. 第 40 回日本社会精神医学会, オンライン, 2021.3.5.
- 4) 嶋根卓也, 【座長】ミニセッション S5 「覚せい剤事犯者の理解とサポート：性差に着目した分析. 第 55 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, (オンライン), 2020.11-22-23.
- 5) 嶋根卓也, 【座長】一般口演「若年者・対応」. 第 55 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, (オンライン), 2020.11-22-23.

(4) 学会誌編集委員等

- 1) 松本俊彦：日本青年期精神療学会 編集委員

E. 研修

(1) 研修企画

- 1) 松本俊彦：SMARPP の理念と意義. 国立精神・神経医療研究センター主催 第 12 回認知行動療法の手法を活用した薬物依存症に対する集団療法研修, 東京, 2020.11.16.
- 2) 松本俊彦：薬物依存症臨床における司法的問題への対応. 国立精神・神経医療研究センター主催 第 12 回認知行動療法の手法を活用した薬物依存症に対する集団療法研修, 東京, 2020.11.17.
- 3) 松本俊彦：薬物依存症と重複障害 (オンライン). 令和 2 年度依存症治療指導者・依存症相談対応指導者・地域生活支援指導者養成研修 (薬物), 東京, 2020.10.30.
- 4) 松本俊彦：自傷・自殺のリスク評価と対応. 令和 2 年度依存症対策全国拠点機関設置運営事業 依存症回復支援職員研修, (オンライン), 2021.2.24.

(2) 研修会講師

- 1) 松本俊彦：自殺・自傷行為にはしる子どもたち (オンライン). 名古屋市教育委員会主催 なごや子ども応援委員会研修会, 愛知, 2020.6.2.
- 2) 松本俊彦：グループ研修スーパーバイザー. 特定非営利活動法人メンタルケア協議会主催 東京自殺相談ダイヤル・夜間こころの電話相談相談員グループ研修, 東京, 2020.7.19.
- 3) 松本俊彦：薬物依存治療と自殺・自傷 (オンライン). 矯正研修所主催 令和 2 年度専門研修課程調査鑑別科 (特別課程) 第 1 回研修, 東京, 2020.7.22.
- 4) 松本俊彦：思春期における自傷行為の理解と対応のヒント (オンライン). 広島市精神保健福祉センター主催 思春期精神保健専門研修会, 広島, 2020.8.9.
- 5) 松本俊彦：グループ研修スーパーバイザー. 特定非営利活動法人メンタルケア協議会主催 東京自殺相談ダイヤル・夜間こころの電話相談相談員グループ研修, 東京, 2020.8.16.
- 6) 松本俊彦：生徒の問題行動への理解と対応～自傷行為と市販薬乱用 (オンライン). 佐賀学園高等学校主催 第 37 回佐賀県私立中学高等学校教育研修会 (教育相談部会), 佐賀, 2020.8.18.

- 7) 松本俊彦: 薬物依存症支援の基礎. 法務省矯正局主催 薬物依存対策研修代替措置における講義, 東京, 2020.8.28.
- 8) 松本俊彦: 思春期の問題行動 (リストカット・依存症を中心に) (オンライン). 一般社団法人日本女性医学学会主催 2020 年度第 1 回女性のヘルスケア研修会, 東京, 2020.9.13.
- 9) 松本俊彦: 自傷行為への対応について. 青森県総合学校教育センター主催 令和 2 年度子どもへの緊急対応研修講座, (オンライン), 2020.10.9.
- 10) 松本俊彦: 覚せい剤依存症と医療. 法務省矯正研修所主催 令和 2 年度任用研修課程高等科第 52 回研修 (通信研修), 東京, 2020.10.21.
- 11) 松本俊彦: グループ研修スーパーバイザー. 特定非営利活動法人メンタルケア協議会主催 東京自殺相談ダイヤル・夜間こころの電話相談相談員グループ研修, 東京, 2020.11.1.
- 12) 松本俊彦: 依存症と作業療法. アディクション関連問題作業療法研究会主催 第 3 回アディクション関連問題作業研究会研修, (オンライン), 2020.11.22.
- 13) 松本俊彦: 若年層における薬物依存症の現状及び対策について. 川崎市議会議会局主催 令和 2 年度川崎市議会議員研修会, 神奈川, 2020.11.25.
- 14) 松本俊彦: 依存症の理解と対応～司法領域における児童思春期を対象に～. 一般社団法人日本臨床心理士会主催 2020 年度定例研修会, Web, 2020.11.28.
- 15) 松本俊彦: 薬物犯罪・非行に関する近年の動向及びその治療について. 東京少年鑑別所主催 東京少年鑑別所拡大研修会, 東京, 2020.12.9.
- 16) 松本俊彦: 薬物犯罪・非行に関する近年の動向及びその治療について. 東京少年鑑別所主催 拡大研修会, 東京, 2020.12.9.
- 17) 松本俊彦: アルコールと自殺・自傷. 独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター主催 令和 2 年度アルコール依存症臨床医等研修, オンデマンド, 2021.1.12～2021.3.26.
- 18) 松本俊彦: 向精神薬乱用・依存を防ぐために臨床医にできること. 田辺三菱製薬株式会社主催 豊島区医師会医療安全研修会, 東京, 2021.1.20.
- 19) 松本俊彦: 自死・自傷・依存, 生きづらさの実態. 浄土真宗本願寺派 子ども・若者ご縁づくり推進室主催 第 3 期思春期・若者支援コーディネーター養成研修会, オンライン, 2021.2.10.
- 20) 松本俊彦: 大家さん・不動産向け 本音で語る! 精神疾患の入居希望者を受け入れて・・・. 特定非営利活動法人東京ソテリア主催 支援者向け研修, (オンライン), 2021.2.16.
- 21) 松本俊彦: 自傷・自殺企図を繰り返す人々への支援. 特定非営利活動法人 メンタルケア協議会主催 メンタルケア協議会相談員研修会, (オンライン), 2021.2.10.
- 22) 松本俊彦: グループ研修スーパーバイザー. 特定非営利活動法人メンタルケア協議会主催 東京自殺相談ダイヤル・夜間こころの電話相談相談員グループ研修, 東京, 2021.2.21.
- 23) 松本俊彦: 人はなぜ依存症になるのか～回復のために必要なもの～. 地方独立行政法人山口県立病院機構 山口県立こころの医療センター主催 令和 2 年度山口県依存症対策支援事業医療従事者向け研修, (オンライン), 2021.2.28.
- 24) 松本俊彦: 自死・自傷・メンタルヘルスなどに関してのトークセッション. 浄土真宗本願寺派子ども・若者ご縁づくり推進室主催 第 3 期思春期・若者支援コーディネーター養成研修会, (オンライン), 2021.3.3.
- 25) 松本俊彦: ハームリダクションとは何か? ～つながりと包摂の公衆衛生政策～. 日本精神科看護協会主催 第 5 回日精看長野県支部 WEB 研修会, (オンライン), 2021.3.27.
- 26) 嶋根卓也: 薬物問題を抱えた子どもたちの理解と支援. 長野県教育委員会主催 令和 2 年度長野県薬物乱用防止教育指導者講習会, 長野, 2020.10.16.
- 27) 嶋根卓也: 薬物依存症支援のエビデンス: 覚せい剤事犯者研究とダルク追っかけ調査より. 愛知県精神保健福祉センター主催 令和 2 年度薬物関連問題関係機関連絡会議 (オンライン), 2020.10.30.

- 28) 嶋根卓也：薬物問題を抱えた子どもたちの理解と支援。滋賀県教育委員会主催 滋賀県薬物乱用防止教育指導者講習会（オンライン），2020.11.27.
- 29) 嶋根卓也：「薬物依存症支援のエビデンス・ダルク追っかけ調査よりー」「トークセッション～依存症と回復～」東京都立中部総合精神保健福祉センター主催 令和2年度東京都依存症対策普及啓発フォーラム（オンライン），2021.1.13.
- 30) 嶋根卓也：ダメ、ゼッタイで終わらせない薬物乱用防止教室。一般社団法人埼玉県薬剤会主催令和2年度学校薬剤師等講習会（オンライン），2021.2.21.
- 31) 近藤あゆみ：家族自身が元気になるコミュニケーション。NPO 法人横浜ひまわり家族会主催秋の公開家族研修会，神奈川，2020.9.26，10.24.
- 32) 近藤あゆみ：依存症の基本的理解と家族支援。富山県心の健康センター・富山県依存症相談支援センター主催令和2年度アルコール関連問題研修会，富山，2020.10.20.

F. その他

- 1) 松本俊彦：明日が、ゆううつな君へ。NHK Eテレ「ハートネットTV」，2020.4.1.
- 2) 松本俊彦：特集 薬物依存を考える。NHK Eテレ「ハートネットTV」，2020.4.8.
- 3) 松本俊彦：＜キニナル！＞あなたは大丈夫？家飲みに注意！. NHK ニュース シブ 5, 2020.5.21.
- 4) 松本俊彦：改めて考える。メディアと自殺報道 松本俊彦×清水康之×荻上チキ。TBS ラジオ「荻上チキ・Session-22」，2020.5.26.
- 5) 松本俊彦：＜清原和博さん＞地獄の生活、壮絶な闘い…。日本テレビ「ザ！世界仰天ニュース」，2020.7.28.
- 6) 松本俊彦：若者の自殺防止の現状とその対策。NHK ラジオ「悩める若者たちへの応援歌 5 ～自殺の問題、考えてみませんか」，2020.8.16.
- 7) 松本俊彦：薬物依存症の治療について。NHK 茨城「いば6」，2020.9.9
- 8) 松本俊彦：コロナで増加 アルコール依存症(WEB). NHK 大阪「ニュースほっと関西」，2020.9.25.
- 9) 松本俊彦：自殺を減らすために何ができるのか。TBS ラジオ「荻上チキ・Session」，2020.9.29.
- 10) 松本俊彦：芸能人の自殺報道などについて。TBS テレビ「グッとラック！」，2020.10.5.
- 11) 松本俊彦：55歳からの生き直し ～高知東生と薬物依存の8ヶ月～. テレビ朝日「テレメンタリー2020」，2020.10.18.
- 12) 松本俊彦：厚労省から発表された自殺者のデーターについて。NHK「週刊まるわかりニュース」，2020.11.28.
- 13) 松本俊彦：今こそ気をつけたい！身近な薬とのつきあい方。NHK「あさイチ」，2020.12.23.
- 14) 松本俊彦：よるドラ 連動企画 第2弾「ここはこれから倫理です。」『自傷行為とどう向き合うか』。NHK ラジオ「三宅民夫のマイあさ！」，2021.2.16.
- 15) 松本俊彦：～あなたが変われば、世界も変わる～みんなで考える依存症のコト。BS 朝日「みんなで考える依存症のこと」，2021.2.20.
- 16) 松本俊彦：あなたはどやって“心”を癒していますか？. NHK「ここはぺこぼと倫理です」，2021.2.26.
- 17) 伊東絵美，松本俊彦：コロナ以降、社会をどう設計していくか？～コロナ禍の若年層ストレスと課題～TBS ラジオ「荻上チキ・Session」，2021.3.25.
- 18) 松本俊彦：「孤立の病」と闘い続ける。朝日新聞，2020.5.23.
- 19) 松本俊彦：出演者死去 中傷に苦悩か リアリティ番組「テラスハウス」。朝日新聞，2020.5.26.
- 20) 松本俊彦：「依存症は、人に依存できない病気なんです」。公研，2020.5.8.
- 21) 松本俊彦：著名人の自殺報道、慎重に 悩み抱える人のリスク高める 専門家「支援情報充実を」。毎日新聞，2020.6.4.
- 22) 松本俊彦：飲みすぎる家族にどう注意する？危険なグレーゾーン飲酒が増加、自粛中の「家飲み

- 新ルール」. MONEY PLUS, 2020.4.28.
- 23) 松本俊彦：コロナ禍で高まる依存症リスクー家庭内の地獄化から子どもを守れ. WEZZY, 2020.4.28.
- 24) 松本俊彦：新型コロナの外出自粛と依存症ー頑張りすぎることの弊害. WEZZY, 2020.4.29.
- 25) 松本俊彦：“オンライン飲み会”がアルコール依存症の入り口に!?. NHK ジャーナル, 2020.5.21.
- 26) 松本俊彦：かんさい熱視線「女性に増えるアルコール依存症」. NHK 大阪, 2020.5.29.
- 27) 松本俊彦：ストロング系の酒は「危険ドラッグ」なのか 飲みやすさで人気の陰に依存症の懸念. 毎日珍聞, 2020.6.17.
- 28) 松本俊彦：「ストロング系」チューハイ 依存度も強め. 毎日新聞, 2020.7.2
- 29) 松本俊彦：安心して死にたいと言える社会ー松本俊彦に会う。「だから、もう眠らせて欲しいー安楽死と緩和ケアを巡る、私たちの物語」, 2020.7.10.
- 30) 松本俊彦：ストロング系チューハイに注意 飲みすぎの先にある危険. 八重山毎日新聞, 2020.7.25.
- 31) 松本俊彦：ストロング系チューハイに注意 飲みすぎの先にある危険. 岩手日日, 2020.7.27.
- 32) 松本俊彦：飲みやすさに潜むリスク. 河北新報, 2020.8.14.
- 33) 松本俊彦：ストロング系チューハイ注意. 釧路新聞, 2020.8.18.
- 34) 松本俊彦：ストロング系チューハイに注意. 神戸新聞, 2020.8.20.
- 35) 松本俊彦：10代の女性の自殺、8月は去年の約4倍 コロナ禍で何が. 朝日新聞, 2020.10.3.
- 36) 松本俊彦：他人事ではないコロナ禍自死事情 三浦春馬（享年 30）に続き竹内結子（享年 40）が！. サンデー毎日, 2020.10.18.
- 37) 松本俊彦：The Pressure to Be Perfect Turns Deadly for Celebrities in Japan A succession of suicides has shown the burdens of a society where many feel that they must conceal their personal struggles. New York Times, 2020.10.5.
- 38) 松本俊彦：国内の自殺者が前年比3か月連続増、女性と子供で顕著-コロナ影響か. Bloomberg, 2020.10.14.
- 39) 松本俊彦：三浦春馬に続き竹内結子が！他人事ではないコロナ禍自殺事情. サンデー毎日, 2020.10.6.
- 40) 松本俊彦：「報道が死ななくても済んだ人を殺している」相次ぐ芸能人の自殺、精神科医が過熱する報道に苦言. BuzzFeed, 2020.10.28.
- 41) 松本俊彦：飲みやすく高い度数注意 ストロング系チューハイ. 新潟日報, 2020.8.24.
- 42) 松本俊彦：飲みやすさの先に危険 ストロング系チューハイ注意. 高知新聞, 2020.9.4.
- 43) 香山リカ, 松本俊彦：7月以降の「自殺の連鎖」にどんな背景があるのか. 創 50 (11) : 34-49, 2020.11.7.
- 44) 松本俊彦：まるで「魔法の薬」のように描かれる 狂乱, 洗脳, セックス中毒に…マンガのトンデモ(?)ドラッグ描写. サイゾー, 2020.12.1.
- 45) 松本俊彦：コロナ禍の“今”読みたい10冊 ウィルスから幽霊まで5人の精神科医が厳選. 週刊朝日, 2020.11.24.
- 46) 松本俊彦：精神医療の現場で感じるストロング系のヤバさ 精神科医の松本俊彦氏が感じる危機感とは?. 東洋経済, 2020.12.5.
- 47) 松本俊彦：女性の自殺率を急増させたコロナ禍の苦難. 中央公論 135(1) : 46-53, 2020.12.10.
- 48) 松本俊彦：絶たれる社会復帰への道. 世界 941 : 176-177, 2021.2.1.
- 49) 今成知美, 松本俊彦：「ダメ. ゼッター。」だけではダメ. 内外教育 6891 : 8-9, 2021.2.9.
- 50) 松本俊彦：BZD系薬処方薬物依存症の悪化に加担. Medical Tribune (Web) , 2021.2.12.
- 51) 水谷緑 著 松本俊彦 取材協力：こころのナース夜野さん. 小学館, 2021.2.17.
- 52) 松本俊彦：人はたくさんのものに依存して生きている. Chance!! 13 : 10-14, 2021.3.1.
- 53) 松本俊彦, 市来真彦：コロナ禍 つながりどうつくる?. 新聞赤旗, 2021.3.1.

- 54) 松本俊彦：薬物依存と向き合って上 マチぐるみ当事者支援．北海道新聞，2021.2.23.
- 55) 嶋根卓也：10 代むしばむ大麻「友人や先輩」から入手 福岡の摘発最多 45 人．西日本新聞，2020.4.4.
- 56) 嶋根卓也：大麻経験，推計 160 万人．共同通信，2020.6.16.
- 57) 嶋根卓也：販売制限ない総合感冒薬でも依存に OTC 薬乱用で厚労科研，規制の在り方議論も必要．PHARMACY NEWSBREAK 第 1678 号，2020.6.19.
- 58) 嶋根卓也：厚労省研究班 OTC 薬の乱用 一部薬局・ドラッグストアが助長．リスファクス第 8067 号，2020.7.30.
- 59) 嶋根卓也：厚労省研究班 OTC 薬の乱用防止で提言，研修制度導入を．リスファクス第 8067 号，2020.7.30.
- 60) 嶋根卓也：薬物初犯 福岡県が復帰支援．読売新聞，2020.8.11.
- 61) 嶋根卓也：①心理社会的立場から見た薬物乱用防止教育．②「ダメ，ゼッタイ」で終わらせない薬物乱用防止教育：薬剤師による気づき・関わり・つなぎ．おおさがくやく第 34 号，2020.
- 62) 嶋根卓也：「ハイになれる」と勧められ...せき止め薬を乱用，万引きを繰り返す．読売新聞オンライン，2020.9.16.

4. 行動医学研究部

I. 研究部の概要

研究部及び研究室の研究目的

成人を主な対象とした様々な精神健康上の問題、特にトラウマ性疾患、悲嘆についての病態解明、治療研究に取り組むとともに、自然災害、犯罪被害、虐待等におけるストレスを緩和し、効果的な治療と支援の研究を進め、代表的な病態である PTSD の神経科学的・遺伝学的な解明と治療研究を推進している。各種震災、事故等に際しては専門家派遣などの現地支援に当たるとともに、効果的な行政・医療対応のシステム研究にも取り組んでいる。

また、ストレス関連疾患、特に心身症や摂食障害、生活習慣病を対象に、Biopsychosocial モデルに基づき、心身相関の観点から病因や発症のメカニズム、病態を臨床的、基礎的に研究し、効果的な治療法や予防法を開発し、摂食障害全国基幹センターが当研究部内に設置されている。

臨床面では研究部のスタッフがセンター病院心療内科・精神科外来で診療・研究に携わっている。

令和2年度の当研究部の構成は以下の通りである。部長：金 吉晴（併任）。ストレス研究室長：安藤哲也。心身症研究室長：関口 敦。認知機能研究室長：堀 弘明。診断技術研究室長：小川眞太郎。常勤研究員は伊藤真利子、大沼麻実。リサーチフェローは河西ひとみ、島津恵子、上田奈津貴、大塚豪士。テクニカルフェローは成田 恵。科研費研究員は船場美佐子、菅原彩子、高村恒人、小原千郷、林 明明、中島実穂、石田牧子、下村寛治。科研費研究補助員は國重寛子。併任研究員は有賀元、富田吉敏。外来研究員は伊藤（丹羽）まどか。研究生は赤井利奈、國弘志保、菅原まゆみ、井上朋子、荒川和香子、大友理恵子、堀江美智子、松岡 潤、井野敬子、大滝涼子、今井理紗、小島汐里、中野稚子、藤内温美、大村靖子、樽松文子、勝沼り。客員研究員として兒玉直樹、大和 滋、西園マーハ文、藤井 靖、菊地裕絵、近喰ふじ子、守口善也、寺澤悠里、森野百合子、加茂登志子、小西聖子、永岑光恵、井筒 節、堤 敦朗、福地 成、松本和紀、中島聡美、田中英三郎、宮本純子、寛 亮子、藤村朗子、茅野龍馬、櫻井 鼓、堀 有伸、岡崎純弥、牧田 潔、須賀楓介、袴田優子、宮本悦子、中山未知、鈴木麻佳、野間俊一、田中 聡、林 公輔の各氏を迎えている。（順不同）

II. 研究活動

1) 複雑性 PTSD に関する認知行動療法の検討

複雑性PTSDに対する認知行動療法である、STAIR/NSTの日本での実施可能性、安全性、有効性を検討するために、オープン前後比較試験を実施中である。またSTAIR/NSTの治療原理と治療マニュアルが書かれた翻訳書を出版した。加えて国際トラウマ面接（International Trauma Interview）最新版の日本語版を作成した。（金、丹羽、大滝）

2) PTSD の病態解明と治療効果予測法開発に向けた、遺伝子・バイオマーカー・心理臨床指標による多層的検討

トラウマ体験者（PTSD 群、非発症群）と健常者を対象とし、遺伝子解析・発現解析、内分泌・免疫系マーカー測定、自律神経機能解析、脳 MRI 計測、認知機能測定、心理・臨床評価を行う。PTSD 群については、治療反応性との関連も検討する。PTSD の病因病態解明、生物学的指標に基づく客観的治療効果予測法の開発を目指す。名古屋市立大学精神医学教室と共同で実施しており、これまでに248名のデータを収集し継続中。（堀、関口、伊藤、林、丹羽、金、大塚、成田、河西）

3) PTSD に対するメマンチンの有効性に関するオープン臨床試験

PTSD 患者において、抗認知症薬メマンチンの有効性を検討する。本研究では、予備的検討としてオープン臨床試験を行い、効果サイズや安全性を検討することにより、RCT のプロトコルの作成を目的とする。本年度中に計10名の実施が完了し、中間解析結果を論文で発表した。また、メマンチン治療前後で遺伝子発現解析や内分泌・免疫系測定、脳 MRI 計測を行い、治療効果機序の解明および治療効果サロゲートマーカーの開発を目指す。（堀、関口、伊藤、成田、金）

4) 血液検査による統合失調症・気分障害の診断法の開発に関する研究

患者・健常者から血液を採取し、タンパク・mRNA・代謝物などを定量し、統合失調症や気分障害の診断法や分類、経過判定指標に役立つ分子の同定を目的とする。神経研究所疾病研究第三部との共同研究として実施し、すでに約 440 名の被験者のサンプルが集積されている。これらの血液サンプルを用いて上記の測定を行い、精神疾患のバイオマーカー候補を探索している。(堀, 小川)

5) ヒト毛髪を用いた精神疾患バイオマーカーの探索

気分障害, 精神病性障害, PTSD 等の精神疾患を対象として, 毛髪中のステロイドホルモンなどの濃度を測定し, バイオマーカーの同定を目的とする。神経研究所疾病研究第三部, センター病院, MGC バイオリソース部との共同研究として実施しており, 被験者リクルート中である。(堀)

6) 災害時精神保健医療のデータベース作成

WHO の研究プロジェクトとして Curtin 大学等と共同で災害後の精神保健に関する継続的文献レビューを実施中。災害時精神保健医療に関する過去 10 年以内に発表された査読文献に焦点を当て, とくにシステマティックレビューを行った文献を中心に収集しその内容を要約・精査した。(金, 中島, 島津, 石田, 下村)

7) 一過性ストレスが記憶へ及ぼす効果に関する研究

一過的なストレスを経験した際に, ストレスが記憶パフォーマンスへ与える影響および, ストレスの生理的反応, さらに性格特性等との関連を調べ, ノイズストレス課題(ホワイトノイズ)または社会的ストレス課題(スピーチおよび暗算課題)をストレス負荷として使用した。健常大学生を対象に実験を行い, 単語や画像による記憶への影響を検討した。(林, 金)

8) 情報処理バイアスを標的とした心理治療の有効性の検証とその神経生物学的機序の解明

ストレス関連精神障害に対するリスク保有者を対象として, 記憶領域にも働きかける新しい CBM の有効性およびその神経作用機序について, 北里大学, 労働安全総合研究所等と共同で, fMRI や遺伝子(発現を含む), 内分泌・免疫炎症系指標を用いて包括的な観点から検証中である。(袴田, 堀)

9) 摂食障害治療支援センターにおける相談・支援事例の調査

摂食障害治療支援センター(支援センター)での相談・支援事例を収集, 集積し, 内容を解析し, 摂食障害の支援体制モデルの確立に資するための研究を実施した。令和 2 年度は, 4 全国 4 カ所の支援センターの 2020 年 4 月~2020 年 11 月末までの相談事例延べ 1388 件を解析し報告書にまとめた。(小原, 安藤)

10) 神経性やせ症のゲノムワイド関連研究

神経性やせ症のゲノムワイド関連解析に関する国際コンソーシアムに参加し, 研究成果が Addiction Biology 誌に発表された(安藤)

11) 神経性過食症に対する認知行動療法の無作為比較試験

日本人の神経性過食症患者を対象に摂食障害の認知行動療法「改良版」(enhanced cognitive behavior therapy: CBT-E)の効果検証のための東京大学, 東北大学, 九州大学, 国立国際医療研究センター国府台病院および当センターTMC との多施設共同無作為化比較試験を実施した。また, CBT-E の原著者によるケーススーパーヴィジョンにより介入実施者を養成した。(小川, 小原, 関口, 菅原彩子, 船場, 河西, 富田, 安藤)

12) 過敏性腸症候群に対するビデオ教材を併用した認知行動療法プログラムの実現可能性および有効性の検討

これまでに過敏性腸症候群(IRS)に対する内部感覚暴露を用いた CBT (CBT-IE) の日本語版を作成し, 単群 17 例の前後比較によるフィージビリティ研究により, 高い効果量をもって腹部症状や QOL の改善が認められた(論文投稿中)。CBT-IE プログラムのコストを軽減のため, 対面セッションの前にビデオ教材を視聴するプログラムを開発し, センター病院心療内科, 消化器内科と共同で 17 例の前後比較によるフィージビリティ研究を実施し, 対面のみと同様に高い効果量をもって腹部症状と QOL の改善がみられた(論文投稿中)。(船場, 河西, 藤井, 富田, 安藤)

13) 過敏性腸症候群に対するビデオ教材を併用した認知行動療法プログラムのランダム化比較研究

過敏性腸症候群（IBS）に対するビデオ教材を併用した CBT プログラムの効果検証のため東京大学、東北大学、国立国際医療研究センター病院、同国府台病院および当センター病院、TMC との多施設共同無作為化比較試験を実施し、全施設で両群合計 31 例の IBS 患者を症例登録し、研究を継続している。（船場、河西、関口、藤井、小原、富田、安藤）

14) 過敏性腸症候群に併存する自己臭恐怖の実態調査

自己臭恐怖は Olfactory reference syndrome(ORS)として注目されているが、病態や効果的な治療法についてほとんどわかっていない。ORS は過敏性腸症候群（IBS）にしばしば併存する。203 名の IBS 様症状と自己臭恐怖をもつ人々を対象にウェブ調査を実施、データの解析をし、英語論文に纏めプレプリント（Kawanishi H et al., 2020 JMIR Preprint）が公表された。（河西、関口、船場、富田、小原、菅原彩子、安藤）

15) 心療内科で実施する心理療法の認知神経科学的メカニズムの解明のための観察研究

国立国際医療センター（NCGM）国府台病院の心療内科で実施している心理療法前後で、認知心理検査を実施し、心理療法の認知科学的な治療構造を明らかにすることを目指している。摂食障害患者 37 名のデータを用いて摂食障害の病型による内受容感覚のパターンの違いを検証したが、群間差は検出できなかった。臨床症状との関連を引き続き検証する。（関口、菅原彩子、寺澤）

16) 機能性腸障害関連認知評価尺度および過敏性腸症候群関連行動反応評価尺度

IBS に特化した認知・行動的側面の評価尺度する機能性腸障害関連認知評価尺度および IBS 関連行動反応評価尺度の日本語版を標準化する研究を横浜市立大学健康社会医学ユニットの菅谷渚助教と実施し、20 例のデータを収集した。（船場、河西、小原、関口、有賀、富田、安藤）

17) エクソーム解析による摂食障害原因変異の網羅的探索

摂食障害発症に寄与する原因変異ならびに遺伝子を同定するため、東海大学の岡晃講師との共同研究により、摂食障害罹患同胞 10 家族を対象に罹患者 20 名および非罹患者 18 名の計 38 名のエクソームシーケンシングを実施した。全ての遺伝様式について罹患同胞で一致する変異を抽出し、たんぱく質の構造を変化させようと予測される変異を絞り込んだ。（論文投稿準備中）（安藤）

18) 摂食障害治療および支援の実態把握及び好事例の把握に関する研究

全国の摂食障害診療施設を対象に摂食障害治療および支援の実態調査を実施し、診療実態、摂食障害入院医療管理加算の状況、関係機関との連携、研修ニーズ、診療施設リストへの掲載の可否、摂食障害の連携指針および治療の手引きに関する評価を調査し結果を報告書にまとめた。摂食障害治療支援センター設置後の医療・行政連携構築の好事例として静岡モデルと千葉モデルの調査を実施し好事例集として提示した。（安藤、関口、菅原彩子、船場、河西）

19) ストレス関連疾患の疾患横断的なバイオマーカー検索のための脳 MRI 研究

トラウマ歴やストレス負荷などが脳内情報処理や脳神経回路ダイナミクスに与える影響を疾患横断的に検証し、多様な表現型を有するストレス関連疾患の新たな診断法の開発を目指している。PTSD 患者、IBS 患者及び健常群、延べ 80 名のデータを収集した。（関口、菅原彩子、勝沼、伊藤、林、丹羽、堀、金）

20) 内受容知覚訓練の認知神経科学的効果の検証

バイオフィードバックの手法を用いた内受容感覚訓練を実施し、認知神経科学的な効果を検証している。慶應大学文学部の寺澤悠理准教授（客員研究員）との共同研究で、延べ 22 名の健常大学生を対象とした訓練介入データを収集した。内受容感覚の訓練により、行動様式がより適応的になることを明らかにした。（関口、菅原彩子、勝沼、寺澤）

21) 摂食障害に対する認知行動療法の有効性の神経科学的エビデンスの創出

摂食障害への認知行動療法（CBT）前後の縦断的観察研究を実施し、CBT 前後の脳 MRI、臨床データ、遺伝子発現データを収集し、摂食障害の早期発見・早期介入に資する CBT 効果の神経科学的エビデンスを創出することを目指す。東北大学、千葉大学、東京大学、京都大学、産業医科大学、九

州大学との多施設共同研究としてデータ収集を開始し、摂食障害患者群及び健常群、延べ 28 例からデータを収集した。また、プロトコル論文を出版した (Hamatani et al., 2020 BMJ Open)。並行して、共同研究施設で収集した既存の摂食障害患者および健常群の脳 MRI 画像延べ 400 例を集約して、データベースを構築し解析研究を実施している。(関口、安藤、堀、河西、菅原彩子、高村、成田、小原、守口、富田、金)

22) 医療機関を受診していない摂食障害患者と家族の支援ニーズに関する調査研究

病院を受診していない摂食障害患者や家族の支援ニーズを解明・整理することを目的とする。過去に集められた支援ニーズに関する情報や、摂食障害治療に携わってきた専門家からの意見を参考に Web アンケート調査を実施し、患者・家族合わせて 379 名からデータを収集した。(菅原彩子、関口、小原、西園)

23) 病院・気分障害センターおよびバイオバンクとの共同研究

NCNP 病院・気分障害センターおよび NCNP バイオバンクと連携した共同研究課題を実施している。うつ病など多くの精神疾患の発症リスクは幼少期トラウマ(小児期逆境体験)の経験率に伴い上昇することが報告されているが、本課題ではこれまで気分障害センター外来を受診し、バイオバンクでの研究参加の同意と登録を頂いた方々の試料と情報を対象として、小児期逆境体験とうつ病など精神症状の発現とに関連する生物学的マーカーを探索することを目的としている。(小川、堀、金)

24) オンライン調査・実験の信頼性に関する研究

Web 調査やインターネット上で実験を行う場合の手法の信頼性を検証することを目的とする。調査のための質問紙尺度や実験のための PC 課題の作成を行い、従来の紙面調査と実験室内実験の結果と比較した。(林、金)

Ⅲ. 社会的活動に関する評価

(1) 市民社会に対する一般的な貢献

- ・ 精神保健研究所 HP に「コロナに負けない 不安との付き合い方」の web サイト開設 (<https://www.ncnp.go.jp/mental-health/>)。2020.7 (金、伊藤)
- ・ 摂食障害情報ポータルサイト(一般向け <http://www.edportal.jp/>, 専門職向け <http://www.edportal.jp/pro/>)を運営し、市民および専門職への摂食障害の普及・啓発を行った令和 2 年度は 1 年間に 1,877,853 ページビュー, 1,080,1117 セッション, 867,089 ユーザー (google analytics) のアクセスがあった。(安藤、関口、小原)

(2) 専門教育面における貢献

- ・ 全国の行政職員向け研修会・各地の医師会、大学等の依頼を受け、災害精神保健、コロナ禍の心のケア、トラウマ対応、PTSD 治療、犯罪被害者対応、被災者・遺族対応に関する最新知見を提供している。(金)
- ・ 連携大学教授：東京大学大学院医学系研究科(金)
- ・ 特別招聘教授：慶応義塾大学環境情報学部(金)
- ・ 客員教授：山梨大学医学部・東北大学大学院医学系研究科・武蔵野大学(金)、東北大学大学院医学系研究科(安藤)
- ・ 客員准教授：山梨大学大学院(安藤)、東北大学大学院医学系研究科(関口)
- ・ 大学講師：京都大学医学部・学習院大学文学部(金)、東京大学医学部(安藤)、東北大学東北メディカル・メガバンク機構(関口)
- ・ センター病院受託実習生指導：早稲田大学大学院、明星大学大学院(安藤、小原、河西)

(3) 精研の研修の主催と協力

- ・ 2020 年度精神保健に関する技術研修。第 5 回 および第 6 回 災害時 PFA と心理対応研修を開催した(オンライン)。2021.3.16. 2020.12.15. (金、大沼)

(4) 保健医療行政政策に関連する研究・調査、委員会等への貢献

① 公的委員会

- ・ ふくしま心のケアセンター 顧問 (金)
- ・ みやぎ心のケアセンター 顧問 (金)
- ・ 被災3県心のケア総合支援調査研究等事業 実施委員会 委員 (金)
- ・ 日本医療政策機構 アドバイザリーボードメンバー (金)
- ・ 新型コロナウイルス感染症に係るメンタルヘルスに関する調査・分析検討会 委員 (金)
- ・ 全国精神保健福祉センター長会 研究倫理審査委員会 委員 (金)
- ・ 厚生労働省「健康増進総合支援システム (e—ヘルスネット)」情報専門委員 (金)
- ・ 厚生労働省委託事業「新型コロナウイルス感染症に対応する介護施設等の職員のためのサポートガイド作成業務」検討委員会 委員 (堀)

② 摂食障害治療支援センター設置運営事業

平成26～令和元年度に続き NCNP が摂食障害全国基幹センター (全国基幹センター) に指定され、事務局実施責任者 (センター長) を安藤が、実施担当者を関口 (副センター長)、菅原彩子、船場が担当した。全国摂食障害対策連絡協議会開催及び全国基幹センターの設置運営を行い、摂食障害治療支援センターを統括、ポータルサイトを運営した。令和2年度の全国基幹センターおよび宮城県、静岡県、福岡県、千葉県の摂食障害治療支援センターの成果をまとめた報告書を作成した。医療従事者を対象にした「摂食障害治療研修1日コース」をウェブで開催し326名の受講者があった。全国基幹センターHPで事業の活動と成果物を公開した。(精神保健等国庫補助金: 安藤, 関口, 菅原彩子, 船場, 小原)

③ 摂食障害の治療支援ネットワークの指針と簡易治療プログラムの開発

摂食障害の診療連携を促進するため、「精神科領域における摂食障害の連携指針」、「身体化領域の摂食障害の連携指針」「神経性やせ症 (AN) 初期診療の手引き」「摂食障害に悩むあなたとサポートする方々への受信案内」を作成し、摂食障害全国基幹センターが運営する摂食障害情報ポータルサイトで公開した。(AMED 障害者対策総合研究開発事業: 安藤, 関口, 小原, 菅原彩子, 菊地)

(5) センター内における臨床的活動

- ・ センター病院に併任し、毎週月曜日の心療内科外来を担当し心身症、摂食障害の診療を行った。月2回 IBS 外来を担当し、過敏性腸症候群他の機能性消化管疾患の診療を実施した。(安藤)
- ・ センター病院に併任し、毎週火曜日午後に再来患者を中心に外来診療を行っている。(堀)
- ・ 機能性消化管疾患患者を中心に心理治療を実施した。(河西, 船場)
- ・ 摂食障害患者の認知行動療法を実施している。(成田)

(6) その他

- ・ 行動医学研究部 HP に「自然災害に関するガイドライン」「薬物療法アルゴリズム」「犯罪被害者のメンタルヘルス情報ページ」を掲載し、専門家、一般に対し治療や対応についての啓発を行っている。(金)
- ・ OECD の傘下である NEA [Nuclear Energy Agency: 原子力機関 (本部所在地: パリ)] の Expert Group on Non-radiological Public Health Aspects of Radiation Emergency Planning and Response (EGNR) の一員として、WHO と協働で原子力緊急時におけるメンタルヘルスならびに心理社会的支援について政策の枠組みを構築し、ステークホルダーらを対象とした実用的なツール作成に結びつける事業に参加している。(金, 島津)

IV. 研究業績

A. 刊行物

(1) 原著論文

- 1) Nakayama M, Hori H, Itoh M, Lin M, Niwa M, Ino K, Imai R, Ogawa S, Sekiguchi A, Matsui M, Kunugi H, Kim Y: Possible Long-Term Effects of Childhood Maltreatment on Cognitive Function in Adult Women With Posttraumatic Stress Disorder. *Frontiers in Psychiatry* 11: 344, 2020.4.

- 2) Otsuka T, Hori H, Yoshida F, Itoh M, Lin M, Niwa M, Ino K, Imai R, Ogawa S, Matsui M, Kamo T, Kunugi H, Kim Y: Association of CRP genetic variation with symptomatology, cognitive function, and circulating proinflammatory markers in civilian women with PTSD. *Journal of Affective Disorders* 279: 640-649, 2021.1.
- 3) Hori H, Itoh M, Matsui M, Kamo T, Saito T, Nishimatsu Y, Kito S, Kida S, Kim Y: The efficacy of memantine in the treatment of civilian posttraumatic stress disorder: an open-label trial. *European Journal of Psychotraumatology* 12(1): 1859821, 2021.1.
- 4) Hori H, Itoh M, Lin M, Yoshida F, Niwa M, Hakamata Y, Matsui M, Kunugi H, Kim Y: Childhood maltreatment history and attention bias variability in healthy adult women: role of inflammation and the BDNF Val66Met genotype. *Translational Psychiatry* 11(1): 122, 2021.2.
- 5) Ito S, Matsumoto J, Sakai Y, Miura K, Hasegawa N, Yamamori H, Ishimaru K, Kim Y, Hashimoto R: Positive association between insight and attitudes toward medication in Japanese patients with schizophrenia: Evaluation with the Schedule for Assessment of Insight (SAI) and the Drug Attitude Inventory - 10 Questionnaire (DAI-10). *Psychiatry Clin Neurosci* 75(5): 187-188, 2021.3.
- 6) Yamato S, Kurematsu A, Amano T, Ariga H, Ando T, Komaki G, Wada K: Urocortin 1: A putative excitatory neurotransmitter in the enteric nervous system. *Neurogastroenterology & Motility* 32(10): e13842, 2020.10.
- 7) Munn-Chernoff MA, Johnson EC, Chou YL, Coleman JRI, Thornton LM, Walters RK, Yilmaz Z, Baker JH, Hübel C, Gordon S, Medland SE, Watson HJ, Gaspar HA, Bryois J, Hinney A, Leppä VM, Mattheisen M, Ripke S, Yao S, Giusti-Rodríguez P, Hanscombe KB, Adan RAH, Alfredsson L, Ando T, Andreassen OA, Berrettini WH, Boehm I, Boni C, Boraska Perica V, Buehren K, Burghardt R, Cassina M, Cichon S, Clementi M, Cone RD, Courtet P, Crow S, Crowley JJ, Danner UN, Davis OSP, de Zwaan M, Dedoussis G, Degortes D, DeSocio JE, Dick DM, Dikeos D, Dina C, Dmitrzak-Weglarz M, Docampo E, Duncan LE, Egberts K, Ehrlich S, Escaramís G, Esko T, Estivill X, Farmer A, Favaro A, Fernández-Aranda F, Fichter MM, Fischer K, Föcker M, Foretova L, Forstner AJ, Forzan M, Franklin CS, Gallinger S, Giegling I, Giuranna J, Gonidakis F, Gorwood P, Gratacos Mayora M, Guillaume S, Guo Y, Hakonarson H, Hatzikotoulas K, Hauser J, Hebebrand J, Helder SG, Herms S, Herpertz-Dahlmann B, Herzog W, Huckins LM, Hudson JI, Imgart H, Inoko H, Janout V, Jiménez-Murcia S, Julià A, Kalsi G, Kaminská D, Karhunen L, Karwautz A, Kas MJH, Kennedy JL, Keski-Rahkonen A, Kiezebrink K, Kim YR, Klump KL, Knudsen GPS, La Via MC, Le Hellard S, Levitan RD, Li D, Lilienfeld L, Lin BD, Lissowska J, Luykx J, Magistretti PJ, Maj M, Mannik K, Marsal S, Marshall CR, Mattingsdal M, McDevitt S, McGuffin P, Metspalu A, Meulenbelt I, Micali N, Mitchell K, Monteleone AM, Monteleone P, Nacmias B, Navratilova M, Ntalla I, O'Toole JK, Ophoff RA, Padyukov L, Palotie A, Pantel J, Papezova H, Pinto D, Rabionet R, Raevuori A, Ramoz N, Reichborn-Kjennerud T, Ricca V, Ripatti S, Ritschel F, Roberts M, Rotondo A, Rujescu D, Rybakowski F, Santonastaso P, Scherag A, Scherer SW, Schmidt U, Schork NJ, Schosser A, Seitz J, Slachtova L, Slagboom PE, Slof-Op't Landt MCT, Slopian A, Sorbi S, Świątkowska B, Szatkiewicz JP, Tachmazidou I, Tenconi E, Tortorella A, Tozzi F, Treasure J, Tsitsika A, Tyszkiewicz-Nwafor M, Tziouvas K, van Elburg AA, van Furth EF, Wagner G, Walton E, Widen E, Zeggini E, Zerwas S, Zipfel S, Bergen AW, Boden JM, Brandt H, Crawford S, Halmi KA,

- Horwood LJ, Johnson C, Kaplan AS, Kaye WH, Mitchell J, Olsen CM, Pearson JF, Pedersen NL, Strober M, Werge T, Whiteman DC, Woodside DB, Grove J, Henders AK, Larsen JT, Parker R, Petersen LV, Jordan J, Kennedy MA, Birgegård A, Lichtenstein P, Norring C, Landén M, Mortensen PB, Polimanti R, McClintick JN, Adkins AE, Aliev F, Bacanu SA, Batzler A, Bertelsen S, Biernacka JM, Bigdeli TB, Chen LS, Clarke TK, Degenhardt F, Docherty AR, Edwards AC, Foo JC, Fox L, Frank J, Hack LM, Hartmann AM, Hartz SM, Heilmann-Heimbach S, Hodgkinson C, Hoffmann P, Hottenga JJ, Konte B, Lahti J, Lahti-Pulkkinen M, Lai D, Ligthart L, Loukola A, Maher BS, Mbarek H, McIntosh AM, McQueen MB, Meyers JL, Milaneschi Y, Palviainen T, Peterson RE, Ryu E, Saccone NL, Salvatore JE, Sanchez-Roige S, Schwandt M, Sherva R, Streit F, Strohmaier J, Thomas N, Wang JC, Webb BT, Wedow R, Wetherill L, Wills AG, Zhou H, Boardman JD, Chen D, Choi DS, Copeland WE, Culverhouse RC, Dahmen N, Degenhardt L, Domingue BW, Frye MA, Gäbel W, Hayward C, Ising M, Keyes M, Kiefer F, Koller G, Kramer J, Kuperman S, Lucae S, Lynskey MT, Maier W, Mann K, Männistö S, Müller-Myhsok B, Murray AD, Nurnberger JI, Preuss U, Räikkönen K, Reynolds MD, Ridinger M, Scherbaum N, Schuckit MA, Soyka M, Treutlein J, Witt SH, Wodarz N, Zill P, Adkins DE, Boomsma DI, Bierut LJ, Brown SA, Bucholz KK, Costello EJ, de Wit H, Diazgranados N, Eriksson JG, Farrer LA, Foroud TM, Gillespie NA, Goate AM, Goldman D, Gruzza RA, Hancock DB, Harris KM, Hesselbrock V, Hewitt JK, Hopfer CJ, Iacono WG, Johnson EO, Karpyak VM, Kendler KS, Kranzler HR, Krauter K, Lind PA, McGue M, MacKillop J, Madden PAF, Maes HH, Magnusson PKE, Nelson EC, Nöthen MM, Palmer AA, Penninx B, Porjesz B, Rice JP, Rietschel M, Riley BP, Rose RJ, Shen PH, Silberg J, Stallings MC, Tarter RE, Vanyukov MM, Vrieze S, Wall TL, Whitfield JB, Zhao H, Neale BM, Wade TD, Heath AC, Montgomery GW, Martin NG, Sullivan PF, Kaprio J, Breen G, Gelernter J, Edenberg HJ, Bulik CM, Agrawal A: Shared genetic risk between eating disorder- and substance-use-related phenotypes. *Addict Biol* 26 (1): e12880, 2021.1.
- 8) Hamatani S, Hirano Y, Sugawara A, Isobe M, Kodama N, Yoshihara K, Moriguchi Y, Ando T, Endo Y, Takahashi J, Nohara N, Takamura T, Hori H, Noda T, Tose K, Watanabe K, Tomita H, Gondo M, Takakura S, Fukudo S, Shimizu E, Yoshiuchi K, Sato Y, Sekiguchi A: Eating Disorder Neuroimaging Initiative (EDNI): a multicentre prospective cohort study protocol for elucidating the neural effects of cognitive-behavioural therapy for eating disorders. *BMJ open*: 11(1): e042685, 2021.1.
- 9) Takeuchi H, Tomita H, Browne R, Taki Y, Kikuchi Y, Ono C, Yu Z, Nouchi R, Yokoyama R, Kotozaki Y, Nakagawa S, Sekiguchi A, Iizuka K, Hanawa S, Araki T, Miyauchi CM, Sakaki K, Nozawa T, Ikeda S, Yokota S, Magistro D, Sassa Y, Kawashima R: Sex-Dependent Effects of the APOE ϵ 4 Allele on Behavioral Traits and White Matter Structures in Young Adults. *Cerebral cortex* (New York, N.Y.: 1991) 31(1): 672-680, 2021.1.
- 10) Takeuchi H, Taki Y, Nouchi R, Yokoyama R, Kotozaki Y, Nakagawa S, Sekiguchi A, Iizuka K, Hanawa S, Araki T, Miyauchi CM, Sakaki K, Sassa Y, Nozawa T, Ikeda S, Yokota S, Magistro D, Kawashima R: General intelligence is associated with working memory-related functional connectivity change: evidence from a large sample study. *Brain connectivity* 11(2): 89-102, 2020.12.
- 11) Takeuchi H, Taki Y, Nouchi R, Yokoyama R, Kotozaki Y, Nakagawa S, Sekiguchi A,

- Iizuka K, Hanawa S, Araki T, Miyauchi CM, Sakaki K, Nozawa T, Ikeda S, Yokota S, Magistro D, Sassa Y, Kawashima R: Succeeding in deactivating: associations of hair zinc levels with functional and structural neural mechanisms. Scientific Report, 10(1): 12364, 2020.12.
- 12) Takeuchi H, Taki Y, Nouchi R, Yokoyama R, Kotozaki Y, Nakagawa S, Sekiguchi A, Iizuka K, Hanawa S, Araki T, Miyauchi CM, Sakak K, Sassa Y, Nozawa T, Ikeda S, Yokota S, Magistro D, Kawashima R: Originality of divergent thinking is associated with working memory-related brain activity: evidence from a large sample study. evidence from a large sample study. Neuroimage 216: 116825, 2020.8.
- 13) Takeuchi H, Tomita H, Taki Y, Kikuchi Y, Ono C, Yu Z, Sekiguchi A, Nouchi R, Kotozaki Y, Nakagawa S, Miyauchi CM, Iizuka K, Yokoyama R, Shinada T, Yamamoto Y, Hanawa S, Araki T, Kunitoki K, Sassa Y, Kawashima R: Effect of the interaction between BDNF Val66Met polymorphism and daily physical activity on mean diffusivity. Brain imaging and behavior 14(3): 806-820, 2020.6.
- 14) Kawanishi H, Sekiguchi A, Sugawara N, Funaba M, Tomita Y, Ohara C, Sugawara A, Kanazawa M, Fukudo S, Ando T: Olfactory Reference Syndrome (ORS) and Irritable Bowel Syndrome (IBS)-like Symptoms: Is There A Hidden Relationship Between the Psychiatric and Physical Symptoms? An Internet-based Study. JMIR Preprints 2020.8.
- 15) 小原千郷, 菅原彩子, 西園マーハ文, 鈴木真理: オンライン上で行う摂食障害の啓発活動の試みとその課題—当事者の発表動機と発表の影響に着目して—。文教大学人間科学研究 42 : 71-80, 2021.3.
- 16) 小原千郷, 西園マーハ文, 菅原彩子, 鈴木こころ, 鈴木真理: 摂食障害に対するスティグマと対応, そこで当事者が果たす役割. 日本社会精神医学会雑誌 29(2) : 137-144, 2020.6.

(2) 総説

- 1) 安藤哲也: わが国における摂食障害の治療体制. 医学と薬学 77(9) : 1299-1304, 2020.9.
- 2) 安藤哲也: 摂食障害の認知行動療法改良版(Enhanced Cognitive Behavior Therapy:CBT-E). 精神神経学雑誌 122(9) : 643-657, 09, 2020.9.
- 3) 関口 敦: 脳画像研究で検証する中枢神経感作病態. 心身医学 61(2) : 165-171, 2021.2.
- 4) 島津恵子: ハリケーンマリアによりプエルトリコ青少年の 7.2%に PTSD 症状: 日本での災害時の多国籍児童メンタルヘルス支援体制の構築検討に寄与. MMJ(The Mainichi Medical Journal) 16(2) : 44, 2020.4.
- 5) 小原千郷: 自助グループと家族会. 精神科 38(3) : 2021.3.

(3) 著書

- 1) 井野敬子, 金 吉晴: PTSD に対する持続エクスポージャー療法. 大野 裕, eds. 精神療法 増刊第 7 号 2020. 金剛出版, pp84-94, 2020.6.
- 2) 金 吉晴: エクスポージャー療法 exposure therapy. 日本心身医学会用語委員会, 日本心療内科学会学術企画委員会 編: 心身医学用語事典 第 3 版. 三輪書店, p24, 2020.11.
- 3) 金 吉晴: 3 章 ストレス関連症群 ストレス関連症群 総説. 三村 将. 講座 精神疾患の臨床 3 不安または恐怖関連症群 脅迫症 ストレス関連症群 パーソナリティ症. 中山書店, pp232-242, 2021.2.
- 4) 丹羽まどか: 複雑性 PTSD の病態理解と治療: 認知行動療法～STAIR/NST の立場から. 原田誠一 編: 複雑性 PTSD の臨床. 金剛出版, 東京, pp57-65, 2021.

(4) 研究報告書

- 1) Kim Y: Bio-genome markers of treatment responsiveness of severe-stress related mental disorders. 令和 2 年度精神・神経疾患研究開発費実績報告書英文概要. 2021.3.
- 2) 金 吉晴: ストレス関連疾患の認知行動療法の治療反応性と遺伝子・バイオマーカーの探索. 令和 2 年度精神・神経疾患研究開発費統括研究報告書. 2021.3.
- 3) 金 吉晴: 統括、PTSD への CBT 指導. 令和 2 年度精神・神経疾患研究開発費分担研究報告書. 2021.3.
- 4) 安藤哲也: ED への CBT-E 指導. 令和 2 年度精神・神経疾患研究開発費分担研究報告書. 2021.3.
- 5) 安藤哲也: 6.令和元年度事業の活動と成果 7.摂食障害の現状 8.事業全体の実績 9.摂食障害の現状 10.事業の成果. 令和 2 年度精神保健対策費補助金「摂食障害治療支援センター設置運営事業」報告書. pp22-38, 2021.3.
- 6) 安藤哲也, 関口 敦, 菅原彩子, 船場美佐子, 國重寛子: 摂食障害全国基幹センター活動報告書 令和 2 年度精神保健対策費補助金「摂食障害治療支援センター設置運営事業」報告書. pp39-54, 2021.3.
- 7) 安藤哲也, 山内常生, 河合啓介, 竹林淳和: 令和 2 年度障害者総合福祉推進事業「摂食障害治療及び支援の実態把握及び好事例の把握に関する検討」事業報告書. 2021.3
- 8) 安藤哲也, 河合啓介, 竹林淳和: 摂食障害の治療と支援の体制づくり好事例集. 令和 2 年度障害者総合福祉推進事業「摂食障害治療及び支援の実態把握及び好事例の把握に関する検討」. 2021.3
- 9) 堀 弘明, 金 吉晴, 伊藤真利子, 林 明明: ストレスホルモン・炎症マーカーと認知機能の測定による「ストレス」の客観的定量化. 総合健康推進財団平成 30 年度研究報告書. pp80-88, 2020.12.
- 10) 堀 弘明: ゲノム、炎症マーカー解析. 令和 2 年度精神・神経疾患研究開発費分担研究報告書. 2021.3.
- 11) 関口 敦: CBT 効果を予測する脳画像バイオマーカーの検証. 令和 2 年度精神・神経疾患研究開発費分担研究報告書. 2021.3.
- 12) 金 吉晴, 堀 弘明, 河西ひとみ: 災害・児童虐待等のトラウマ体験を有する人の心のケア支援の充実・改善に関する研究. 令和 2 年度 革新的自殺研究推進プログラム 委託研究成果報告書. pp80-86, 2021.3.
- 13) 河西ひとみ, 船場美佐子, 富田吉敏, 関口 敦, 安藤哲也: 自己臭症患者に対する認知行動療法プログラムの実現可能性の検討ー消化器症状に関連する臭いを主訴とする患者を対象としてー (第 2 報). 公益財団法人 メンタルヘルス岡本記念財団研究助成報告集 2020 年度 (第 32 号). pp39-43, 2021.3.

(5) 翻訳

- 1) 金 吉晴 (監訳), 河瀬さやか・丹羽まどか・中山未知・田中宏美 (翻訳): 児童期虐待を生き延びた人々の治療ー中断された人生のための精神療法. 星和書店, 東京, 2020. (Cloitre M, Cohen LR, Koenen KC: Treating survivors of childhood abuse: Psychotherapy for the interrupted life. Guilford Press, New York, 2006.)

(6) その他

- 1) 金 吉晴: トラウマと PTSD. カレントトピックス, 産業ストレス研究. 27(3): p366, 2020.
- 2) 大沼麻実: サイコロジカル・ファーストエイド (コラム). 精神医学, 増大号「精神科診療のエビデンス」. 62(5): 630, 2020.05.

- 3) 大沼麻実:災害時における心の傷への応急処置～サイコロジカル・ファーストエイド(PFA)とは～. 日本歯技, 日本歯科技工士会, 612, 33-37, 2020.05.
- 4) 船場美佐子:書評 マイケル・W・オットーほか 著『ふだん使いの CBT—10 分間でおこなう認知・行動介入』. 臨床心理学. 第 21 巻第 1 号, 140, 2021.1.

B. 学会・研究会における発表

(1) 学会特別講演, 教育講演, シンポジウム, ワークショップ, パネルディスカッション等

- 1) Kim Y: The 5th International Forum on Suicide Prevention Policy, The National Suicide Prevention Strategied: Global Perspective and Challenges to the COVID-19 Pandemic, Panel Discussion. 2021.2.5.
- 2) 金 吉晴: PTSD の理解と治療. 第 50 回日本神経精神薬理学会年会・第 42 回日本生物学的精神医学会年会・第 4 回日本精神薬学総会・学術総会, Web 開催, 2020.8.21-23.
- 3) 金 吉晴: PTSD と不安症: 症候論的検討. 第 116 回日本精神神経学会学術総会, Web 配信, 2020.9.28-30.
- 4) 金 吉晴: 指定発言. 委員会シンポジウム 9, COVID-19 (新型コロナウイルス感染症) がもたらす精神医療保健福祉への影響を考える. 第 116 回日本精神神経学会学術総会, Web 配信, 2020.9.28-30.
- 5) 金 吉晴: トラウマから PTSD へ; ガイドラインを踏まえた多段階的治療対応. シンポジウム 85, 不安症治療ガイドラインをいかに臨床に生かすか. 第 116 回日本精神神経学会学術総会, Web 配信, 2020.9.28-30.
- 6) 金 吉晴: 児童虐待を生き延びた人々への包括支援. シンポジウム B6-5, 生きることの包括的支援と社会的協働—その未来づくりに向けて—. 第 79 回日本公衆衛生学会総会, オンライン開催, 2020.10.20-22.
- 7) 金 吉晴: 心的トラウマと認知行動療法. 教育講演 4. 第 20 回日本認知療法・認知行動療法学会, オンライン開催, 2020.11.21-23.
- 8) 河西ひとみ: 話題提供. 大会準備委員会企画シンポジウム 10. 多様な人材が働きやすい職場とは—一個人と組織の双方の観点から—過敏性腸症候群をもつ人の場合—. 日本心理学会第 84 回大会, オンライン開催, 2020. 9.8-11.2.

(2) 一般演題

- 1) Kim Y, Shimazu K: Disaster Mental Health Care in Japan: National guideline creations and its dissemination efforts. The 45th Meeting of the Working Party on Nuclear Emergency Matters (OECD NEA), France, 2020.11.17-11.18.
- 2) Ogawa S, Hattori K, Matsumura R, Tatsumi M, Yokota Y, Kunugi H: Correlations of amino acids and related molecule levels with 5-HIAA, HVA, MHPG and total protein levels in the cerebrospinal fluid. 第 43 回日本神経科学大会, オンライン開催, 2020.7.29-8.1.
- 3) 伊藤真利子, 林 明明, 金 吉晴: 健常成人におけるカフェインの摂取とストレス反応の関連. 日本心理学会第 84 回大会, オンライン開催, 2020.9.8-11.2.

(3) 研究報告会

- 1) 金 吉晴: 災害・児童虐待等のトラウマ体験を有する人の心のケア支援の充実・改善に関する研究. 領域 3 新たな政策領域の開拓, 令和 2 年度革新的自殺研究推進プログラム 自殺対策推進レアール兼第 2 回研究代表者会議 中間報告, 東京, オンライン, 2020.11.24.
- 2) 関口 敦: 摂食障害に対する認知行動療法の有効性の神経科学的エビデンスの創出. 2020 年度 戦略的国際脳科学研究推進プログラム [国際脳] 分科会, ウェブ会議, 2020.6.13.

- 3) 関口 敦：摂食障害に対する認知行動療法の有効性の神経科学的エビデンスの創出。2020年度 戦略的国際脳科学研究推進プログラム〔国際脳〕秋の研究進捗報告，ウェブ会議，2020.11.17.

(4) その他

- 1) 安藤哲也：令和2年度第1回全国摂食障害対策連絡協議会。令和2年度精神保健対策費補助金「摂食障害治療支援センター設置運営事業」，メール審議，2020.9.1.-15.
 2) 安藤哲也：令和2年度第2回全国摂食障害対策連絡協議会。令和2年度精神保健対策費補助金「摂食障害治療支援センター設置運営事業」，メール審議，2021.2.9.-20. ウェブ会議，2021.2.21.

C. 講演

- 1) 金 吉晴：PTSD, CPTSD の診断と治療について。帝京大学医学部精神神経科学講座集談会，東京，WEB 開催，2020.10.13.
 2) 金 吉晴：コロナ禍に心の健康を保つには。アミカス オンライン市民公開講座 講演 2，オンライン開催，2020.12.16.
 3) 金 吉晴：複雑性 PTSD の臨床。第 14 回桜山精神医療懇話会，愛知，WEB 開催，2021.2.18.
 4) 大沼麻実：災害時の心理的応急処置（Psychological First Aid: PFA）について。令和2年度専門課程養成訓練，国立保健医療科学院，埼玉，オンライン開催，2020.5.27.
 5) 大沼麻実：PFA（心理的応急処置）講演会。河内長野市社会福祉協議会，2020.7.17.
 6) 大沼麻実：「至誠と愛」の実践学修「Psychological First Aid」。医学教養，東京女子医科大学，東京，2020.9.15.
 7) 大沼麻実：WHO 版 PFA について。令和2年度災害時こころのケア・PFA オンライン研修会，長野県精神保健福祉センター，長野，オンライン開催，2020.9.24.
 8) 大沼麻実：心理的応急処置。厚生労働省 医療関係者研修費等補助金 災害医療チーム等養成支援事業「2020 年度災害歯科保健医療チーム養成支援事業」災害歯科保健医療体制研修会 東日本ブロック，公益社団法人日本歯科医師会，東京，オンライン開催，2020.11.14.
 9) 大沼麻実：WHO 版心理的応急処置（PFA）。在豪邦人メンタルヘルス対策のための官民協働オンライン PFA 研修会（オンライン），認定 NPO 法人心の架け橋いわて，NPO 法人 JAMSNET 主催，在メルボルン日本国総領事館，JETRO シドニー事務所後援，メルボルン，オンライン開催，2020.11.19.
 10) 大沼麻実：サイコロジカル・ファーストエイド（PFA）研修。外務省領事中堅研修，外務省，東京，オンライン開催，2020.12.3.
 11) 大沼麻実：心理的応急処置。厚生労働省 医療関係者研修費等補助金 災害医療チーム等養成支援事業「2020 年度災害歯科保健医療チーム養成支援事業」災害歯科保健医療体制研修会 中日本ブロック，公益社団法人日本歯科医師会，東京，オンライン，2021.1.16.
 12) 大沼麻実：心理的応急処置。厚生労働省 医療関係者研修費等補助金 災害医療チーム等養成支援事業「2020 年度災害歯科保健医療チーム養成支援事業」災害歯科保健医療体制研修会 西日本ブロック，公益社団法人日本歯科医師会，東京，オンライン開催，2021.1.30.
 13) 大沼麻実：令和2年度サイコロジカルファーストエイド：PFA 研修。浜松市精神保健福祉センター，静岡，オンライン開催，2021.1.21.
 14) 大沼麻実：PFA オンライン講演。千葉県公認心理師協会，千葉，オンライン，2021.2.21.
 15) 大沼麻実：PFA と心理対応について。新潟県精神保健福祉センター，新潟，オンライン，2021.3.5.
 16) 大沼麻実：PFA（サイコロジカル・ファーストエイド）研修。富士市，静岡，オンライン，2021.03.17.

D. 学会活動

(1) 学会主催

(2) 学会役員

- 1) 金 吉晴：日本トラウマティック・ストレス学会 理事
- 2) 金 吉晴：自殺予防学会 理事
- 3) 金 吉晴：日本不安症学会 評議員
- 4) 堀 弘明：日本生物学的精神医学会 評議員
- 5) 関口 敦：日本心身医学会 幹事
- 6) 関口 敦：日本心身医学会 代議員
- 7) 関口 敦：日本摂食障害学会 評議員

(3) 座長

- 1) 金 吉晴, 重村 淳：委員会シンポジウム 9 , COVID-19（新型コロナウイルス感染症）がもたらす精神医療保健福祉への影響を考える. 第 116 回日本精神神経学会学術総会, Web 配信, 2020.9.28-30.

(4) 学会誌編集委員等

- 1) Kim Y: Cognitive Neuropsychiatry, editorial board member
- 2) 金 吉晴：日本トラウマティック・ストレス学会 編集委員長
- 3) Hori H: Frontiers in Psychiatry, review editor

E. 研修

(1) 研修企画

- 1) 安藤哲也, 関口 敦, 菅原彩子, 小原千郷, 船場美佐子, 河西ひとみ. 摂食障害治療研修 1 日コース. 令和 2 年度摂食障害治療支援センター設置運営事業. オンライン開催. 2021.1.24.

(2) 研修会講師

- 1) 金 吉晴：PTSD の病態と治療. 東京大学医学部附属病院精神神経科講演, 東京, オンライン開催, 2020.7.6.
- 2) 金 吉晴：トラウマの理解とケア：被災した大人と子どもたち. 近畿ブロック臨床心理士会主催 第 6 回被害者・被災者支援合同研修会, オンライン開催, 2020.11.1.
- 3) 金 吉晴：コロナ禍におけるメンタルヘルスケアについて. 地域医療機能推進機構 令和 2 年度感染管理担当者研修, Web 開催, 2020.12.7.
- 4) 安藤哲也：体重、体重測定、体重への懸念と心理教育、規則正しい食生活、ステージ 2 評価と計画. 第 7 回神経性過食症の認知行動療法 CBT-E 研修会, 東京, オンライン開催, 2020.12.13.
- 5) 安藤哲也：摂食障害の今. 摂食障害治療研修 1 日コース. 令和 2 年度摂食障害治療支援センター設置運営事業, 東京, オンライン開催, 2021.1.24.
- 6) 堀 弘明：PTSD の神経科学と薬物療法. 令和 2 年度 PTSD 対策専門研修 B.専門コース 1, 東京, オンライン開催, 2020.12.3-4.
- 7) 堀 弘明：PTSD の神経科学と薬物療法. 令和 2 年度 PTSD 対策専門研修 B.専門コース 2, 東京, オンライン開催, 2021.1.21-22.
- 8) 大沼麻実：災害時の WHO 版 PFA（心理的応急処理：サイコロジカル・ファーストエイド）概論. 令和 2 年度 PTSD 対策専門研修 A.通常コース 1, 東京, オンライン開催, 2020.11.5.

- 9) 大沼麻実：災害時の WHO 版 PFA（心理的応急処理：サイコロジカル・ファーストエイド）概論．令和 2 年度 PTSD 対策専門研修 A.通常コース 2, 東京, オンライン開催, 2020.11.18.
- 10) 大沼麻実：PFA 概論(1)(2)．第 6 回災害時 PFA と心理対応研修 東京, オンライン開催, 2020.12.15.
- 11) 大沼麻実：PFA 概論(1)(2)．第 5 回災害時 PFA と心理対応研修 東京, オンライン開催, 2021.3.16.

F. その他

- 1) 金 吉晴, 堀 弘明, 中山未知：科学新聞．幼少期の性的虐待 成人女性に長期的悪影響, 2020.7.17.
- 2) 金 吉晴：共同通信配信（掲載紙：信濃毎日新聞, 静岡新聞, 河北新報, 東都新聞, 南日本新聞, 愛媛新聞, 他）コロナうつ初の全国調査, 2020.7.27.
- 3) 金 吉晴：朝日新聞デジタル．すべての虐待被害者にトラウマ治療を 当事者が署名活動, 2020.9.14.
- 4) 金 吉晴, 堀 弘明, 大塚豪士：QLifePro. PTSD の症状や認知機能に CRP 遺伝子多型が関与することを発見, 2020.12.15.
- 5) 金 吉晴：日経 ARIA(WEB メディア)．在宅勤務で働く女性が鬱になりやすくなる 見極めと対策, 2021.1.20.
- 6) 金 吉晴, 堀 弘明：日本経済新聞デジタル版．国立精神・神経医療研究センター、心的外傷後ストレス障害の治療におけるメマンチンの有効性 -オープンラベル臨床試験による実証-, 2021.1.25.
- 7) 金 吉晴, 堀 弘明, 他：毎日新聞, 南日本新聞, 山梨日日新聞, 福島民報, 他．抗認知症薬、PTSD に効果か 体験の認識を改善 国立精神研チーム, 2021.1.25.
- 8) 金 吉晴：日本経済新聞．認知症薬を投与 PTSD が改善, 2021.2.1.
- 9) 金 吉晴, 堀 弘明：薬事ニュース(CB news)．PTSD 治療, メマンチンの有効性明らかに NCNP 精神保健研究所の研究グループ, 2021.2.5.
- 10) 金 吉晴, 堀 弘明：Medical Tribune. ヨミドクター．認知症治療薬メマンチンが PTSD に有望か, 心理療法に匹敵する効果、臨床試験を計画へ, 2021.3.4.
- 11) 金 吉晴, 堀 弘明, 伊藤真利子, 林 明明：マイナビニュース．幼少時の心理的虐待と成人後の注意バイアス変動性の関連性を NCNP などが確認, 2021.3.16.
- 12) 小川真太郎：公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンターストレス科学研究所．季刊「ストレス & ヘルスケア」企画, 監修, 2020.
- 13) 大沼麻実：医療タイムス社．被災地活動「見る・聞く・つなぐ」心理的応急処置で研修会, 医療タイムス, 2020.10.
- 14) 大沼麻実：毎日新聞．寄り添う 心のケア, 2020.12.

5. 児童・予防精神医学研究部

Ⅰ. 研究部の概要

児童・予防精神医学研究部は、精神疾患の早期介入および予防、児童・青年期のメンタルヘルス、ならびに関連する領域に関する調査研究および情報発信を行っている。早期介入・予防に向けた活動としては、認知機能の標準的評価法の整備や経頭蓋直流刺激を用いた新たな治療法の開発に関する研究、およびマーマセットを用いた基礎研究など、トランスレーショナルな研究が展開している。児童・青年期の精神科的障害については、ロボットを用いた発達障害への新たな介入法の開発やコホート研究などを継続している。

人員構成は以下のとおりである。部長：住吉太幹、精神疾患早期支援・予防研究室室長：松元まどか、児童・青年期精神保健研究室室長：熊崎博一、リサーチフェロー（3名）：藤里紘子、白間 綾、飯島和樹、科研費研究員（5名）：Andrew M. Stickley, 末吉一貴、長谷川由美、原口英之、岨野太一、客員研究員（16名）：神尾陽子、池澤 聡、中村 亨、上野佳奈子、青木保典、石井良平、住吉チカ、樋口悠子、川崎康弘、鈴木道雄、高橋秀俊、数井 裕、小坂浩隆、菊知 充、松本吉央、上原隆、併任研究員（1名）：立森久照、研究生（10名）：荻野和雄、海老島 健、岡 琢哉、近藤和樹、岩田 遼、山田悠至、稲川拓磨、齊藤 彩、鉢田雅輝（2020年11月10日より）、吉田篤史（2021年1月1日より）、他 科研費研究補助員1名、科研費事務助手1名、センター事務助手1名、科研費研究助手1名

Ⅱ. 研究活動

- 1) 部長室より：住吉が代表研究者となり、精神疾患における認知機能障害の評価や治療介入に関する研究を、NCNP内の他部署あるいは国内外の他機関や企業と協働し、以下のように展開している。

A) ニューロモデュレーションの精神疾患への応用に関する研究（住吉、白間、末吉、長谷川、和田） 経頭蓋直流刺激(tDCS)を用いた統合失調症など精神疾患の認知機能障害の治療研究を展開している。現在、統合失調症患者の日常生活技能に対するtDCSの改善効果に関する無作為化臨床試験(FEDICS)が、病院やトランスレーショナル・メディカルセンターの支援を受け進行中である。また、統合失調症患者の社会認知機能向上のtDCSの効果に関する本邦初の特定臨床研究(SEDICS)も、目標症例数からのデータ収集が完了し、結果の解析・発信を行っている。

B) 大うつ病性障害患者を対象とした中央評価の妥当性に関する予備研究～対面評価と情報通信技術を介した遠隔評価との一致性の検討～(CENTRAD 研究)（住吉、長谷川） 大うつ病性障害患者を対象に、中央評価者による情報通信機器を介した、代表的なうつ症状評価尺度であるMADRS評価と、施設評価者の対面によるMADRS評価との一致度を確認することを目的とする。日本精神神経薬理学会のトランスレーショナル・メディカル・サイエンス委員会の活動の一つであり、慶應大学、東京女子医科大学、杏林大学、青山学院大学、ひもろぎクリニック、製薬企業、CROの協力およびTMC、IBICの支援のもと、データ収集を進めている。

C) 抗うつ薬の単剤治療を新たに開始する大うつ病患者を対象とした認知機能、抑うつ症状、社会機能の追跡調査に関する多施設共同前向き観察研究(PERFORM-J)（住吉） 日常診療において抗うつ薬の単剤治療を新たに開始する大うつ病(MDD)患者を対象とし、認知機能、抑うつ症状などの推移を6ヵ月追跡した多施設共同前向き観察研究である。2020年度は縦断的データの解析に基づき、MDD患者518例における認知機能、抑うつ症状および心理社会的機能の関連を、PERFORM-Jのデータを縦断的に解析した。その結果、抗うつ薬の単剤治療が開始された患者において、1)早期（治療開始2ヵ月後）における主観的認知機能が低下している患者は、6ヵ月後の心理社会的機能やQOLの不良を予測すること、および2)さらに、そのような患者においては6ヵ月後の再発率が高まる傾向が見出された(Sumiyoshi et al. *Neuropsychiatr Dis Treat*

2021). 今後は、PERFORM-J データの post-hoc 解析を行っていく。

2) 精神疾患早期支援・予防研究室（松元，飯島）

(1) 精神疾患患者における「自己」の神経回路病態の解明

「自己」が、前頭連合野とその他の領域（中脳ドーパミン作動核、海馬など）とのどのような相互作用によって形成されるのか、その脳領域間相互作用が統合失調症患者および気分障害患者においてどのような異常を来しているのか、種々の脳イメージング法を用いて研究している。今年度は、ヒト脳表現型コンソーシアムデータベースから取得したニューロメラニン画像を解析し、統合失調症患者の中脳ドーパミン作動核におけるドーパミン機能について検討した。本研究は、当センター精神保健研究所精神疾患病態研究部（橋本亮太郎長）との共同研究である。

(2) 非ヒト霊長類を用いた「自己」の神経回路基盤の解明

ヒトと同じ霊長類であり遺伝子改変可能なマーモセットを用いて、「自己」の神経機構を構成する特定の脳内経路を詳細に調べている。今年度は、マーモセットに他個体の声との鳴きかわしを行わせ、皮質脳波（ECoG）（Komatsu et al. 2015, Sci Rep-UK）を計測した。実験個体が自ら発声している条件と、録音した自身の声を聴く条件の間で脳活動を比較し、発声時の聴覚野活動抑制を観察した。本研究は、当センター神経研究所微細構造研究部（一戸紀孝部長）および理化学研究所脳神経科学研究センター高次脳機能分子解析チームとの共同研究である。

(3) 自閉症モデル動物における神経回路異常の解明

バルプロ酸を母体投与することによって作出した自閉症モデルマーモセットの神経回路異常をECoGで捉え、治療法のシーズを開発する研究を行っている。今年度は、健常個体のマーモセットに広域皮質脳波電極を埋め込み、記録したデータを用いて、①純音刺激に対する初期聴覚誘発応答、②聴性定常反応（ASSR）、③ミスマッチ陰性電位（mismatch negativity: MMN）、および④聴覚 high gamma activity の大脳皮質全領域における活動伝搬様式について解析した。本研究は、当センター神経研究所微細構造研究部（一戸紀孝部長）との共同研究である。

3) 児童・青年期精神保健研究室 精神障害者へのロボットを用いた支援についての研究（熊崎）

発達障害者は時に、ロボットを用いた人との対話やロボットとの対話を好む。我々は、現在まで発達障害者について、ロボットを用いること、またロボット相手だと対話が可能な例を数多く報告してきた。それ故早急な実用化が期待されているのであるが、実用化のためには解決しなければならない問題が多く残されている。本研究課題では、基礎研究及び、発達障害者やうつ病患者といった精神障害者を対象として、実用化を目指した実証実験研究に取り組む。

ロボットの実装化に向けて患者様ごとに、適切なロボット選択は重要である。また、ロボット有効者の明確化は重要である。また個別化として患者様の状態に合わせて、ロボットが適切に反応することも重要である。また同じロボットを使用するにしても、様々なシチュエーションが考えられる。ロボットがメインのセラピストになり得るケース、ヒトのセラピストのアシスタントとして存在するケース、また複数のロボットが存在するケースが考えられる。シチュエーションを適切に設定することで、ロボットが多くの患者様の役に立つことが考えられる。こういった基礎研究を充実させていく。実証研究では、①発達障害者については、個々の特性に合わせて、最適な表情・動作の設定を自動調整できるロボットの開発を行う。②うつ病患者については、患者の精神症状に合わせて、最適な表情・動作の設定を自動調整できるロボットの開発を行う。③また発達障害者、うつ病患者がロボットを操作することで、ロボットを通して社会生活に参加するシステムの開発を行う。上記システム開発は診察室、デイケア、訪問看護といったメンタルヘルス医療の多様な場面でを行い、精神科医療におけるロボットの利用方法を確立する。

4) COVID-19 パンデミックがメンタルヘルスに及ぼす影響のインターネット調査（Stickley, 白間, 住吉）

新型コロナウイルス（COVID-19）感染症がメンタルヘルスに及ぼす影響が懸念されている。例えば、ソーシャル・ディスタンスなどの予防対策が幸福感を低下させ、パンデミックによる失業、就労時間短縮、解雇などが、メンタルヘルスに悪影響を及ぼすとされる。特に、精神疾患の既往がある人々は COVID-19 感染拡大予防に求められる行動変容などに対し脆弱であり、関連した報道の視聴や、手洗いやソーシャル・ディスタンスの確保等で、より強い孤立感や、精神症状の再発・増悪が生じると懸念される。本研究は特に、臨床閾値下レベルの自閉的行動特性、注意欠如多動症（ADHD）特性、あるいは精神病様症状をもつ人々が、コロナ禍に求められる生活様式の変容（感染予防のための情報収集や行動）をどのように受け入れているかや、その受け入れがメンタルヘルス（不安やうつ等）にどのように影響するかに注目し、日本の一般人口サンプルを収集するオンライン調査を実施した。

5) 児童・青年の感情障害に対する認知行動療法の統一プロトコルに関する研究（科学研究費補助金 基盤研究）（藤里）

本研究は、感情障害の児童青年に幅広く適用可能な認知行動療法とされる統一プロトコル（Unified protocol: UP）について、①児童版統一プロトコル（UP-C）のランダム化比較試験、および②青年版統一プロトコル（UP-A）のパイロット試験を行い、その実施可能性や有効性を明らかにすることを目的としている。3年目である2020年度は、UP-Cのランダム化比較試験を主に進めた。具体的には、各研究協力機関の治療者の育成を進めるとともに、昨年度、共同研究機関で登録となった9例について、介入群、待機群ともにUP-Cを実施し、すべての評価を終えてデータを収集した。一方、UP-Aについてはプロトコルの作成および倫理申請を行う予定である。

6) 気分障害の認知機能障害評価バッテリーに関する研究（末吉、長谷川、住吉）

気分障害における認知機能障害を評価する簡便なテストバッテリー、Screen for Cognitive Impairment in Psychiatry (SCIP)と Brief Assessment of Cognition In Affective Disorders (BAC-A)の信頼性・妥当性を検討している。SCIPは国際双極性障害学会が推奨するスクリーニングツールであり、気分障害患者の認知機能を短時間で評価することができる。BAC-Aは精神科疾患において低下があることで知られてきた認知機能に加え、情動刺激が認知機能へ与える影響を評価することができる。

Ⅲ. 社会的活動に関する評価

(1) 専門教育面における貢献

- 研究と臨床の橋渡しを目指すカンファレンス「児童・予防精神医学研究会」を統合失調症早期診断・治療センターとの共催で2回開催（住吉）
- 研究成果の国際的な発信力向上を目指し、医学英語のベテラン講師がセンター職員による医学英語論文に対し指導を行うセミナーを、TMCとの共催で開催（2021.2.18）（住吉）
- 第4回ヒト脳イメージング研究会 実行委員（松元）

(2) 精研の研修の主催と協力

- 国立精神・神経医療研究センターにおいて令和2年度精神保健に関する技術研修、第1回発達障害者支援研修：行政実務研修を開催した。2021.1.19-20.（住吉、熊崎）

(3) 保健医療行政政策に関連する研究・調査、委員会等への貢献

- 厚労省 発達障害の情報提供等事業に関する運営会議・構成員（住吉）
- クロザリル適正使用委員会委員（住吉）

(4) センター内における臨床的活動

- センター病院 統合失調症専門外来・初診（兼部長診）：毎週月曜日（住吉）
- センター病院 気分障害センター外来・初診：毎週月曜日（住吉）
- センター病院 一般再来：毎週金曜日（住吉）
- センター病院 こころのリスク診療枠：隔週月曜日（住吉）

IV. 研究業績

A. 刊行物

(1) 原著論文

- 1) Sumiyoshi T, Watanabe K, Noto S, Sakamoto S, Moriguchi Y, Hammer-Helmich L, Fernandez J: Relationship of Subjective Cognitive Impairment with Psychosocial Function and Relapse of Depressive Symptoms in Patients with Major Depressive Disorder: Analysis of Longitudinal Data from PERFORM-J. *Neuropsychiatr Dis Treat* 17: 945-955, 2021.
- 2) Tateno T, Higuchi Y, Nakajima S, Sasabayashi D, Nakamura M, Ueno M, Mizukami Y, Nishiyama S, Takahashi T, Sumiyoshi T, Suzuki M: Features of Duration Mismatch Negativity Around the Onset of Overt Psychotic Disorders. A Longitudinal Study. *Cereb Cortex* 31(5): 2416-2424, 2021.
- 3) Sugawara N, Furukori N, Maruo K, Shimoda K, Sumiyoshi T: Working status of caregivers for people with dementia: Analysis data from a Japanese Nationwide Survey. *PLOS One* 15(5): e0232787, 2020.
- 4) Sumiyoshi C, Narita Z, Inagawa T, Yamada Y, Sueyoshi K, Hasegawa Y, Shirama A, Hashimoto R, Sumiyoshi T: Facilitative effects of transcranial direct current stimulation on semantic memory examined by text-mining analysis in patients with schizophrenia. *Frontiers in Neurology*: 583027, 2021.
- 5) Kyung-min An, Hasegawa C, Hirosawa T, Tanaka S, Saito D N, Kumazaki H, Ken Yaoi, Kikuchi M, Yoshimura Y: Brain responses to human-voice processing predict child development and intelligence. *Human Brain Mapping* 15: 41(9): 2292-2301, 2020.
- 6) Yoshimura Y, Hasegawa C, Ikeda T, Saito D N, Hiraishi H, Takahashi T, Kumazaki H, Kikuchi M: The maturation of the P1m component in response to voice from infancy to 3 years of age: a longitudinal study in young children. *Brain and Behavior*: e01706, 2020.
- 7) Mingdi Xu, Minagawa Y, Kumazaki H, Okada K, Naoi N: Prefrontal Responses to Odors in Individuals With Autism Spectrum Disorders: Functional NIRS Measurement Combined With a Fragrance Pulse Ejection System. *Prefrontal Responses to Odors in Individuals With Autism Spectrum Disorders: Functional NIRS Measurement Combined With a Fragrance Pulse Ejection System*. *Frontiers in Human Neuroscience*: 523456, 2020.
- 8) Kumazaki H, Okamoto M, Yoshimura Y, Ikeda T, Hasegawa C, Saito D N, Iwanaga R, Tomiyama S, Kyung-min An, Minabe Y, Kikuchi M: Brief Report: Odour Awareness in Young Children with Autism Spectrum Disorders. *Journal of Autism and Developmental Disorders* 50: 1809-1815, 2020.
- 9) Kumazaki H, Muramatsu T, Yoshikawa Y, Haraguchi H, Sono T, Matsumoto Y, Ishiguro H, Kikuchi M, Sumiyoshi T, Mimura M: Enhancing Communication Skills of Individuals with Autism Spectrum Disorders While Maintaining Social Distancing Using Two Tele-Operated Robots. *Frontiers in Psychiatry*: 598688, 2021.
- 10) Ueda M, Stickley A, Sueki H, Matsubayashi T: Mental health status of the general population in Japan during the COVID-19 pandemic. *Psychiatry and Clinical Neurosciences*. *Psychiatry and Clinical Neurosciences* 74(9): 505-506, 2020.
- 11) Stickley A, Oh H, Sumiyoshi T, Narita Z, Shirama A, Shin JI, Waldman K: The

- September 11, 2001, terrorist attacks, media exposure and psychotic experiences among Asian and Latino Americans. *Psychiatry and Clinical Neurosciences* 74(10): 572-573, 2020.
- 12) Stickley A, Matsubayashi T, Ueda M: Loneliness and COVID-19 preventive behaviours among Japanese adults. *Journal of Public Health* 43(1): 53-60, 2021.
 - 13) Kim JH, Kim JY, Lee J, Jeong GH, Lee S, Lee KH, Kronbichler A, Stubbs B, Solmi M, Koyanagi A, Hong SH, Draogioti E, Jacob L, Brunoni AR, Carvalho AF, Radua J, Thompson T, Smith L, Oh H, Yang L, Grabovac I, Schuch F, Fornano M, Stickley A, B Rais TB, Salazar de Pablo G, Shin JI, Fusar-Poli P: Environmental risk/protective factors and peripheral biomarkers for attention-deficit/hyperactivity disorder: an umbrella review of the evidence. *Lancet Psychiatry* 7(11): 955-970, 2020.
 - 14) Leinsalu M, Baburin A, Jasilionis D, Krumins J, Martikainen P, Stickley A: Macroeconomic fluctuations and educational inequalities in suicide mortality among working-age men in three Baltic countries and Finland in 2000-2015: a register-based study. *Journal of Psychiatric Research* 131: 138-143, 2020.
 - 15) Stickley A, Matsubayashi T, Sueki H, Ueda M: COVID-19 preventive behaviours among people with anxiety and depressive symptoms: Findings from Japan. *Public Health* 189: 91-93, 2020.
 - 16) Waldman K, Stickley A, Oh H: Perceived discrimination following the September 11, 2001 terrorist attacks and psychiatric disorders among Latinx populations in the United States. *Journal of Latinx Psychology*: 10.1037/lat0000185, 2021.
 - 17) Inoue Y, Yamamoto S, Stickley A, Kuwahara K, Miyamoto T, Nakagawa T, Honda T, Imai T, Nishihara A, Kabe I, Mizoue T, Dohi S: Overtime work and the incidence of long-term sickness absence due to mental disorders in Japan: A prospective cohort study. *Journal of Epidemiology*: 10.2188/jea.JE20200382, 2021.
 - 18) Kanamori M, Hanazato M, Kondo K, Stickley A, Kondo N: Neighborhood farm density, types of agriculture and depressive symptoms among older farmers: A cross-sectional study. *BMC Public Health* 21(1): 440, 2021.
 - 19) Stickley A, Waldman K, Sumiyoshi T, Narita Z, Shirama A, Shin JI, Oh H: Childhood physical neglect and psychotic experiences: Findings from the National Comorbidity Survey Replication. *Early Intervention in Psychiatry* 15(2): 256-262, 2021.
 - 20) Stickley A, Waldman K, Ueda M, Koyanagi A, Sumiyoshi T, Narita Z, Inoue Y: Childhood neglect and suicidal behavior: Findings from the National Comorbidity Survey Replication. *Child Abuse & Neglect* 103: 104400, 2020.
 - 21) Stickley A, Sumiyoshi T, Narita Z, Oh H, DeVlyder JE, Jacob L, Koyanagi A: Physical injury and psychotic experiences in 48 low- and middle-income countries. *Psychological Medicine* 50(16): 2751-2758, 2020.
 - 22) Miyanishi H, Uno K, Iwata M, Kikuchi Y, Yamamori H, Yasuda Y, Ohi K, Hashimoto R, Hattori K, Yoshida S, Goto Y, Sumiyoshi T, Nitta A: Investigating DNA methylation of shati/nat8l promoter sites in blood of unmedicated patients with major depressive disorder. *Biol Pharm Bull* 43(7): 1067-1072, 2020.
 - 23) Ojio Y, Mori R, Matsumoto K, Nemoto T, Sumiyoshi T, Fujita H, Morimoto T, Nishizono-Maher A, Fuji C, Mizuno M: Innovative approach to adolescent mental health in Japan: School-based education about mental health literacy. *Early Interv Psychiatry* 15(1): 174-182, 2021.
 - 24) Nobukawa S, Shirama A, Takahashi T, Takeda T, Ohta H, Kikuchi M, Iwanami A, Kato N,

- Toda S: Pupillometric Complexity and Symmetricity Follow Inverted-U Curves Against Baseline Diameter Due to Crossed Locus Coeruleus Projections to the Edinger-Westphal Nucleus. *Frontiers in Physiology*: 614479, 2021.
- 25) Shirama S, Stickley A, Kamio Y, Nakai A, Takahashi H, Saito A, Haraguchi H, Kumazaki H, Sumiyoshi T: Emotional and behavioral problems in Japanese preschool children with motor coordination difficulties: the role of autistic traits. *European child & adolescent psychiatry*: DOI:10.1007/s00787-021-01732-7
 - 26) Shirama A, Takeda T, Ohta H, Iwanami A, Toda S, Kato N: Atypical alert state control in adult patients with ADHD: A pupillometry study. *PloS one* 15(12): e0244662, 2020.
 - 27) Hosogoshi H, Takebayashi Y, Ito M, Fujisato H, Kato N, Nakajima S, Oe Y, Miyamae M, Kanie A, Horikoshi M: Expressive suppression of emotion is a moderator of anxiety in a unified protocol for transdiagnostic treatment of anxiety and depressive disorders: A secondary analysis. *Journal of affective disorders*. pp277: 1-4, 2020.
 - 28) Fujisato H, Ito M, Berking M, Horikoshi M: The influence of emotion regulation on posttraumatic stress symptoms among Japanese people. *Journal of affective disorders*, 277: pp577-583, 2020.
 - 29) 神崎 晶, 熊崎博一, 片岡ちなつ, 田副真美, 鈴木法臣, 松崎佐栄子, 粕谷健人, 藤岡正人, 大石直樹, 小川 郁: 聴覚過敏を主訴とした複数の感覚過敏を有する症例の検討—“Sensory Modulation Disorder”という疾患概念と耳鼻咽喉科医が留意すべき点について. *日本耳鼻咽喉科学会会報* 123: 236-242, 2020.
 - 30) 齊藤 彩, 松本聡子, 菅原ますみ: 思春期の注意欠如・多動傾向と不安・抑うつとの縦断的関連. *教育心理学研究* 68(3): 237-249, 2020.
 - 31) 齊藤 彩, 佐藤みのり, 坂田侑奈: 親の注意欠如・多動症的行動特性と親子関係との関連—精神科外来成人うつ病患者を対象とした検討—. *お茶の水女子大学人文科学研究* 17: 83-95, 2021.

(2) 総説

- 1) Yamada Y, Sumiyoshi T: Neurobiological mechanisms of transcranial direct current stimulation for psychiatric disorders; neurophysiological, chemical, and anatomical considerations. *Front Hum Neurosci*: 631838, 2021.
- 2) Kumazaki H, Muramatsu T, Yoshikawa Y, Matsumoto Y, Hiroshi Ishiguro, Kikuchi M, Sumiyoshi T, Mimura M: Optimal robot for intervention for individuals with autism spectrum disorders. *Psychiatry and Clinical Neuroscience* 74: 581-586, 2020.
- 3) Yamada Y, Matsumoto M, Iijima K, Sumiyoshi T: Specificity and continuity of schizophrenia and bipolar disorder: Relation to biomarkers. *Curr Pharm Des* 26(2): 177556, 2020.
- 4) 住吉太幹: 統合失調症および気分障害の病態・早期介入とミスマッチ陰性電位. 特集「統合失調症の病態とMMN」*臨床神経生理学* 48(6): 645, 2020.
- 5) 山田悠至, 稲川拓磨, 大町佳永, 末吉一貴, 住吉太幹: 神経認知・社会認知機能および real-world functioning. *臨床精神薬理* 23(5): 467-476, 2020.
- 6) 熊崎博一: 自閉スペクトラム症. *Clinical Neuroscience* 39(2): 236-239, 2021.
- 7) 熊崎博一: ヒューマノイドロボットを用いた自閉スペクトラム症治療の可能性. *医学のあゆみ* 276(3): 230-231, 2021.
- 8) 熊崎博一: 新しい治療の試み—ロボット研究の現状, 今後の課題. *Biohilia 電子版* 35: 33-39, 2021.
- 9) 熊崎博一: 自閉スペクトラム症における感覚の問題の位置づけと医学的対応. *作業療法ジャーナル* 54(11): 1214-1219, 2020.

- 10) 熊崎博一：ロボットを用いた自閉スペクトラム症者へのコミュニケーション介入. 精神科治療学 35(9)：1023-1027, 2020.
- 11) 熊崎博一：自閉スペクトラム症へのヒューマノイドロボットを用いた心理社会的介入の潜在性. 精神療法 46(4)：482-487, 2020.
- 12) 齊藤 彩：親の自閉症的行動特性と養育における困難との関連. 地域ケアリング 23(3)：74-76, 2021.

(3) 著書

- 1) 久保田涼太郎, 池澤 聡, 住吉太幹：リカバリーに向けた治療評価. 岩田仲生, 中込和幸, 村井俊哉 編 「統合失調症治療の新たなストラテジー第2版」. 先端医学社, 東京, p162-166, 2021.
- 2) 大井一高, 住吉チカ, 住吉太幹, 松本純弥, 三浦健一郎, 長谷川尚美, 杉山俊介, 塩入俊樹, 橋本亮太：統合失調症のリカバリーに向けた認知社会機能障害の評価. 岩田仲生, 中込和幸, 村井俊哉 編 「統合失調症治療の新たなストラテジー第2版」. 先端医学社, 東京, p179-183, 2021.

(4) 研究報告書

(5) 翻訳

- 1) 住吉太幹, 長谷川由美, 末吉一貴：双極性障害における認知機能一当事者のための小冊子. 国際双極性障害学会(ISBD) 認知機能タスク・フォース編科学評論社, 電子版, 2021.
https://www.isbd.org/Files/Admin/Cognition%20files/ISBD_Cognition_Booklet_Japanese.pdf

(6) その他

B. 学会・研究会における発表

(1) 学会特別講演, 教育講演, シンポジウム, ワークショップ, パネルディスカッション等

- 1) Yokoi Y, Inagawa T, Yamada Y, Sumiyoshi T: Transcranial direct current stimulation in patients with dementia or mild cognitive impairment. In Symposium "Electrophysiological Evaluation and Modulation of Symptoms and Functional Outcomes in Psychosis." 20th WPA World Congress of Psychiatry, Virtual Congress, 2021.3.10.
- 2) Yamada Y, Inagawa T, Sueyoshi K, Wada A, Shirama A, Sumiyoshi T: Transcranial direct current stimulation to enhance specific domains of cognitive function in schizophrenia. In Symposium "Electrophysiological Evaluation and Modulation of Symptoms and Functional Outcomes in Psychosis". 20th WPA World Congress of Psychiatry, Virtual Congress, 2021.3.10.
- 3) Sumiyoshi T, Yamada Y, Inagawa T, Shirama A, Sueyoshi K, Hasegawa Y, Wada A, Narita Z, Yokoi Y: Transcranial direct current stimulation to improve functional outcomes in schizophrenia. In Symposium "Neuromodulation Psychiatric Electrophysiology - Current and Future Perspectives for Diagnosis and Treatment". 20th WPA World Congress of Psychiatry, Virtual Congress, 2021.3.10.
- 4) Ueda K, Takekawa W, Shimoda H, Ishii H, Obayashi F, Kumazaki H: An Objective and Quantitative Evaluation of Intermittent Aroma Stimuli on Intellectual Concentration. The 11th International Conference on Applied Human Factors and Ergonomics. Sandiego, 2020.
- 5) Watanabe T, Kumazaki H, Muramatsu T, Mimura M: The Specific Aspects of Operating a Robot through an Unfamiliar Touchscreen for Individuals with Autism Spectrum Disorders. International Society for Autism Research (INSAR), Seattle, 2020.6.03.
- 6) Ito M, Takebayashi Y, Fujisato H, Hosogoshi H, Horikoshi M: Emotion Regulation as a

- Mechanism of Change in the Unified Protocol for Transdiagnostic Treatment of Emotional Disorders Among Japanese Patients with Depressive and Anxiety Disorders. 54th Annual Convention of Association for Behavioral and Cognitive Therapies (Virtual Convention), 2020.11.17-22.
- 7) 栗山健一, 山田光彦, 住吉太幹, 井上 猛: JSNP シンポジウム「“仮想” トランスレーショナル. メディカル・サイエンス委員会諮問会議. 第 50 回日本神経精神薬理学会/第 42 回生物学的精神医学会/第 4 回日本精神薬学会合同年会, オンライン, 2020.8.21.
 - 8) 住吉太幹, 山田悠至, 稲川拓磨, 横井優磨, 中込和幸, 成田 瑞: シンポジウム「精神疾患・神経疾患におけるニューロモデレーション治療への期待と課題」. 第 116 回日本精神神経学会, オンライン, 2020.9.28.
 - 9) 樋口悠子, 立野貴大, 中島 英, 高橋 努, 水上祐子, 西山志満子, 住吉太幹, 鈴木道雄: シンポジウム「Mismatch negativity (MMN): 統合失調症バイオマーカー」. 第 116 回日本精神神経学会, オンライン, 2020.9.28.
 - 10) 山田悠至, 稲川拓磨, 成田 瑞, 横井優磨, 住吉太幹: シンポジウム「精神科分野における経頭蓋直流電気刺激(tDCS)の実用性と今後の展望・本邦における tDCS 臨床研究の進捗」. 第 116 回日本精神神経学会, オンライン, 2020.9.29.
 - 11) 樋口悠子, 立野貴大, 中島英, 水上祐子, 西山志満子, 高橋 努, 住吉太幹, 鈴木道雄: シンポジウム「ミスマッチ陰性電位の精神科臨床応用ミスマッチ陰性電位の精神」. 第 50 回日本臨床神経生理学会, 京都, 2020.11.26.
 - 12) 山田悠至, 稲川拓磨, 末吉一貴, 和田 歩, 長谷川由美, 白間 綾, 住吉太幹: シンポジウム「精神・神経分野における tDCS 研究・機序解明から臨床利用まで」. 第 50 回日本臨床神経生理学会, 京都, 2020.11.27.
 - 13) 住吉太幹, 吉村直記, 中込和幸, 住吉チカ, 樋口悠子, 鈴木道雄: シンポジウム「精神疾患の早期介入・早期支援・予防の現在」. 第 40 回日本社会精神医学会, オンライン, 2021.3.5.
 - 14) 北村真吾, 盛本 翼, 岸本直子, 田形弘実, 根本隆洋, 樋口悠子, 大島勇人, 加藤隆郎, 三島和夫, 石間環, 橋本謙二, 大西 隆, 松木 佑, 桂 雅宏, 富田博秋, 内村直尚, 鈴木道雄, 水野雅文, 岸本年史, 住吉太幹, 中込和幸: Ultra High Risk 者を対象とした精神病発症予測因子の検討: 睡眠関連パラメータとサイトカインの計測. 第 116 回日本精神神経学会学術総会, オンライン, 2020.9.28.
 - 15) 樋口悠子, 住吉太幹, 立野貴大, 中島 英, 水上祐子, 西山志満子, 伊藤博子, 笹森大樹, 高橋 努, 鈴木道雄: 統合失調症および精神病発症リスク状態の認知機能に及ぼす Omega-3 不飽和脂肪酸の効果. 第 50 回日本臨床神経生理学会, 京都, 2020.11.27.
 - 16) 立野貴大, 樋口悠子, 中島 英, 笹森大樹, 中村美保子, 上野摩耶, 水上祐子, 西山志満子, 高橋 努, 住吉太幹, 鈴木道雄: 持続長ミスマッチ陰性電位の統合失調症発症前後における縦断的变化. 第 50 回日本臨床神経生理学会, 京都, 2020.11.26.
 - 17) 中島 英, 樋口悠子, 立野貴大, 笹森大樹, 中村美保子, 上野摩耶, 水上祐子, 西山志満子, 高橋 努, 住吉太幹, 鈴木道雄: 精神病発症リスク状態における事象関連電位の縦断変化と臨床経過との関連. 第 50 回日本臨床神経生理学会, 京都, 2020.11.26.
 - 18) 熊崎博一: 自閉スペクトラム症者へのヒューマノイドロボット介入の潜在性. 第 116 回日本精神神経学会学術総会, 仙台, 2020.9.28.
 - 19) 熊崎博一: 自閉スペクトラム症者の嗅覚特性に着目する意義. 第 116 回日本精神神経学会学術総会, 仙台, 2020.9.28.
 - 20) 橋本卓也, 熊崎博一, 松浦直己, 向井馨一郎, 宮内雅弘, 山西恭輔, 松永寿人: 強迫症患者の強迫症状と嗅覚特性について. 第 116 回日本精神神経学会学術総会, 仙台, 2020.9.28.
 - 21) 石川大貴, 熊崎博一, 吉川雄一郎, 松本吉央, 宮尾益知: コロナウィルス感染流行期における遠隔操作ロボット・VR を利用した自閉症支援. 第 61 回日本児童青年精神医学会総会, 神戸,

2020.11.20.

- 22) 齊藤 彩, 坂田侑奈, 佐藤みのり, 原口英之, 松本聡子: 親の自閉症的行動特性と養育ニーズとの関連—日本語版 Parenting Needs Questionnaire を用いた検討—. 日本パーソナリティ心理学会第 29 回大会, 小平, 2020.9.11.
- 23) 齊藤 彩, 佐藤みのり, 坂田侑奈: 親子の注意欠如・多動症的行動特性と養育ニーズに関する検討. 日本教育心理学会第 62 回総会, 浜松, 2020.9.19.
- 24) 齊藤 彩: 通常学級に在籍する中学生の ADHD 特性とメンタルヘルス. 日本特殊教育学会第 58 回大会, 福岡, 2020.9.19.

(2) 一般演題

(3) 研究報告会

(4) その他

C. 講演

- 1) 住吉太幹: 気分障害患者における認知機能障害と対応. 第 40 回日本社会精神医学会, オンライン, 2021.3.5.

D. 学会活動

(1) 学会主催

(2) 学会役員

- 1) Sumiyoshi T: World Psychiatric Association Section on Psychoneurobiology, Chair
- 2) Sumiyoshi T: EEG & Clinical Neuroscience Society, Councilor
- 3) Sumiyoshi T: International Society of Bipolar Disorder; Cognition Task Force, Member
- 4) 住吉太幹: Cognitive Enhancement in Psychiatric Disorder研究会, 理事
- 5) 住吉太幹: 日本神経精神薬理学会 評議員, 編集委員
- 6) 住吉太幹: 日本生物学的精神医学会 評議員
- 7) 住吉太幹: 日本臨床精神神経薬理学会 評議員
- 8) 住吉太幹: 日本脳科学会 評議員
- 9) 住吉太幹: 日本統合失調症学会 評議員
- 10) 住吉太幹: 日本精神保健・予防学会 評議員
- 11) 住吉太幹: 日本精神保健・予防学会 評議員
- 12) 熊崎博一: 日本精神神経学会 精神科医・精神科医療の実態把握・将来計画に関する委員会委員, 小児精神医療委員会委員, PCNワーキンググループ委員
- 13) 熊崎博一: 日本小児精神神経学会 評議員 ホームページ委員長 編集委員
- 14) 熊崎博一: 日本児童青年精神医学会 災害委員
- 15) 熊崎博一: 日本総合病院精神医学会 編集委員
- 16) 熊崎博一: 日本社会精神医学会 編集委員

(3) 座長

- 1) Sumiyoshi T: Symposium “Electrophysiological Evaluation and Modulation of Symptoms and Functional Outcomes in Psychosis”. 20th WPA World Congress of Psychiatry, 2021, 3, 10 Virtual Congress (2021, 3, 10 - 13)
- 2) 住吉太幹: シンポジウム「精神疾患・神経疾患におけるニューロモデレーション治療への期

- 待と課題」. 第 116 回日本精神神経学会, オンライン開催, 2020.9.28.(9.28-30)
- 3) 住吉太幹: シンポジウム「Mismatch negativity (MMN): 統合失調症バイオマーカー」. 第 116 回日本精神神経学会, オンライン開催, 2020.9.28.(9.28-30)
 - 4) 住吉太幹: シンポジウム「精神科分野における経頭蓋直流電気刺激(tDCS)の実用性と今後の展望- 本邦における tDCS 臨床研究の進捗」. 第 116 回日本精神神経学会, オンライン開催, 2020.9.29.(9.28-30)
 - 5) 住吉太幹: シンポジウム「ミスマッチ陰性電位の精神科臨床応用」. 第 50 回日本臨床神経生理学会, 京都, 2020.11.26.(11.26-28)
 - 6) 住吉太幹: シンポジウム「精神・神経分野における tDCS 研究-機序解明から臨床利用まで-」. 第 50 回日本臨床神経生理学会, 京都, 2020.11.27.(11.26-28)
 - 7) 松元まどか: 教育講演「ネットワーク解析」. 第 4 回ヒト脳イメージング研究会, WEB 開催, 2020.09.04.

(4) 学会誌編集委員等

- 1) Sumiyoshi T: Clinical Psychopharmacology and Neuroscience, Associate Editor
- 2) Sumiyoshi T: Clinical EEG and Neuroscience, Editorial Board Member
- 3) Sumiyoshi T: Schizophrenia Research Cognition, Editorial Board Member
- 4) Sumiyoshi T: Neuropsychopharmacology Reports, Editorial Board Member
- 5) Kumazaki H: Autism Research: Editorial Board Member

E. 研修

(1) 研修企画

- 1) 住吉太幹, 熊崎博一: 令和 2 年度精神保健に関する技術研修. 第 1 回発達障害者支援研修: 行政実務研修, オンライン, 2021.1.19-20.
- 2) 住吉太幹, 熊崎博一: 令和 2 年度第 1 回児童・予防精神医学研究会. オンライン, 2020.10.16.
- 3) 住吉太幹, 熊崎博一: 令和 2 年度第 2 回児童・予防精神医学研究会. オンライン, 2021.2.5.

(2) 研修会講師

- 1) 藤里紘子: 「子どものうつ・不安の理解とマネジメントに行動科学を活かす」. 第 13 回行動科学セミナー, オンライン, 2020.11.27.

F. その他

- 1) 白間 綾: 瞳孔径の時間的変動から脳活動を推定する技術を NCNP などが開発. 産経ニュース, プライムタイムス, 時事ドットコムニュース, 朝日デジタル, 2021.03.12.
- 2) 白間 綾, 信川創, 高橋哲也, 戸田重誠: 特許出願: 精神神経活動推定装置. 特願 2020-168949, 2020.10.06.

6. 精神薬理研究部

I. 研究部の概要

精神薬理研究部では、最終目標を「精神疾患の克服を目指した研究開発を行い、研究成果を目の前の医療に活かす」と定義し、当センターの事業計画における位置づけを明確化している。具体的には、我が国において重要な政策課題となっている精神疾患に焦点を当て、精神薬理学をバックボーンとする研究手法を用い、政策立案に必須となる臨床研究を実施するとともに、非臨床ステージにおける創薬研究を中心とした精神神経疾患の治療介入法の研究開発を行っている。

精神薬理研究部には、分子精神薬理研究室と向精神薬研究開発室の2室が所属している。令和二年度常勤研究員は部長の山田光彦、分子精神薬理研究室長の三輪秀樹、向精神薬研究開発室長の古家宏樹の3名であった。リサーチフェローは、國石 洋、小林桃子の2名、科研費研究員は、山田美佐、中武優子であった。併任研究員は、野田隆政（国立精神・神経医療研究センター病院第二精神科医長）、関口正幸（国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第四部研究員）であった。客員研究員は、稲垣正俊（島根大学医学部精神科医学講座教授）、岡 淳一郎（東京理科大学薬学部名誉教授）、川島義高（明治大学文学部心理社会学科臨床心理学専攻専任講師）、澤 幸祐（専修大学人間科学部心理学科教授）、白川修一郎（睡眠評価研究機構代表者）、高原 円（福島大学共生システム理工学類准教授）、中嶋智史（広島修道大学健康科学部心理学科講師）、西川 徹（昭和大学医学部薬理学講座客員教授）、古川壽亮（京都大学大学院医学研究科教授）、吉澤一巳（東京理科大学薬学部疾患薬理学研究室准教授）、米本直裕（ファイザー株式会社コーポレートアフェアーズ・ヘルスアンドバリュー本部医療技術・事業性評価部部長）であった。研究生は、石井香織、請園正敏（～11.30）、大槻露華、川島友子、後藤玲央、早田暁伸、寺尾真実、西岡玄太郎、渡辺恭江であった。科研費研究助手は、松谷真由美、村松浩美であった。

Ⅱ. 研究活動

(1) 実験動物を利用した研究

分子精神薬理研究室では、光遺伝学等の最先端の神経回路研究手法を駆使して、精神疾患の病態研究を進めている。統合失調症ではノンレム睡眠中に観察されるスピンドル波発生の著しい異常が観察されている。そこで、スピンドル波発生に重要な視床網様核の神経活動を操作可能なモデルマウスを用いて、統合失調症の病態仮説に関する研究を進めている。研究成果は、基礎研究から得られた知見をベッドサイド、ひいては日常臨床へと相互にトランスレーションするための基盤となる。

向精神薬研究開発室では、新規向精神薬候補化合物の基礎研究開発を進めている。イオンチャンネル型グルタミン酸受容体の一つである NMDA 受容体は、神経細胞の増殖・分化・移動を調節しており、新生仔期のラットに NMDA 受容体拮抗薬を投与すると多様な神経解剖学的変化およびドーパミン過剰を含む神経化学的变化を生じる。新生仔期 NMDA 受容体遮断ラットは、感覚運動ゲーティングの障害や、社会行動の異常、ドーパミン作動薬への過感受性、空間学習障害などの統合失調症に類似する行動異常を示すことから、統合失調症の神経発達障害仮説に基づいた有力な動物モデルと目されている。

また、当研究部では様々なモデル動物を用いた研究を進めている。令和二年度には、國石 洋リサーチフェローらの論文が *Transl Psychiatry* 誌に、中武優子研究員らの論文が *Neurosci Res* 誌及び *Sci Rep* 誌に掲載された。神経研究所疾病研究第四部との共同研究の成果として橋本興人研究員による論文が *Brain Behav Immun* 誌に、神経研究所病態生化学研究部との共同研究の成果として堀啓室長らの論文が *iScience* 誌に掲載された。これらの知見を前臨床薬効薬理試験にトランスレーションすることで、これまで困難とされてきた向精神薬の創薬研究をより合理的に進めることができるものと期待される。

(2) 臨床研究

精神薬理研究部では、実臨床の改善の基礎となる臨床研究を実施している。

- ・DEPRESSD Project：カナダ McGill 大学の Brett D. Thombs 教授が主宰する国際共同研究である DEPRESSD Project では、システマティックレビューにより作成された大型データベースについて、参加者個人のデータ（Individual Participant Data）に基づくメタ解析を行い、うつ病スクリーニング評価指標の標準化に資する研究を進めている。現在、副次解析研究が精力的に続けられている。令和二年度には、JAMA 誌や Psychol Med 誌にその成果が原著論文として掲載された。DEPRESSD Project から得られたエビデンスが日々の診療に役立つことが期待されている。
- ・SUN◎D study：古川壽亮客員研究員が主宰する研究プロジェクトである SUN◎D study は、うつ病の最適薬物治療戦略確立を目指して実施された 2,000 症例規模の実践的多施設共同無作為化比較試験である。令和二年度には、J Affect Disord 誌等に二次解析研究の成果が原著論文として掲載された。SUN◎D study から得られたエビデンスが日々の診療に役立つことが期待されている。
- ・FLATT study：古川壽亮客員研究員が主宰する研究プロジェクトである FLATT study は、薬物治療抵抗性うつ病に対するモバイル認知行動療法の効果を検証する無作為割り付け比較試験である。令和二年度には、Innov Clin Neurosci 誌に二次解析研究の成果が原著論文として掲載された。FLATT study から得られたエビデンスが日々の診療に役立つことが期待されている。
- ・HOPE Project：精神疾患を伴う自殺未遂者ケアに関する先行研究の再評価、精神疾患を伴う自殺未遂者に対するケース・マネジメントの効果についての検討、ケース・マネジメント手法の標準化と人材育成プログラムの事業化に関する研究を進めている。令和二年度には、日本自殺予防学会による「The HOPE program standards(英語版)」を改訂した。また、J Affect Disord 誌や Psychiatry Clin Neurosci 誌にその成果が原著論文として掲載された。諸外国においても、救急医療施設を起点とした自殺未遂者支援の輪が広がればと期待している。
- ・Public Health Research Project：米本直裕客員研究員は複数の Public Health Research Project に参画している。令和二年度には、Lancet 誌、Lancet Glob Health 誌、Nature Med 誌等にその成果が原著論文として掲載された。

Ⅲ. 社会的活動に関する評価

(1) 市民社会に対する一般的な貢献

市民講座、保健所、地方自治団体等による講演会、マスメディア等にて普及啓発活動を行った。

(2) 専門教育面における貢献

- ・東京理科大学薬学部より学部生及び大学院生を受け入れ指導した。
- ・日本精神神経薬理学会認定医・指導医・治験登録医・日本臨床薬理学会認定医として、昭和大学において精神医学の教育活動を実施。（山田光彦）

(3) 保健医療行政政策に関連する研究・調査、委員会等への貢献

- ・厚生労働省自殺未遂者等支援拠点医療機関整備事業評価委員会委員。（山田光彦）
- ・厚生労働省被災3県心のケア総合支援調査研究等事業評価委員会委員。（山田光彦）
- ・厚生労働省健康増進総合支援システム（e-ヘルスネット）情報専門委員会委員。（山田光彦）
- ・診療報酬評価「自殺企図の患者に対する継続的な指導の評価」の算定要件となる研修会（日本自殺予防学会主催）を初めてのリモート研修会として WEB 開催。（山田光彦）

(4) センター内における臨床的活動

日本臨床精神神経薬理学会専門医制度の研修施設である NCNP 病院において専門医・指導医として、病院レジデント等への教育及び指導を実施。（山田光彦）

IV. 研究業績

A. 刊行物

(1) 原著論文

- 1) He C, et al. (Yamada M): The Accuracy of the Patient Health Questionnaire-9 Algorithm for Screening to Detect Major Depression: An Individual Participant Data Meta-Analysis. *Psychother Psychosom* 89(1):25-37, 2020.
- 2) Kuniishi H, Yamada D, Wada K, Yamada M, Sekiguchi M: Stress induces insertion of calcium-permeable AMPA receptors in the OFC-BLA synapse and modulates emotional behaviours in mice. *Transl Psychiatry* 10(1):154, 2020.
- 3) Hori K, Yamashiro K, Nagai T, Shan W, Egusa SF, Shimaoka K, Kuniishi H, Sekiguchi M, Go Y, Tatsumoto S, Yamada M, Shiraishi R, Kanno K, Miyashita S, Sakamoto A, Abe M, Sakimura K, Sone M, Sohya K, Kunugi H, Wada K, Yamada M, Yamada K, Hoshino M: AUTS2 Regulation of Synapses for Proper Synaptic Inputs and Social Communication. *iScience* 23(6):101183, 2020.
- 4) Kawashima Y, Yonemoto N, Kawanishi C, Otsuka K, Mimura M, Otaka Y, Okamura K, Kinoshita T, Shirakawa O, Yoshimura R, Eto N, Hashimoto S, Tachikawa H, Furuno T, Sugimoto T, Ikeshita K, Inagaki M, Yamada M: Two-day assertive-case-management educational program for medical personnel to prevent suicide attempts: A multicenter pre-post observational study. *Psychiatry Clin Neurosci* 74(6):362-370, 2020.
- 5) Wu Y, et al. (Yamada M): Equivalency of the diagnostic accuracy of the PHQ-8 and PHQ-9: a systematic review and individual participant data meta-analysis. *Psychol Med* 50(8):1368-1380, 2020.
- 6) Levis B, et al. (Yamada M): Accuracy of the PHQ-2 Alone and in Combination With the PHQ-9 for Screening to Detect Major Depression: Systematic Review and Meta-analysis *JAMA* 323(22):2290-2300, 2020.
- 7) Yoshizawa K, Nakashima K, Tabuchi M, Okumura A, Nakatake Y, Yamada M, Tsuneoka Y, Higashi T: Benzothiazepines, diltiazem and JTV-519, exert an anxiolytic-like effect via neurosteroid biosynthesis in mice. *J Pharmacol Sci* 143(3):234-237, 2020.
- 8) Imai H, Yamada M, Inagaki M, Watanabe N, Chino B, Mantani A, Furukawa TA: Behavioral Activation Contributed to the Total Reduction of Depression Symptoms in the Smartphone-based Cognitive Behavioral Therapy: A Secondary Analysis of a Randomized, Controlled Trial. *Innov Clin Neurosci* 17(7-9):21-25, 2020.
- 9) Nakatake Y, Furuie H, Yamada M, Kuniishi H, Ukezono M, Yoshizawa K, Yamada M: The effects of emotional stress are not identical to those of physical stress in mouse model of social defeat stress. *Neurosci Res* 158:56-63, 2020.
- 10) Furukawa TA, Debray TPA, Akechi T, Yamada M, Kato T, Seo M, Efthimiou O: Can personalized treatment prediction improve the outcomes, compared with the group average approach, in a randomized trial? Developing and validating a multivariable prediction model in a pragmatic megatrial of acute treatment for major depression. *J Affect Disord* 274:690-697, 2020.
- 11) Nakatake Y, Furuie H, Ukezono M, Yamada M, Yoshizawa K, Yamada M: Indirect exposure to socially defeated conspecifics using recorded video activates the HPA axis and reduces reward sensitivity in mice. *Sci Rep* 10(1):16881, 2020.
- 12) Benedetti A, Levis B, Rücker G, Jones HE, Schumacher M, Ioannidis JPA, Thombs B: DEPRESSion Screening Data (DEPRESSD) Collaboration (Yamada M): An empirical comparison of three methods for multiple cutoff diagnostic test meta-analysis of the Patient

- Health Questionnaire-9 (PHQ-9) depression screening tool using published data vs individual level data. *Res Synth Methods* 11(6):833-848, 2020.
- 13) Hashimoto O, Kuniishi H, Nakatake Y, Yamada M, Wada K, Sekiguchi M: Early life stress from allergic dermatitis causes depressive-like behaviors in adolescent male mice through neuroinflammatory priming. *Brain Behav Immun* 90:319-331, 2020.
 - 14) Wu Y, Levis B, Ioannidis JPA, Benedetti A, Thombs BD; DEPRESSion Screening Data (DEPRESSD) Collaboration. et al (Yamada M): Probability of Major Depression Classification Based on the SCID, CIDI and MINI Diagnostic Interviews: A Synthesis of Three Individual Participant Data Meta-Analyses. *Psychother Psychosom* 90(1):28-40, 2021.
 - 15) Okamura K, Komori T, Sugimoto M, Kawashima Y, Yamada M, Kishimoto T: Implementation of evidence-based intervention for suicidal patients admitted to the emergency department: Implications from our real-world experience of assertive case management. *Psychiatry Clin Neurosci* 75(3):108-109, 2021.
 - 16) Kojima S, Michikawa T, Matsui K, Ogawa H, Yamazaki S, Nitta H, Takami A, Ueda K, Tahara Y, Yonemoto N, Nonogi H, Nagao K, Ikeda T, Sato N, Tsutsui H; Japanese Circulation Society With Resuscitation Science Study (JCS-ReSS) Group: Association of Fine Particulate Matter Exposure With Bystander-Witnessed Out-of-Hospital Cardiac Arrest of Cardiac Origin in Japan. *JAMA Netw Open* 3(4):e203043, 2020.
 - 17) Yadgir S, et al. (Yonemoto N): Global Burden of Disease Study 2017 Nonrheumatic Valve Disease Collaborators: Global, Regional, and National Burden of Calcific Aortic Valve and Degenerative Mitral Valve Diseases, 1990-2017. *Circulation* 141(21):1670-1680, 2020.
 - 18) LBD Double Burden of Malnutrition Collaborators (Yonemoto N): Mapping local patterns of childhood overweight and wasting in low- and middle-income countries between 2000 and 2017. *Nat Med* 26(5):750-759, 2020.
 - 19) Yada Y, Ohkuchi A, Otsuki K, Goishi K, Takahashi M, Yonemoto N, Saito S, Kusuda S; Survey Group Studying the Effects of Tocolytic Agents on Neonatal Adverse Events in Japan Society of Perinatal and Neonatal Medicine: Synergic interaction between ritodrine and magnesium sulfate on the occurrence of critical neonatal hyperkalemia: A Japanese nationwide retrospective cohort study. *Sci Rep* 10(1):7804, 2020.
 - 20) Norimoto K, Ikeshita K, Kishimoto T, Okuchi K, Yonemoto N, Sugimoto T, Chida F, Shimoda S, Hirayasu Y, Kawanishi C: Effect of assertive case management intervention on suicide attempters with comorbid Axis I and II psychiatric diagnoses: secondary analysis of a randomised controlled trial. *BMC Psychiatry* 20(1):311, 2020.
 - 21) Local Burden of Disease Diarrhoea Collaborators (Yonemoto N): Mapping geographical inequalities in childhood diarrhoeal morbidity and mortality in low-income and middle-income countries, 2000-17: analysis for the Global Burden of Disease Study 2017. *Lancet* 395(10239):1779-1801, 2020.
 - 22) GBD Chronic Respiratory Disease Collaborators (Yonemoto N): Prevalence and attributable health burden of chronic respiratory diseases, 1990-2017: a systematic analysis for the Global Burden of Disease Study 2017. *Lancet Respir Med* 8(6):585-596, 2020.
 - 23) Tsujii N, Shirakawa O, Niwa A, Yonemoto N, Kawanishi C, Yamamoto K, Sugimoto T, Hirayasu Y: Hopelessness is associated with repeated suicidal behaviors after discharge in patients admitted to emergency departments for attempted suicide. *J Affect Disord* 272:170-175, 2020.
 - 24) Yonemoto N, Suzuki S, Sekizawa A, Hoshi S, Sagara Y, Itabashi K: Implementation of nationwide screening of pregnant women for HTLV-1 infection in Japan: analysis of a

- repeated cross-sectional study. BMC Public Health 20(1):1150, 2020.
- 25) Naito H, Yumoto T, Yorifuji T, Tahara Y, Yonemoto N, Nonogi H, Nagao K, Ikeda T, Sato N, Tsutsui H: Improved outcomes for out-of-hospital cardiac arrest patients treated by emergency life-saving technicians compared with basic emergency medical technicians: A JCS-ReSS study report. Resuscitation 153:251-257, 2020.
 - 26) Local Burden of Disease Diarrhoea Collaborators (Yonemoto N): Mapping geographical inequalities in oral rehydration therapy coverage in low-income and middle-income countries, 2000-17. Lancet Glob Health 8(8):e1038-e1060, 2020.
 - 27) Local Burden of Disease WaSH Collaborators (Yonemoto N): Mapping geographical inequalities in access to drinking water and sanitation facilities in low-income and middle-income countries, 2000-17. Lancet Glob Health 8(9):e1162-e1185, 2020.
 - 28) Local Burden of Disease 2019 Neglected Tropical Diseases Collaborators (Yonemoto N): The global distribution of lymphatic filariasis, 2000-18: a geospatial analysis. Lancet Glob Health 8(9):e1186-e1194, 2020.
 - 29) Global Burden of Disease Health Financing Collaborator Network (Yonemoto N): Health sector spending and spending on HIV/AIDS, tuberculosis, and malaria, and development assistance for health: progress towards Sustainable Development Goal 3. Lancet 5:11396(10252): 693-724, 2020.
 - 30) James SL, et al. (Yonemoto N): Global injury morbidity and mortality from 1990 to 2017: results from the Global Burden of Disease Study 2017. Inj Prev 26(Supp 1):i96-i114, 2020.
 - 31) James SL, et al. (Yonemoto N): Estimating global injuries morbidity and mortality: methods and data used in the Global Burden of Disease 2017 study. Inj Prev 26(Supp 1):i125-i153, 2020.
 - 32) Haagsma JA, et al. (Yonemoto N): Burden of injury along the development spectrum: associations between the Socio-demographic Index and disability-adjusted life year estimates from the Global Burden of Disease Study 2017. Inj Prev 26(Supp 1):i12-i26, 2020.
 - 33) Franklin RC, et al. (Yonemoto N): The burden of unintentional drowning: global, regional and national estimates of mortality from the Global Burden of Disease 2017 Study. Inj Prev 26(Supp 1):i83-i95, 2020.
 - 34) GBD 2019 Universal Health Coverage Collaborators (Yonemoto N): Measuring universal health coverage based on an index of effective coverage of health services in 204 countries and territories, 1990-2019: a systematic analysis for the Global Burden of Disease Study 2019. Lancet 396(10258):1250-1284, 2020.
 - 35) GBD 2019 Viewpoint Collaborators (Yonemoto N): Five insights from the Global Burden of Disease Study 2019. Lancet 396(10258):1135-1159, 2020.
 - 36) GBD 2019 Diseases and Injuries Collaborators (Yonemoto N): Global burden of 369 diseases and injuries in 204 countries and territories, 1990-2019: a systematic analysis for the Global Burden of Disease Study 2019. Lancet 396(10258):1204-1222, 2020.
 - 37) GBD 2019 Risk Factors Collaborators (Yonemoto N): Global burden of 87 risk factors in 204 countries and territories, 1990-2019: a systematic analysis for the Global Burden of Disease Study 2019. Lancet 396(10258):1223-1249, 2020.
 - 38) GBD 2019 Demographics Collaborators (Yonemoto N): Global age-sex-specific fertility, mortality, healthy life expectancy (HALE), and population estimates in 204 countries and territories, 1950-2019: a comprehensive demographic analysis for the Global Burden of Disease Study 2019. Lancet 396(10258):1160-1203, 2020.
 - 39) GBD-NHLBI-JACC Global Burden of Cardiovascular Diseases Writing Group (Yonemoto

- N): Global Burden of Cardiovascular Diseases and Risk Factors, 1990-2019: Update From the GBD 2019 Study. J Am Coll Cardiol 76(25):2982-3021, 2020.
- 40) Local Burden of Disease Vaccine Coverage Collaborators (Yonemoto N): Mapping routine measles vaccination in low- and middle-income countries. Nature 589(7842):415-419, 2021.
 - 41) GBD 2019 Blindness and Vision Impairment Collaborators; Vision Loss Expert Group of the Global Burden of Disease Study (Yonemoto N): Causes of blindness and vision impairment in 2020 and trends over 30 years, and prevalence of avoidable blindness in relation to VISION 2020: the Right to Sight: an analysis for the Global Burden of Disease Study. Lancet Glob Health 9(2):e144-e160, 2021.
 - 42) GBD 2019 Hearing Loss Collaborators (Yonemoto N): Hearing loss prevalence and years lived with disability, 1990-2019: findings from the Global Burden of Disease Study 2019. Lancet 397(10278):996-1009, 2021.
 - 43) Itabashi K, Miyazawa T, Nerome Y, Sekizawa A, Moriuchi H, Saito S, Yonemoto N: Issues of infant feeding for postnatal prevention of human T-cell leukemia/lymphoma virus type-1 mother-to-child transmission. Pediatr Int 63(3):284-289, 2021.

(2) 総説

- 1) 川島義高, 米本直裕, 稲垣正俊, 山田光彦: 一般救急医療を受診した自殺未遂患者の特徴. 自殺予防と危機介入 40(2): 43-46, 2020.
- 2) 山田光彦: HOPE Program Standards 英文標準ガイド update v1.1, 日本自殺予防学会 (WEB公開), 2020.
- 3) 國石 洋, 関口正幸, 山田光彦: ストレス関連疾患への眼窩前頭皮質の寄与—ストレスによる眼窩前頭皮質—扁桃体回路の可塑的变化—. 日本薬理学雑誌 156(2): 62-65, 2021.
- 4) 三輪秀樹, 平野羊嗣: 統合失調症におけるトランスレータブル脳指標としてのガンマ帯域オシレーションとノンレム睡眠スピンドル波. 日本生物学的精神医学会誌 31(4): 190-200, 2020.
- 5) 川島義高: 新型コロナウイルス感染拡大状況下における医療従事者のメンタルヘルスとその対策に関連する文献紹介. 患者安全推進ジャーナル 61: 37-40, 2020.

(3) 著書

- 1) Osanai M, Miwa H, Tamura A, Kikuta S, Iguchi Y, Yanagawa Y, Kobayashi K, Katayama N, Tanaka T, Mushiake H: Multimodal Functional Analysis Platform: 1. Ultrathin Fluorescence Endoscope Imaging System Enables Flexible Functional Brain Imaging. Adv Exp Med Biol 1293:471-479, 2021.

(4) その他

- 1) 山田光彦, 東 洋一郎: 特集: 脳神経疾患の新規治療的標的を探る. (序文) 日本薬理学雑誌 156(2):61, 2021.03.

B. 学会・研究会における発表

- (1) 学会特別講演, 教育講演, シンポジウム, ワークショップ, パネルディスカッション等
 - 1) Yamada M: Dissemination and implementation of evidence-based practice for the prevention of suicide among patients admitted to emergency department. 2020 IASP Asia Pacific Conference, Taipei(Online), 2020.11.23-24.
 - 2) 森尾保徳, 石郷岡 純, 井上 猛, 橋本謙二, 山田光彦: JSNP シンポジウム: “仮想” トランスレーショナル・メディカルサイエンス委員会諮問会議. NPBPPP2020 合同年会 (第 50 回日本神経精神薬理学会年会・第 42 日本生物学的精神薬理学会年会・第 4 回日本精神薬学会・学術

集会(オンライン), 2020.8.21-23.

- 3) 栗山健一, 山田光彦, 住吉太幹, 井上 猛: 睡眠薬の適応拡大可能性についての検討. NPBPPP2020 合同年会 (第 50 回日本神経精神薬理学会年会・第 42 日本生物学的精神薬理学会年会・第 4 回日本精神薬学会・学術集会(オンライン), 2020.8.21-23.
- 4) 山田光彦: シンポジウム 10 他のラボをのぞいてみよう! 「精神薬理研究部へようこそ!」. 第 30 回日本臨床精神神経薬理学会学術集会(オンライン), 東京, 2021.1. 9-10.

(2) 一般演題

- 1) Kuniishi H, Yamada D, Wada K, Yamada M, Sekiguchi M: Stress alters postsynaptic properties in the OFC-BLA pathway and modulates emotional behaviors in mice. FENS Forum 2020, Glasgow (Online), 2020.7.14.
- 2) Kuniishi H, Nakatake Y, Wada K, Yamada M, Sekiguchi M: Adolescent social isolation disrupts synaptic transmission in medial orbitofrontal cortex-basolateral amygdala pathway and social behavior in mice. 第 43 回日本神経科学大会, 神戸(オンライン), 2020.7.29-8.1.
- 3) Kawashima Y, Sakakibara S, Ishida W, Ueno M, Sone H, Yonemoto N, Kanazawa Y, Yamada M: Skills required for emergency paramedics who contact with the patients immediately after their suicide attempts: A consensual qualitative study. 2020 IASP Asia Pacific Conference (online). Taipei, 2020.11.23-24.
- 4) Tsuyama Y, Ishii T, Narita K, Iwaki A, Akiko M, Yamada M, Kawanishi C: Implementation of the evidence-based assertive case management program for suicide attempters in Japan. 2020 IASP Asia Pacific Conference (online). Taipei, 2020.11.23-24.
- 5) Kuniishi H, Sekiguchi M, Yamada M: Adolescent social isolation induced classifiable effects on synaptic transmissions in medial and lateral OFC-BLA pathways. 第 94 回日本薬理学会年会, 北海道(オンライン), 2021.3.8-10.
- 6) Kobayashi M, Furuie H, Miwa H, Yamada M, Yamada M: Reduced expression of NMDA receptors (NR2A and NRB2) in the hippocampus of WD repeat domain 3 gene hetero knockout mice. 第 94 回日本薬理学会年会, 北海道(オンライン), 2021.3.8-10.
- 7) Nakatake Y, Furuie H, Ukezono M, Yamada M, Yoshizawa K, Yamada M: Development of a novel stress model using a video-recorded scene of the social defeat stress in mice. 第 94 回日本薬理学会年会, 北海道(オンライン), 2021.3.8-10.
- 8) 橋本興人, 國石 洋, 山田光彦, 和田圭司, 関口正幸: 乳幼児期のアレルギー性皮膚炎によるストレスは思春期での全身性炎症による脳内の炎症反応の感受性を亢進させる. 第 43 回日本神経科学大会, 神戸(オンライン), 2020.7.29-8.1.
- 9) 橋本泰昌, 國石 洋, 和田圭司, 武田伸一, 関口正幸, 青木吉嗣: 脳ジストロフィン・短アイソフォーム欠損は、マウス扁桃体 E/I バランスの崩れを生じさせる. 第 43 回日本神経科学大会, 神戸(オンライン), 2020.7.29-8.1.
- 10) 古家宏樹, 山田光彦: 新生仔期 MK-801 慢性投与ラットにおけるプレパルス抑制の障害. NPBPPP2020 合同年会 (第 50 回日本神経精神薬理学会年会・第 42 日本生物学的精神薬理学会年会・第 4 回日本精神薬学会・学術集会(オンライン), 2020.8.21-23.
- 11) 山田光彦, 古家宏樹, 三輪秀樹, 中武優子, 寺尾真実, 澤 幸祐: 実験動物を用いて運動主体感のメカニズムに迫る. 第 116 回日本精神神経学会学術総会, 仙台(ハイブリッド), 2020.28-30.
- 12) 川島義高, 米本直裕, 稲垣正俊, 井上佳祐, 河西千秋, 山田光彦: がん患者の自殺予防に関する先行介入研究. 第 33 回総合病院精神医学会, 東京 (オンライン), 2020. 12. 7-13.
- 13) 川島義高, 日野耕介, 井上佳祐, 高井美智子, 川本静香, 大高靖史, 小高真美, 米本直裕, 山田光彦: One day 専門職連携教育プログラムの効果研究: パイロット試験. 第 33 回総合病院精

神医学会, 東京 (オンライン), 2020. 12. 7-13.

- 14) 山田光彦: 今そこにある危機 新規向精神薬の開発戦略を議論しよう. 薬物・精神・行動の会, 東京 (オンライン), 2020. 12. 11.
- 15) 川島義高, 榊原佐和子, 上野まどか, 曾根英恵, 石田 航, 米本直裕, 金沢吉展, 山田光彦: 自殺・自殺未遂者への対応場面において救急隊員が直面する困難の概念化 -Consensual Qualitative Research 法を用いた質的研究-. 第 40 回日本社会精神医学会, 東京 (オンライン), 2021. 3. 4-5.

(3) 研究報告会

- 1) Kuniishi H, Yamada M, Sekiguchi M: Adolescent social isolation induces dissociable effects on synaptic transmissions in medial and lateral OFC-BLA pathways, and altered social and emotional behaviors in mice. The 42th Annual Scientific Meeting National Institute of Neuroscience National Center of Neurology and Psychiatry, 2021.3.16.
- 2) 三輪秀樹, 山田光彦: バルブアルブミン陽性細胞特異的 GAD67 欠損マウスの機能解析-海馬未成熟化顆粒細胞と小脳バスケット細胞軸策走行異常-. 令和 2 年度 精神・神経疾患研究開発費 (30-9) (web 班会議), 東京, 2020.12.10.
- 3) 古家宏樹, 國石 洋, 山田光彦: ラットの統合失調症様行動の形成過程における NMDA 受容体の時期特異的関与. 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 令和元年度研究報告会 (オンライン), 東京, 2020.12.21.
- 4) 中武優子, 古家宏樹, 山田美佐, 國石 洋, 吉澤一巳, 山田光彦: 心理的ストレスに焦点を当てた新規慢性ストレスモデルの確立とその評価. 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 令和元年度研究報告会(オンライン), 東京, 2020.12.21.
- 5) 三輪秀樹, 山田光彦: GABA 仮説に基づく統合失調症モデルマウスにおける海馬歯状回顆粒細胞の未成熟化について. 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 令和 2 年度研究報告会(オンライン), 東京, 2021.3.15.
- 6) 國石 洋, 関口正幸, 山田光彦: 幼少期の社会隔離ストレスはマウスの情動行動と眼窩前頭皮質・扁桃体経路のシナプス伝達異常を引き起こす. 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 令和 2 年度研究報告会(オンライン), 東京, 2021.3.15.
- 7) 中武優子: ストレス場面の”目撃”を利用したマウスの心理的ストレス負荷モデル. ストレス研究会(zoom), 東京, 2020.8.26.

(4) その他

- 1) 中武優子: 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 令和元年度研究報告会(オンライン), 東京, 2020.12.21. 若手奨励賞受賞
- 2) 國石 洋: 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 令和 2 年度研究報告会(オンライン), 東京, 2021.3.15. 若手奨励賞受賞

C. 学会活動

(1) 学会役員

- 1) 山田光彦: 日本薬理学会 評議員
- 2) 山田光彦: 日本臨床精神神経薬理学会 評議員
- 3) 山田光彦: 日本うつ病学会 評議員
- 4) 山田光彦: 日本神経精神薬理学会 評議員
- 5) 山田光彦: 日本神経精神薬理学会トランスレーショナル・メディカルサイエンス委員会 委員
- 6) 山田光彦: 日本神経精神薬理学会薬事委員会 委員
- 7) 山田光彦: 日本自殺予防学会 継続支援研修委員会 委員

8) 山田光彦：躁うつ病の薬理生化学的研究懇話会幹事

(2) 座長

- 1) 山田光彦：“仮想”トランスレーショナル・メディカルサイエンス委員会諮問会議・NPBPPP2020 合同年会（第 50 回日本神経精神薬理学会年会・第 42 日本生物学的精神薬理学会年会・第 4 回日本精神薬学会・学術集会(オンライン)，2020.8.21-23.
- 2) 山田光彦：国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 令和元年度研究報告会(オンライン)，東京，2020.12.21.
- 3) 山田光彦：国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 令和 2 年度研究報告会(オンライン)，東京，2021.3.15.

(3) 学会誌編集委員等

- 1) 山田光彦：分子精神医学 編集同人

D. 研修

(1) 研修企画

- 1) 診療報酬評価「自殺企図の患者に対する継続的な指導の評価」の算定要件となる「自殺再企図防止のための救急患者精神科継続支援研修会（日本自殺予防学会主催）」について，コロナ禍における初めてのリモート研修会として企画し WEB 開催した（2021.2.20-21）.

(2) 研修会講師

- 1) 診療報酬評価「自殺企図の患者に対する継続的な指導の評価」の算定要件となる「自殺再企図防止のための救急患者精神科継続支援研修会（日本自殺予防学会主催）」において研修会講師・ファシリテーターを務めた（2021.2.20-21）.

E. その他

- 1) 精神薬理研究部：操作して知る，脳の神経回路の役割と精神疾患とのつながり．世界脳週間 2020 オンライン(zoom 開催)，東京，2021.3.13.

7. 精神疾患病態研究部

I. 研究部の概要

精神疾患病態研究部では、精神疾患の克服とその障害の支援のための先駆的研究活動を展開している。精神疾患の生物学的な研究と精神科治療ガイドラインの普及・教育・検証活動をより発展させて全国レベルで展開することを目標としている。精神疾患の生物学的な研究は、認知社会機能、脳神経画像、神経生理機能などの中間表現型及びゲノムなどの生体試料を用いて、統合失調症、気分障害、発達障害などの幅広い精神疾患について疾患横断的に検討することにより、病態を解明し、新たな診断法・治療法の開発を行っている。この研究は、当研究部においてのみ行うものではなく、国立精神・神経医療研究センターの他の研究部門および日本全国 39 の精神疾患関連研究機関の共同研究体制である COCORO (Cognitive Genetics Collaborative Research Organization: 認知ゲノム共同研究機構) を運営しオールジャパン体制で遂行している。精神科治療ガイドラインの普及・教育・検証活動は、EGUIDE プロジェクト (Effectiveness of GUIDeline for Dissemination and Education in psychiatric treatment: 精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究) という全国 44 大学を含む 215 医療機関の共同研究組織を牽引し、全国でガイドラインの講習を行い、その効果検証を行っている。

令和 2 年度の人員構成は次のとおりである。部長: 橋本亮太, 室長: 三浦健一郎, 松本純弥, リサーチフェロー: 長谷川尚美, 科研費心理療法士: 野沢衣那, 佐藤千嘉子, 田村友里江, 科研費研究補助員: 木村哲也, 草野絢子, 山縣眞美子, 細谷多栄子, 島田園子, 松本愛奈, 高村晶子, 研究助手: 山口綾子, 大重満津子, 併任研究員: 久保田智香, 三浦拓人, 佐藤英樹, 宮川 希, 柏木宏子, 竹田康二, 高野晴成, 外来研究員 7 名, 客員研究員 55 名, 研究生 15 名。

II. 研究活動

A. 精神疾患の病態解明と診断法・治療法の開発研究

1) 精神疾患の脳神経画像研究 (松本, 三浦, 橋本)

統合失調症を中心に三次元脳構造画像解析, 拡散テンソル画像解析, 安静時機能的 MRI 解析などを行い, 今年度は 11 編の論文成果があった。そのうち, 国際的な脳神経画像の巨大コンソーシアムである ENIGMA との共同研究は 5 編であった。COCORO の多施設共同研究にて統合失調症, 双極性障害, うつ病, 自閉スペクトラム症, 健常者合わせて 2937 例の拡散テンソル画像のメガアナリシスを行い, 統合失調症と双極性障害の共通の脳白質の微小構造異常を見出した (橋本, Koshiyama et al, Mol Psychiatry, 2020)。統合失調症の認知機能障害の脳構造特徴として大脳皮質厚の菲薄化などがあることを明らかにし, 認知機能が保たれている統合失調症では側坐核と前頭葉の機能的結合性が強いことから, 報酬系である中脳皮質辺縁経路が認知機能保持に働く可能性が示唆された。本研究は Psychiatry Clinical Neurosciences 誌に掲載され, 2020 年度のフォリア賞を受賞した。

2) 精神疾患の眼球運動研究 (三浦, 松本, 橋本)

統合失調症を中心にフリービューイング課題, 滑動性追跡眼球運動課題, 注視課題などから得られた眼球運動の特徴および眼球運動異常を示す眼球運動スコアの解析や, その神経基盤を明らかにするための基礎研究などを行い, 総説を含める今年度は 6 編の論文成果があった。統合失調症の患者における前に見た場所を再び見ることを避ける復帰抑制と呼ばれる視覚的注意の機能を検討した。その結果, 統合失調症では復帰抑制機能の低下が認められ, それは視覚的注意の障害とそれに伴う認知機能低下を検出する有用な手がかりになると考えられた。

3) 認知社会機能プロジェクト（橋本，松本，三浦，伊藤）

広く診療で使えるような統合失調症の認知機能障害の簡便な測定法を開発し，2000 例程度のデータを COCORO にて集積して解析し，普及のため各地で講習会などを行っている．認知機能障害は，簡略版 WAIS で測定する推定知能と Japanese Adult Reading Test (JART) で測定する推定病前知能の差にて算出したものである．社会機能については，社会活動評価 (Social activity assessment: SAA) にて，労働時間を賃金労働時間，家庭での労働 (家事・育児・介護)，学業 (学生の場合) の 3 つの側面の合計にて測定している．健常者において労働時間と拡散テンソル画像による大脳白質の微細構造との関連を検討し，労働時間が短いほうが大脳白質の微細構造の乱れが強いことを見出した．よって，大脳白質の微細構造の乱れは労働能力の指標となる可能性が示唆された (松本，橋本，三浦，et al, Neuroscience letters, 2021)．

4) 精神疾患の分子メカニズム研究（橋本，松本）

統合失調症をはじめとする精神疾患についての血中バイオマーカーに関する研究を行い 3 編の研究結果が得られた．シナプス可塑性を調節する Matrix metalloproteinase-9 (MMP 9) の血漿中濃度を測定すると，健常者と比較して統合失調症では優位に高かった．また，この MMP9 の血中濃度は認知機能と有意に負の相関があることから，MMP-9 レベルの増加が統合失調症の認知機能障害に関連する可能性が示唆された (橋本，Kudo, Neuropsychopharmacology Reports, 2020)．

5) 司法精神医学領域の生物学的研究（柏木，竹田，三浦，松本，橋本）

暴力の既往のある統合失調症群，暴力の既往のない統合失調症群，健常者データ 1600 例以上を COCORO データベースから抽出し，認知機能，精神病理，社会機能，QOL 等について解析し，暴力群における認知・精神病理・社会機能・QOL 特徴を見出し，論文投稿中である．犯罪被害者となったてんかん患者の判決文データベース調査を行い，論文投稿中である．

6) 精神疾患の遺伝子解析研究（橋本，三浦，松本）

精神疾患の遺伝子解析研究は，一施設で行うことは現実的ではなく，数十～数百の研究チームの共同研究で数千～数万のデータを集積して研究を行うことが主流となってきた．統合失調症の遺伝子解析研究や，気分安定薬であるリチウムの反応性や治療抵抗性統合失調症に唯一適応のあるクロザピンの重篤な副作用である無顆粒球症などの薬理遺伝学的研究，いわゆる画像遺伝学 (imaging genetics) などの共同研究の成果が 8 編得られた．

B. 精神科医療の普及・均てん化に関する研究

1) 精神科治療ガイドラインの普及・教育・検証活動：EGUIDE プロジェクト（長谷川，久保田，三浦健一郎，松本，三浦拓人，佐藤，柏木，橋本）

EGUIDE プロジェクトは，精神科医に対してガイドラインの教育の講習を行い，ガイドラインの効果を検証する社会実証研究である．対象とするガイドラインは，統合失調症薬物治療ガイドラインとうつ病治療ガイドラインであり，日本神経精神薬理学会，日本うつ病学会，日本臨床精神神経薬理学会のバックアップを受けて行っている．2016 年に開始した EGUIDE プロジェクトは，本年度 44 大学 215 医療機関が参加する巨大なプロジェクトになり，毎年 20 回以上の講習会を全国で行い，延べ 2000 名以上の精神科医が講習を受講した．EGUIDE プロジェクトにおける検証活動は，講習受講直後のガイドラインの理解度の向上，その後のガイドラインを遵守した治療行動調査における実践度の向上，処方行動を診療の質 (Quality Indicator: QI) という形で測定し，例えば統合失調症患者の退院時の抗精神病薬単剤治療率というような QI を設定し，経時的に測定することにより，講習の効果の有無についての検討を行い，多数の学会発表を行った．昨年度，たった一日の講習を受けることにより統合失調症とうつ病の両方の

ガイドラインに対する理解度が顕著に向上することを示し、日本の精神医学領域にて広く認知されるようになった。

本年度は、統合失調症及びうつ病の入院患者の退院時処方についての調査を行って報告した (Ichihashi, 長谷川, 三浦, 松本, 橋本, et al, Neuropsychopharmacology Reports, 2000; Iida, 長谷川, 三浦, 松本, 橋本, et al, Psychiatry Clinical Neurosciences, 2000). 統合失調症において抗精神病薬単剤治療が治療ガイドラインにおいて推奨されているが、参加施設全体の抗精神病薬の単剤処方率は 57%であり、施設ごとのばらつきが大きく、0%~100%に分布した。また、抗うつ薬の併用は 8%, 気分安定薬の併用は 37%, 抗不安薬や睡眠薬の併用は 68%であった。うつ病においても抗うつ薬単剤治療が治療ガイドラインにおいて推奨されているが、参加施設全体の抗うつ薬の単剤処方率は 60%であり、施設ごとのばらつきが大きく、0%~100%に分布した。また、抗不安薬や睡眠薬の併用は 72%であり、薬物療法以外では電気けいれん療法施行率は 14%, 認知行動療法実施率は 1%であった。このように、ガイドラインにて推奨されている治療はまだ本邦では普及しておらず、均てん化も不十分であるというエビデンスブランクギャップが明らかになった。今後は、EGUIDE 講習による教育により改善していくことが期待される。

2) 精神科治療ガイドラインの作成・改訂 (橋本)

統合失調症薬物治療ガイドラインを当事者・家族・支援者と共同で改訂をしている。精神科領域では初めての試みであり、他の診療領域においても先進的な取り組みである。うつ病治療ガイドラインの改訂にもかかわっている (橋本)。

Ⅲ. 社会的活動に関する評価

(1) 市民社会に対する一般的な貢献

- 内閣府の科学技術政策にあたる科学技術基本計画の第 6 期科学技術・イノベーション基本計画における活動のひとつである第 5 回国立研究開発法人イノベーション戦略会議の公式ホームページにて、「精神・神経・筋難病の克服を目指した研究開発」の演題にて NCNP の精神部門を代表した研究紹介動画が公開された (橋本)。

(2) 専門教育面における貢献

- 統合失調症やうつ病などのガイドラインの作成を行い、精神科治療ガイドラインの普及・教育・検証活動である EGUIDE プロジェクトも全国展開している。EGUIDE プロジェクトにおいては、統合失調症薬物治療ガイドラインとうつ病治療ガイドラインの講習を全国の精神科医を対象に行い、その医療機関における治療に影響を与えるかどうかについての検討を行い、精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果を検証している。令和 2 年度は、統合失調症薬物治療ガイドラインとうつ病治療ガイドラインの講習を全国 9 か所で行い、49 の医療機関、236 名の精神科医が参加した (橋本)。
- 開発した統合失調症の認知機能障害の簡便な測定法についての講習会を統合失調症学会において行い、評価シートを配布し普及活動を行った (橋本)。
- 国立大学法人大阪大学の医学系研究科および連合小児発達学研究科においては、招へい教授として、奈良県立医科大学においては非常勤講師として、精神医学研究の指導や知見の教授を行っている (橋本)。

(3) 精研の研修の主催と協力

(4) 保健医療行政政策に関連する研究・調査、委員会等への貢献

- クロザピンは治療抵抗性統合失調症に効果のある唯一の抗精神病薬であるが、無顆粒球症な

どの重篤な副作用のリスクが高く諸外国より厳しい規制の下でしか処方できないため、日本では諸外国と比較して極端に普及率が低い。この厳しい規制を諸外国並みにするために、精神疾患病態研究部より発信した研究成果に基づいて、日本精神神経学会、日本神経精神薬理学会、日本臨床精神神経薬理学会、日本統合失調症学会の関連 4 学会合同でクロザピンの検査間隔の延長および血球減少による中止後の再投与に関する要望を厚労省に対して 2021 年 3 月 20 日に行った（橋本）。

- ・ 日本医療機能評価機構の EBM 推進事業である Minds における Minds 診療ガイドラインの有効性評価に関する検討会の委員を務め、ガイドライン作成者向け情報として EGUIDE プロジェクトの内容を「ガイドラインの活用と有効性評価」として作成し、「診療ガイドラインの普及と医療の質向上の評価」について 2020 年 11 月 20 日に提言が公開された（橋本）。

(5) センター内における臨床的活動

- ・ 外来診療において、連携新患、統合失調症外来をそれぞれ週に 1 回の新患枠の診察及び、再診を週に半日行っている。専門として、統合失調症及び発達障害の診療を行い、病院内外からの紹介を受け、セカンドオピニオン対応も行っている（橋本）。

(6) その他

Ⅳ. 研究業績

A. 刊行物

(1) 原著論文

- 1) Koshiyama D, Fukunaga M, Okada N, Morita K, Nemoto K, Usui K, Yamamori H, Yasuda Y, Fujimoto M, Kudo N, Azechi H, Watanabe Y, Hashimoto N, Narita H, Kusumi I, Ohi K, Shimada T, Kataoka Y, Yamamoto M, Ozaki N, Okada G, Okamoto Y, Harada K, Matsuo K, Yamasue H, Abe O, Hashimoto R, Takahashi T, Hori T, Nakataki M, Onitsuka T, Holleran L, Jahanshad N, van Erp TGM, Turner J, Donohoe G, Thompson PM, Kasai K, Hashimoto R, COCORO: Differences in fractional anisotropy between the patients with schizophrenia and healthy comparison subjects. *Mol Psychiatry* 25(4):697-698, 2020.
- 2) Koshiyama D, Fukunaga M, Okada N, Morita K, Nemoto K, Usui K, Yamamori H, Yasuda Y, Fujimoto M, Kudo N, Azechi H, Watanabe Y, Hashimoto N, Narita H, Kusumi I, Ohi K, Shimada T, Kataoka Y, Yamamoto M, Ozaki N, Okada G, Okamoto Y, Harada K, Matsuo K, Yamasue H, Abe O, Hashimoto R, Takahashi T, Hori T, Nakataki M, Onitsuka T, Holleran L, Jahanshad N, van Erp TGM, Turner J, Donohoe G, Thompson PM, Kasai K, Hashimoto R, COCORO: White matter microstructural alterations across four major psychiatric disorders: mega-analysis study in 2937 individuals. *Mol Psychiatry* 25(4):883-895, 2020.
- 3) Biton A, Traut N, Poline JB, Aribisala BS, Bastin ME, Bülow R, Cox SR, Deary IJ, Fukunaga M, Grabe HJ, Hagenaars S, Hashimoto R, Kikuchi M, Muñoz Maniega S, Nauck M, Royle NA, Teumer A, Valdés Hernández M, Völker U, Wardlaw JM, Wittfeld K, Yamamori H; Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative, Bourgeron T, Toro R: Polygenic Architecture of Human Neuroanatomical Diversity. *Cereb Cortex* 30(4):2307-2320, 2020.
- 4) Ohi K, Nishizawa D, Shimada T, Kataoka Y, Hasegawa J, Shioiri T, Kawasaki Y, Hashimoto R, Ikeda K: Polygenetic Risk Scores for Major Psychiatric Disorders Among Schizophrenia Patients, Their First-Degree Relatives, and Healthy Participants. *Int J Neuropsychopharmacol* 23(3):157-164, 2020.
- 5) Writing Committee for the ENIGMA-CNV Working Group, van der Meer D, Sønderby IE, Kaufmann T, Walters GB, Abdellaoui A, Ames D, Amunts K, Andersson M, Armstrong NJ,

- Bernard M, Blackburn NB, Blangero J, Boomsma DI, Brodaty H, Brouwer RM, Bülow R, Cahn W, Calhoun VD, Caspers S, Cavalleri GL, Ching CRK, Cichon S, Ciufolini S, Corvin A, Crespo-Facorro B, Curran JE, Dalvie S, Dazzan P, de Geus EJC, de Zubicaray GI, de Zwarte SMC, Delanty N, den Braber A, Desrivieres S, Di Forti M, Doherty JL, Donohoe G, Ehrlich S, Eising E, Espeseth T, Fisher SE, Fladby T, Frei O, Frouin V, Fukunaga M, Gareau T, Glahn DC, Grabe HJ, Groenewold NA, Gústafsson Ó, Haavik J, Haberg AK, Hashimoto R, (132 名中 53 番目) Hehir-Kwa JY, Hibar DP, Hillegers MHJ, Hoffmann P, Holleran L, Hottenga JJ, Hulshoff Pol HE, Ikeda M, Jacquemont S, Jahanshad N, Jockwitz C, Johansson S, Jönsson EG, Kikuchi M, Knowles EEM, Kwok JB, Le Hellard S, Linden DEJ, Liu J, Lundervold A, Lundervold AJ, Martin NG, Mather KA, Mathias SR, McMahon KL, McRae AF, Medland SE, Moberget T, Moreau C, Morris DW, Mühleisen TW, Murray RM, Nordvik JE, Nyberg L, Olde Loohuis LM, Ophoff RA, Owen MJ, Paus T, Pausova Z, Peralta JM, Pike B, Prieto C, Quinlan EB, Reinbold CS, Reis Marques T, Rucker JJH, Sachdev PS, Sando SB, Schofield PR, Schork AJ, Schumann G, Shin J, Shumskaya E, Silva AI, Sisodiya SM, Steen VM, Stein DJ, Strike LT, Tamnes CK, Teumer A, Thalamuthu A, Tordesillas-Gutiérrez D, Uhlmann A, Úlfarsson MÖ, van 't Ent D, van den Bree MBM, Vassos E, Wen W, Wittfeld K, Wright MJ, Zayats T, Dale AM, Djurovic S, Agartz I, Westlye LT, Stefánsson H, Stefánsson K, Thompson PM, Andreassen OA: Association of Copy Number Variation of the 15q11.2 BP1-BP2 Region With Cortical and Subcortical Morphology and Cognition. *JAMA Psychiatry* 77(4):420-430, 2020.
- 6) Saito T, Ikeda M, Mushiroda T, Iwata N, Clozapine Pharmacogenomics Consortium of Japan (CPC-J): Human leukocyte antigen DRB1*04:05 and clozapine-induced agranulocytosis/granulocytopenia. *Aust N Z J Psychiatry* 54(5):545-546, 2020.
 - 7) Kudo N, Yamamori H, Ishima T, Nemoto K, Yasuda Y, Fujimoto M, Azechi H, Niitsu T, Numata S, Ikeda M, Iyo M, Ohmori T, Fukunaga M, Watanabe Y, Hashimoto K, Hashimoto R: Plasma levels of matrix metalloproteinase-9 (MMP-9) are associated with cognitive performance in patients with schizophrenia. *Neuropsychopharmacol Rep* 40(2):150-156, 2020.
 - 8) Kaneko S, Kato T, Makinodan M, Komori T, Ishida R, Kishimoto N, Takahashi M, Yasuda Y, Hashimoto R, Iwasaka H, Tanaka A, Uchida Y, Kanba S, Kishimoto T: The Self-Constructural Scale: a potential tool for predicting subjective well-being of individuals with autism spectrum disorder. *Autism Res* 13(6):947-958, 2020.
 - 9) Sekiguchi M, Sobue A, Kushima I, Wang C, Arioka Y, Kato H, Kodama A, Kubo H, Ito N, Sawahata M, Hada K, Ikeda R, Shinno M, Mizukoshi C, Tsujimura K, Yoshimi A, Ishizuka K, Takasaki Y, Kimura H, Xing J, Yu Y, Yamamoto M, Okada T, Shishido E, Inada T, Nakatochi M, Takano T, Kuroda K, Amano M, Aleksic B, Yamamoto T, Sakuma T, Aida T, Tanaka K, Hashimoto R, Arai M, Ikeda M, Iwata N, Shimamura T, Nagai T, Nabeshima T, Kaibuchi K, Yamada K, Mori D, Ozaki N: ARHGAP10, which encodes Rho GTPase-activating protein 10, is a novel gene for schizophrenia risk. *Transl Psychiatry* 10(1):247, 2020.
 - 10) Miyanishi H, Uno K, Iwata M, Kikuchi Y, Yamamori H, Yasuda Y, Ohi K, Hashimoto R, Hattori K, Yoshida S, Goto Y, Sumiyoshi T, Nitta A: Investigating DNA methylation of SHATI/NAT8L promoter sites in blood of unmedicated patients with major depressive disorder. *Biol Pharm Bull* 43(7):1067-1072, 2020.
 - 11) Okazaki K, Ota T, Makinodan M, Kishimoto N, Yamamuro, Ishida R, Takahashi M, Yasuda Y, Hashimoto R, Iida J, Kishimoto T: Associations of childhood experiences with event-

- related potentials in adults with autism spectrum disorder. *Sci Rep* 10(1):13447, 2020.
- 12) Ichihashi K, Hori H, Hasegawa N, Yasuda Y, Yamamoto T, Tsuboi T, Iwamoto K, Kishimoto T, Horai T, Yamada H, Sugiyama N, Nakamura T, Tsujino N, Nemoto K, Oishi S, Usami M, Katsumoto E, Yamamori H, Tomita H, Suwa T, Furihata R, Inagaki T, Fujita J, Onitsuka T, Miura K, Matsumoto J, Ohi K, Matsui Y, Takaesu Y, Hashimoto N, Iga J, Ogasawara K, Yamada H, Watanabe K, Inada K, Hashimoto R. Prescription patterns in patients with schizophrenia in Japan: First-quality indicator data from the survey of "Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education in psychiatric treatment (EGUIDE)" project. *Neuropsychopharmacol Rep* 40(3):281-286, 2020.
 - 13) Wong TY, Radua J, Pomarol-Clotet E, Salvador R, Albajes-Eizagirre A, Solanes A, Canales-Rodriguez EJ, Guerrero-Pedraza A, Sarro S, Kircher T, Nenadic I, Krug A, Grotegerd D, Dannlowski U, Borgwardt S, Riecher-Rössler A, Schmidt A, Andreou C, Huber CG, Turner J, Calhoun V, Jiang W, Clark S, Walton E, Spalletta G, Banaj N, Piras F, Ciullo V, Vecchio D, Lebedeva I, Tomyshev AS, Kaleda V, Klushnik T, Filho GB, Zanetti MV, Serpa MH, Penteado Rosa PG, Hashimoto R, (66 名中 38 番目) Fukunaga M, Richter A, Krämer B, Gruber O, Voineskos AN, Dickie EW, Tomecek D, Skoch A, Spaniel F, Hoschl C, Bertolino A, Bonvino A, Di Giorgio A, Holleran L, Ciufolini S, Marques TR, Dazzan P, Murray R, Lamsma J, Cahn W, van Haren N, Díaz-Zuluaga AM, Pineda-Zapata JA, Vargas C, López-Jaramillo C, van Erp TGM, Gur RC, Nickl-Jockschat T: An overlapping pattern of cerebral cortical thinning is associated with both positive symptoms and aggression in schizophrenia via the ENIGMA consortium. *Psychol Med* 50(12):2034-2045, 2020.
 - 14) Matsuoka K, Makinodan M, Kitamura S, Takahashi M, Yoshikawa H, Yasuno F, Ishida R, Kishimoto N, Yasuda Y, Hashimoto R, Taoka T, Miyasaka T, Kichikawa K, Kishimoto T: Increased Dendritic Orientation Dispersion in the Left Occipital Gyrus is Associated with Atypical Visual Processing in Adults with Autism Spectrum Disorder. *Cereb Cortex* 30(11):5617-5625, 2020.
 - 15) Koshiyama D, Fukunaga M, Okada N, Morita K, Nemoto K, Yamashita F, Yamamori H, Yasuda Y, Matsumoto J, Fujimoto M, Kudo N, Azechi H, Watanabe Y, Kasai K, Hashimoto R: Association between the superior longitudinal fasciculus and perceptual organization and working memory: A diffusion tensor imaging study. *Neurosci Lett* 738:135349, 2020.
 - 16) Ohi K, Nishizawa D, Muto Y, Sugiyama S, Hasegawa J, Soda M, Kitaichi K, Hashimoto R, Shioiri T, Ikeda K. Polygenic risk scores for late smoking initiation associated with the risk of schizophrenia. *NPJ Schizophr* 6(1):36, 2020.
 - 17) Ikegame T, Bundo M, Okada N, Murata Y, Koike S, Sugawara H, Saito T, Ikeda M, Owada K, Fukunaga M, Yamashita F, Koshiyama D, Natsubori T, Iwashiro N, Asai T, Yoshikawa A, Nishimura F, Kawamura Y, Ishigooka J, Kakiuchi C, Sasaki T, Abe O, Hashimoto R, Iwata N, Yamasue H, Kato T, Kasai K, Iwamoto K: Promoter Activity-Based Case-Control Association Study on SLC6A4 Highlighting Hypermethylation and Altered Amygdala Volume in Male Patients With Schizophrenia. *Schizophr Bull* 46(6):1577-1586, 2020.
 - 18) Komatsu H, Takeuchi H, Kikuchi Y, Ono C, Yu Z, Iizuka K, Takano Y, Kakuto Y, Funakoshi S, Ono T, Ito J, Kunii Y, Hino M, Nagaoka A, Iwasaki Y, Yamamori H, Yasuda Y, Fujimoto M, Azechi H, Kudo N, Hashimoto R, Yabe H, Yoshida M, Saito Y, Kakita A, Fuse N, Kawashima R, Taki Y, Tomita H: Ethnicity-Dependent Effects of Schizophrenia Risk Variants of the OLIG2 Gene on OLIG2 Transcription and White Matter Integrity. *Schizophr Bull* 1;46(6):1619-1628, 2020.
 - 19) Iida H, Iga J, Hasegawa N, Yasuda Y, Yamamoto T, Miura K, Matsumoto J, Murata A,

- Ogasawara K, Yamada H, Hori H, Ichihashi K, Hashimoto N, Ohi K, Yasui-Furukori N, Tsuboi T, Nakamura T, Usami M, Furihata R, Takaesu Y, Iwamoto K, Sugiyama N, Kishimoto T, Tsujino N, Yamada H, Hishimoto A, Nemoto K, Atake K, Muraoka H, Katsumoto E, Oishi S, Inagaki T, Ito F, Imamura Y, Kido M, Nagasawa T, Numata S, Ochi S, Iwata M, Yamamori H, Fujita J, Onitsuka T, Yamamura S, Makinodan M, Fujimoto M, Takayanagi Y, Takezawa K, Komatsu H, Fukumoto K, Tamai S, Yamagata H, Kubota C, Horai T, Inada K, Watanabe K, Kawasaki H, Hashimoto R: Unmet needs of patients with major depressive disorder -Findings from the 'Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education in Psychiatric Treatment (EGUIDE)' project: A nationwide dissemination, education, and evaluation study. *Psychiatry Clin Neurosci* 74(12):667-669, 2020.
- 20) Stone W, Nunes A, Akiyama K, Akula N, Ardaur R, Aubry JM, Backlund L, Bauer M, Bellivier F, Cervantes P, Chen HC, Chillotti C, Cruceanu C, Dayer A, Degenhardt F, Del Zompo M, Forstner AJ, Frye M, Fullerton JM, Grigoriu-Serbanescu M, Grof P, Hashimoto R, (52 名中 22 番目) Hou L, Jiménez E, Kato T, Kelsoe J, Kittel-Schneider S, Kuo PH, Kusumi I, Lavebratt C, Manchia M, Martinsson L, Mattheisen M, McMahon FJ, Millischer V, Mitchell PB, Nöthen MM, O'Donovan C, Ozaki N, Pisanu C, Reif A, Rietschel M, Rouleau G, Rybakowski J, Schalling M, Schofield PR, Schulze TG, Severino G, Squassina A, Veeh J, Vieta E, Trappenberg T, Alda M: Prediction of lithium response using genomic data. *Sci Rep* 11(1):1155, 2021.
- 21) Ota T, Iida J, Okazaki K, Ishida R, Takahashi M, Okamura K, Yamamuro K, Kishimoto N, Kimoto S, Yasuda Y, Hashimoto R, Makinodan M, Kishimoto T: Delayed prefrontal hemodynamic response associated with suicide risk in autism spectrum disorder. *Psychiatry Res* 289:112971, 2021.
- 22) Matsumoto J, Fukunaga M, Miura K, Nemoto K, Koshiyama D, Okada N, Morita K, Yamamori H, Yasuda Y, Fujimoto M, Hasegawa N, Watanabe Y, Kasai K, Hashimoto R: Relationship between white matter microstructure and work hours. *Neurosci Lett* 740:135428, 2021.
- 23) Writing Committee for the Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder; Autism Spectrum Disorder; Bipolar Disorder; Major Depressive Disorder; Obsessive-Compulsive Disorder; and Schizophrenia ENIGMA Working Groups, Patel Y, Parker N, Shin J, Howard D, French L, Thomopoulos SI, Pozzi E, Abe Y, Abé C, Anticevic A, Alda M, Aleman A, Alloza C, Alonso-Lana S, Ameis SH, Anagnostou E, McIntosh AA, Arango C, Arnold PD, Asherson P, Assogna F, Auzias G, Ayesa-Arriola R, Bakker G, Banaj N, Banaschewski T, Bandeira CE, Baranov A, Bargalló N, Bau CHD, Baumeister S, Baune BT, Bellgrove MA, Benedetti F, Bertolino A, Boedhoe PSW, Boks M, Bollettini I, Del Mar Bonnín C, Borgers T, Borgwardt S, Brandeis D, Brennan BP, Bruggemann JM, Bülow R, Busatto GF, Calderoni S, Calhoun VD, Calvo R, Canales-Rodríguez EJ, Cannon DM, Carr VJ, Cascella N, Cercignani M, Chaim-Avancini TM, Christakou A, Coghill D, Conzelmann A, Crespo-Facorro B, Cubillo AI, Cullen KR, Cupertino RB, Daly E, Dannlowski U, Davey CG, Denys D, Deruelle C, Di Giorgio A, Dickie EW, Dima D, Dohm K, Ehrlich S, Ely BA, Erwin-Grabner T, Ethofer T, Fair DA, Fallgatter AJ, Faraone SV, Fatjó-Vilas M, Fedor JM, Fitzgerald KD, Ford JM, Frodl T, Fu CHY, Fullerton JM, Gabel MC, Glahn DC, Roberts G, Gogberashvili T, Goikolea JM, Gotlib IH, Goya-Maldonado R, Grabe HJ, Green MJ, Grevet EH, Groenewold NA, Grotegerd D, Gruber O, Gruner P, Guerrero-Pedraza A, Gur RE, Gur RC, Haar S, Haarman BCM, Haavik J, Hahn T, Hajek T, Harrison BJ, Harrison NA, Hartman CA, Whalley HC, Heslenfeld DJ, Hibar DP, Hilland E, Hirano Y, Ho TC, Hoekstra PJ, Hoekstra L, Hohmann S, Hong LE,

- Höschl C, Høvik MF, Howells FM, Nenadic I, Jalbrzikowski M, James AC, Janssen J, Jaspers-Fayer F, Xu J, Jonassen R, Karkashadze G, King JA, Kircher T, Kirschner M, Koch K, Kochunov P, Kohls G, Konrad K, Krämer B, Krug A, Kuntsi J, Kwon JS, Landén M, Landrø NI, Lazaro L, Lebedeva IS, Leehr EJ, Lera-Miguel S, Lesch KP, Lochner C, Louza MR, Luna B, Lundervold AJ, MacMaster FP, Maglanoc LA, Malpas CB, Portella MJ, Marsh R, Martyn FM, Mataix-Cols D, Mathalon DH, McCarthy H, McDonald C, McPhilemy G, Meinert S, Menchon JM, Minuzzi L, Mitchell PB, Moreno C, Morgado P, Muratori F, Murphy CM, Murphy D, Mwangi B, Nabulsi L, Nakagawa A, Nakamae T, Namazova L, Narayanaswamy J, Jahanshad N, Nguyen DD, Nicolau R, O'Gorman Tuura RL, O'Hearn K, Oosterlaan J, Opel N, Ophoff RA, Oranje B, García de la Foz VO, Overs BJ, Paloyelis Y, Pantelis C, Parellada M, Pauli P, Picó-Pérez M, Picon FA, Piras F, Piras F, Plessen KJ, Pomarol-Clotet E, Preda A, Puig O, Quidé Y, Radua J, Ramos-Quiroga JA, Rasser PE, Rauer L, Reddy J, Redlich R, Reif A, Reneman L, Repple J, Retico A, Richarte V, Richter A, Rosa PGP, Rubia KK, Hashimoto R, (288 名中 210 番目) Sacchet MD, Salvador R, Santonja J, Sarink K, Sarró S, Satterthwaite TD, Sawa A, Schall U, Schofield PR, Schranter A, Seitz J, Serpa MH, Setién-Suero E, Shaw P, Shook D, Silk TJ, Sim K, Simon S, Simpson HB, Singh A, Skoch A, Skokauskas N, Soares JC, Soreni N, Soriano-Mas C, Spalletta G, Spaniel F, Lawrie SM, Stern ER, Stewart SE, Takayanagi Y, Temmingh HS, Tolin DF, Tomecek D, Tordesillas-Gutiérrez D, Tosetti M, Uhlmann A, van Amelsvoort T, van der Wee NJA, van der Werff SJA, van Haren NEM, van Wingen GA, Vance A, Vázquez-Bourgon J, Vecchio D, Venkatasubramanian G, Vieta E, Vilarroya O, Vives-Gilabert Y, Voineskos AN, Völzke H, von Polier GG, Walton E, Weickert TW, Weickert CS, Weideman AS, Wittfeld K, Wolf DH, Wu MJ, Yang TT, Yang K, Yoncheva Y, Yun JY, Cheng Y, Zanetti MV, Ziegler GC, Franke B, Hoogman M, Buitelaar JK, van Rooij D, Andreassen OA, Ching CRK, Veltman DJ, Schmaal L, Stein DJ, van den Heuvel OA, Turner JA, van Erp TGM, Pausova Z, Thompson PM, Paus T: Virtual Histology of Cortical Thickness and Shared Neurobiology in 6 Psychiatric Disorders. *JAMA Psychiatry* 78(1):47-63, 2021.
- 24) Idemoto K, Ishima T, Niitsu T, Hata T, Yoshida S, Hattori K, Horai T, Otsuka I, Yamamori H, Toda S, Kamenoy Y, Ota K, Oda Y, Kimura A, Hashimoto T, Mori N, Kikuchi M, Minabe Y, Hashimoto R, Hishimoto A, Nakagome K, Iyo M, Hashimoto K: Platelet-Derived Growth Factor BB: A Potential Diagnostic Blood Biomarker for Differentiating Bipolar Disorder from Major Depressive Disorder. *J Psychiatr Res* 134:48-56, 2021.
- 25) Okada K, Miura K, Fujimoto M, Morita K, Yoshida M, Yamamori H, Yasuda Y, Iwase M, Shinozaki T, Fujita I, Hashimoto R: Impaired inhibition of return during free-viewing behaviour in patients with schizophrenia. *Sci Rep* 11:3237, 2021.
- 26) Sumiyoshi C, Narita Z, Inagawa T, Yamada Y, Sueyoshi K, Hasegawa Y, Shirama A, Hashimoto R, Sumiyoshi T: Facilitative effects of transcranial direct current stimulation on semantic memory examined by text-mining analysis in patients with Schizophrenia. *Front Neurol, section Neurorehabilitation* 12:583027, 2021.
- 27) Kitagawa K, Matsumura K, Baba M, Kondo M, Takemoto T, Nagayasu K, Ago Y, Seiriki K, Hayata-Takano A, Kasai A, Takuma K, Hashimoto R, Hashimoto H, Nakazawa T: Intranasal oxytocin administration ameliorates social behavioral deficits in POGZWT/Q1038R mouse model of autism spectrum disorder. *Mol Brain* 14:56, 2021.
- 28) Sønderby IE, van der Meer D, Moreau C, Kaufmann T, Walters GB, Ellegaard M, Abdellaoui A, Ames D, Amunts K, Andersson M, Armstrong NJ, Bernard M, Blackburn NB, Blangero J, Boomsma DI, Brodaty H, Brouwer RM, Bülow R, Bøen R, Cahn W, Calhoun VD, Caspers

- S, Ching CRK, Cichon S, Ciufolini S, Crespo-Facorro B, Curran JE, Dale AM, Dalvie S, Dazzan P, de Geus EJC, de Zubicaray GI, de Zwarte SMC, Desrivieres S, Doherty JL, Donohoe G, Draganski B, Ehrlich S, Eising E, Espeseth T, Fejgin K, Fisher SE, Fladby T, Frei O, Frouin V, Fukunaga M, Gareau T, Ge T, Glahn DC, Grabe HJ, Groenewold NA, Gústafsson Ó, Haavik J, Haberg AK, Hall J, Hashimoto R (145 名中 56 番目), Hehir-Kwa JY, Hibar DP, Hillegers MHJ, Hoffmann P, Holleran L, Holmes AJ, Homuth G, Hottenga JJ, Hulshoff Pol HE, Ikeda M, Jahanshad N, Jockwitz C, Johansson S, Jönsson EG, Jørgensen NR, Kikuchi M, Knowles EEM, Kumar K, Le Hellard S, Leu C, Linden DEJ, Liu J, Lundervold A, Lundervold AJ, Maillard AM, Martin NG, Martin-Brevet S, Mather KA, Mathias SR, McMahon KL, McRae AF, Medland SE, Meyer-Lindenberg A, Moberget T, Modenato C, Sánchez JM, Morris DW, Mühleisen TW, Murray RM, Nielsen J, Nordvik JE, Nyberg L, Loohuis LMO, Ophoff RA, Owen MJ, Paus T, Pausova Z, Peralta JM, Pike GB, Prieto C, Quinlan EB, Reinbold CS, Marques TR, Rucker JJH, Sachdev PS, Sando SB, Schofield PR, Schork AJ, Schumann G, Shin J, Shumskaya E, Silva AI, Sisodiya SM, Steen VM, Stein DJ, Strike LT, Suzuki IK, Tamnes CK, Teumer A, Thalamuthu A, Tordesillas-Gutiérrez D, Uhlmann A, Ulfarsson MO, van 't Ent D, van den Bree MBM, Vanderhaeghen P, Vassos E, Wen W, Wittfeld K, Wright MJ, Agartz I, Djurovic S, Westlye LT, Stefansson H, Stefansson K, Jacquemont S, Thompson PM, Andreassen OA; ENIGMA-CNV working group: 1q21.1 distal copy number variants are associated with cerebral and cognitive alterations in humans. *Transl Psychiatry* 11(1):182, 2021.
- 29) 坪本大喜, 藤本美智子, 近江 翼, 片上茂樹, 岩瀬真生, 橋本亮太, 山森英長, 安田由華, 阿古目 純, 中川幸延, 池田 学: Clozapine による薬疹を疑われ中止した後に再投与した治療抵抗性統合失調症の 1 例. *精神医神経学雑誌* 122(6):424-430, 2020.
- 30) Sugita Y, Miura K, Furukawa T: Retinal ON and OFF pathways contribute to initial optokinetic responses with different temporal characteristics. *Eur J Neurosci* 52(4): 3160-3165, 2020.
- 31) Miyamoto T, Miura K, Kizuka T, Ono S: Properties of smooth pursuit adaptation induced by theta motion. *Physiol Behav* 1:229:113245, 2021.
- 32) Miyamoto T, Miura K, Kizuka T, Ono S: Properties of smooth pursuit and visual motion reaction time to second-order motion stimuli. *PLoS One* 15(12):e0243430, 2020.
- 33) Chen CY, Matrov D, Veale R, Onoe H, Yoshida M, Miura K, Isa T: Properties of visually guided saccadic behavior and bottom-up attention in marmoset, macaque, and human. *J Neurophysiol* 125(2):437-457, 2021.
- 34) 小野誠司, 三浦健一郎, 川村 卓, 木塚朝博: 球技系選手における視覚認知機能と反応時間の特性. *バイオメカニズム* 25: 45-54, 2020.
- 35) Horikoshi S, Kunii Y, Matsumoto J, Gotoh D, Miura I, Yabe H: Does Treatment Response With Antidementia Drugs After 6 Months in Alzheimer's Disease Predict Long-term Treatment Outcome? *J Clin Psychopharmacol* 40(2):195-197, 2020.
- 36) Ichinose M, Miura I, Horikoshi S, Matsumoto J, Osakabe Y, Yabe H: Memantine for Behavioral Symptoms of Hepatic Encephalopathy Associated With Alcoholic Cirrhosis: A Case Report. *J Clin Psychopharmacol* 41(1):85-86, 2021.

(2) 総説

- 1) Hashimoto R: Do eye movement abnormalities in schizophrenia cause Praecox-Gefühl? *Psychiatry Clin Neurosci* 75(3):79-80, 2021.
- 2) 稲田 健, 橋本亮太, 中込和幸: 統合失調症薬物治療ガイドライン. *精神医学* 62(5): 522-526,

2020.

- 3) 橋本亮太, 松本純弥, 長谷川尚美, 三浦健一郎: 精神疾患のバイオマーカーを考察する. 精神医学 62(6):875-882, 2020.
- 4) 橋本亮太: EGUIDE プロジェクトの概要. 日本精神神経科診療所協会誌日精診ジャーナル 第24回通算 45 回学術研究会 2018 年淡路大会特集号:S148-S153, 2020.
- 5) 橋本亮太: スポーツとこころの関係～精神科の立場から体の痛みを考える～. 日本整形外科スポーツ医学会雑誌 40(2):152-154, 2020.
- 6) 古郡規雄, 内田裕之, 水野裕也, 橋本亮太: クロザピン患者モニタリングサービスの国際比較ーCOVID-19 対応を含めてー. 臨床精神薬理 23(10):1041-1049, 2020.
- 7) 長谷川尚美, 橋本亮太: 疾患別-統合失調症, II ガイドラインに基づく外来での精神科薬物療法. 調剤と情報 臨時増刊号 27(2):98-103, 2021.
- 8) 古郡規雄, 西村勝治, 久住一郎, 新津富央, 稲田 健, 上野雄文, 木下利彦, 三村 將, 中込和幸, 下田和孝, 橋本亮太: クロザピンモニタリング制度に関する学会での活動. 臨床精神薬理 24(3):295-302, 2021.
- 9) 古郡規雄, 橋本亮太: Clozapine のモニタリング制度の現在と未来. 臨床精神薬理 24(3):215-220, 2021.

(3) 著書

- 1) 橋本亮太, 中込和幸: 第 IX 章 精神疾患「統合失調症」, 日常診療に活かす診療ガイドライン UP-TO-DATE 2020-2021. メディカルレビュー社, pp587-591 (全 1088 頁), 2020.
- 2) 橋本亮太, 渡邊衛一郎: EGUIDE プロジェクト, 講座 精神疾患の臨床 1 気分症群. 中山書店, pp309-312 (全 520 頁), 2020.
- 3) EGUIDE プロジェクト: ケースでわかる! 精神科治療ガイドラインのトリセツ. 医学書院, 東京, pp1-138 (全 138 頁), 2020.

(4) 研究報告書

- 1) 橋本亮太: 大規模患者リソース及び iPS 技術を用いた統合失調症の病態予測のバイオマーカー開発. 2020 年度科学研究費助成事業基盤研究 (B) 特設分野研究 研究実施状況報告書. 2021.
- 2) 橋本亮太: 大規模患者リソース及び iPS 技術を用いた統合失調症の病態予測のバイオマーカー開発. 2018 年度~2020 年度科学研究費助成事業基盤研究 (B) 特設分野研究 研究成果報告書. 2021.
- 3) 橋本亮太, 三浦健一郎, 松本純弥, 長谷川尚美: 多次元脳神経画像とゲノムによる精神疾患の脳病態に基づく新たな診断体系の構築. 2020 年度科学研究費助成事業基盤研究 (B) 研究実績報告書. 2021.
- 4) 橋本亮太: 発達障害のリスク遺伝子の同定. 2020 年度科学研究費助成事業特別推進研究「発達障害に関わる神経生物学的機構の霊長類的基盤の解明 (代表: 高田昌彦)」2020 年度研究実績報告書. 2021.
- 5) 橋本亮太: EGUIDE での調査研究. 令和 2 年度厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業 (精神障害分野)「向精神薬の適切な継続・減量・中止等の精神科薬物療法の出口戦略の実践に資する研究 (代表: 三島和夫)」分担研究報告書. 2021.
- 6) 橋本亮太: クロザピンモニタリングシステムの国際比較調査. 令和 2 年度厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業 (精神障害分野)「治療抵抗性統合失調症薬の安全性の検証による望ましい普及と体制構築に向けた研究 (代表: 上野雄文)」分担研究報告書. 2021.
- 7) 橋本亮太: Negative Valence Systems とドーパミンシステムとの関連研究. 令和 2 年度国立精神・神経医療研究センター 精神・神経疾患研究開発費「精神疾患の NVS(negative valence system)に対する治療法の開発 (研究代表者: 中込和幸)」令和 2 年度実績報告書. 2021.

- 8) 橋本亮太：精神医療分野における治療の質を評価する QI とその向上をもたらす介入技法の開発と実用性の検証。2020 年度日本医療研究開発機構 長寿・障害総合研究事業 障害者対策総合研究開発事業（精神障害分野）2020 年度 委託研究開発成果報告書。2021.
- 9) 橋本亮太：気分障害と統合失調症の疾患連続性に関する脳画像等の総合的解析研究。令和 2 年度日本医療研究開発機構 戦略的国際脳科学研究推進プログラム「縦断的 MRI データに基づく成人期気分障害と関連疾患の神経回路の解明（研究開発代表者：岡本泰昌）」2020 年度 委託研究開発成果報告書。2021.
- 10) 橋本亮太：レジストリの構築（評価項目の品質管理）。令和 2 年度日本医療研究開発機構 長寿・障害総合研究事業 障害者対策総合研究開発事業（精神障害分野）「精神疾患レジストリの構築・統合により新たな診断・治療法を開発するための研究（研究開発代表者：中込和幸）」2020 年度 委託研究開発成果報告書。2021.
- 11) 橋本亮太：うつ症状に関する精神疾患横断的な血漿を用いたバイオマーカー開発。令和 2 年度日本医療研究開発機構 長寿・障害総合研究事業 障害者対策総合研究開発事業（精神障害分野）「血液メタボローム解析による精神疾患の層別化可能な客観的評価法の確立と治療最適化への応用（研究開発代表者：加藤隆弘）」2020 年度 委託研究開発成果報告書。2021.
- 12) 橋本亮太：精神疾患に伴う障害の評価尺度開発－心身機能、主観的体験の評価尺度検討および AMED 精神疾患レジストリ研究との調整。令和 2 年度日本医療研究開発機構 長寿・障害総合研究事業 障害者対策総合研究開発事業（精神障害分野）「精神疾患を持つ人が社会生活目標達成を図るための、WHO の ICF モデルに準拠し当事者と評価者の共同を重視した強みと弱点の評価尺度開発研究（研究開発代表者：丹羽真一）」2020 年度 委託研究開発成果報告書。2021.
- 13) 三浦健一郎：眼球運動の状況予測性解析法の研究開発と疾患横断的理解。令和 2 年度日本医療研究開発機構 革新的技術による脳機能ネットワークの全容解明プロジェクト「双方向トランスレーショナルアプローチによる精神疾患の脳予測性障害機序に関する研究開発（研究開発代表者：小池進介）」2020 年度 委託研究開発成果報告書。2021.
- 14) 三浦健一郎、松本純弥、長谷川尚美：精神疾患の視覚認知行動異常のシステム神経科学的研究。2020 年度科学研究費助成事業 基盤研究（C）研究実施状況報告書。2021.
- 15) 松本純弥：心因性疼痛の治療と認知機能障害の関連。2020 年度科学研究費助成事業 若手研究研究実施状況報告書。2021.
- 16) 安田由華：実践マニュアルの資材作成と利活用に関する研究。令和 2 年度厚生科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業（精神障害分野）「向精神薬の適切な継続・減量・中止等の精神科薬物療法の出口戦略の実践に資する研究（代表：三島和夫）」分担研究報告書。2021.

(5) 翻訳

(6) その他

- 1) 橋本亮太：診療ガイドラインの普及と医療の質向上の評価（提言）、公益財団法人 日本医療機能評価機構 EBM 普及推進事業（Minds）活用促進部会 有効性評価検討会。2020.11.20.
https://minds.jcqhc.or.jp/s/developer_recommendation
https://minds.jcqhc.or.jp/s/guidance_proposal5
- 2) 橋本亮太：クロザピンの検査間隔の延長および血球減少による中止後の再投与に関する要望、日本精神神経学会、日本神経精神薬理学会、日本臨床精神神経薬理学会、日本統合失調症学会の関連 4 学会合同、厚生労働省医薬・生活衛生局医薬安全対策課長宛て 2021.3.20.

B. 学会・研究会における発表

(1) 学会特別講演、教育講演、シンポジウム、ワークショップ、パネルディスカッション等

- 1) 橋本亮太：精神疾患の病態解明研究のトレンドウォッチ：ビッグデータと仮説検証研究。教育

- 講演，第 43 回日本神経科学大会，オンライン，2020.7.29-8.1.
- 2) 橋本亮太：統合失調症薬物治療ガイドラインの作成・普及・教育・検証活動：日本神経精神薬理学会から世界を変える！NP50 周年記念シンポジウム，第 50 回日本神経精神薬理学会年会・第 42 回日本生物学的精神医学会年会・第 4 回日本精神薬学会総会・学術集会（NPBPPP 合同年会），オンライン，2020.8.21-23.
 - 3) 橋本亮太，松本純弥，長谷川尚美，三浦健一郎：治療の指針となる診断法の開発研究の真のゴールとその道のり．シンポジウム「精神疾患の画像所見は，臨床診断に使えるようになるのか？」第 50 回日本神経精神薬理学会年会・第 42 回日本生物学的精神医学会年会・第 4 回日本精神薬学会総会・学術集会（NPBPPP 合同年会），オンライン，2020.8.21-23.
 - 4) 橋本亮太：臨床研究者の立場から．シンポジウム「当事者・家族の望む精神医学研究とは：Patient and Public Involvement」第 116 回日本精神神経学会学術総会，オンライン，2020.9.28.
 - 5) 橋本亮太：統合失調症薬物治療ガイドライン改訂版の概要．シンポジウム「統合失調症薬物治療ガイドラインの普及：SDM を用いた利活用への期待」第 116 回日本精神神経学会学術総会，オンライン，2020.9.28.
 - 6) 降旗隆二，大槻 怜，長谷川尚美，三浦健一郎，松本純弥，坪井貴嗣，沼田周助，渡邊衡一郎，稻田 健，橋本亮太：統合失調症およびうつ病治療における睡眠薬処方の実態と多剤併用の関連要因について．EGUIDE プロジェクトシンポジウム，第 30 回日本臨床精神神経薬理学会，オンライン，2021.1.10.
 - 7) 堀 輝，古郡規雄，伊賀淳一，越智紳一郎，鬼塚俊明，姜 善貴，高江洲義和，降旗隆二，村田篤信，長谷川尚美，三浦健一郎，松本純弥，渡邊衡一郎，稻田 健，橋本亮太：EGUIDE プロジェクト介入前の抗コリン薬処方調査．EGUIDE プロジェクトシンポジウム，第 30 回日本臨床精神神経薬理学会，オンライン，2021.1.10.
 - 8) 古郡規雄，橋本直樹，長谷川尚美，沼田周助，飯田仁志，市橋香代，稻田 健，降旗隆二，堀輝，橋本亮太：うつ病患者の退院時処方についての検討．EGUIDE プロジェクトシンポジウム，第 30 回日本臨床精神神経薬理学会，オンライン，2021.1.10.
 - 9) 橋本直樹，古郡規雄，沼田周助，飯田仁志，市橋香代，稻田 健，降旗隆二，堀 輝，長谷川尚美，橋本亮太：2177 名の統合失調症患者の退院時処方についての検討．EGUIDE プロジェクトシンポジウム，第 30 回日本臨床精神神経薬理学会，オンライン，2021.1.10.
 - 10) 長谷川尚美，三浦健一郎，松本純弥，安田由華，稻田 健，渡邊衡一郎，橋本亮太：統合失調症の薬物治療とうつ病の治療に対する EGUIDE プロジェクトの効果．EGUIDE プロジェクトシンポジウム，第 30 回日本臨床精神神経薬理学会，オンライン，2021.1.10.
 - 11) 飯田仁志，EGUIDE プロジェクトメンバーズ：うつ病治療の施設による違い—精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究（EGUIDE プロジェクト）から得られた知見—．EGUIDE プロジェクトシンポジウム，第 30 回日本臨床精神神経薬理学会，オンライン，2021.1.10.
 - 12) 市橋香代，EGUIDE プロジェクトメンバーズ：日本における統合失調症入院患者の治療状況—EGUIDE プロジェクト初年度介入前の調査より—．EGUIDE プロジェクトシンポジウム，第 30 回日本臨床精神神経薬理学会，オンライン，2021.1.10.
 - 13) 山田 恒，EGUIDE プロジェクトメンバーズ：治療ガイドラインに沿った臨床行動の実践度の変化．EGUIDE プロジェクトシンポジウム，第 30 回日本臨床精神神経薬理学会，オンライン，2021.1.10.
 - 14) 小笠原一能，長谷川尚美，三浦健一郎，松本純弥，尾崎紀夫，稻田 健，渡邊衡一郎，橋本亮太：診療ガイドライン講習会を受講者はどのように評価し，どのような効果を得たのか？EGUIDE プロジェクトシンポジウム，第 30 回日本臨床精神神経薬理学会，オンライン，2021.1.10.
 - 15) 沼田周助，中瀧理仁，長谷川尚美，枝川令音，江戸宏彰，三浦健一郎，松本純弥，稻田 健，

渡邊衡一郎, 橋本亮太: ガイドラインの理解度向上の取り組み. EGUIDE プロジェクトシンポジウム, 第 30 回日本臨床精神神経薬理学会, オンライン, 2021.1.10.

- 16) 高江洲和, EGUIDE プロジェクトメンバーズ: EGUIDE プロジェクトによる精神科医の臨床知識の改善度の検討. EGUIDE プロジェクトシンポジウム, 第 30 回日本臨床精神神経薬理学会, オンライン, 2021.1.10.
- 17) 橋本亮太, EGUIDE プロジェクトメンバーズ: EGUIDE プロジェクトの概要. EGUIDE プロジェクトシンポジウム, 第 30 回日本臨床精神神経薬理学会, オンライン, 2021.1.10.
- 18) 橋本亮太, 青木吉嗣: 精神・神経・筋難病の克服を目指した研究開発. 第 5 回国立研究開発法人イノベーション戦略会議, 内閣府ウェブサイト, 2021.2.4.

(2) 一般演題

- 1) Sumiyoshi C, Narita Z, Inagawa T, Yamada Y, Sueyoshi K, Hasegawa Y, Shirama A, Hashimoto R, Sumiyoshi T: Facilitative Effects of Transcranial Direct Current Stimulation on Semantic Memory Examined by Text-mining Analysis in Patients with Schizophrenia. 2020 SIRS (Congress of the Schizophrenia International Research Society), Online, 2020.4.4-8.
- 2) Ohi K, Nishizawa D, Shimada T, Kataoka Y, Hasegawa J, Shioiri T, Kawasaki Y, Hashimoto R, Ikeda K: Polygenetic Risk Scores for Major Psychiatric Disorders among Schizophrenia Patients, Their First-Degree Relatives and Healthy Subjects. Free Communication Sessions, CINP(The International College of Neuropsychopharmacology (CINP)) 2021 Virtual Congress, Online, 2021.2.26-28.
- 3) Furihata R, Ohtsuki R, Hasegawa N, Miura K, Matsumoto J, Tsuboi T, Numata S, Watanabe K, Inada K, Hashimoto R: Hypnotic medication use and associated factors among patients with schizophrenia- Findings from the 'Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education in Psychiatric Treatment (EGUIDE)' project. 20th WPA(World Psychiatric Association) World Congress of Psychiatry, Virtual Congress, Online, 2020.3.10-13.
- 4) 村田篤信, 長谷川尚美, 山本智也, 三浦拓人, 三浦健一郎, 松本純弥, 古郡規雄, 沼田周助, 鬼塚俊明, 竹島正浩, 稲田 健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太: 精神科領域における薬剤師の関わり
の有効性評価を目的とした多施設共同研究. 第 50 回日本神経精神薬理学会年会・第 42 回日本生物学的精神医学会年会・第 4 回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP 合同年会), オンライン, 2020.8.21-23.
- 5) 井手本啓太, 石間 環, 新津富央, 畑 達記, 小田靖典, 木村敦史, 亀野陽亮, 蓬萊 政, 山森英長, 戸田重誠, 菱本明豊, 橋本亮太, 中込和幸, 伊豫雅臣, 橋本謙二: 気分障害のバイオマーカーとしての血清中血小板由来増殖因子 (PDGF-BB) に関する多施設共同研究. 第 50 回日本神経精神薬理学会年会・第 42 回日本生物学的精神医学会年会・第 4 回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP 合同年会), オンライン, 2020.8.21-23.
- 6) 小宮偉吹, 長谷川尚美, 久保田智香, 三浦拓人, 佐藤英樹, 三浦健一郎, 松本純弥, 坂元竜馬, 村田篤信, 柏木宏子, 坪井貴嗣, 安田由華, 稲田 健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太: NCNP 病院のうつ病治療における EGUIDE 講習の効果～ベンゾジアゼピン受容体作動薬に着目して～. 第 50 回日本神経精神薬理学会年会・第 42 回日本生物学的精神医学会年会・第 4 回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP 合同年会), オンライン, 2020.8.21-23.
- 7) 堀 輝, 古郡規雄, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 渡邊衡一郎, 稲田 健, 橋本亮太: 我が国の統合失調症治療における抗コリン薬処方調査: EGUIDE 研究から. 第 50 回日本神経精神薬理学会年会・第 42 回日本生物学的精神医学会年会・第 4 回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP 合同年会), オンライン, 2020.8.21-23.

- 8) 市橋香代, 堀 輝, 長谷川尚美, 安田由華, 山本智也, 渡邊衡一郎, 稲田 健, 橋本亮太: 日本における統合失調症入院患者の処方調査－EGUIDE プロジェクト初年度介入前の調査より－. 第 50 回日本神経精神薬理学会年会・第 42 回日本生物学的精神医学会年会・第 4 回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP 合同年会), オンライン, 2020.8.21-23.
- 9) 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 安田由華, 渡邊衡一郎, 稲田 健, 橋本亮太: 統合失調症の薬物治療に対する EGUIDE プロジェクトの効果. 第 50 回日本神経精神薬理学会年会・第 42 回日本生物学的精神医学会年会・第 4 回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP 合同年会), オンライン, 2020.8.21-23.
- 10) 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 安田由華, 稲田 健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太: うつ病の治療に対する EGUIDE プロジェクトの効果. 第 50 回日本神経精神薬理学会年会・第 42 回日本生物学的精神医学会年会・第 4 回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP 合同年会), オンライン, 2020.8.21-23.
- 11) 沼田周助, 中瀧理仁, 長谷川尚美, 枝川令音, 江戸宏彰, 三浦健一郎, 松本純弥, 稲田 健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太: 統合失調症とうつ病に対する治療ガイドライン教育プロジェクト (EGUIDE プロジェクト)におけるガイドライン理解度向上の取り組みとその結果. 第 50 回日本神経精神薬理学会年会・第 42 回日本生物学的精神医学会年会・第 4 回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP 合同年会), オンライン, 2020.8.21-23.
- 12) 飯田仁志, 伊賀淳一, 長谷川尚美, 安田由華, 山本智也, 三浦健一郎, 松本純弥, 村田篤信, 稲田 健, 渡邊衡一郎, 川寄弘詔, 橋本亮太: うつ病のアンメットニーズー精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究 (EGUIDE プロジェクト) から得られた知見一. 第 50 回日本神経精神薬理学会年会・第 42 回日本生物学的精神医学会年会・第 4 回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP 合同年会), オンライン, 2020.8.21-23.
- 13) 山田 恒, 本山美久仁, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 渡邊衡一郎, 稲田 健, 橋本亮太: 統合失調症とうつ病治療に対する EGUIDE プロジェクトの効果: ガイドライン講習受講前後の治療行動の変化からの考察. 第 50 回日本神経精神薬理学会年会・第 42 回日本生物学的精神医学会年会・第 4 回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP 合同年会), オンライン, 2020.8.21-23.
- 14) 松本純弥, 三浦健一郎, 福永雅喜, 越山太輔, 根本清貴, 大井一高, 岡田直大, 長谷川尚美, 山森英長, 安田由華, 藤本美智子, 鬼塚俊明, 高橋 努, 尾崎紀夫, 渡邊嘉之, 橋本亮太: 統合失調症患者と健常被験者における拡散テンソル画像を用いた大脳白質微細構造と認知機能, 認知機能障害, 労働時間との関連. 第 50 回日本神経精神薬理学会年会・第 42 回日本生物学的精神医学会年会・第 4 回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP 合同年会), オンライン, 2020.8.21-23.
- 15) 柏木宏子, 三浦健一郎, 松本純弥, 坂元竜馬, 竹田康二, 山田悠至, 藤本美智子, 安田由華, 山森英長, 池田 学, 平林直次, 橋本亮太: 暴力の既往のある統合失調症罹患者の, 認知機能, 精神病理, 心理社会的背景の特徴. 第 50 回日本神経精神薬理学会年会・第 42 回日本生物学的精神医学会年会・第 4 回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP 合同年会), オンライン, 2020.8.21-23.
- 16) 松本純弥, 三浦健一郎, 坂元竜馬, 福永雅喜, 越山太輔, 根本清貴, 岡田直大, 森田健太郎, 大井一高, 長谷川尚美, 藤本美智子, 山森英長, 安田由華, 笠井清登, 渡邊嘉之, 橋本亮太: 統合失調症の biotype である認知機能障害と大脳白質統合性の関連. 第 50 回日本神経精神薬理学会年会・第 42 回日本生物学的精神医学会年会・第 4 回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP 合同年会), オンライン, 2020.8.21-23.
- 17) 三浦健一郎, 松本純弥, 長谷川尚美, 藤本美智子, 山森英長, 安田由華, 橋本亮太: 眼球運動特徴による自己組織化マップを用いた統合失調症の層別化. 第 50 回日本神経精神薬理学会年会・第 42 回日本生物学的精神医学会年会・第 4 回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP

- 合同年会), オンライン, 2020.8.21-23.
- 18) 藤本美智子, 三浦健一郎, 森田健太郎, 工藤紀子, 畦地裕統, 山森英長, 安田由華, 池田 学, 橋本亮太: 統合失調症におけるバイオマーカーとしての眼球運動スコアの臨床的意義. 日本生物学的精神医学会若手研究者育成プログラム ショートトーク 第50回日本神経精神薬理学会年会・第42回日本生物学的精神医学会年会・第4回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP 合同年会), オンライン, 2020.8.21-23.
 - 19) 大井一高, 西澤大輔, 嶋田貴充, 片岡 譲, 長谷川準子, 塩入俊樹, 川崎康弘, 橋本亮太, 池田和隆: 統合失調症患者, 非罹患近親者, 健常者間における各精神疾患のポリジェニックリスクスコア. 第116回日本精神神経学会学術総会, オンライン, 2020.9.28-30.
 - 20) 松本純弥, 福永雅喜, 根本清貴, 越山大輔, 三浦健一郎, 岡田直大, 森田健太郎, 山森英長, 安田由華, 藤本美智子, 工藤紀子, 笠井清登, 渡邊嘉之, 橋本亮太: 大脳白質の軸索の髄鞘化, 大脳白質の成熟と, 認知機能・社会機能の指標である労働時間との関連. 第116回日本精神神経学会学術総会, オンライン, 2020.9.28-30.
 - 21) 橋本亮太, 長谷川尚美, 安田由華, 山本智也, 渡邊衡一郎, 稲田 健: EGUIDE プロジェクトによる退院時処方への効果〜クロザピン治療と Quality Indicator との関係に着目して〜. 第116回日本精神神経学会学術総会, オンライン, 2020.9.28-30.
 - 22) 馬場優志, 勢力 薫, 近藤百香, 北川航平, 竹本智哉, 笠井淳司, 吾郷由希夫, 永安一樹, 森大輔, 尾崎紀夫, 山本 雅, 田熊一敬, 橋本亮太, 橋本 均, 中澤敬信: ヒト染色体 3q29 欠失モデルマウスを用いた精神疾患の分子病態研究. 第138回日本薬理学会近畿部会, オンライン, 2020.11.14.
 - 23) 近藤百香, 栗生俊彦, 馬場優志, 北川航平, 竹本智哉, 永安一樹, 山森英長, 安田由華, 藤本美智子, 田熊一敬, 小野富三人, 橋本亮太, 橋本 均, 中澤敬信: 3q29 領域欠失変異を有する精神疾患患者の iPS 神経細胞の機能解析. 第138回日本薬理学会近畿部会, オンライン, 2020.11.14.
 - 24) 飯田仁志, 伊賀淳一, 安田由華, 山本智也, 稲田 健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太, 川寄弘詔: 精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究 (EGUIDE プロジェクト) 参加施設のうつ病治療に関する診療の質の評価. 第17回日本うつ病学会総会, オンライン, 2021.1.25-31.
 - 25) 小笠原一能, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 尾崎紀夫, 稲田 健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太, EGUIDE プロジェクトチーム: EGUIDE プロジェクト「受講者アンケート」の解析から. 第17回日本うつ病学会総会, オンライン, 2021.1.25-31.
 - 26) 井手本啓太, 石間 環, 新津富央, 畑 達記, 小田靖典, 木村敦史, 亀野陽亮, 蓬萊 政, 山森英長, 戸田重誠, 菱本明豊, 橋本亮太, 中込和幸, 伊豫雅臣, 橋本謙二: 気分障害のバイオマーカーとしての血清中血小板由来増殖因子 (PDGF-BB) に関する多施設共同研究. 第17回日本うつ病学会総会, オンライン, 2021.1.25-31.
 - 27) 本山美久仁, 山田 恒, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 稲田 健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太: 精神科レジデントに対する治療ガイドライン教育プロジェクト (EGUIDE プロジェクト) の効果の検討ーうつ病治療ガイドラインに沿った臨床行動実践度の比較ー. 第30回日本臨床精神神経薬理学会, オンライン, 2021.1.9-10.
 - 28) 安田由華, 稲田 健, 飯田仁志, 古郡規雄, 堀 輝, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 渡邊衡一郎, 橋本亮太: 統合失調症薬物治療ガイドラインを用いたエビデンス・診療ギャップの検討についてー精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究 (EGUIDE プロジェクト) よりー. 第30回日本臨床精神神経薬理学会, オンライン, 2021.1.9-10.
 - 29) 山田 恒, 本山美久仁, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 稲田 健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太: 精神科レジデントに対する治療ガイドライン教育プロジェクト (EGUIDE プロジェクト) の効果の検討ー治療ガイドラインに沿った臨床行動実践度の比較ー. 第30回日本臨床精神神経

- 薬理学会, オンライン, 2021.1.9-10.
- 30) 村田篤信, 古郡規雄, 堀 輝, 長谷川尚美, 姜 善貴, 高江洲義和, 伊賀淳一, 越智紳一郎, 降旗隆二, 鬼塚俊明, 竹島正浩, 三浦健一郎, 松本純弥, 渡邊衡一郎, 稲田 健, 橋本亮太: 統合失調症患者における抗コリン薬服薬中止達成に関する要因の後方視的解析, 第 30 回日本臨床精神神経薬理学会, オンライン, 2021.1.9-10.
 - 31) 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 稲田 健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太: 精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究(EGUIDE プロジェクト). D&I 科学研究会(保健医療福祉における普及と実装科学研究会) 第 5 回学術集会, オンライン, 2020.11.28.
 - 32) 三浦健一郎, 吉田正俊, 藤本美智子, 山森英長, 安田由華, 長谷川尚美, 松本純弥, 橋本亮太, 竹村 文: フリービューイング時のマカクサル視覚探索行動: ヒトとの比較. 第 43 回日本神経科学大会, オンライン, 2020.7.29-8.1.
 - 33) 林 和子, 松本有央, 松田圭司, 三浦健一郎, 山根 茂, 松尾 真, 柳井啓司, Eldridge MAG, Richmond BJ, 永井裕司, 宮川尚久, 南本敬史, 岡田真人, 河野憲二, 菅生・宮本康子: サルの表情弁別における顔の質感変化の影響. 第 43 回日本神経科学大会, オンライン, 2020.7.29-8.1.
 - 34) Hayashi K, Matsumoto N, Matsuda K, Miura K, Yamane S, Matsuo S, yanai k, Eldridge M.A.G., Saunders R.C., Richmond B.J., Nagai Y, Miyakawa N, Minamimoto T, Okada M, Kawano K, Sugae-Miyamoto Y: Effects of different physical surface properties on face discrimination learning in macaque monkeys. 日本動物心理学会第 80 回大会, オンライン, 2020.11.20-22.
 - 35) 小野誠司, 宮本健史, 三浦健一郎, 木塚朝博: Smooth pursuit における異なる適応パターンの比較. 第 16 回空間認知と運動制御研究会学術集会, オンライン, 2021.3.13.
 - 36) 竹村 文, 三浦健一郎: 2 フレームアニメーション刺激に対する MST ニューロンの活動特性に関する考察. 第 16 回空間認知と運動制御研究会学術集会, オンライン, 2021.3.13.
 - 37) 戸田 亘, 松本純弥, 石井士朗, 板垣俊太郎, 大谷晃司, 青木俊太郎, 三浦 至, 志賀哲也, 松本貴智, 菅原茂耕, 山國 遼, 箱崎元晴, 渡邊宏剛, 矢吹省司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林 洋, 伊藤 浩, 紺野慎一, 矢部博興: 高齢の身体表現性障害患者における脳血流の変化. 第 116 回日本精神神経学会学術総会, オンライン, 2020.9.28-30.
 - 38) 横倉俊也, 青木俊太郎, 戸田 亘, 松本純弥, 大谷晃司, 本谷 亮, 上田由桂, 大西真央, 志賀可奈子, 川嶋彩花, 板垣俊太郎, 三浦 至, 矢部博興: 気分障害が併存する慢性痛患者に対する集団行動活性化療法の試み. 第 116 回日本精神神経学会学術総会, オンライン, 2020.9.28-30, 2020.
 - 39) 國井泰人, 日野瑞城, 近藤 豪, 和田 明, 松本純弥, 丹羽真一, 瀬藤光利, 矢部博興: 新規クロザピン結合タンパク質の探索— α/β チューブリンに対する相互作用. 第 116 回日本精神神経学会学術総会, オンライン, 2020.9.28-30.
 - 40) 國井泰人, 松本純弥, 泉 竜太, 長岡敦子, 日野瑞城, 赤津裕康, 橋詰良夫, 齊ノ内 信, 柿田明美, 矢部博興: 統合失調症脳病態における脂質シグナル伝達の意義—死後脳研究. 第 116 回日本精神神経学会学術総会, オンライン, 2020.9.28-30.

(3) 研究報告会

- 1) 橋本亮太, 稲田 健, 沼田周助, 山田 恒, 橋本保彦, 降旗隆二, 古郡規雄: 精神医療分野における治療の質を評価する QI とその向上をもたらす介入技法の開発と実用性の検証. 日本医療研究開発機構 令和 2 年度障害者対策総合研究開発事業 精神障害分野分科会, オンライン, 2020.7.23.
- 2) 長谷川尚美, 松本純弥, 三浦健一郎, 橋本亮太, EGUIDE プロジェクトメンバーズ: EGUIDE プロジェクトによる退院時処方への効果〜クロザピンと医療の質(Quality

Indicator)の関係に着目して～. NCNP 令和元年度精神保健研究所研究報告会, オンライン, 2020.12.21.

- 3) 橋本亮太, 長谷川尚美, 松本純弥, 三浦健一郎: 脳神経画像のメガアナリシスによる病態解明研究と EGUIDE プロジェクトによるガイドラインの普及教育効果の検証. NCNP 令和元年度精神保健研究所研究報告会, オンライン, 2020.12.21.
- 4) 橋本亮太: 多施設共同研究体制の構築. 第 15 回 COCORO 会議, オンライン, 2021.1.11.
- 5) 三浦健一郎: AI 解析によるバイオタイプの同定. 第 15 回 COCORO 会議, オンライン, 2021.1.11.
- 6) 松本純弥: 大脳皮質厚・面積の疾患横断的解析. 第 15 回 COCORO 会議, オンライン, 2021.1.11.
- 7) 三浦健一郎, 松本純弥, 長谷川尚美, 藤本美智子, 山森英長, 安田由華, 橋本亮太: 人工知能技術を活用した精神疾患の層別化—病態の理解と新たな診断体系の構築に向けて—. NCNP 令和 2 年度精神保健研究所研究報告会, オンライン, 2021.3.15.
- 8) 長谷川尚美, 松本純弥, 三浦健一郎, 橋本亮太, EGUIDE プロジェクトメンバーズ: 統合失調症とうつ病の治療に対する EGUIDE プロジェクトの効果. NCNP 令和 2 年度精神保健研究所研究報告会, オンライン, 2021.3.15.

(4) その他

- 1) Hashimoto R, Matsumoto J, Hasegawa N, Miura K: Partnering International Consortium: COCORO. The ENIGMA Consortium 2020 All-Hands Virtual Meeting, 2020.7.1-2.
- 2) 橋本亮太: 精神疾患の克服とその障害の支援. NCNP EDICS/精神科共催セミナー, オンライン, 2020.5.25.
- 3) 菅生康子, 林 和子, 松本有央, 松田圭司, 三浦健一郎, 本武陽一, 松尾 真, 澤山正貴, 南本敬史, 岡田真人, 柳井啓司, 佐藤いまり, 西田眞也, 河野憲二: 側頭葉前部における顔の質感知覚を支える神経機構の解明. 新学術領域研究「多様な質感認識の科学的解明と革新的質感技術の創出」第 9 回班会議, オンライン, 2020.9.24-26.

C. 講演

- 1) 橋本亮太: 精神疾患の多施設共同研究～病態解明から治療法の社会実装まで～. Mist seminar in GIFU. オンライン, 2020.11.25.
- 2) 橋本亮太: 統合失調症薬物治療ガイドラインを精神科臨床で生かすために. 2020 年度第 5 回日本精神薬学会 Web 講演会, オンライン, 2021.3.21.

D. 学会活動

(1) 学会主催

(2) 学会役員

- 1) 橋本亮太: 日本神経精神薬理学会 理事, 評議員, 広報委員会委員長, 統合失調症薬物治療ガイドラインタスクフォース委員, 編集委員会委員, 国際学術委員会委員, 執行委員会委員, 統合失調症薬物治療ガイドライン改訂委員, 50 周年記念事業ワーキンググループ委員, クロザピン TF 委員会委員長, トランスレーショナル・メディカルサイエンス(TMS)委員会イノベーションサイエンス部会委員, 精神科治療ガイドラインの普及・教育・検証委員会委員長 (通称: EGUIDE 委員会)
- 2) 橋本亮太: 日本精神神経学会 PCN 編集委員会委員, 薬事委員会委員, 精神医学研究推進委員会委員
- 3) 橋本亮太: 日本神経化学会 評議員, 利益相反委員会委員, 若手育成委員会委員

- 4) 橋本亮太：日本統合失調症学会 評議員
- 5) 橋本亮太：日本臨床精神神経薬理学会 評議員，精神科治療ガイドラインの普及・教育・検証委員会委員長（通称：EGUIDE 委員会）
- 6) 橋本亮太：日本うつ病学会 評議員，気分障害の治療ガイドライン検討委員会委員，精神科治療ガイドラインの普及・教育・検証委員会委員長（通称：EGUIDE 委員会）
- 7) 橋本亮太：日本生物学的精神医学会 理事，将来計画委員会委員，関連学会対応委員会副委員長，評議員
- 8) 橋本亮太：日本神経科学学会 臨床・関連学会連携委員会委員
- 9) 橋本亮太：国際神経精神薬理学会 理事，フェローシップ表彰委員会委員，教育委員会委員，評議員
- 10) 三浦健一郎：電子情報通信学会ニューロコンピューティング研究専門委員会 専門委員

(3) 座長

- 1) 橋本亮太：治療の指針となる診断法の開発研究の真のゴールとその道のり．シンポジウム「精神疾患の画像所見は，臨床診断に使えるようになるのか？」第 50 回日本神経精神薬理学会年会・第 42 回日本生物学的精神医学会年会・第 4 回日本精神薬学会総会・学術集会（NPBPPP 合同年会），オンライン，2020.8.21-23.
- 2) 橋本亮太：2020 日本精神薬学会 EGUIDE ワークショップ：薬剤師に治療ガイドラインは役に立つのか？－妊婦希望うつ病症例のディスカッションを通じてガイドラインの使い方を学ぼう．オンライン，2020.8.22.
- 3) 橋本亮太：2020 日本神経精神薬理学会 EGUIDE プロジェクト 統合失調症薬物治療ガイドライン講習会．オンライン，2020.8.23.
- 4) 橋本亮太：EGUIDE プロジェクトワークショップ：日常診療に治療ガイドラインは役に立つのか？－症例ディスカッションを通じてガイドラインの使い方を学ぼう．第 30 回日本臨床精神神経薬理学会，オンライン，2021.1.10.
- 5) 橋本亮太：COCORO の現状と方向性についてのディスカッション．第 15 回 COCORO 会議，オンライン，2021.1.11.

(4) 学会誌編集委員等

- 1) 橋本亮太：日本精神神経学会機関誌「Psychiatry and Clinical Neuroscience」編集委員会委員
- 2) 橋本亮太：日本神経精神薬理学会機関誌「Neuropsychopharmacology Reports」「日本神経精神薬理学雑誌」編集委員会委員

E. 研修

(1) 研修企画

- 1) 橋本亮太：2020 日本精神薬学会，EGUIDE ワークショップ：薬剤師に治療ガイドラインは役に立つのか？－妊婦希望うつ病症例のディスカッションを通じてガイドラインの使い方を学ぼう．オンライン，2020.8.22.
- 2) 橋本亮太：2020 日本神経精神薬理学会，EGUIDE プロジェクト 統合失調症薬物治療ガイドライン講習会．オンライン，2020.8.23.
- 3) 橋本亮太：第 116 回日本精神神経学会学術総会，ワークショップ(PCN 編集委員会)：現役エディターによる論文の書き方指導の講義と論文投稿の個別相談会．オンライン，2020.9.29.
- 4) 橋本亮太：第 116 回日本精神神経学会学術総会，ワークショップ：日常診療に診療ガイドラインは役に立つのか？ オンライン，2020.9.29.
- 5) 橋本亮太：EGUIDE プロジェクト中部地区岐阜大学講習，統合失調症薬物治療ガイドライン講習．オンライン，2020.10.31.
- 6) 橋本亮太：EGUIDE プロジェクト中部地区岐阜大学講習，うつ病治療ガイドライン講習．オンライン，2020.11.1.
- 7) 橋本亮太：EGUIDE プロジェクト関東地区 NCNP 講習，統合失調症薬物治療ガイドライン講習

- 習. オンライン, 2020.11.3.
- 8) 橋本亮太: EGUIDE プロジェクト東北地区東北大学講習, 統合失調症薬物治療ガイドライン講習. オンライン, 2020.11.14.
 - 9) 橋本亮太: EGUIDE プロジェクト東北地区東北大学講習, うつ病治療ガイドライン講習. オンライン, 2020.11.15.
 - 10) 橋本亮太: EGUIDE プロジェクト関東地区 NCNP 講習, うつ病治療ガイドライン講習. オンライン, 2020.11.15.
 - 11) 橋本亮太: EGUIDE プロジェクト北陸/北海道地区金沢医科大学/北海道講習, 統合失調症薬物治療ガイドライン講習. オンライン, 2020.11.22.
 - 12) 橋本亮太: EGUIDE プロジェクト北陸/北海道地区金沢医科大学/北海道大学講習, うつ病治療ガイドライン講習. オンライン, 2020.11.23.
 - 13) 橋本亮太: EGUIDE プロジェクト北陸/北海道地区金沢医科大学/北海道大学講習, うつ病治療ガイドライン講習. オンライン, 2020.11.23.
 - 14) 橋本亮太: EGUIDE プロジェクト関東地区東京慈恵会医科講習, 統合失調症薬物治療ガイドライン講習. オンライン, 2020.11.29.
 - 15) 橋本亮太: EGUIDE プロジェクト関東地区横浜市立大学講習, 統合失調症薬物治療ガイドライン講習. オンライン, 2020.12.5.
 - 16) 橋本亮太: EGUIDE プロジェクト福岡大学講習, 統合失調症薬物治療ガイドライン講習. オンライン, 2020.12.5.
 - 17) 橋本亮太: EGUIDE プロジェクト関東地区横浜市立大学講習, うつ病治療ガイドライン講習. オンライン, 2020.12.6.
 - 18) 橋本亮太: EGUIDE プロジェクト福岡大学講習, うつ病治療ガイドライン講習. オンライン, 2020.12.6.
 - 19) 橋本亮太: EGUIDE プロジェクト関東地区東京慈恵会医科大学講習, うつ病治療ガイドライン講習. オンライン, 2020.12.13.
 - 20) 橋本亮太: EGUIDE プロジェクト近畿地区大阪大学講習, 統合失調症薬物治療ガイドライン講習. オンライン, 2020.12.19.
 - 21) 橋本亮太: EGUIDE プロジェクト四国地区愛媛大学講習, 統合失調症薬物治療ガイドライン講習. オンライン, 2020.12.19.
 - 22) 橋本亮太: EGUIDE プロジェクト近畿地区大阪大学講習, うつ病治療ガイドライン講習. オンライン, 2020.12.20.
 - 23) 橋本亮太: EGUIDE プロジェクト四国地区愛媛大学講習, うつ病治療ガイドライン講習. オンライン, 2020.12.20.
 - 24) 橋本亮太: 第 30 回日本臨床精神神経薬理学会, EGUIDE プロジェクトワークショップ: 日常診療に治療ガイドラインは役に立つのか? - 症例ディスカッションを通じてガイドラインの使い方を学ぶ. オンライン, 2021.1.10.
 - 25) 橋本亮太: 第 17 回日本うつ病学会総会, EGUIDE プロジェクト うつ病治療ガイドライン講習会. オンライン, 2021.1.30.

(2) 研修会講師

- 1) 橋本亮太: 日常診療と診療ガイドラインの関係. ワークショップ: 日常診療に診療ガイドラインは役に立つのか? 第 116 回日本精神神経学会学術総会, オンライン, 2020.9.29.
- 2) 橋本亮太: 研究論文の書き方. ワークショップ(PCN 編集委員会): 現役エディターによる論文の書き方指導の講義と論文投稿の個別相談会, 第 116 回日本精神神経学会学術総会, オンライン, 2020.9.29.
- 3) 橋本亮太: 趣旨説明及び理解度記入. 統合失調症薬物治療ガイドライン講習, EGUIDE プロジェクト中部地区岐阜大学講習, オンライン, 2020.10.31.
- 4) 橋本亮太: 理解度の解説とフィードバック. 統合失調症薬物治療ガイドライン講習, EGUIDE プロジェクト中部地区岐阜大学講習, オンライン, 2020.10.31.
- 5) 橋本亮太: 趣旨説明及び理解度記入. うつ病治療ガイドライン講習, EGUIDE プロジェクト中部地区岐阜大学講習, オンライン, 2020.11.1.
- 6) 橋本亮太: 理解度の解説とフィードバック. うつ病治療ガイドライン講習, EGUIDE プロジェクト中部地区岐阜大学講習, オンライン, 2020.11.1.

- 7) 橋本亮太: 趣旨説明及び理解度記入. 統合失調症薬物治療ガイドライン講習, EGUIDE プロジェクト関東地区 NCNP 講習, オンライン, 2020.11.3.
- 8) 橋本亮太: 理解度の解説とフィードバック. 統合失調症薬物治療ガイドライン講習, EGUIDE プロジェクト関東地区 NCNP 講習, オンライン, 2020.11.3.
- 9) 橋本亮太: 趣旨説明及び理解度記入. うつ病治療ガイドライン講習, EGUIDE プロジェクト関東地区 NCNP 講習, オンライン, 2020.11.15.
- 10) 橋本亮太: 理解度の解説とフィードバック. うつ病治療ガイドライン講習, EGUIDE プロジェクト関東地区 NCNP 講習, オンライン, 2020.11.15.
- 11) 橋本亮太: 趣旨説明及び理解度記入. 統合失調症薬物治療ガイドライン講習, EGUIDE プロジェクト関東地区東京慈恵会医科大学講習, オンライン, 2020.11.29.
- 12) 橋本亮太: 理解度の解説とフィードバック. 統合失調症薬物治療ガイドライン講習, EGUIDE プロジェクト関東地区東京慈恵会医科大学講習, オンライン, 2020.11.29.
- 13) 橋本亮太: 趣旨説明及び理解度記入. 統合失調症薬物治療ガイドライン講習, EGUIDE プロジェクト関東地区横浜市立大学講習, オンライン, 2020.12.5.
- 14) 橋本亮太: 理解度の解説とフィードバック. 統合失調症薬物治療ガイドライン講習, EGUIDE プロジェクト関東地区横浜市立大学講習, オンライン, 2020.12.5.
- 15) 橋本亮太: 趣旨説明及び理解度記入. うつ病治療ガイドライン講習, EGUIDE プロジェクト関東地区横浜市立大学講習, オンライン, 2020.12.6.
- 16) 橋本亮太: 理解度の解説とフィードバック. うつ病治療ガイドライン講習, EGUIDE プロジェクト関東地区横浜市立大学講習, オンライン, 2020.12.6.
- 17) 橋本亮太: 理解度の解説とフィードバック. うつ病治療ガイドライン講習, EGUIDE プロジェクト関東地区東京慈恵会医科大学講習, オンライン, 2020.12.13.
- 18) 橋本亮太: 趣旨説明及び理解度記入. うつ病治療ガイドライン講習, EGUIDE プロジェクト関東地区東京慈恵会医科大学講習, オンライン, 2020.12.13.

F. その他

- 1) 松本純弥: 奨励賞受賞, 日本生物学的精神医学会第 9 回若手研究者育成プログラム, 演題「統合失調症患者と健常被験者における拡散テンソル画像を用いた大脳白質微細構造と認知機能, 認知機能障害, 労働時間との関連」, 第 42 回日本生物学的精神医学会年会 (第 50 回日本神経精神薬理学会年会・第 42 回日本生物学的精神医学会年会・第 4 回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP 合同年会)), オンライン, 2020.8.21-23.
- 2) 松本純弥: 優秀発表賞受賞, 第 116 回日本精神神経学会学術総会, 演題「大脳白質の軸索の髄鞘化, 大脳白質の成熟と, 認知機能・社会機能の指標である労働時間との関連」, 第 116 回日本精神神経学会学術総会, オンライン, 2020.9.28-30.
- 3) 橋本亮太, 長谷川尚美, 松本純弥, 三浦健一郎: 講義, 精神疾患の脳科学: トランスレーショナルアプローチ. 東京農業大学農学研究科大学院講義, オンライン, 2020.10.28.
- 4) 橋本亮太: 総合司会, 統合失調症薬物治療ガイドライン講習, EGUIDE プロジェクト中部地区岐阜大学講習, オンライン, 2020.10.31.
- 5) 橋本亮太: 総合司会, うつ病治療ガイドライン講習, EGUIDE プロジェクト中部地区岐阜大学講習, オンライン, 2020.11.1.
- 6) 橋本亮太: 総合司会, 統合失調症薬物治療ガイドライン講習, EGUIDE プロジェクト関東地区 NCNP 講習, オンライン, 2020.11.3.
- 7) 橋本亮太: 総合司会, うつ病治療ガイドライン講習, EGUIDE プロジェクト関東地区 NCNP 講習, オンライン, 2020.11.15.
- 8) 橋本亮太: 総合司会, 統合失調症薬物治療ガイドライン講習, EGUIDE プロジェクト関東地区東京慈恵会医科大学講習, オンライン, 2020.11.29.
- 9) 橋本亮太: 総合司会, 統合失調症薬物治療ガイドライン講習, EGUIDE プロジェクト関東地区横浜市立大学講習, オンライン, 2020.12.5.
- 10) 橋本亮太: 総合司会, うつ病治療ガイドライン講習, EGUIDE プロジェクト関東地区横浜市

立大学講習，オンライン，2020.12.6.

- 11) 橋本亮太：総合司会，うつ病治療ガイドライン講習，EGUIDE プロジェクト関東地区東京慈恵会医科大学講習，オンライン，2020.12.13.
- 12) 橋本亮太：研究会主宰，第15回COCORO会議，オンライン，2021.1.11.
- 13) 安田由華：受賞，日本精神神経学会 第13回(2020年度)フォリア賞（日本精神神経学会 2020年度最優秀論文賞），2021.1. 受賞論文：Yasuda Y, Okada N, Nemoto K, Fukunaga M, Yamamori H, Ohi K, Koshiyama D, Kudo N, Shiino T, Morita S, Morita K, Azechi H, Fujimoto M, Miura K, Watanabe Y, Kasai K, Hashimoto R: Brain morphological and functional features in cognitive subgroups of Schizophrenia. Psychiatry Clin Neurosci 74(3):191-203, 2020.

8. 睡眠・覚醒障害研究部

I. 研究部の概要

研究部および研究室の研究目的

睡眠・覚醒障害研究部では、睡眠、意識、認知、感情、意欲等の精神活動を脳科学的にとらえ、その制御メカニズムを明らかにし、これら生理機能の調節障害に基づく各種の睡眠・覚醒障害、気分障害、不安障害、認知症性障害、神経・発達障害などの病態および治療法を解明することを目的としている。このため、精神生理学、時間生物学、神経薬理学、分子生物学、神経内分泌学、脳画像解析学などの手法を用いて、学際的な研究を進めている。

部長 1 名、室長 2 名に加え、リサーチフェロー 1 名、科研費研究員 3 名、研究補助員 3 名、事務助手 3 名、国立精神・神経医療研究センター内外の研究・治療協力施設の客員研究員および協力研究者との連携のもとに研究を進めている。

研究部の構成

部長：栗山健一。精神生理機能研究室長：吉池卓也。臨床病態生理研究室長：北村真吾。リサーチフェロー：綾部直子（～7/31）、河村葵（1/1～）。併任研究員：松井健太郎（センター病院）、都留あゆみ（センター病院）、羽澄恵（現公共精神健康医療研究部・6/1～）。客員研究員：内山 真（日本大学）、兼板佳孝（日本大学）、大川匡子（睡眠総合ケアクリニック代々木）、井上雄一（医療法人社団絹和会）、樋口重和（九州大学）、本多 真（東京都医学総合研究所）、上田泰己（東京大学）、池田正明（埼玉医科大学）、山寺 亘（東京慈恵会医科大学）、守口善也（ルンドベックジャパン）、阿部高志（筑波大学）、福水道郎（瀬川記念小児神経学クリニック）、榎本みのり（東京工科大学）、有竹清夏（埼玉県立大学）、亀井雄一（上諏訪病院）、渡辺和人（獨協医科大学）、三島和夫（秋田大学）、西村勝治（東京女子医科大学）、梶達彦（あいせいかいココロのクリニック）、阿部又一郎（伊敷病院）、岡島義（東京家政大学）、高橋英彦（東京医科歯科大学）、肥田昌子（秋田大学）、玉置應子（独立行政法人労働者健康安全機構）、鈴木正泰（日本大学）、村上裕樹（大分大学）、吉村道孝（愛知東邦大学）、太田英伸（秋田大学）、綾部直子（秋田大学 10/1～）。そのほか科研費研究員 3 名、科研費研究補助員 2 名、センター研究補助員 1 名、科研費事務助手 2 名、センター事務助手 1 名、研究生 15 名、実習生 11 名。

II. 研究活動

1) 「健康づくりのための睡眠指針 2014」のブラッシュアップ・アップデートを目指した「睡眠の質」の評価及び向上手法確立のための研究（19FA1009）

厚生労働科学研究費補助金循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業（代表研究者：栗山健一、研究協力者：北村真吾、吉池卓也、綾部直子、吉村道孝、河村葵）

本研究は「睡眠の質」を反映し、健康を維持するために目標となる指標・数値目標を示すことを目的とする。客観性の高い「睡眠の質」指標には、睡眠脳波検査に基づく睡眠深度や睡眠効率等が用いられてきた。しかし、睡眠脳波は利便性とコストの面で、国民の睡眠健康の指標に用いるには困難である。さらに、睡眠脳波指標と主観的な睡眠充足感に乖離が大きく、簡便かつ客観性が担保された標準化指標の開発が求められる。

「睡眠の質」指標は、睡眠健康の目安になると同時に、生活習慣病等の予防的意義も重要である。本研究では日本人の睡眠状況、「睡眠の質」低下の原因となる睡眠問題や生じうる二次障害を文献調査した上で、「睡眠の質」を規定しうる指標および数値目標をシステムティックレビューし、各論文の質的評価も厳密に行った上で同定することを目標とする。「睡眠の質」の数値目標に客観性を担保するため、既存の大規模コホートデータを再解析し睡眠脳波との関連性を評価する。本課題の成果である「睡眠の質」の評価に資する主観・客観指標の提案は、「健康づ

くりのための睡眠指針 2014」で明確に示すことができなかった、健康向上に寄与する睡眠の具体的な数値目標を提示することが可能となり、前指針（2014）の課題を克服した、次世代の健康指針アップデートに直ちに活用可能である。「睡眠の質」ならびに健康づくりに寄与する、睡眠健康の啓発基盤を整備・発展させることで、広く国民に適切な知識を普及させることに寄与する。

2) 睡眠障害・睡眠ポリグラフデータバンク構築研究

精神・神経医療研究開発費研究事業（主任研究者：栗山健一，研究協力者：北村真吾，吉池卓也，綾部直子，河村葵）

本研究事業では、精神疾患に随伴する不眠症、過眠症（眠気）、概日リズム睡眠-覚醒障害（夜型生活や昼夜逆転）に対する効果的で安心な睡眠障害用クリニカルパスを作成することを目的としており、クリニカルパスには患者の要望が大きい **shared decision making** と出口戦略（維持療法か治療終結かの判断）の視点を取り入れる。クリニカルパスを用いた睡眠医療によって患者の日常機能の大きな阻害要因である社会機能/QOL 障害の向上に資するか検証する。これらの目的のために以下の研究事業に取り組んだ。1) 睡眠障害による社会機能/QOL 障害の実態調査：睡眠障害による社会機能/QOL 障害の同定に適した臨床評価尺度を選択・作成し、睡眠障害の存在が精神疾患患者の社会機能/QOL 障害に及ぼす寄与度を明らかにするための多施設共同実態調査の準備を行った。2) 睡眠障害用クリニカルパスの作成：睡眠症状と社会機能/QOL 障害のアセスメント、治療、寛解・回復基準、減薬・休薬までの流れを明示的に示す睡眠医療クリニカルパスの作成に着手した。不眠、過眠、睡眠リズム異常に対する薬物療法をベースとして、認知行動療法（CBT-I, CBT-R）を活用することでリスクベネフィットと社会機能/QOL の向上を図る診療マニュアルの作成に着手した。

3) 大脳深部皮質下白質病変が不眠症病態に及ぼす影響の検討

文部科学省科学研究費助成事業 基盤研究 C（研究代表者：栗山健一）

不眠症は「不眠に対する恐怖」と「生理的過覚醒」が病態の中核をなす症候群であるが、一部の患者は自身の睡眠に対して、眠れているにもかかわらず「全く眠れてない」という誤認を示す。睡眠障害国際分類（The International Classification of Sleep Disorders: ICSD）第2版では、「睡眠状態誤認」は逆説性不眠症（Paradoxical Insomnia: PI）という下位診断分類の特徴とされていたが、近年は多くの不眠症患者が共有する病態特性（スペクトラム）と考えられるようになった。「睡眠状態誤認」は、「猥とした健康障害への不安」を基に生じる認知構造として、身体症状症（疼痛性障害含む）と共通した特徴を示し、加齢に伴い増強する疾患共通の治療抵抗因子であると推測される。特に、大脳灰白皮質の萎縮性病変および脳微小血管障害を背景とした大脳白質病変が、この認知構造に関与している可能性が推測されるが、系統的に検討した研究はない。本研究は、上記病態関連性を検討するとともに、身体愁訴、疼痛症状との関連も検討項目に加え、不眠症と身体症状症等の精神疾患病態との関連性を検討することを目的し行われる。

4) 子どもの睡眠調節に対する睡眠恒常性機能と概日リズム機能の寄与

文部科学省科学研究費助成事業 基盤研究 C（研究代表者：北村真吾）

本研究の目的は、子どもの年齢変化に伴う睡眠調節の機能変化に対する要因としての睡眠恒常性機能諸側面（主観的眠気、脳波検査）と概日リズム機能諸側面（放熱反応、概日リズム位相後退、夜型化）の寄与の検証である。本年度は、隔離実験を実施した。

研究協力者は 39 名の男女児童である（平均年齢 10.4±2.6 歳、範囲 6～15 歳、男女比 55%:45%）。すべての児童本人及び保護者へ説明を行い書面による同意を得た。参加にあたり児童は実験施設で1夜の睡眠ポリグラフ（PSG）のスクリーニングを行い睡眠に問題がないこ

とを確認された。導入された児童は、在宅7日間の活動量 FS-760 の測定を行った後に実験室での実験に参加した。習慣的就床時刻の5.5時間前に来所し、習慣的就床時刻の1時間後の消灯までの間、座位安静で皮膚温測定、唾液メラトニン測定、眠気主観評価、精神運動ビジランス課題、覚醒脳波検査を行った。消灯から7時間の睡眠中、PSG の測定を行った。現在解析を行っている。

5) 脳構造の可塑性ダイナミクスと気分障害病態の関連探索メカニズム

文部科学省科学研究費助成事業 若手研究（研究代表者：吉池卓也）

双極性障害やうつ病を有する患者において、朝に増悪するうつ症状の日内変動が特徴的に出現するのみならず、体温調節、ホルモン分泌、時計遺伝子発現といった様々な生理指標の概日パターンが健常者と比べ変化することが知られている。近年、ヒトの灰白質及び白質の容積が同日内で変化することが明らかにされ、脳の粗大な構造変化（構造的可塑性）の生理学的意義が議論されるようになった。しかし、構造的可塑性が精神疾患においていかなる変化を示し、病態及び治療といかに関係するかは明らかにされていない。本研究は、磁気共鳴画像（MRI）の解析手法のうち、脳表面形態計測法や白質微細構造解析法を用い、気分障害患者の臨床症状、治療反応性、高次認知機能との関連を検討することにより、特定の脳部位における構造変化を描出し、新たな病態指標を開発することを目的として行われる。

6) 概日リズム睡眠覚醒障害の遺伝要因とその発症分子メカニズム

文部科学省科学研究費助成事業 基盤研究 C（研究代表者：肥田昌子）

概日リズム睡眠-覚醒障害は、望ましい時間帯に入眠して覚醒することが困難となる疾患で、生物時計システムの入力・時計本体・出力に関連する機能の障害によって生じると考えられている。本研究は、概日リズム睡眠-覚醒障害のサブタイプの一つである非24時間睡眠-覚醒リズム障害17人を対象に、76個の概日・睡眠関連遺伝子について次世代シーケンシングによる配列解析を行った。17人で合計1,133,292のバリエーションが検出され、遺伝子間、イントロン、ノンコーディングRNAに存在するものを除外すると、信頼性の高いバリエーションは95個に絞られた。現時点で公開データベースに登録されていない新規バリエーションは、4遺伝子に存在した。そのうち2遺伝子について、次世代シーケンスを行った17人を含む合計64人を対象にサンガーシーケンスを実施した。その結果、1遺伝子に2つの新規バリエーションと3つの既知バリエーション、もう1つの遺伝子には1つの新規バリエーションと9つの既知バリエーションが検出された。これらのバリエーションは、非24時間睡眠-覚醒リズム障害に関連する可能性がある。

7) 睡眠・覚醒相後退障害に対する認知行動的アプローチに基づく治療プログラムの構築

文部科学省科学研究費補助金 若手研究（研究代表者：綾部直子）

生体内の睡眠・覚醒リズム（体内時計）と、外部の明暗サイクルとの間にずれが生じることにより社会生活に支障が生じる「概日リズム睡眠・覚醒障害（Circadian Rhythm Sleep-Wake Disorders : CRSWD）」がある。CRSWDは、睡眠・覚醒リズムのパターンにより数種類に分類されるが、慣習上あるいは社会的に許容される睡眠時間帯より通常2時間以上相対的に後退するものを「睡眠・覚醒相後退障害（Delayed sleep-Wake phase Disorder : DSWPD）」と定義している。DSWPDは、学校や仕事の前夜に十分な睡眠時間を取るために必要な時間帯に入眠することや、通常の登校時刻や出勤時刻に起床することに対して著しい困難をきたす。さらに、気分の低下や抑うつなど気分障害との合併のしやすさも明らかにされている。特に思春期から若年成人に多く、その有病率は7～16%とされているが、DSWPDに対する治療法は対症療法が中心となるため根治は難しい。近年、概日リズム睡眠・覚醒障害に対する認知行動的アプローチが提唱されつつあるが、検証が十分とは言えない。そこで本研究では、特に問題とされやすいDSWPDに対して、従来の時間生物学的治療に認知行動的アプローチを加えた包括的

な治療プログラムの構築を行うことを目的とする。

Ⅲ. 社会的活動に関する評価

(1) 市民社会に対する一般的な貢献

各研究員は、都民・市民のための公開講座、講演会などにおいて睡眠と健康づくり、睡眠障害および関連する健康問題などについての普及啓発に努めた。NHK および民放テレビ、ラジオ、オンラインサイト、新聞、雑誌等のメディアを通して、睡眠習慣および睡眠問題の重要性について普及啓発活動を行った。

(2) 専門教育面における貢献

各研究員は、国内各地の学術集会、研究会、談話会、医師会講演会などで睡眠障害、気分障害、認知症の睡眠行動障害等の治療と予防について講演した。栗山健一は東京農工大学（客員教授）、滋賀医科大学（客員教授）など教育機関において学生教育の援助を行った。北村真吾は、京都大学（非常勤講師）、神奈川大学（非常勤講師）、埼玉県立大学（非常勤講師）、女子栄養大学（非常勤講師）において学生教育の援助を行った。綾部直子は帝京大学（非常勤講師）において学生教育の援助を行った。吉池卓也は武蔵野大学（非常勤講師）において学生教育の援助を行った。

また、研究員は日本睡眠学会、日本時間生物学会、日本生物学的精神医学会、日本公衆衛生学会、不眠研究会、睡眠学研究会、関東睡眠障害懇話会、日本生理人類学会、関東脳核医学研究会などにおける理事、評議員、世話人としての活動を通じて睡眠障害診療従事者の研究及び教育のサポートを行った。国際老年精神医学会、米国睡眠学会、ヨーロッパ睡眠学会、国際時間生物学会等、米国心身医学会、ヨーロッパ CBT 学会、等において講演者、シンポジスト、オーガナイザーとして研究成果を発表し、各国の第一線の研究者達と意見交換を行った。

(3) 精研の研修の主催と協力

(4) 保健医療行政政策に関連する研究・調査、委員会等への貢献

全ての研究員は、厚生労働科学研究（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）「健康づくりのための睡眠指針 2014」のブラッシュアップ・アップデートを目指した「睡眠の質」の評価及び向上手法確立のための研究（研究代表者：栗山健一）に参画し、厚生労働省健康日本 21（第 2 次）による「健康づくりのための睡眠指針」アップデートの際に活用される新たな睡眠健康指標の開発に貢献した。

栗山健一は、厚生労働科学研究（障害者政策総合研究事業）向精神薬の処方実態の解明と適正処方を実践するための薬物療法ガイドラインに関する研究（研究代表者：三島和夫）に参加し、主に睡眠薬の適正処方に関するガイドライン作成に貢献した。

(5) センター内における臨床的活動

栗山健一は、国立精神・神経医療研究センター病院睡眠障害センター長として、睡眠障害臨床部門の管理・運営の指揮を執った。

栗山健一、吉池卓也、綾部直子は、国立精神・神経医療研究センター病院において睡眠障害専門外来での診療および臨床研究を行った。

(6) その他

栗山健一は、精神保健判定医として複数の医療観察法裁判に参加し、同法の有機的・機能的運用に貢献した。

北村真吾および研究員は企業から要請された診断機器の安全性、有効性、機能向上に関する受託研究に関わった。

Ⅳ. 研究業績

A. 刊行物

(1) 原著論文

- 1) Matsui K, Inada K, Kuriyama K, Yoshiike T, Nagao K, Oshibuchi H, Akaho R, Nishimura K: Prevalence of circadian rhythm sleep–wake disorder in outpatients with schizophrenia and its association with psychopathological characteristics and psychosocial functioning. *J Clin Med* 10(7): 1513, 2021. doi.org/10.3390/jcm10071513.
- 2) Matsui K, Kuriyama K, Kobayashi M, Inada K, Nishimura K, Inoue Y: The efficacy of add-on ramelteon and subsequent dose reduction of benzodiazepine derivatives/Z-drugs for the treatment of sleep-related eating disorder and night eating syndrome: a retrospective analysis of consecutive cases. *J Clin Sleep Med*. 2021 Mar 11. doi: 10.5664/jcsm.9236. Online ahead of print.
- 3) Nishikawa K, Kuriyama K, Yoshiike T, Yoshimura A, Okawa M, Kadotani H, Yamada N. Effects of Cognitive Behavioral Therapy for Insomnia on Subjective-Objective Sleep Discrepancy in Patients with Primary Insomnia: A Small-Scale Cohort Pilot Study. *Int J Behav Med*. Feb 24. doi: 10.1007/s12529-021-09969-x. Online ahead of print.
- 4) Matsuno S, Yoshiike T, Yoshimura A, Morita S, Fujii Y, Honma M, Ozeki Y, Kuriyama K: Contribution of somatosensory and parietal association areas in improving standing postural stability through standing plantar perception training in community-dwelling older adults. *J Aging Phys Act*. Ahead of Print, 2021. doi.org/10.1123/japa.2020-0130.
- 5) Inagaki T, Kudo K, Kurimoto N, Aoki T, Kuriyama K: A case of prolonged catatonia caused by Sjögren's syndrome. *Case Reports in Immunology*. 2020 Nov 3;2020:8881503. doi: 10.1155/2020/8881503. eCollection 2020.
- 6) Matsui K, Kuriyama K, Yoshiike T, Nagao K, Ayabe N, Komada Y, Okajima I, Ito W, Ishigooka J, Nishimura K, Inoue Y: The effect of short or long sleep duration on quality of life and depression: an internet-based survey in Japan. *Sleep Med* 76: 80-85, 2020.
- 7) Matsui K, Komada Y, Nishimura K, Kuriyama K, Inoue Y: Prevalence and Associated Factors of Nocturnal Eating Behavior and Sleep-Related Eating Disorder-Like Behavior in Japanese Young Adults: Results of an Internet Survey Using Munich Parasomnia Screening. *J Clin Med* 9(4): 1243, 2020. doi: 10.3390/jcm9041243.
- 8) Yoshiike T, Kuriyama K, Nakasato Y, Nakamura M: Mutual relationship between somatic anxiety and insomnia in maintaining residual symptoms of depression. *Journal of Behavioral and Cognitive Therapy* 30(2): 83-93, 2020. Doi: 10.1016/j.jbct.2020.03.012.
- 9) Kawamura A, Yoshiike T, Yoshimura A, Koizumi H, Nagao K, Fujii Y, Takami M, Takahashi M, Matsuo M, Yamada N, Kuriyama K: Bright light exposure augments cognitive behavioral therapy for panic and posttraumatic stress disorders: a pilot randomized control trial. *Sleep and Biological Rhythms* 18(2): 101-107, 2020.
- 10) Yoshiike T, Dallaspezia S, Kuriyama K, Yamada N, Colombo C, Benedetti F: Association of circadian properties of temporal processing with rapid antidepressant response to wake and light therapy in bipolar disorder. *J Affect Disord*. 263: 72-77, 2020.
- 11) Ishizuya A, Enomoto M, Tachimori H, Takahashi H, Sugihara G, Kitamura S, Mishima K: Risk factors for low adherence to methylphenidate treatment in pediatric patients with attention-deficit/hyperactivity disorder. *Scientific reports*. 11: 1707, 2021.
- 12) Korman M, Tkachev V, Reis C, Komada Y, Kitamura S, Gubin D, Kumar V, Roenneberg T: COVID-19-mandated social restrictions unveil the impact of social time pressure on sleep and body clock. *Scientific reports*. 10: 22225, 2020.

- 13) Miidera H, Enomoto M, Kitamura S, Tachimori H, Mishima K: Association Between the Use of Antidepressants and the Risk of Type 2 Diabetes: A Large, Population-Based Cohort Study in Japan. *Diabetes care*. 43: 885-893, 2020.
- 14) Motomura Y, Katsunuma R, Ayabe N, Oba K, Terasawa Y, Kitamura S, Moriguchi Y, Hida A, Kamei Y, Mishima K: Decreased activity in the reward network of chronic insomnia patients. *Scientific reports*. 11: 3600, 2021.
- 15) Yoshimura M, Kitamura S, Eto N, Hida A, Katsunuma R, Ayabe N, Motomura Y, Nishiwaki Y, Negishi K, Tsubota K, Mishima K: Relationship between Indoor Daytime Light Exposure and Circadian Phase Response under Laboratory Free-Living Conditions. *Biological Rhythm Research*: 1-21, 2020.

(2) 総説

- 1) 栗山健一: エディトリアル 特集 不眠・過眠性障害 一病態に即した治療戦略と薬剤の使用法-. *カレントセラピー* 39(3): 7, 2021.
- 2) 内海智博, 吉池卓也, 栗山健一: 健康増進・疾病予防を目指した睡眠改善のあり方 特集 不眠・過眠性障害 一病態に即した治療戦略と薬剤の使用法-. *カレントセラピー* 39(3): 65-71, 2021.
- 3) 栗山健一: 睡眠の質研究班の紹介. 精神疾患および精神保健に関する疫学のトピック—記述疫学 リスク研究から進行中のコホート研究まで. *精神医学* 63(4): 459-468, 2021.
- 4) 綾部直子, 栗山健一: 神経発達症の心理社会的支援における睡眠問題のアセスメントとアプローチ. *睡眠医療 ライフ・サイエンス* 4(14): 439-446, 2020.
- 5) 栗山健一: 不眠症: 不安の病理に着目して. *睡眠医療 ライフ・サイエンス* 4(14): 485-490, 2020.
- 6) 綾部直子, 栗山健一: 不眠症に対する集団認知行動療法. XIII 特論. 最新臨床睡眠学 (第 2 版) 日本臨牀 (増刊号) 78(Suppl 6): 753-759, 2020.
- 7) 吉池卓也, 栗山健一: 不安障害. XII 各科領域・疾患における睡眠障害. 最新臨床睡眠学 (第 2 版) 日本臨牀 (増刊号) 78(Suppl 6): 610-615, 2020.
- 8) 河村葵, 栗山健一: 致死性家族性不眠症. XI その他の睡眠障害. 最新臨床睡眠学 (第 2 版) 日本臨牀 (増刊号) 78(Suppl 6): 549-554, 2020.
- 9) 長尾賢太郎, 栗山健一: 頭内爆発音症候群と睡眠関連幻覚. IX 睡眠時随伴症群. 最新臨床睡眠学 (第 2 版) 日本臨牀 (増刊号) 78(Suppl 6): 498-503, 2020.
- 10) 吉池卓也, 栗山健一: 睡眠・覚醒相後退障害. VIII 概日リズム睡眠・覚醒障害群. 最新臨床睡眠学 (第 2 版) 日本臨牀 (増刊号) 78(Suppl 6): 427-433, 2020.
- 11) 長尾賢太郎, 栗山健一: 過眠症治療薬. VII 中枢性過眠症群. 最新臨床睡眠学 (第 2 版) 日本臨牀 (増刊号) 78(Suppl 6): 410-415, 2020.
- 12) 河村葵, 栗山健一: クライネーレビン症候群. VII 中枢性過眠症群. 最新臨床睡眠学 (第 2 版) 日本臨牀 (増刊号) 78(Suppl 6): 389-394, 2020.
- 13) 綾部直子, 栗山健一: 不適切な睡眠衛生と臥床時間過剰. V 不眠症. 最新臨床睡眠学 (第 2 版) 日本臨牀 (増刊号) 78(Suppl 6): 249-254, 2020.
- 14) 栗山健一: 睡眠の量と質. II 総説. 最新臨床睡眠学 (第 2 版) 日本臨牀 (増刊号) 78(Suppl 6): 138-144, 2020.
- 15) 吉池卓也, 栗山健一: 不安症と不眠症. 特集 II 精神疾患に併存する見逃されやすい睡眠障害. *精神科 科学評論社* 37(4): 401-407, 2020.
- 16) 栗山健一: 不眠症の病態生理と診断・治療上の課題. *CLINICIAN* 67(682): 656-663, 2020.
- 17) 鈴木みのり, 大沢知隼, 松井健太郎, 栗山健一: パーキンソニズムの認知行動療法. *Monthly Book MEDICAL REHABILITATION* 248(5): 45-50, 2020.
- 18) 栗山健一: 睡眠の量と質を考える. 特集: 睡眠障害の診療 update. *日本臨牀* 78(5): 854-860,

2020.

- 19) 北村真吾：夜型生活と睡眠負債（社会的ジェットラグ）を解消するための睡眠術．診断と治療 108(12) 1583 - 1587. 2020.
- 20) 北村真吾：時差障害．最新臨床睡眠学（第2版）日本臨牀（増刊号）78(Suppl 6)：459-464, 2020.
- 21) 吉池卓也：神経症性障害に合併する不眠・過眠の病態と治療戦略．カレントセラピー 39(3)：24-30, 2021.
- 22) 綾部直子，三島和夫：真のエンドポイントを目指した慢性不眠障害の評価—過覚醒評価尺度とその標準化—．臨床精神薬理 23(5)：507-515, 2020.

(3) 著書

- 1) 長尾賢太郎，栗山健一：精神・神経系 4 催眠鎮静薬・抗不安薬 治療薬 UP-TO-DATE 2021. メディカルレビュー社，pp35-53, 2021.3.
- 2) 栗山健一：第4章 睡眠のメカニズムと睡眠障害．抗疲労・抗ストレス・睡眠改善食品の開発．CMC 出版，Pp43-52, 2020.4.28.
- 3) 栗山健一：第7章 8. 睡眠覚醒リズムと時間感覚．睡眠学 第2版，朝倉書店，pp193-197, 2020.
- 4) 吉池卓也，栗山健一：第8章 4. 睡眠と情動調節．睡眠学 第2版，朝倉書店，pp229-234, 2020.
- 5) 栗山健一：第30章 1.3. PTSD・不安障害・パニック障害．睡眠学 第2版，朝倉書店，pp655-657, 2020.
- 6) 北村真吾：第19章 8.4. 生体リズム測定法．睡眠学 第2版，朝倉書店，pp488-489, 2020.
- 7) 北村真吾：第17章 睡眠の生理．公認心理師の基礎と実践 10 神経・生理心理学，遠見書房，pp247-260, 2020.

(4) 研究報告書

- 1) 栗山健一：睡眠時間指標を補填し国民の健康増進に資する「睡眠の質」指標の探索．令和2年厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）「健康づくりのための睡眠指針 2014」のブラッシュアップ・アップデートを目指した「睡眠の質」の評価及び向上手法確立のための研究（代表研究者：栗山健一）令和2年度総括・分担研究報告書，pp 1-15.2021.
- 2) 栗山健一，北村真吾，吉池卓也：大規模調査データに基づく「睡眠休養感」と「睡眠の質」の関係およびこれらが健康維持・増進に及ぼす影響の検討．令和2年厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）「健康づくりのための睡眠指針 2014」のブラッシュアップ・アップデートを目指した「睡眠の質」の評価及び向上手法確立のための研究（代表研究者：栗山健一）令和2年度総括・分担研究報告書，pp 17-30.2021.
- 3) 栗山健一：睡眠障害・睡眠ポリグラフデータバンク構築研究．精神・神経疾患研究開発費「睡眠障害・睡眠ポリグラフデータバンク構築研究」（研究代表者：栗山健一）（2-1）令和2年度総括・分担研究報告書，pp1-7.2021.

(5) 翻訳

(6) その他

- 1) 栗山健一：「遅寝遅起き」コロナで増加か．日経新聞，2021.2.17.
- 2) 栗山健一：5人に1人は「睡眠の質が悪化」新型コロナによる生活変化影響．NHK NEWS WEB，2020.11.30.

- 3) 栗山健一：「「コロナ不眠」、どう解消?」. 岐阜新聞, 2020.11.30.
- 4) 栗山健一：「コロナ禍 不眠の訴え増加」. 秋田魁新報, 2020.11.20.
- 5) 栗山健一：「冬季うつを見逃すな」. 日経新聞, 夕刊, 2020.11.18.
- 6) 栗山健一：「コロナ不眠 どう解消?」. 室蘭日報, 2020.11.12.
- 7) 栗山健一：「コロナ禍で増える不眠 どう解消」. 静岡新聞, 2020.11.11.
- 8) 栗山健一：「コロナ不眠 「生活リズム改善を」」. フジサンケイビジネスアイ(東京・大阪), 2020.11.10.
- 9) 栗山健一：「コロナ疲れ 増える不眠」. 中国新聞(広島), 2020.11.4.
- 10) 栗山健一：「コロナ不眠 どう解消」. 福井新聞, 2020.11.4.
- 11) 栗山健一：「コロナ禍 不眠増加」. 宮崎日日新聞, 2020.11.3.
- 12) 栗山健一：「コロナ不眠、どう解消?」. 大阪日日新聞・日本海新聞(鳥取)・下野新聞(宇都宮), 2020.11.3.
- 13) 栗山健一：「「よく眠れない」増加」. 神奈川新聞, 2020.11.3.
- 14) 栗山健一：「体内時計→朝リセットで快眠」. 山形新聞, 2020.11.2.
- 15) 栗山健一：「増えるコロナ不眠」. 河北新報(仙台), 2020.11.2.
- 16) 栗山健一：体と脳が老けない寝室. 日経ヘルス, 2020年12月号, 2020.11.2.
- 17) 栗山健一：「新型コロナでストレス 眠れない!」. 信濃毎日新聞(長野・夕刊), 2020.10.31.
- 18) 栗山健一：「コロナ不眠 どう解消?」. 伊勢新聞, 2020.10.31.
- 19) 栗山健一：「コロナ不眠には…」. 西日本新聞(福岡・夕刊), 2020.10.30.
- 20) 栗山健一：「コロナ不眠 リズムで改善」. 産経新聞・産経新聞(大阪), 2020.10.29.
- 21) 栗山健一：「コロナ不眠どう解消?」. 中部経済新聞・高知新聞, 2020.10.28.
- 22) 栗山健一：「生活リズム乱れ「コロナ不眠」増」. 北海道新聞(夕刊), 2020.10.27.
- 23) 栗山健一：「コロナ禍の不眠どう解消?」. 熊本日報, 2020.10.25.
- 24) 栗山健一：「生活が変化増える不眠」. 新潟日報 Otona, 2020.10.25.
- 25) 栗山健一：「コロナ不眠どう解消?」. 山陽新聞・山梨日日新聞・大分合同新聞・茨城新聞・岩手日報, 2020.10.25.
- 26) 栗山健一：特集「患者を生きる」. 朝日新聞, 2020.9.27～ 計5回
- 27) 栗山健一：コロナ禍の睡眠. be on Sunday, 朝日新聞, 2020.9.5.
- 28) 栗山健一：睡眠誤認 特集 医療ルネサンス. 読売新聞, 2020.6.24-6.30.
- 29) 栗山健一：特発性過眠症(けんこう Q&A). pp10 KENPO2020 夏号 2020.
- 30) 栗山健一：あなたの不眠 本当の原因は? 治すための基礎知識 女性のカラダ相談室. 日経 ARIA, BP マーケティング, 日経 BP マーケティング, 2020.4.20.
- 31) 栗山健一：熟眠感がありません…私の眠りを妨げているものは? 女性のカラダ相談室. 日経 ARIA, 日経 BP マーケティング, 2020.2.24.
https://aria.nikkei.com/atcl/cc/nh/100300004/012300011/?i_cid=nbparia_sied_pnewlist
- 32) 吉池卓也：健康長寿ネット「感染予防のための睡眠」. 長寿科学振興財団, 2020.7.20.

B. 学会・研究会における発表

(1) 学会特別講演, 教育講演, シンポジウム, ワークショップ, パネルディスカッション等

- 1) 吉池卓也, 栗山健一：病的悲嘆の生物学的理解・持続性悲嘆障害における痛み共感性の神経行動学的変化. 第13回日本不安症学会学術大会, 北海道大学学術交流会館 Web 開催(演者), 2021.5.22-523.
- 2) 栗山健一, 喜田聡：トラウマおよび周辺病態におけるトランスレーショナルリサーチ. 第13回日本不安症学会学術大会, 北海道大学学術交流会館 Web 開催(座長・オーガナイザー), 2021.5.22-23.
- 3) 栗山健一：ベンゾジアゼピン系睡眠薬を取り巻く国際状況と代替療法の必要性. 第116回日本

精神神経学会学術総会, Web 開催 (演者), 2020.9.28-30.

- 4) 吉池卓也, 栗山健一: ベンゾジアゼピン系睡眠薬の有用性と有害性の科学的評価. 第 116 回日本精神神経学会学術総会, Web 開催 (演者), 2020.9.28-30.
- 5) 栗山健一, 高江洲義和: ベンゾジアゼピン系睡眠薬代替療法の可能性. 第 116 回日本精神神経学会学術総会, Web 開催 (座長・オーガナイザー), 2020.9.28-30.
- 6) 栗山健一: 透析患者における睡眠・覚醒障害 慢性腎臓病・透析患者の睡眠障害:QOL 改善にはどう立ち向かうか?. 第 65 回日本透析医学会定期学術集会・総会, Web 開催, 2020.11/2-8.
- 7) 栗山健一: 睡眠薬の適応拡大可能性についての検討. シンポジウム 22 “仮想”トランスレーション・メディカル・サイエンス委員会諮問会議 NPBPPP2020 (第 50 回日本精神神経薬理学会年会・第 42 回日本生物学的精神医学会年会・第 4 回日本精神薬学会総会・学術集会) 合同年会 ONLINE, 2020.8.21-23.
- 8) 北村真吾: ブルーライトと睡眠・概日リズム. 東京眼科サミット 2020, Web 開催 (演者), 2020.5.17.
- 9) 北村真吾, 三島和夫: Differences between forced desynchrony and free-running rhythm. 第 27 回日本時間生物学会学術大会, Web 開催 (演者), 2020.9.27.
- 10) 北村真吾: 24 時間型社会での睡眠・生体リズム問題とその対処—個人差への配慮—. 日本生理人類学会フロンティアミーティング, Web 開催 (演者), 2020.10.23.
- 11) 綾部直子: 睡眠障害患者の抱える痛みと心理社会的支援. シンポジウム 13 認知行動的睡眠支援の新たな可能性～痛みの緩和へ果たす睡眠の役割とは～. 日本認知・行動療法学会第 46 回大会, WEB 開催 (演者), 2020.9.11-30.

(2) 一般演題

- 1) Ayabe N, Matsui K, Nagao K, Takashima T, Tateyama K, Suga Y, Kamezawa K, Wada M, Morita M, Yoshiike T, Yoshida S, Kuriyama K: Development of a Group Cognitive Behavioral Therapy for Insomnia Program by Occupational Therapists in a Psychiatric Short-Term Setting in Japan. 50th EABCT congress, 2-5 September 2020.
- 2) 吉池卓也, 栗山健一, 山田尚登: Francesco Benedetti. 時間知覚の概日ダイナミクスは覚醒療法の抗うつ効果を予測する. 第 17 回日本うつ病学会, Web 開催, 2021.1.25-31.
- 3) 稲垣貴彦, 栗山健一, 村上純一, 石田展弥, 尾関祐二: 児童青年期の精神科臨床における QOL と精神症状の連関. 第 61 回日本児童青年精神医学会総会, Web 開催, 2020.10.24.
- 4) 長尾賢太郎, 吉池卓也, 松井健太郎, 綾部直子, 木村綾乃, 都留あゆみ, 斉藤友里香, 福水道郎, 吉田寿美子, 栗山健一: 異なる治療アプローチが奏功した過眠の 3 症例. 第 116 回日本精神神経学会学術総会, Web 開催, 2020.9.28-30.
- 5) 福水道郎, 星野恭子, 長尾ゆり, 木村一恵, 林雅晴, 野崎真紀, 中川栄二, 松井健太郎, 都留あゆみ, 栗山健一: 小児神経科・小児睡眠障害外来患者の著明な貯蔵鉄減少例における鉄剤による治療効果. 第 62 回日本小児神経学会学術集会, Web 開催, 2020.8.17-20.
- 6) 北村真吾, 盛本翼, 岸本直子, 田形弘実, 根本隆洋, 樋口悠子, 大島勇人, 加藤隆郎, 三島和夫, 石間環, 大西隆, 松木佑, 桂雅宏, 富田博秋, 内村直尚, 鈴木道雄, 水野雅文, 岸本年史, 住吉太幹, 中込和幸: Ultra High Risk 者を対象とした精神病発症予測因子の検討: 睡眠関連パラメータとサイトカインの計測. 第 116 回日本精神神経学会学術総会, Web 開催 (演者), 2020.9.28.

(3) 研究報告会

- 1) 内海智博, 吉池卓也, 有竹清夏, 松井健太郎, 長尾賢太郎, 都留あゆみ, 大槻怜, 福水道郎, 山元健太郎, 綾部直子, 羽澄恵, 斎藤かおり, 鈴木正泰, 栗山健一: 高齢男性におけるレム睡眠出現率減少および睡眠時間の過大評価と総死亡リスクの関連. 不眠研究会第 36 回研究発表

会, Web 開催, 2020.12.5.

- 2) 都留あゆみ, 松井健太郎, 木村綾乃, 大槻怜, 長尾賢太郎, 内海智博, 山元健太郎, 福水道郎, 吉池卓也, 栗山健一: パーキンソン病患者の QOL に関連する睡眠関連指標の検討. 不眠研究会第 36 回研究発表会, Web 開催, 2020.12.5.
- 3) 綾部直子, 栗山健一, 中島俊, 岡島義, 井上雄一, 稲田健, 石郷岡純, 山寺亘, 伊藤洋, 草薙宏明, 清水徹男, 山下英尚, 亀井雄一, 三島和夫: 不眠症用 QOL 尺度 (Quality of Life Scale for insomnia: QOL-I) の開発に関する研究. 国立精神・神経医療センター精神保健研究所令和元年度研究報告会 (第 31 回), Web 開催, 2020.12.21.

(4) その他

- 1) 栗山健一: 睡眠と記憶の不思議な関係. 「すいみんの日」市民公開講座, 2021.3.13.
- 2) 栗山健一: 睡眠を学んで診療に役立てる会. パレスホテル立川 Web 配信 (MSD), 2020.12.22.
- 3) 栗山健一: 「不眠症治療の最前線」. 八王子市医師会学術講演会 (八王子市医師会/ エーザイ株式会社共催), Zoom ハイブリッド配信 (京王プラザホテル八王子), 2020.12.9.
- 4) 栗山健一: 「不眠症治療の最前線」. 東村山市医師会学術講演会 (東村山市医師会/ 北多摩医師会/ エーザイ株式会社共催), Zoom オンライン配信 (東村山市医師会館), 2020.11.26.
- 5) 栗山健一: 「不眠症治療の最前線」. 最新の不眠症治療を考える会 (エーザイ株式会社主催), 新潟グランドホテル, 2020.10.3.
- 6) 栗山健一: 「免疫力を維持するための睡眠の質向上と感染予防」. 花王ヘルスケアフォーラム基調講演, 花王本社 (茅場町), 2020.9.18.
- 7) 栗山健一: 「不眠症治療の最前線」. 不眠症診療セミナー in 北海道 (エーザイ株式会社主催), Zoom オンライン配信, 2020.9.17.
- 8) 栗山健一: 「不眠症治療の最前線」. 不眠症診療セミナー in 宮城 (宮城県精神神経科診療所協会/ エーザイ株式会社共催), Zoom オンライン配信, 2020.7.30.
- 9) 栗山健一, 松井健太郎: 「COVID-19 流行下において睡眠健康を保つコツ」. MSD オンデマンド配信. 2020.7 月～8 月.

C. 講演

- 1) 北村真吾: よりよい睡眠のために必要なこと. 令和 2 年度学校訪問型睡眠講座, 埼玉県深谷市立本郷小学校, 2020.12.10.
- 2) 吉池卓也: 「眠り、リズムと健康」NCNP 市民公開講座「～新しい生活様式と睡眠・リズム～」. Web 開催, 2021.2.20.
- 3) 綾部直子: 睡眠は脳と心の栄養!! ～生活リズム健康法～. 令和 2 年度学校訪問型睡眠講座, 埼玉県上尾市立太平中学校, 2020.8.27.
- 4) 綾部直子: 働く人のメンタルヘルスとセルフケアの重要性～睡眠は取ろう!. 令和 2 年度新規採用職員研修, 文部科学省, 2020.7.7.

D. 学会活動

(1) 学会主催

(2) 学会役員

- 1) 栗山健一: 日本睡眠学会 幹事・評議員
- 2) 栗山健一: 日本時間生物学会 評議員
- 3) 栗山健一: 日本生物学的精神医学会: 評議員
- 4) 肥田昌子: 日本時間生物学会 評議員
- 5) 肥田昌子: 日本睡眠学会 評議員

- 6) 北村真吾：日本時間生物学会 評議員
- 7) 北村真吾：日本生理人類学会 理事
- 8) 北村真吾：日本睡眠学会 評議員
- 9) 吉池卓也：日本時間生物学会 評議員
- 10) 綾部直子：日本睡眠学会 評議員

(3) 座長

(4) 学会誌編集委員等

- 1) 栗山健一：日本時間生物学会誌 編集委員
- 2) 栗山健一：日本睡眠学会 用語委員会副委員長
- 3) 栗山健一：日本精神神経学会 精神医学研究推進委員
- 4) 肥田昌子：Scientific Reports, Editorial Board.
- 5) 肥田昌子：日本時間生物学会誌 編集委員
- 6) 北村真吾：Journal of Physiological Anthropology, Handling editor.
- 7) 吉池卓也：日本総合病院精神医学会誌 編集委員

E. 研修

(1) 研修企画

(2) 研修会講師

F. その他

- 1) 栗山健一：「高齢者の不眠症」。ラジオ NIKKEI ドクターサロン，2021. 2.11.
- 2) 栗山健一：冬の睡眠 SP. NHK あさイチ，2021.2.22.
- 3) 栗山健一：新型コロナウイルス #あなたに知ってほしい コロナ過で睡眠に影響 対策は. NHK ニュース，2021.1.16.
- 4) 栗山健一：コロナ禍の睡眠不調について. FNN プライムオンライン，2020.12.6.
- 5) 栗山健一：5 人に 1 人が「睡眠の質が悪化」 新型コロナによる生活変化の中で. NHK ニュース，2020.11.30.
- 6) 栗山健一：睡眠医療最前線. テレビ朝日「スーパーJ チャンネル」特集，2020.9.25.
- 7) 栗山健一：睡眠異変. NHK ニュースシブ 5 時，2020.5.12.
- 8) 北村真吾：巣ごもり生活で乱れた睡眠を整えるには？目覚め方改革プロジェクト，2020.07.23.
- 9) 北村真吾：睡眠科学の専門家が指南！夜型から朝型に生活習慣をチェンジさせる 4 つのテクニック. @DIME，2020.09.20.

9. 知的・発達障害研究部

I. 研究部の概要

知的・発達障害研究部は、知的障害研究室、発達機能研究室の二室体制で構成され、知的障害、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、限局性学習症、トゥレット症などの神経発達症の病態解明、治療・支援に関する研究を幅広く実施している。研究においては、部局内だけではなく、国立精神・神経医療研究センター内、ならびに、他のナショナルセンターや大学、地域における中核病院まで幅広い連携のもとに進めている。研究者のキャリア・パス形成を基本方針に掲げており、知的・発達障害ならびに関連領域における次世代のリーダーシップを国内外で発揮できる人材育成を意識しているのも特徴である。また、発達障害者支援研修を実施し、各地でかかりつけ医対応力向上研修を実施する医師の育成を目的とした研修を実施している。

令和2年度には4月1日付で、岡田 俊（児童精神医学）が部長に着任した。岡田は、自閉スペクトラム症や注意欠如・多動症、トゥレット症とその精神医学的併存症に関して、臨床知見を基盤として、ゲノム（自閉スペクトラム症、統合失調症の発症に関連するゲノムコピー数変異）、新規介入手法の開発（自閉スペクトラム症に対するオキシトシン、難治性トゥレット症に対する脳深部刺激療法）、ガイドライン作成（注意欠如・多動症）、周産期メンタルヘルスと養育が子どもに発達に及ぼす影響の調査研究、22q11.2 欠失症候群のコホート研究などに取り組んできた。加我牧子元所長（現、客員研究員）ならびに、稲垣真澄前部長（現、客員研究員）が発展させてきた基盤研究を含めた研究を引き継ぎながら、当該領域における基礎・臨床両面の研究を発展させるべく取り組んだ。

令和元年度末で知的障害研究室の加賀佳美室長（小児神経学）が山梨大学医学部小児科学講座講師へと転出し（現在、客員研究員）、令和2年7月に魚野翔太室長（認知神経科学、実験心理学）が着任した。魚野は、自閉スペクトラム症における表情、視線、バイオロジカルモーションなどの社会認知機能の障害とその神経基盤について認知科学的手法を用いた病態解明を進めており、当研究部においても岡田部長、江頭優佳リサーチフェロー（神経生理学、実験心理学）、林小百合研究生（11月よりリサーチフェロー、神経生理学、実験心理学）との共同のもと、これまでの研究成果を注意欠如・多動症にも適用し、知的・発達障害研究の全般にわたる研究を実施している。

発達機能研究室の北洋輔室長はヘルシンキ大学に留学中であり、COVID-19の影響で帰国した後は、読み書き障害を中心とする発達障害の基盤研究に従事していたが、令和2年9月より一橋大学森有礼高等教育国際流動化機構准教授として転出した。その後、発達機能研究室長は空席であったが、病態研究だけではなく臨床研究を発展させるという部の方針の基づき、東京大学大学院医学系研究科脳神経医学専攻統合脳医学講座（こころの発達診療部）の石井礼花助教と共同し、医療における注意欠如・多動症のペアレント・トレーニングの普及を目指した実装研究を実施した。なお、石井助教は令和3年度より発達機能研究室長として着任することとなり、その発展が見込まれる。

さらに、12月より行動科学を専門とする請園正敏（元精神薬理研究部流動研究員）がリサーチフェローとして加わり、高野裕治客員研究員との共同のもと、自閉スペクトラム症に類似した行動特性を示す齧歯類モデルの確立と、それをもとにした自閉スペクトラム症の病態研究を展開している。

上述のように、岡田部長、魚野室長に加え、リサーチフェローとして、江頭優佳、林小百合、請園正敏、併任研究員の中川栄二（センター病院特命副院長、外来部長）、客員研究員として、會田千重、稲垣真澄、稲田尚子、井上祐紀、岩垂喜貴、宇佐美政英、小沢 浩、加我牧子、加賀佳美、金生由紀子、久島 周、黒田美保、軍司敦子、小平雅基、佐藤 弥、高橋長秀、高野裕治、竹市博臣、辻井農亜、堀内史枝、安村明、吉川徹、外来研究員として奥村安寿子（学術振興会特別研究員）、研究生として、上田理誉、北村柚葵、崎原ことえ、田中美歩、科研費研究補助員として白川由佳が研究に参加した（なお、白川は学術振興会特別研究員への採択が決まり、令和3年度からは研究生となる予定である）。また、秋月由紀子、井上さゆりの2名の秘書が、研究、研修活動を支えた。

COVID-19 感染拡大により年度前半ではデータサンプリングに多大な障害があったが、上述のような研究体制の強化とともに、年度後半より順調に研究が進められた。当研究部の理念に基づき、基礎研究から病態研究、臨床研究にまで幅広く活動し得たと考えている。

Ⅱ. 研究活動

1) 認知神経科学的手法を用いた神経発達症と併存精神疾患の病態研究

注意欠如・多動症ならびに自閉スペクトラム症の臨床表現型（神経発達症特性、適応行動、不安・抑うつなどの精神病理学的評価）と神経心理学的機能（表情認知、視線認知、実行機能、報酬系、時間知覚）との関係についてデータを蓄積している。科学研究費（岡田，魚野，江頭，林）ならびに精神・神経疾患研究開発費（分担：岡田）に基づいて研究を遂行しており、その成果の一部を臨床精神神経薬理学会シンポジウムで公表した（岡田，江頭，林，請園）。江頭優佳リサーチフェローは、注意欠如・多動症のある児童の時間知覚機能の多様性とその障害の様相について報告し、日本 ADHD 学会第 12 回総会最優秀発表賞を受賞した。さらに江頭は、国立高度専門医療研究センター医療研究連携推進本部横断的研究推進費若手研究助成に応募し採択されたことから、本研究費をもと国立国際医療研究センター国府台病院児童精神科宇佐美政英（客員研究員）らとともに、精力的なデータサンプリングを行う予定である。

また、魚野室長は理化学研究所の佐藤 弥（当部，客員研究員）との他機関連携、また深圳大学（中国）の趙朔との国際共同研究を推進し、自閉スペクトラム症ならびに社会認知の基盤となる病態研究を推進している。魚野室長は、これらの研究も含めた国際誌への論文発表に対し、日本発達心理学会 第 3 回国際奨励賞を受賞した。研究生の上田理誉は、局在てんかんの児童の認知機能やてんかん手術後の認知機能改善について国際誌に報告し、第 62 回日本小児神経学会若手優秀ポスター賞、小児医学研究振興財団福山幸夫アワード、同海外留学フェローシップを受賞した。

2) 注意欠如・多動症のペアレントトレーニングに関する実装研究

注意欠如・多動症の心理社会的治療として、ペアレントトレーニングはその有効性が実証され、第一選択治療とされているにもかかわらず、その普及が十分ではないという実情があった。そのため、岡田部長らは、ペアレントトレーニングの有効性検証と科学的エビデンスの構築を目指す研究を遂行している東京大学大学院医学系研究科脳神経医学専攻統合脳医学講座（こころの発達診療部）の石井礼花助教（厚生労働科学研究，AMED）と共同し、国立高度専門医療研究センター医療研究連携推進本部横断的研究推進費（分担：金 吉晴）の一環として、その促進要因、阻害要因を明確化した上で実装化を図る研究を推進している。

3) 自閉スペクトラム症の齧歯類モデルの確立と動物モデルを用いた治療法開発

自閉スペクトラム症の治療法開発の支障となっているのは、齧歯類モデルが数多く存在し、どのモデルを対象に検討すればいいか不明瞭なことである。齧歯類モデルが多数存在する理由の一つとして、一側面の社会性の行動指標のみで、自閉症モデルか否かの判断をしていることがあげられる。さらに重要な点として、治療法開発の弊害はモデルが定められないことだけでなく、効果判定の指標となる行動が同定されていないことである。請園正敏リサーチフェローは、高野裕治客員研究員（東北大学准教授）と共同して、ラットのリーチング行動を用いた、齧歯類の社会性検討のための新規行動指標を確立し、国際誌にも発表した。これは、リーチング行動を学習した個体同士であれば、以下 2 つの社会的な行動が生じる指標である。1 つは、リーチング行動を行っている他個体へ注視する行動が生じる。リーチング行動を学習している観察個体は、他個体が行っているリーチング行動に対して接近行動だけでなく、注視行動が頻繁に生じることを示した。もう一つは、他個体から注視されていると、リーチング行動の速度が促進されることである。すなわち、リーチング行動を実施している個体は、他個体から見られていることを知覚することが可能であることが示された。この現象は、リーチング行動を学習した個体同士でしかみられず、未学習個体では他個体への

注視行動が頻繁には生じず、速度の促進の強度も減少する。この新規行動指標を、胎児期にバルプロ酸を投与されたマウスを対象に検討したところ、バルプロ酸モデルでは、リーチングを行っている他個体へ注視することがなく、また他個体から注視されても、リーチング行動の促進が生じなかった。興味深いことに、バルプロ酸モデル動物がリーチング行動を行っていても、健常個体は注視する頻度が減少していることがみられた。今後、炎症モデルでも同様の結果がみられるかどうかの検討を展開していく。現在は、バルプロ酸モデルを対象にこの行動指標を用いた治療法開発研究を遂行している（科研費：請園，開発費：岡田）。

4) 神経発達症の中間表現型と候補となる認知基盤の認知神経科学研究

江頭優佳リサーチフェローは漢字認識時の脳活動、林小百合リサーチフェローはバイオロジカルモーションの神経心理・生理学研究を推し進め、国際誌に投稿中である。学習症（LD）領域は、言語の差異があることから本邦におけるエビデンスは不足している。本邦での読み書き障害は漢字学習開始後に症状が顕在化することが多いため漢字認知時の脳機能不全が認められる可能性があり検討したところ、LD では従来から報告があった紡錘状回（漢字の形態認知を担う）のみならず、より低次の視覚処理を行う後頭極での機能不全がある可能性が示された。従って漢字認知以前の視知覚の弱さがLDの症状をもたらす要因の一つである可能性がある。一方でLDの症状を呈する背景にはASDやADHDといった他の発達障害の併存がある場合が多く、今後は背景因子を考慮した症状個別の検討が必要である。

更に、発達障害においては社会的情報に対する認知のゆがみを持つことが多く報告されていることに関連し、他者動作から社会的情報を取得する神経心理学的メカニズムを、バイオロジカルモーションを用いて検討している。これまでに、特定の脳波成分が他者情報（動作者の性別・動作の美しさ）によって変化することを明らかにした。これらのエビデンスをもとに神経発達症における知見を積み重ね、病態理解に資する中間表現型を見いだしたいと考えている。なお、江頭は、第35回日本生体磁気学会大会奨励賞、林は日本生理人類学会第81回大会で論文奨励賞を受賞した。

5) 養育困難を抱える児童のペアレンティング・スキル向上を目指した介入の有効性検証

神経発達症の児童は、親の養育困難と結びつきがちであり、親の不安や抑うつ、虐待リスクとも関連する。ペアレンティング・スキル向上と子どもの行動上の問題の減少に親子相互交流療法（PCIT）の有効性が示されているが、その普及は不十分で、中断率が高いなどの課題も存在する。岡田は、小平雅基愛育クリニック小児精神保健科部長（当部，客員研究員）、高田美希心理士（北里大学）と共同して、その有効性検証と神経発達症児童への応用の可能性について検討を進めた。

6) COVID-19 感染拡大下における神経発達症の児童と親のメンタルヘルス調査

COVID-19 感染拡大下で、発達障害の子どもや養育者のメンタルヘルス悪化が懸念されたことから、岡田部長と上田研究生は、2020年5月の緊急事態宣言発令中に日本心身障害児協会島田療育センターはちおうじ小沢浩所長（当部，客員研究員）と共同し、発達障害がある子どもとその養育者を対象にして、発達障害のある子どものQOLと情緒面・行動面での問題、と親のQOLと不安・抑うつや育児ストレス、日常生活状況やCOVID-19により影響を受けた生活状況を評価し、その成果を国際誌に発表した。さらに1年後のフォローアップを実施し、生活の質の悪化の促進因子、防御因子について検討する予定である。この成果はプレスリリースを行い、複数の新聞、雑誌に掲載された。

7) 難治性トゥレット症に対する脳深部刺激療法の有効性・安全性とレジストリ構築

トゥレット症の一部は、成人期にも症状が強く残存し、身体損傷を伴ったり、社会生活が著しく困難な病状を呈することがある。脳深部刺激療法は、そのような患者の有効な治療となり得てはいるものの、その有効性と安全性の検証が不十分であり、本邦におけるレジストリ構築が望まれる。岡田部長は、NCNP 病院脳神経外科の岩崎真樹部長（兼 手術・材料部長）、木村唯子医師のレジ

ストーリー構築を目指す研究（開発費，分担：岩崎部長）に協力している。

8) 自閉スペクトラム症の中核症状に対するオキシトシンの有効性・安全性の検討

自閉スペクトラム症の中核症状に有効な薬物療法是確立していない。オキシトシンは、対人関係障害を改善する治療薬候補であるが、その有効性、安全性は未確立であり、特に耐性の出現が問題となっていた。岡田部長は、浜松医科大学の山末英典教授がリーダーを務める AMED 融合脳の開発分担者として参加し、その成果は国際誌に投稿中である。また、自閉スペクトラム症発症やオキシトシン反応性に関連するゲノムのコピー数変異については久島周名古屋大学講師（当部，客員研究員）らと進めている。

この臨床試験では、知的能力障害のある自閉スペクトラム症についての知見は含まれていない。そのため、知的能力障害のある自閉スペクトラム症への介入効果を検証した會田千重国立病院機構肥前精神医療センター療育指導科長（当部，客員研究員）と共同して、白川由佳科研費研究補助員がオキシトシン濃度測定を実施した。

9) 注意欠如・多動症の薬物療法の継続・中止に関するガイドライン作成

注意欠如・多動症の薬物療法の有効性・安全性は確認されているものの、その継続・中止の基準は明確でない。岡田は、厚生労働科学研究（主任研究者：三島和夫秋田大学教授）の分担として、客員研究員である辻井農重近畿大学准教授、宇佐美雅英国際医療研究センター国府台病院児童精神科科長らとともに実施したメタ解析をもとにデシジョン・エイドを作成し、患者の意思決定に資する資料作成を行った。

10) 22q11.2 欠失症候群の精神障害発生に関するフォローアップ研究

22q11.2 欠失症候群は、先天性心疾患、精神発達遅延、特徴的顔貌を主徴とする症候群で、胸腺低形成・無形成による免疫低下、口蓋裂・軟口蓋閉鎖不全、鼻声、低カルシウム血症などを合併することの多い遺伝子疾患であるが、成人期までに統合失調症などの精神疾患を高率に発症することが知られているが、その実態は明確でない。岡田部長は、名古屋大学（尾崎紀夫教授）、愛知学院（夏目長門教授、早川純子准教授）の構築するコホートにおいて、山内彩心理士（現，当部研究生）、久島周名古屋大学講師（当部，客員研究員）とともに経時的評価を実施している。

Ⅲ. 社会的活動に関する評価

(1) 市民社会に対する一般的な貢献

岡田部長は、厚生労働省の市民向けウェブサイト「みんなのメンタルヘルス」の発達障害の項目の改訂を担当し、神経発達症の概念、診断、治療に関する啓発を行った。また、講演、書籍などを通じて、市民向けの情報発信に努めている。報道への協力は、岡田部長が、ごごナマ「with コロナ 発達障害を考える」NHK 総合テレビ（2020.6.17）、おはよう日本「コロナ心にも “学校に行くのがつらい” 急増する子どもの SOS」NHK 総合テレビ（2020.12.11）、報道情報番組「キャッチ！」、「成人期 ADHD」中京テレビ（2021.2.3）に対応した。

(2) 専門教育面における貢献

岡田部長は、以下の教育活動を実施し、児童指導員、保健師、看護師、臨床心理士への教育を実施した。また、岡田部長は奈良女子大学、魚野室長は同志社大学、江頭リサーチフェローは立教大学において心理職の大学教育に関与し、岡田部長と魚野室長は、京都大学における文部科学省事業（神経発達症の介入を専門とする高度医療人材養成プログラム）に参画し、講義を担当した。

(3) 精研の研修の主催と協力

発達障害者支援法に示されている専門家養成のため、全国で開始された、かかりつけ医等発達障害

対応力向上研修の基盤研修として、発達障害支援者研修パート3（11月10-11日）、ならびに、パート1（3月23-24日）を実施した。COVID-19の感染拡大下にあることから、オンライン実施とし、それぞれ59名、73名が参加した。運営には、部の全員が参加し、岡田部長は「併存する心理的、精神医学的問題、いわゆる二次障害」の講演を行った。

(4) 保健医療行政政策に関連する研究・調査、委員会等への貢献

岡田部長が、国立障害者リハビリテーションセンター情報分析会議委員、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所運営委員、小平市教育委員会いじめ問題対策委員会委員、小平市特別支援教育専門家委員会委員として、知的・発達障害の支援情報の発信、特別支援教育の研究・実践、小平市の特別支援教育に関する貢献活動を行っている。

(5) センター内における臨床的活動

岡田部長が外来診療に向けて準備を行い、次年度より発達障害外来を開設する予定こととなった。

(6) その他

なし

IV. 研究業績

A. 刊行物

(1) 原著論文

- 1) Kawakami S, Uono S, Otsuka S, Zhao S, Toichi M: Everything has its time: Narrow temporal windows are associated with high levels of autistic traits via weaknesses in multisensory integration. *Journal of Autism and Developmental Disorders* 50(5): 1561-1571, 2020.5. DOI: <https://doi.org/10.1007/s10803-018-3762-z>
- 2) Kubota C, Nakamura Y, Shiino T, Ando M, Aleksic B, Yamauchi A, Morikawa M, Okada T, Ohara M, Sato M, Murase S, Goto S, Kanai A, Ozaki N: Validation and factor structure of the Japanese version of the Inventory to Diagnose Depression, Lifetime version for pregnant women. *PLoS ONE* 15(6): e0234240, 2020.6.11. DOI: <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0234240>
- 3) Kubota C, Inada T, Shiino T, Ando M, Sato M, Nakamura Y, Yamauchi A, Morikawa M, Okada T, Ohara M, Aleksic B, Murase S, Goto S, Kanai A, Ozaki N: The risk factors predicting suicidal ideation among perinatal women in Japan. *Frontiers Psychiatry* 11:441, 2020.5.15. DOI: <https://doi.org/10.3389/fpsy.2020.00441>
- 4) Suzuki K, Kita Y, Shirakawa Y, Egashira Y, Mitsunashi S, Kitamura Y, Okuzumi H, Kaga Y, Inagaki M: Reduced Nogo-P3 in adults with developmental coordination disorder (DCD). *International Journal of Psychophysiology* 153: 37-44, 2020.6. DOI: <https://doi.org/10.1016/j.ijpsycho.2020.04.009>
- 5) Ueda R, Kaga Y, Kita Y, Iwasaki M, Takeshita E, Shimizu-Motohashi Y, Ishiyama A, Saito T, Nakagawa E, Sugai K, Sasaki M, Inagaki M: Adaptive behavior and its related factors in children with focal epilepsy. *Epilepsy Behavior Reports* 108:107092 2020.6. DOI: <https://doi.org/10.1016/j.yebeh.2020.107092>
- 6) Mori D, Sekiguchi M, Sobue a, Kushima I, Chenyao W, Arioka Y, Kato H, Kodama A, Kubo H, Ito N, Sawahata M, Hada K, Ikeda R, Shinno M, Mizukoshi C, Tsujimura K, Yoshimi A, Ishizuka K, Takasaki Y, Kimura H, Xing J, Yu Y, Yamamoto M, Okada T, Shishido E, Inada T, Nakatochi M, Takano T, Kuroda K, Amano M, Aleksic B, Yamamoto T, Sakuma T, Aida T, Tanaka K, Hashimoto R, Arai M, Ikeda M, Iwata N, Shimamura T, Nagai T,

- Nabeshima T, Kaibuchi K, Yamada K, Ozaki N: ARHGAP10, which encodes Rho GTPase-activating protein 10, is a novel gene for schizophrenia risk. *Translational Psychiatry* 10:247, 2020.7.22. DOI: <https://doi.org/10.1038/s41398-020-00917-z>
- 7) Yamasue H, Okada T, Munesue T, Kuroda M, Fujioka T, Uno Y, Matsumoto K, Kuwabara H, Mori D, Okamoto Y, Yoshimura Y, Kawakubo Y, Arioka Y, Kojima M, Yuhi T, Owada K, Yassin W, Kushima I, Benner S, Ogawa N, Eriguchi Y, Kawano N, Uemura Y, Yamamoto M, Kano Y, Kasai K, Higashida H, Ozaki N, Kosaka H: Effect of intranasal oxytocin on the core social symptoms of autism spectrum disorder: a randomized clinical trial. *Molecular Psychiatry* 25(8): 1849-1858, 2020.8.25. DOI: <https://doi.org/10.1038/s41380-018-0097-2>
 - 8) Uono S, Yoshimura S, Toichi M: Eye contact perception in high-functioning adults with autism spectrum disorder. *Autism: International Journal of Research and Practice* 25(1): 137-147, 2020.8.27. DOI: <https://doi.org/10.1177/1362361320949721>
 - 9) Kaga Y, Ueda R, Tanaka M, Kita Y, Suzuki K, Okumura Y, Egashira Y, Shirakawa Y, Mitsuhashi S, Kitamura Y, Nakagawa E, Yamashita Y, Inagaki M: Executive dysfunction in medication-naïve children with ADHD: A multi-modal fNIRS and EEG study. *Brain and Development* 42(8): 555-563, 2020.9. DOI: 10.1016/j.braindev.2020.05.007
 - 10) Kawakami S, Uono S, Otsuka S, Zhao S, Yoshimura S, Toichi M: Atypical multisensory integration and the temporal binding window in autism spectrum disorder. *Journal of Autism and Developmental Disorders* 50(8): 1-13, 2020.9. DOI: 10.1007/s10803-020-04452-0
 - 11) Sato W, Uono S, Kochiyama T: Neurocognitive mechanisms underlying social atypicalities in autism: Weak amygdala's emotional modulation hypothesis. *Frontiers in Psychiatry* 11:864, 2020.9.4. DOI: <https://doi.org/10.3389/fpsy.2020.00864>
 - 12) Ishizuka K, Yoshida T, Kawabata T, Imai A, Mori H, Kimura H, Inada T, Okahisa Y, Egawa J, Usami M, Kushima I, Morikawa M, Okada T, Ikeda M, Branko A, Mori D, Someya T, Iwata N, Ozaki N: Functional characterization of rare NRXN1 variants identified in autism spectrum disorders and schizophrenia. *Journal of Neurodevelopmental Disorders* 12-25, 2020.9.17. DOI: <https://doi.org/10.1186/s11689-020-09325-2>
 - 13) Nakamura Y, Okada T, Morikawa M, Yamauchi A, Sato M, Ando M, Ozaki N: Perinatal depression and anxiety of primipara is higher than that of multipara in Japanese women. *Scientific Reports* 10:17060 2020.10.13. DOI: <https://doi.org/10.1038/s41598-020-74088-8>
 - 14) Saito T, Yamashita Y, Tomoda A, Okada T, Umeuchi H, Iwamori S, Shinoda S, Mizuno-Yasuhira A, Urano H, Nishino I, Saito K: Using the drug repositioning approach to develop a novel therapy, tipepidine hibenazate sustained-release tablet (TS-141), for children and adolescents with attention-deficit/hyperactivity disorder. *BMC Psychiatry* 20:530 2020.11.10. DOI: <https://doi.org/10.1186/s12888-020-02932-2>
 - 15) Kimura H, Nawa Y, Mori D, Kato H, Toyama M, Furuta S, Yu Y, Ishizuka K, Kushima I, Aleksic B, Arioka Y, Morikawa M, Okada T, Inada T, Kaibuchi K, Ikeda M, Iwata N, Suzuki M, Okahisa Y, Egawa J, Someya T, Nishimura F, Sasaki T, Ozaki N: Rare Single-Nucleotide DAB1 Variants and their Contribution to Schizophrenia and Autism Spectrum Disorder Susceptibility. *Human Genome Variation* 7:37 2020.11.10. DOI: <https://doi.org/10.1038/s41439-020-00125-7>
 - 16) Ueda R, Kaga Y, Takeichi H, Iwasaki M, Takeshita E, Shimizu-Motohashi Y, Ishiyama A, Saito T, Nakagawa E, Sugai K, Sasaki M, Inagaki M:

- Association between lack of functional connectivity of the frontal brain region and poor response inhibition in children with frontal lobe epilepsy. *Epilepsy Behavior Reports* 113:107561 2020.12.
DOI: <https://doi.org/10.1016/j.yebeh.2020.107561>
- 17) Kato H, Kushima I, Mori D, Yoshimi A, Aleksic B, Nawa Y, Toyama M, Furuta S, Yu Y, Ishizuka K, Kimura H, Arioka Y, Tsujimura K, Morikawa M, Okada T, Inada T, Shinjyo K, Kondo Y, Kaibuchi K, Funabiki Y, Kimura R, Suzuki T, Yamakawa K, Ikeda M, Iwata N, Takahashi T, Suzuki M, Okahisa Y, Takaki M, Egawa J, Someya T, Ozaki N: Rare Genetic Variants in the Gene Encoding Histone Lysine Demethylase 4C (KDM4C) and Their Contributions to Susceptibility to Schizophrenia and Autism Spectrum Disorder. *Translational Psychiatry* 10:421 2020.12.5. DOI: <https://doi.org/10.1038/s41398-020-01107-7>
 - 18) Ueda R, Iwasaki M, KitaY, Takeichi H, Saito T, Nakagawa E, Sugai K, Okada T, Sasaki M: Improvement of brain function after surgery in infants with posterior quadrant cortical dysplasia. *Clinical Neurophysiology* 132(2): 332-337, 2021.2.
DOI: <https://doi.org/10.1016/j.clinph.2020.11.020>
 - 19) Ueda R, Kaga Y, Kita Y, Tanaka M, Iwasaki M, Takeshita E, Shimizu M Y, Ishiyama A, Saito T, Nakagawa E, Sugai K, Sasaki M, Okada T, Inagaki M: Postoperative improvement of executive function and adaptive behavior in children with intractable epilepsy. *Brain and Development* 43(2): 280-287, 2021.2.
DOI: <https://doi.org/10.1016/j.braindev.2020.08.005>
 - 20) Ukezono M, Takano Y: An experimental task to examine the mirror neuron system in mice: Laboratory mice understand the movement intentions of other mice based on their own experience. *Behavioural Brain Research* 398(112970), 2021.2.1.
DOI: <https://doi.org/10.1016/j.bbr.2020.112970>
 - 21) Ueda R, Okada T, KitaY, Ozawa Y, InoueH, shioda M, Kono Y, Kono C, NakamuraY, Amemiya K, Ito A, Sugiura N, Matsuoka Y, Kaiga C, Kubota M, Ozawa H: The quality of life of children with neurodevelopmental disorders and their parents during the Coronavirus disease 19 emergency in Japan. *Scientific Reports* 11: 3042, 2021.2.15.
DOI: <https://doi.org/10.1038/s41598-021-82743-x>
 - 22) Kato Y, Kuwabara H, Okada T, Munesue T, Benner S, Kuroda M, Kojima M, Yassin W, Eriguchi Y, Kamenoy, Murayama C, Nishimura T, Tsuchiya K, Kasai K, Ozaki N, Kosaka H, Yamasue H: Oxytocin-induced increase in N,N-dimethylglycine and time-course of changes in oxytocin efficacy for autism social core symptoms. *Molecular Autism* 12(1):15, 2021.2.23. DOI: <https://doi.org/10.1186/s13229-021-00423-z>

(2) 総説

- 1) 岡田 俊: 神経発達症に伴う不安と神経発達症の二次障害としての不安症. *精神神経学雑誌* 122(4): 290-295, 2020.4.25.
- 2) 岡田 俊: 注意欠如・多動症(ADHD)の脳画像解析. *臨床精神医学* 49(4): 487-492, 2020.4.28.
- 3) 岡田 俊: 真のエンドポイントに近づくためにはどうすべきか?—神経発達症群—. *臨床精神薬理* 23(別刷): 523-527, 2020.5.
- 4) 岡田 俊: リスデキサメフェタミンの臨床. *精神科* 37(1): 62-65, 2020.7.28.
- 5) 岡田 俊: 注意欠如・多動症(ADHD)の治療. *Clinical Neuroscience* 38(8): 1009-1012, 2020.8.1.
- 6) 伊藤萌水, 森川真子, 岡田 俊: エジンバラ産後うつ病自己評価票を用いた産婦健診からの妊産婦のメンタルヘルス支援—名古屋大学医学部附属病院における取り組み. *精神医学* 62(9):

1215-1223, 2020.9.15.

- 7) 岡田 俊：自閉スペクトラム症と併存症の連続性と関連性. そだちの科学 35(10): 21-25, 2020.10.15.
- 8) 岡田 俊：自閉スペクトラム症特性が成育過程に及ぼしうの影響とその子の成長を支えること. 日本社会精神医学会雑誌 29(4): 342-346, 2020.11.25.
- 9) 江頭優佳, 岡田 俊：注意欠如・多動症における時間知覚の最新知見. 日本生理人類学会誌 24(4):109-115, 2020.11.25.
- 10) 岡田 俊：ASD に対する新たな研究. チャイルドヘルス 24(1): 6-8, 2021.1.1.
- 11) 岡田 俊：発達障害（注意欠如・多動症）. 調剤と情報 27(2): 139-143, 2021.1.25.
- 12) 請園正敏：バルプロ酸モデルマウスを用いた発達段階での自律神経活動とその行動の検討. 行動科学 59(2): 37-45, 2021.3.
- 13) 岡田 俊：自閉スペクトラム症と不安. 最新精神医学 26(2): 139-143, 2021.3.25.
- 14) 岡田 俊：自閉スペクトラム症（ASD）と注意欠如・多動症（ADHD）の併存. 精神科 38(3): 319-323, 2021.3.28.

(3) 著書

- 1) 岡田 俊：児童・思春期の気分症群. 神庭重信 編：気分症群. 中山書店, 東京, pp88-96, 2020.6.15.
- 2) 岡田 俊：児童思春期に投与する薬. 寺尾 岳 編：精神科薬物療法に再チャレンジ. 星和書店, 東京, pp229-256, 2020.7.15.
- 3) 岡田 俊：障害概念 II 発達障害研究の最前線. 日本発達障害連盟編：発達障害白書 2021 年版. 明石書店, 東京, pp36-37, 2020.9.30.
- 4) 岡田 俊：人口動態と子ども. (編著者) 社会福祉法人恩賜財団母子愛育会 愛育研究所編：日本子ども資料年鑑. KTC 中央出版, 東京, pp35-68, 2021.2.12.
- 5) 岡田 俊：メラトニン. 井上 猛, 桑原 斉, 酒井 隆, 鈴木映二, 水上勝義, 宮田久嗣, 諸川由実代, 吉尾 隆, 渡邊博幸 編：こころの治療薬ハンドブック 第13版. 星和書店, 東京, pp184-185, 2021.2.22.
- 6) 岡田 俊：小児の神経発達症, 精神疾患の治療. 日本臨床精神神経薬理学会専門医制度委員会 編：専門医のための臨床精神神経薬理学テキスト. 星和書店, 東京, pp328-335, 2021.3.22.

(4) 研究報告書

〔厚生労働科学研究報告書〕

- 1) 岡田 俊 (分担)：厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）「国立機関・専門家の連携と地域研修の実態調査による発達障害児者支援の効果的な研修の開発」（研究代表者：辻井正次）
- 2) 岡田 俊 (分担)：厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業（精神障害分野））「向精神薬の適切な継続・減量・中止等の精神科薬物療法の出口戦略の実践に資する研究」（研究代表者：三島和夫）

〔文部科学省科学研究費〕

- 1) 岡田 俊：文部科学省科学研究費補助金（C）「表情認知障害を起点とする自閉スペクトラム症の二次障害の成立過程の解明」
- 2) 魚野翔太：文部科学省科学研究費補助金（C）「社会認知機能の個人差を生み出す基礎的な心的機能の解明」
- 3) 江頭優佳：科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（若手研究）「脳活動と行動に基づく注意欠如・多動症児の時間認知系機能検査バッテリーと治療法開発」
- 4) 請園正敏：科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（若手研究）「社会的促進の観察効果と共行動効果の発生機序解明に向けて」

- 5) 白川由佳：科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（若手研究）「幼児間の相互交渉が神経基盤に与える影響の解明と育児支援環境の構築」
- 6) 稲垣真澄, 江頭優佳：文部科学省科学研究費補助金基盤研究（C）「漢字書字障害特異的脳内機能ネットワークの解明と治療法開発」

〔AMED〕

- 1) 岡田 俊（分担）：脳科学研究戦略推進プログラム「新規オキシトシン製剤を用いた自閉スペクトラム症の革新的治療法の開発と治療効果予測技術の開発，および発症とその改善効果発現のメカニズム解明に基づく次世代治療薬シーズの創出」のうち「自閉スペクトラム症に対する新規オキシトシン製剤の有効性・安全性の検討とオキシトシン反応性を予測する診断法開発」

〔民間研究助成〕

- 1) 上田理蒼：明治安田こころの健康財団「後方離断術がもたらす薬剤抵抗性てんかん乳児の脳機能と発達の変化・乳幼児のてんかん外科手術前後の神経学的予後・脳機能変化の客観評価に基づく検討」

(5) 翻訳

該当なし

(6) その他

- 1) 岡田 俊：食行動の異常と抑うつ．アンケート監修・座談会 司会 Depression Journal 8(3): 4-15, 2020.12.1.
- 2) 岡田 俊：ADHD の病態・診断・治療 ―成人期を含めて―．熊精協会誌 184(7): 10-32, 2020.7.1.

B. 学会・研究会における発表

(1) 学会特別講演，教育講演，シンポジウム，ワークショップ，パネルディスカッション等

- 1) 魚野翔太：ASD の感覚処理の特徴と社会認知機能．オンラインシンポジウム From Sensory to Social? ―自閉スペクトラム症を持つ人の感覚の特徴と社会認知機能との関わり―，東京(オンライン)，2020.7.5.
- 2) 岡田 俊：精神刺激薬の導入と中止：診断・評価，治療選択における留意点について．NPBPPP2020 合同年会 ONLINE，宮城(オンライン)，2020.8.21-23.
- 3) 岡田 俊：難治性トゥレット症をいかに定義し、いかに対処するか．シンポジウム 14 難治性トゥレット症に対する脳深部刺激療法のエビデンスと今後の課題 第 116 回日本精神神経学会学術総会，仙台(オンライン)，2020.9.28.
- 4) 金生由紀子，開道貴信，岩崎真樹，木村唯子，岡田 俊，梶田泰一：脳深部刺激治療を受けた難治性トゥレット症患者の実態と今後の課題．シンポジウム 14 難治性トゥレット症に対する脳深部刺激療法のエビデンスと今後の課題 第 116 回日本精神神経学会学術総会，仙台(オンライン)，2020.9.28.
- 5) 岡田 俊：〔指定発言〕．シンポジウム 1 児童虐待とエピジェネティクス 第 116 回日本精神神経学会学術総会，仙台(オンライン)，2020.9.28.
- 6) 岡田 俊，辻井農亜，宇佐美政英，藤田純一，根来秀樹，桑原秀徳，飯田順三：寛解後に ADHD 治療薬を継続するか中止するか：患者との共同意思決定のための出口戦略ガイドライン．シンポジウム 5 精神科薬物療法の出口戦略に資する実践マニュアル 第 116 回日本精神神経学会学術総会，仙台(オンライン)，2020.9.28.
- 7) 岡田 俊：母親のメンタルヘルスと子どもの心理的・情緒的発達の相互作用．シンポジウム 40 周産期における母親のメンタルヘルスと子どもの養育支援 第 116 回日本精神神経学会学術総会，仙台(オンライン)，2020.9.29.

- 8) 岡田 俊：注意欠如・多動症の啓発と精神医療化. シンポジウム 57 精神医療化の必然と薬物療法化の弊害 第 116 回日本精神神経学会学術総会, 仙台(オンライン), 2020.9.29.
- 9) 岡田 俊：抗 ADHD 薬の misuse と abuse の現状についてー日本と諸外国ー. シンポジウム 102 抗 ADHD 薬の依存・乱用のリスクと ADHD の鑑別・併存を含めた適切な使用のあり方について 第 116 回日本精神神経学会学術総会, 仙台(オンライン), 2020.9.30.
- 10) 岡田 俊：自閉スペクトラム症の対人認知と二次障害のなりたち. 共催セミナー3 第 61 回日本児童青年精神医学会総会, 兵庫(オンライン), 2020.10.24.
- 11) 岡田 俊：注意欠如・多動症の診断をめぐる問題点とその異種性、特に気分障害の併存を巡って 注意欠如・多動症治療の個別化は可能か？シンポジウム 6 第 30 回日本臨床精神神経薬理学会, オンライン, 2021.1.9.
- 12) 上田理誉：注意欠如・多動症とてんかんの併存例の臨床特徴と治療上の留意点 注意欠如・多動症治療の個別化は可能か？シンポジウム 6 第 30 回日本臨床精神神経薬理学会, オンライン, 2021.1.9.
- 13) 江頭優佳：注意欠如・多動症の実行機能, 時間知覚研究の最新知見と異種性 注意欠如・多動症治療の個別化は可能か？シンポジウム 6 第 30 回日本臨床精神神経薬理学会, オンライン, 2021.1.9.
- 14) 林 小百合：注意欠如・多動症の報酬系研究の最新知見と異種性 注意欠如・多動症治療の個別化は可能か？シンポジウム 6 第 30 回日本臨床精神神経薬理学会, オンライン, 2021.1.9.
- 15) 請園正敏：注意欠如・多動症の動物モデルと治験薬開発とその課題 注意欠如・多動症治療の個別化は可能か？シンポジウム 6 第 30 回日本臨床精神神経薬理学会, オンライン, 2021.1.9.
- 16) 岡田 俊：自閉スペクトラム症と二次障害のなりたち. 特別講演 第 11 回自閉症学研究会, オンライン, 2021.1.24.
- 17) 岡田 俊：成人期 AD/HD の診断. 共催シンポジウム 3 第 17 回日本うつ病学会総会, 福岡(オンライン), 2021.1.28.
- 18) 岡田 俊：自閉スペクトラム症と併存症の位置づけ, 二次障害の成り立ちを考える. シンポジウム 9(S9)発達障害の治療 第 40 回日本社会精神医学会, 東京(オンライン), 2021.3.5.
- 19) 岡田 俊：注意欠如・多動症と睡眠障害. ランチョンセミナー2 日本 ADHD 学会第 12 回総会, オンライン 2021.3.6.
- 20) 岡田 俊：発達障害と精神医学. 大会長講演 愛知児童青年精神医学会第 12 回学術集会, オンライン, 2021.3.7.

(2) 一般演題

- 1) 辻井農亜, 岡田 俊, 宇佐美政英, 桑原秀徳, 藤田純一, 根来秀樹, 川村路代, 飯田順三, 齊藤卓弥：薬物療法により症状が安定した ADHD 患者において, 薬物療法の中止は ADHD 症状を再発させるのか？ NPBPPP2020 合同年会 ONELINE, 宮城(オンライン), 2020.8.21-23.
- 2) 江頭優佳, 加賀佳美, 軍司敦子, 北 洋輔, 木村元洋, 廣永成人, 金子 裕, 高橋秀俊, 花川隆, 稲垣真澄：漢字熟語の逸脱検出時の脳磁場反応. 第 35 回日本生体磁気学会大会, 誌上開催, 2020.10.
- 3) 辻井農亜, 岡田 俊, 宇佐美政英, 藤田純一, 根来秀樹, 飯田順三, 齊藤卓弥：薬物療法により症状が安定した注意欠如・多動症患者において, 薬物療法は終了できるのか？第 61 回日本児童青年精神医学会総会, 兵庫(オンライン), 2020.10.24.
- 4) 岡田 俊, 辻井農亜, 宇佐美政英, 藤田純一, 根来秀樹, 飯田順三, 齊藤卓弥：注意欠如・多動症治療薬の継続か中止かを選択するデシジョン・エイドの作成と児童青年期の治療の意思決定をめぐる課題. 第 61 回日本児童青年精神医学会総会, 兵庫(オンライン), 2020.10.24.
- 5) 山内 彩, 岡田 俊, 尾崎紀夫：22q11.2 欠失症候群児童の発達・行動特性ーベースライン調査に基づく検討ー. 第 61 回日本児童青年精神医学会総会, 兵庫(オンライン), 2020.10.24.

- 6) 林 小百合：ERP×ヒトのコンディション．日本生理人類学会第 81 回大会，オンライン，2020.10.23.
- 7) 江頭優佳，林 小百合，魚野翔太，加賀佳美，北村柚葵，北 洋輔，山下裕史朗，岡田 俊，稲垣真澄：注意欠如・多動症児の時間知覚機能に関する検討．日本 ADHD 学会第 12 回総会，オンライン，2021.3.7.

(3) 研究報告会

- 1) 岡田 俊：発達障害の認知神経科学的アプローチに基づく病態解明．国立精神・神経医療研究センター 精神・神経疾患研究開発費 2-7「発達障害の治療法の確立をめざすトランスレーショナルリサーチ」令和 2 年度班会議，東京(オンライン)，2020.12.7.
- 2) 中川栄二：自閉スペクトラム症における神経学的評価と睡眠異常の診断と治療．国立精神・神経医療研究センター 精神・神経疾患研究開発費 2-7「発達障害の治療法の確立をめざすトランスレーショナルリサーチ」令和 2 年度班会議，東京(オンライン)，2020.12.7.
- 3) 上田理登：小児 ADHD 浅睡眠脳波におけるガンマ帯域の脳連結性の低下．国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所令和元年度研究報告会（第 31 回），東京（オンライン），2020.12.21.
- 4) 魚野翔太，川上澄香，大塚貞男，趙朔，義村さや香，十一元三：自閉スペクトラム症を持つ成人の多感覚統合と時間分解能．国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 令和 2 年度研究報告会（第 32 回），東京（オンライン），2021.3.15.
- 5) 江頭優佳，加賀佳美，軍司敦子，北 洋輔，木村元洋，廣永成人，竹市博臣，林 小百合，金子 裕，高橋秀俊，花川 隆，岡田 俊，稲垣真澄：漢字熟語逸脱検出時の脳磁図活動の検討．国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 令和 2 年度研究報告会（第 32 回），東京（オンライン），2021.3.15.

(4) その他

- 1) 金生由紀子，岡田 俊：〔指定発言〕コーディネーター シンポジウム 14 難治性トゥレット症に対する脳深部刺激療法のエビデンスと今後の課題．第 116 回日本精神神経学会学術総会，仙台(オンライン)，2020.9.28.
- 2) 岡田 俊，小平雅基：〔指定発言〕コーディネーター シンポジウム 40 周産期における母親のメンタルヘルスと子どもの養育支援．第 116 回日本精神神経学会学術総会，仙台(オンライン)，2020.9.29.
- 3) 岡田 俊，飯田順三：コーディネーター シンポジウム 102 抗 ADHD 薬の依存・乱用のリスクと ADHD の鑑別・併存を含めた適切な使用のあり方について．第 116 回日本精神神経学会学術総会，仙台(オンライン)，2020.9.30.
- 4) 江頭優佳：シンポジウム企画 事象関連電位を用いて生理人類学的研究をするということ．日本生理人類学会第 81 回大会，オンライン，2020.10.23.
- 5) 岡田 俊：大会長 サブスペシャルティとしての児童精神医学．愛知児童青年精神医学会第 12 回学術集会，オンライン，2021.3.7.
- 6) 岡田 俊：座長 シンポジウム サブスペシャルティとしての児童精神医学に求められるもの．愛知児童青年精神医学会第 12 回学術集会，オンライン，2021.3.7.

C. 講演

- 1) 岡田 俊：発達障害．国立障害者リハビリテーションセンター学院 児童指導員科講義，埼玉，2020.7.16.
- 2) 岡田 俊：注意欠如・多動症の「診断」と「治療」の意味を再考する．第 62 回日本小児神経学会学術集会 共催セミナー，オンライン，2020.8.19.

- 3) 岡田 俊：発達障害を持つ子どもたちの理解と支援地域母子保健研修会 2.「乳幼児保健（発達障害児・児童虐待予防の支援・先天性代謝異常症）」社会福祉法人恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター，2020.10.8.
- 4) 岡田 俊：発達障害の理解と効果的なコミュニケーション 公益社団法人沖縄県看護協会研修会，オンライン，2020.10.30.
- 5) 岡田 俊：自閉スペクトラム症の病態研究．連携大学 お茶の水女子大学実習，東京，2020.12.23.
- 6) 魚野 翔太：自閉スペクトラム症の社会認知機能．京都府臨床心理士会第 78 回研修会分科会 C（医療保険部局主催）「自閉スペクトラム症最新知見アップデート」，オンライン，2020.12.6.

D. 学会活動

(1) 学会主催

- 1) 岡田 俊：愛知児童青年精神医学会第 12 回学術集会，大会長，Web，2021.3.7.

(2) 学会役員

- 1) 岡田 俊：ASCAPAP 2021 in Kyoto 事務局長（2021 年 5 月；延期）
- 2) 岡田 俊：日本精神神経学会 Psychiatry and Clinical Neurosciences Field Editor，専門医認定試験面接委員
- 3) 岡田 俊：日本児童青年精神医学会 理事，事務局運営委員会委員長，児童青年精神医学用語集改訂委員会委員長，ICD-11 に関する委員会委員
- 4) 岡田 俊：日本神経精神神経薬理学会 児童思春期精神神経薬理タスクフォース委員
- 5) 岡田 俊：日本うつ病学会 双極性障害委員会フェロー
- 6) 岡田 俊：日本 ADHD 学会 理事
- 7) 岡田 俊：愛知児童青年精神医学会 理事
- 8) 魚野翔太：日本心理学会 代議員
- 9) 江頭優佳：一般社団法人日本生理人類学会 評議員，若手の会会長

(3) 座長

- 1) 金生由紀子，岡田 俊：シンポジウム 14「難治性トウレット症に対する脳深部刺激療法のエビデンスと今後の課題」．第 116 回日本精神神経学会学術総会，仙台(オンライン)，2020.9.28.
- 2) 渡部京太，岡田 俊：シンポジウム 40「周産期における母親のメンタルヘルスと子どもの養育支援」．第 116 回日本精神神経学会学術総会，仙台(オンライン)，2020.9.29.
- 3) 岡田 俊，新谷宏伸：シンポジウム 78「不登校のまっとうな臨床をめぐる」．第 116 回日本精神神経学会学術総会，仙台(オンライン)，2020.9.30.
- 4) 岡田 俊，飯田順三：シンポジウム 102「抗 ADHD 薬の依存・乱用のリスクと ADHD の鑑別・併存を含めた適切な使用のあり方について」．第 116 回日本精神神経学会学術総会，仙台(オンライン)，2020.9.30.
- 5) 岡田 俊：シンポジウム 8「児童青年領域におけるレジストリの構築」．第 61 回日本児童青年精神医学会総会，兵庫(オンライン)，2020.10.24.
- 6) 岡田 俊：共催セミナー4 小児期の睡眠問題とその対策～神経発達症に伴う睡眠－覚醒障害を中心に～，兵庫(オンライン)，2020.10.24.
- 7) 江頭優佳：シンポジウム「事象関連電位を用いて生理人類学的研究をするということ」．日本生理人類学会第 81 回大会，オンライン，2020.10.23.
- 8) 岡田 俊：セッション 2 第 27 回トウレット研究会，東京(オンライン)，2020.11.22.
- 9) 岡田 俊，木村記子：シンポジウム 6「注意欠如・多動症治療の個別化は可能か？」．第 30 回日本臨床精神神経薬理学会，オンライン，2021.1.9.

(4) 学会誌編集委員等

- 1) 岡田 俊 : Psychiatry and Clinical Neurosciences Field Editor
- 2) 江頭優佳 : 日本生理人類学会誌編集委員会 編集委員
- 3) 岡田 俊 : Depression Journal 編集委員
- 4) 岡田 俊 : 臨床精神薬理編集委員

E. 研修

(1) 研修企画

- 1) 岡田 俊 : 令和2年度 精神保健に関する技術研修課程, 第1回発達障害者支援研修: 指導者養成研修パートⅢ. 東京, 2020.11.10-11, オンライン
- 2) 岡田 俊 : 令和2年度 精神保健に関する技術研修課程, 第1回発達障害者支援研修: 指導者養成研修パートⅠ. 東京, 2021.3.23-24, オンライン

(2) 研修会講師

- 1) 岡田 俊 : 併存する心理的、精神医学的問題、いわゆる二次障害. 第1回発達障害者支援研修: 指導者養成研修パートⅠ. 東京, 2021.3.23-24, オンライン

F. その他

〔教育〕

- 1) 岡田 俊 : 小児・児童精神医学 奈良女子大学「精神疾患とその治療」講義、2021.7.14.
- 2) 岡田 俊 : 精神科薬物療法 文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム
「発達症への介入による国民的健康課題の解決」講義 2021.10.18
- 3) 魚野翔太 : 臨床研究方法論 文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム
「発達症への介入による国民的健康課題の解決」講義 2020.9.13
- 4) 魚野翔太 : 認知機能評価実習 文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム
「発達症への介入による国民的健康課題の解決」講義 2020.12.19
- 5) 魚野翔太 : 自閉スペクトラム症の社会認知機能 同志社大学「赤ちゃん学応用」講義 2020.12.21
- 6) 魚野翔太 : ASD の精神生理とエビデンス 文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム
「発達症への介入による国民的健康課題の解決」講義 2021.2.7

- 7) 江頭優佳 : 立教大学現代心理学部 「神経心理学／神経・生理心理学」講義, 秋学期

〔受賞〕

- 1) 音楽知覚認知学会 研究選奨: 対象発表 (北村柚葵, 北 洋輔, 奥村安寿子, 加賀佳美, 奥住秀之, 石川裕司, 中村みほ, 稲垣真澄: Williams 症候群児における音楽能力と言語スキルの発達の関係. 音楽知覚認知学会 2019 年度秋季研究発表会での発表に対して)
- 2) 日本小児保健協会 研究助成 優秀論文賞: 対象論文 (北 洋輔, 芦沢文子, 稲垣真澄: 発達性読み書き障害の早期発見に向けた行動観察項目の開発. 小児保健研究 78(3): 191-198, 2019 に対して)
- 3) 日本生理人類学会論文奨励賞: 対象論文 (Hayashi S, Tsuru A, Kishida F, Kim Y K, Higuchi S, Motomura Y: ERP study on the associations of peripheral oxytocin and prolactin with inhibitory processes involving emotional distraction. Journal of Physiological Anthropology 38(5) 2019.5.17. DOI: <https://doi.org/10.1186/s40101-019-0196-z>), 第 81 回日本生理人類学会, オンライン, 2020.10.24.
- 4) 第 62 回日本小児神経学会若手優秀ポスター賞: 対象発表 (上田理誉, 加賀佳美, 岩崎真樹, 竹下絵里, 本橋裕子, 石山昭彦, 齋藤貴志, 中川栄二, 須貝研司, 佐々木征行, 稲垣真澄: 小

- 児期てんかん手術前後の認知機能および行動の変化. 第 62 回日本小児神経学会. オンライン. 2020.8.18-20.)
- 5) PCN Reviewer Awards : 岡田 俊 第 116 回日本精神神経学会学術総会, 宮城(オンライン), 2020.9.29.
 - 6) 第 35 回日本生体磁気学会大会 若手研究者奨励賞 : 対象発表 (江頭優佳, 加賀佳美, 軍司敦子, 北 洋輔, 木村元洋, 廣永成人, 金子 裕, 高橋秀俊, 花川 隆, 稲垣真澄 : 漢字熟語の逸脱検出時の脳磁場反応. 第 35 回日本生体磁気学会大会, 誌上開催, 2020.10.)
 - 7) 日本 ADHD 学会第 12 回総会 最優秀発表賞 : 対象発表 (江頭優佳, 林 小百合, 魚野翔太, 加賀佳美, 北村柚葵, 北 洋輔, 山下裕史朗, 岡田 俊, 稲垣真澄 : 注意欠如・多動症児の時間知覚機能に関する検討. 日本 ADHD 学会第 12 回総会, オンライン, 2021.3.7.)
 - 8) 上田理誉: 令和 2 年度公益財団法人小児医学研究振興財団海外留学フェローシップ (子どもの心の問題に関する研究) 自閉スペクトラム症の診断バイオマーカー開発の試み 2021.3.10.
 - 9) 上田理誉: 令和 2 年度公益財団法人小児医学研究振興財団福山幸夫アワード Atypical gamma functional connectivity pattern during light sleep in children with attention deficit hyperactivity disorder Brain Dev 2020 ; 42 : 129-139.2021.3.10
 - 10) 魚野翔太: 日本発達心理学会 第 3 回国際奨励賞 : 発表対象 (: 英文国際誌に掲載された発達心理学ならびにその関連領域の研究業績に対して, 2021.3.30)

10. 地域・司法精神医療研究部

I. 研究部の概要

当研究部は、生物・心理・社会的観点から精神障害を多面的に捉え、地域に暮らす精神障害者とその家族が主体的な生活を送るための支援技法やシステムの開発、その効果に関する実証的研究を当事者のリカバリー支援の観点から実施することを活動の中心としている。また、医療観察法に基づく医療の検証を通じて、医療観察法の対象者への支援や権利擁護のあり方、それらの一般精神科医療への適用に関する検討を行うことも重要な柱のひとつである。研究活動を通じて政策としても取り入れることが可能な支援モデルを提示し、自治体や専門職、市民への教育研修等を実施してそれらの普及を図ることにより、研究成果の社会への還元を行っている。

研究の実施にあたっては、以下の人員構成で活動を行うとともに、センター病院専門疾病センターの「こころのリカバリー地域支援センター」のデイケア、訪問看護ステーション PORT、所沢市アウトリーチ支援チーム、医療観察法病棟との協働、研究所内の他部との連携および外部機関とのネットワークの構築についても重視している。

令和2年度の当研究部の構成は以下の通りである。部長：藤井千代、精神保健サービス評価研究室長：山口創生、臨床援助技術研究室長：佐藤さやか、司法精神保健研究室長：菊池安希子、制度運用研究室長：曾雌崇弘（10.1～）、常勤研究員：小塩靖崇、リサーチフェロー：松長麻美、小池純子、塩澤拓亮、川口敬之、科研費研究員：小川 亮、阿部真貴子、科研費研究補助員：岡野茉莉子、藤本 悠、五十嵐百花、併任研究員：平林直次、坂田増弘、佐竹直子、竹田康二、柏木宏子、上嶋大樹（10.15～）、臼田謙太郎（6.1～）、客員研究員：伊藤順一郎、瀬戸屋雄太郎、吉田光爾、橘 薫子、杉山直也、美濃由紀子、三澤孝夫、曾雌崇弘（～9.30）、河野稔明、松本桂子、柑本美和（10.1～）、横山恵子（12.1～）、研究生：安間尚徳、久永文恵、松本衣美、田村早織、所沢市アウトリーチ支援チームについては、統括管理責任者：中西清晃、看護師：下平美智代、精神保健福祉士：西内絵里沙、真行寺伸江、作業療法士：大迫直樹、非常勤心理療法士：臼井 香、曹 由寛。

II. 研究活動

- 1) 地域精神保健医療福祉体制の機能強化を推進する政策研究（藤井、菊池、佐藤、山口、松長、小池）

地域精神保健医療福祉制度の充実により精神障害者が地域で安心して自分らしく生活できるようにするため、エビデンスに基づいた効果的な精神保健医療福祉サービスを地域でより効果的に展開するための具体的かつ実現可能な提言を行うことを目的として、以下の7つの分班で研究を実施している。

- A. 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に関する研究
- B. 精神科外来機能強化に関する研究
- C. 措置入院及び退院後支援のあり方に関する研究
- D. 措置通報及び措置入院の実態に関する研究
- E. 精神医療審査会のあり方に関する研究
- F. 精神障害者の意思決定及び意思表示支援に関する研究
- G. 精神保健医療福祉制度の国際比較

- 2) 精神科救急・急性期病棟の入院患者のコホート研究（ePOP-J 研究）（山口、藤井、菊池、松長、小塩、小池、小川）

プロジェクト名は「早期に退院する精神障害者における再入院と地域定着に影響する要因に関する縦断研究（Early discharge and Prognostic community Outcomes for Psychiatric inpatients in Japan [ePOP-J]: A longitudinal study）」としている。本研究は、多施設での前

向き縦断研究を通して、退院後 12 ヶ月間の再入院（アウトカム）と個人の主観的指標（特に生活の質）の推移の関連を探ることを第 1 の目的とする。また、その他の曝露データを収集し、アウトカムに関連する要因を包括的に検証することを第 2 の目的としている。本研究には国内 21 の精神科病院が参加しており、635 名から参加同意を得た。2021 年 3 月 31 日までに 493 名の追跡が完了しており、現在データの分析中である。

- 3) アウトリーチ支援における認知行動療法の提供に関する研究（佐藤，松長，塩澤，小川）
Assertive Community Treatment (ACT) 支援における認知行動療法 (Cognitive Behavioral Therapy : CBT) の効果について Cluster Randomized Controlled Trial (クラスター RCT) デザインによる介入研究を実施した。分析の結果、ACT チームのような多職種アウトリーチチームによる CBT の提供は利用者の臨床像や生活上の課題を改善することに加え、医療費や障害福祉サービス費用を抑えられることが示唆された。現在論文投稿準備中である。
- 4) 個別援助付き雇用に関する研究（山口，佐藤，松長，小塩，塩澤）
精神障害者に対する就労支援として最も効果的とされる individual placement and support (IPS) に準ずる個別型援助付き雇用の均てん化とプロセスに関する調査に取り組んだ。具体的には実践者とネットワークを構築し、日本版個別型援助付き雇用フィデリティ調査を実施した。また、統合失調症の利用者に対する支援要素を検証するための長期追跡調査の分析も並行して行い、その内容を発表した。また、16 機関の多施設共同前向きコホートを実施して、個別型援助付き雇用事業所における包括的なアウトカムを検証し、論文化に向けた作業を実施している。
- 5) 障害者ピアサポートの専門性を高めるための研修に関する研究（山口，藤井）
障害領域におけるピアサポートの専門性および有効性を高めるための研修カリキュラムの作成し、その効果を検証した論文を発表した。また、研修を担当する講師やファシリテーターを要請する研修を構築した。
- 6) 精神障害者に対するスティグマに関する研究（山口，小川，小塩，松長，藤井）
東京大学および Institute of Psychiatry, Psychology & Neuroscience (IoPPN) の研究者と共同し、精神障害者のスティグマ是正を図るための全般的かつ学術的な研究を推し進めた。2018 年度は、メディアを用いた介入の効果を検証する長期無作為比較試験を論文化した。また、INDOG READ という医学生に向けた教育プログラムの効果検証の日本サイトとして、データ種集を完了した。現在、IoPPN の研究者を中心に国際的なデータ分析の途中である。
- 7) 精神科訪問看護師による家族心理教育 クラスター無作為化比較対照試験（安間，松長，塩澤，山口，佐藤，藤井）
本研究の目的は、精神科訪問看護師が統合失調症をもつ当事者をケアする家族に対して家族心理教育を行うことによる効果を、家族の介護負担感を主要評価項目としてクラスター無作為化比較対照試験により明らかにすることである。家族会等にインタビューを行って作成したオリジナルツールを用いて全 4 回で実施する家族心理教育プログラムを開発し、埼玉、東京で訪問看護ステーション事業を展開する事業者の協力を得て、100 家族弱を対象とした RCT デザインによる効果検討を実施した。現在論文投稿準備中である。
- 8) 医療観察法通院処遇者における暴力および自傷・自殺の予測因子に関する研究（菊池，岡野，阿部）
司法精神科患者においては、暴力のリスク要因と自傷自殺のリスク要因は重複しているとの指摘がある。暴力のリスクアセスメントツールである HCR-20 第 3 版の日本版を使用し、通院処

遇中の医療観察法患者の 6 ヶ月以内の暴力と自傷自殺行動に対する予測妥当性についてのデータを収集し、分析を実施した。

9) 医療観察法入院データベースを活用した研究（河野，小池，藤井）

厚生労働省の重度精神疾患標準的治療法確立事業では、医療観察法指定入院医療機関が実施主体となり、同法入院対象者の診療情報をデータベース化して分析・共有することにより、医療を向上させ対象者の社会復帰を促進することを目指している。本研究では、(a) 指定入院医療機関パフォーマンス指標の見直し、(b) 医療観察統計資料の発行準備、指定入院医療機関の取組等に関する実態調査、(c) 二次利用研究の事務局業務の支援、二次利用研究のウェブページの開設、(d) 入院対象者の司法関与の経過に関する分析の 4 つの研究活動を行った。

10) 精神科救急に関する研究（杉山，藤井，塩澤，阿部）

現在運用に大きな地域差がある精神科救急医療体制整備事業（地方自治体）の実態と、医療機関間で多様性がある精神科救急及び急性期の医療内容を把握し、課題の抽出を行って標準化を推進するための諸策について、指針としてまとめるための提言を行った。

11) 精神保健・福祉に関するエビデンスに関する WEB サイト作成と精神科長期入院患者の退院促進後の予後に関する検討のための研究（佐藤，山口，小川，阿部，安間，藤井）

本研究では国内の実践家が効果的な実践を行うための支援として、①精神保健福祉サービス効果等についてのエビデンスの収集及び分類、専門的知見を介した信頼性等の評価を行うこと、②国内外の調査・研究等のシステマティックレビューの実施すること、③これらの結果等を容易に入手可能な日本語プラットフォームの構築を行うことを目的としている。①については昨年度実施したグループインタビューの結果を③で作成する Web サイトに反映した。②については Risk of bias 評価およびデータ抽出を完了し現在論文投稿準備中である。③については①で検討した内容を反映しβ版を作成した。完成版のサイト公開を 2021 年 7 月に予定している。

12) 就労継続支援 B 型の賃金に関する研究（山口）

総合支援法における就労継続支援 B 型（旧：小規模作業所や授産施設）における賃金に関する調査を実施した。特に、数量的な分析を担当し、B 型利用者の働きがいについては、B 型事業所における工賃の高低というより、総収入に対する充足感が強く関連していることを明らかにした。

13) 計画相談支援と入院アウトカムの検証（山口）

我が国の地域精神保健福祉サービスは、医療サービスと福祉サービスがそれぞれに独立して発展してきたが、患者はその両方を使うことが珍しくない。本研究は、障害者総合支援法における計画相談支援の利用と入院アウトカムとの関連を検証することを目的とする。本年度は、プロセス調査デザインおよび調査項目の設定に取り組んだ。

14) 地域精神保健研究における患者・市民参画（山口，佐藤，小川，阿部，安間）

近年の対人サービス評価に関する研究では、研究者や実践者だけでなく、患者や一般市民を含めて実施することが期待されている。国際的には広まりつつある、研究への患者・市民の参画（patient-public involvement: PPI）であるが、日本の地域精神保健の文脈ではまだその言葉さえいられていない。そこで、本研究は、当事者や家族、行政関係者、実践者、研究者など幅広いステークホルダーを集め、地域精神保健研究で取り扱うべきアウトカムや PPI の導入方法などについてのインタビュー調査を実施した、その分析を実施した。各ステークホルダーが必要と思うアウトカムの合意形成調査の実施に向けた準備をした。

Ⅲ. 社会的活動に関する評価

(1) 市民社会に対する一般的な貢献

- ・地域の保健センターにおける思春期精神保健相談およびアウトリーチによる相談支援を定期的に実施した。(藤井)
- ・地域における講演会などに講師として可能な限り参加した。(藤井)

(2) 専門教育面における貢献

- ・愛媛大学 医学部公衆衛生学教室 非常勤講師 (藤井)
- ・文教大学 人間科学学部 非常勤講師 (山口)
- ・法政大学 現代社会学部 非常勤講師 (山口)
- ・東洋大学 福祉社会システム先行 非常勤講師 (山口)
- ・早稲田大学 人間科学部 非常勤講師 (佐藤)
- ・立教大学 現代心理学部 非常勤講師 (佐藤)
- ・東京医科歯科大学 精神保健看護学 非常勤講師 (菊池)
- ・帝京平成大学 大学院臨床心理学研究科 非常勤講師 (菊池)
- ・東洋大学 ライフデザイン学部生活支援学科 非常勤講師 (下平)
- ・文教学院大学 人間学部人間福祉学科 非常勤講師 (西内)
- ・東京大学 教育学部 非常勤講師 (小塩)
- ・法政大学 キャリアデザイン学部 非常勤講師 (小塩)
- ・日本社会事業大学 社会福祉学部 非常勤講師 (松長)
- ・東京大学 医学部健康総合科学科・精神看護学 非常勤講師 (松長)

(3) 精研の研修の主催と協力

(4) 保健医療行政政策に関連する研究・調査、委員会等への貢献

- ・厚生労働省 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に係る検討会 座長代行 (藤井)
- ・厚生労働省 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築支援事業広域アドバイザー (藤井)
- ・厚生労働省 精神科救急医療体制整備に係るワーキンググループ 座長 (藤井)
- ・厚生労働省 診療報酬改定結果検証委員会 委員 (藤井)
- ・OECD PaRIS WORKING GROUP ON PATIENT-REPORTED INDICATORS FOR MENTAL HEALTH CARE (菊池)
- ・内閣府男女共同参画局 令和2年度「配偶者暴力被害者支援における機関連携及び加害者対応に関する調査研究事業」検討会委員 (菊池)
- ・内閣府男女共同参画局 令和2年度「DV相談+ (プラス) 事業における相談支援の分析に係る調査研究事業」参考人 (菊池)
- ・国立研究開発法人日本医療機構 (AMED) 令和2年度障害者対策総合研究開発事業「社会認知機能に関する理論と支援の展開」専門家パネル委員 (菊池)
- ・法務省保護局「社会内処遇の体系化に関する研究会」アドバイザー (菊池)
- ・法務省矯正研修所 効果検証センターアドバイザー (菊池)
- ・日本学校保健会「精神疾患に関する指導参考資料作成委員会」委員 (小塩)

(5) センター内における臨床的活動

- ・こころのリカバリー地域支援センターの訪問看護ステーション、および精神科デイケアと連携し、センター内での地域精神科リハビリテーションのシステム作りに関与している (藤井, 佐)

藤, 山口)

- ・国立精神・神経医療研究センター訪問看護ステーションにて週に 0.5 程度, 訪問時を中心に利用者本人および家族に認知行動療法を提供した (佐藤)
- ・国立精神・神経医療研究センター病院医療観察法病棟 (8 病棟) 心理療法士として週 1 日程度, 対象者の診療に関わった (菊池)
- ・国立精神・神経医療研究センター訪問看護ステーションの事例検討会のスーパーバイザーとして関わった (1.5 時間×2 回) (菊池)

(6) その他

IV. 研究業績

A. 刊行物

(1) 原著論文

- 1) Yamaguchi S, Shiozawa T, Matsunaga A, Bernick P, Sawada U, Taneda A, Osumi T, Fujii C: Development and psychometric properties of a new brief scale for subjective personal agency (SPA-5) in people with schizophrenia. *Epidemiology and Psychiatric Sciences* 29: e111, 1-8, 2020. doi : 10.1017/S2045796020000256.
- 2) Yamaguchi S, Mizuno M, Sato S, Matsunaga A, Sasaki N, Shimodaira M, Fujii C: Contents and intensity of services in low- and high-fidelity programs for supported employment: results of a longitudinal survey. *Psychiatric Services* 71(5): 472-479, 2020. doi:10.1176/appi.ps.201900255.
- 3) Kato Y, Chiba R, Yamaguchi S, Goto K, Umeda M, Miyamoto Y: Association between Work Environments and Stigma towards People with Schizophrenia among Mental Health Professionals in Japan. *Healthcare* 9(2): 107. 2021. doi: 10.3390/healthcare9020107.
- 4) Ojio Y, Mori R, Matsumoto K, Nemoto T, Sumiyoshi T, Fujita H, Morimoto T, Nishizono-Maher A, Fuji C, Mizuno M: Innovative approach to adolescent mental health in Japan: School-based education about mental health literacy. *Early Intervention in Psychiatry* 15(1): 174-182, 2020. doi:10.1111/eip.12959.
- 5) Ojio Y, Kishi A, Sasaki T, Togo F: Association of depressive symptoms with habitual sleep duration and sleep timing in junior high school students. *Chronobiol Int* 37(6): 877-886, 2020. doi:10.1080/07420528.2020.1746796.
- 6) Ojio Y, Matsunaga A, Hatakeyama K, Kawamura S, Horiguchi M, Baron D, Fujii C: Developing a Japanese Version of the Baron Depression Screener for Athletes among Male Professional Rugby Players. *Int J Environ Res Public Health* 17(15): 5533. 2020. doi: 10.3390/ijerph17155533.
- 7) Yamaguchi S, Ojio Y, Foo JC, Michigami E, Usami S, Fuyama T, Onuma K, Oshima N, Ando S, Togo F, Sasaki T: A quasi-cluster randomized controlled trial of a classroom-based mental health literacy educational intervention to promote knowledge and help-seeking/helping behavior in adolescents. *Journal of Adolescence* 82: 58-66, 2020. doi: 10.1016/j.adolescence.
- 8) Ojio Y, Yamaguchi S, Ando S, Koike S: Impact of parents' mental-health-related stigma on their adolescent children' response to anti-stigma interventions over 24 months: Secondary exploratory analysis of a randomized controlled trial. *Psychiatry Clin Neurosci* 74(9): 508-510, 2020. doi: 10.1111/pcn.13085.
- 9) Morishima R, Yamasaki S, Ando S, Shimodera S, Ojio Y, Okazaki Y, Kasai K, Sasaki T, Nishida N: Long and short sleep duration and psychotic symptoms in adolescents: Findings

- from a cross-sectional survey of 15 786 Japanese students. *Psychiatry Research* 293: 1-7, 2020. doi:10.1016/j.psychres.2020.113440.
- 10) Nakamura Y, Okada N, Ando S, Ohta K, Ojio Y, Abe O, Kunimatsu A, Yamaguchi S, Kasai K, Koike S: The association between amygdala subfield-related functional connectivity and stigma reduction 12 months after social contacts: A functional neuroimaging study in a subgroup of a randomized controlled trial. *Frontiers in Human Neuroscience* 14: 356, 2020. doi:10.3389/fuhum.2020.00356.
 - 11) Costanza A, Radomska M, Zenga F, Amerio A, Aguglia A, Serafini G, Amore M, Berardelli I, Ojio Y, Nguyen KD: Severe Suicidality in Athletes with Chronic Traumatic Encephalopathy: A Case Series and Overview on Putative Ethioopathogenetic Mechanisms. *International Journal of Environmental Research and Public Health* 18(3): 876, 2021. doi:10.3390/ijerph 18030876.
 - 12) Matsunaga A, Ohashi Y, Sakanashi K, Kitamura T: Factor structure of the Postpartum Bonding Questionnaire: Configural invariance and measurement invariance across postpartum time periods. *Journal of Psychiatric Research* 135:1-7,2021. doi:10.1016/j.jpsychires.2020.11.017. Epub 2020 Nov 9.
 - 13) Matsuoka K, Watanabe A, Kawaguchi T, Misawa K, Murakami K, Fukuda M: Development of a New Daily Activities Scale for the Affected Hand after Stroke. *Progress in Rehabilitation Medicine*, 2020, vol.5,20200031. doi: 10.2490/prm.20200031
 - 14) Koshiyama D, Fukunaga M, Okada N, Morita K, Nemoto K, Usui K, Yamamori H, Yasuda Y, Fujimoto M, Kudo N, Azechi H, Watanabe Y, Hashimoto N, Narita H, Kusumi I, Ohi K, Shimada T, Kataoka Y, Yamamoto M, Ozaki N, Okada G, Okamoto Y, Harada K, Matsuo K, Yamasue H, Abe O, Hashimoto R, Takahashi T, Hori T, Nakataki M, Onitsuka T, Holleran L, Jahanshad N, van Erp TGM, Turner J, Donohoe G, Thompson PM, Kasai K, Hashimoto R: White matter microstructural alterations across four major psychiatric disorders: mega-analysis study in 2937 individuals. *Molecular Psychiatry* 25(4):883-895,2020. doi:10.1038/s41380-019-0553-7 Epub 2019 Nov 29.
 - 15) Koshiyama D, Kirihara K, Tada M, Nagai T, Fujioka M, Usui K, Araki T, Kasai K: Reduced Auditory Mismatch Negativity Reflects Impaired Deviance Detection in Schizophrenia. *Schizophrenia Bulletin* 46(4): 937-946, 2020. doi:10.1093/schbul/sbaa006.
 - 16) Fujioka M, Kirihara K, Koshiyama D, Tada M, Nagai T, Usui K, Kawakami S, Morita K, Satomura Y, Koike S, Suga M, Araki T, Kasai K: Mismatch Negativity Predicts Remission and Neurocognitive Function in Individuals at Ultra-High Risk for Psychosis. *Frontiers in Psychiatry* 11: 770, 2020. doi:10.3389/fpsy.2020.00770.
 - 17) Tada M, Suda Y, Kirihara K, Koshiyama D, Fujioka M, Usui K, Araki T, Kasai K, Uka T: Translatability of Scalp EEG Recordings of Duration-Deviant Mismatch Negativity Between Macaques and Humans: A Pilot Study. *Frontiers in Psychiatry* 11: 874, 2020. doi:10.3389/fpsy.2020.00874.
 - 18) Usui K, Kawashima I, Tomita N, Takahashi T, Kumano H: Effects of the Attention Training Technique on Brain Activity in Healthy University Students Assessed by EEG Source Imaging. *Psychological Reports*,Online ahead of print, 2021.doi:10.1177/0033294120988100
 - 19) Yasuma N, Narita Z, Sasaki N, Obikane E, Sekiya J, Inagawa T, Nakajima A, Yamada Y, Yamazaki T, Matsunaga A, Saito T, Watanabe K, Imamura K, Kawakami N, Nishi D:

- Antenatal psychological intervention for universal prevention of antenatal and postnatal depression: A systematic review and meta-analysis. *Journal of Affective Disorders* 273: 231-239, 2020. doi: 10.1016/j.jad.2020.04.063.
- 20) Yasuma N, Sato S, Yamaguchi S, Matsunaga A, Shiozawa T, Tachimori H, Watanabe K, Imamura K, Nishi D, Fujii C, Kawakami N: Effects of brief family psychoeducation for caregivers of people with schizophrenia in Japan provided by visiting nurses: protocol for a cluster randomised controlled trial. *BMJ Open* 10(4): e34425, 2020. doi: 10.1136/bmjopen-2019-034425.
 - 21) Yasuma N, Watanabe K, Nishi D, Kawakami N: Personal values in adolescence and sense of coherence in adulthood: A cross - sectional study based on a retrospective recall. *Neuropsychopharmacology Reports* 40(3): 262–267, 2020. doi: 10.1002/npr2.12111.
 - 22) Nishi D, Imamura K, Watanabe K, Obikane E, Sasaki N, Yasuma N, Sekiya Y, Matsuyama Y, Kawakami N: Internet-based cognitive-behavioural therapy for prevention of depression during pregnancy and in the post partum (iPDP): a protocol for a large-scale randomised controlled trial. *BMJ Open* 10(5): e036482, 2020. doi:10.1136/bmjopen-2019-036482.
 - 23) Lee Y, Brietzke E, Cao B, Chen Y, Linnaranta O, Mansur R, Nishi D, Yasuma N, . . . Lee J. G: Development and implementation of guidelines for the management of depression: a systematic review. *Bulletin of the World Health Organisation* 98:683-697, 2020. doi:10.2471/BLT.20.251405.
 - 24) Sasaki N, Yasuma N, Obikane E, Narita Z, Sekiya J, Inagawa T, Nakajima A, Yamada Y, Yamazaki R, Matsunaga A, Saito T, Imamura K, Watanabe K, Kawakami N, Nishi D: Psycho-educational interventions focused on maternal or infant sleep for pregnant women to prevent the onset of antenatal and postnatal depression: A systematic review. *Neuropsychopharmacol Rep* 41(1): 2-13, 2021. doi: 10.1002/npr2.12155.
 - 25) Yasuma N, Imamura K, Watanabe K, Nishi D, Kawakami N, & Takano A. (2021) : Association between energy drink consumption and substance use in adolescence: A systematic review of prospective cohort studies. *Drug Alcohol Depend* 219: 108470, 2021. doi.org/10.1016/j.drugalcdep.2020.108470.
 - 26) Inagawa T, Yokoi Y, Yamada Y, Miyagawa N, Otsuka T, Yasuma N, Omachi Y, Tsukamoto T, Takano H, Sakata M, Maruo K, Nakagome K: Effects of multisession transcranial direct current stimulation as an augmentation to cognitive tasks in patients with neurocognitive disorders in Japan: a study protocol for a randomised controlled trial. *BMJ Open* 10(12): e037654, 2020. doi:10.1136/bmjopen-2020-037654.
 - 27) Yasuma N, Watanabe K, Nishi D, Ishikawa H, Tachimori H, Takeshima T, Umeda M and Kawakami N: Psychotic Experiences and Hikikomori in a Nationally Representative Sample of Adult Community Residents in Japan: A Cross-Sectional Study. *Front.Psychiatry* 11: 602678. 2021. doi: 10.3389/fpsy.2020.602678.
 - 28) Yasuma N, Yamaguchi S, Ogawa M, Shiozawa T, Abe M, Igarashi M, Kawaguchi T, Sato S, Nishi D, Kawakami N, & Fujii C: Care difficulties and burden during COVID-19 pandemic lockdowns among caregivers of people with schizophrenia: A cross-sectional study.

- Neuropsychopharmacology reports 2021;00:1-7 Advanceonline publication. 2021. doi:org/10.1002/npr2.12171.
- 29) 鈴木浩太, 山口創生, 塩澤拓亮, 松長麻美, 藤井千代: 精神障害者におけるニーズの評価: Camberwell Assessment of Need - Japanese version (CAN-J) の特徴. 臨床精神医学 49(5), 675-682, 2020.
 - 30) 千葉理恵, 金原明子, 山口創生, 宮本有紀: パーソナル・リカバリーおよびリカバリー志向性を評価する日本語尺度の系統的レビュー. 精神障害とリハビリテーション 24(1), 60-71, 2020.
 - 31) 山口創生, 種田綾乃, 三宅美智, 御菌恵将, 岩崎 香: ピアサポーター養成研修への参加と知識および心理的アウトカムの向上との関連: 単群介入研究. 精神保健福祉学 8(1): 38-48, 2020.
 - 32) 菊池安希子, 藤井千代, 椎名明大, 平野美紀, 小池純子, 河野稔明, 五十嵐慎人: 司法精神科病棟の機能分化: 英国 Dangerous and Severe Personality Disorder(DSPD)事業からの示唆. 日本社会精神医学会雑誌 30(1), 20-34, 2021.
 - 33) 松長麻美, 小塩靖崇, 畠山健介, 川村 慎, 吉谷吾郎, 堀口雅則, 藤井千代: アスリートのメンタルヘルス支援のために: 自殺の対人関係理論からみたアプローチ. 体育の科学 70(10), 759-764, 2020.
 - 34) 松長麻美, 藤井千代, 北村俊則: 産後女性における希死念慮の評価、頻度、関連要因: システマティックレビュー. 日本社会精神医学会雑誌 29, 314-325, 2020.
 - 35) 河本次生, 波田野隼也, 佐藤裕大, 佐々木英司, 藺田剛史, 松山とも代, 篠崎安志, 小池純子: 23 条通報の実態からみる対象者の支援課題の解決に向けてー全国受理機関調査から. 保健師ジャーナル 76(4), 304-310, 2020.
 - 36) 小池純子, 望月明見, 佐藤裕大, 小嶋章吾, 橋本 昇: 刑の一部執行猶予制度下の薬物事犯に対する更生保護施設と精神保健医療福祉の連携支援に関する一考察. 更生保護学研究 17, 3-13, 2020.
 - 37) 渡邊敦子, 森田展彰, 受田恵理, 安里明友美, 小池純子, 新井清美, 井ノ口恵子: 更生保護施設における薬物依存者に対する地域支援ー刑の一部執行猶予制度導入後の施設の利用実態ー. 法と心理 20(1), 150-158, 2020.
 - 38) 竹島正, 小池純子, 河野稔明, 柴崎聡子, 大塚俊弘, 熊倉陽介, 津田多佳子, 反町 裕, 鈴木辰義, 金谷有基, 小野和哉, 袖長光知穂, 小口芳世, 古茶大樹: 川崎市における精神保健福祉法第 23 条通報への 対応状況の系統的分析. 日本社会精神医学雑誌 30(1) 35 -44, 2021.
 - 39) 内野 敬, 小辻有美, 飯田さとみ, 青木瑛子, 塩澤拓亮, 白幡真教, 関晶比古, 水野雅文, 田中邦明, 根本隆洋: 若年者に向けたワンストップ相談センター「SODA」の試みーこれまでの精神科早期介入からの地域における早期相談・支援へー. 精神神経学雑誌 123(3), 126-137, 2021.
- (2) 総説
- 1) Mizuno M, Fujii C, Sakuta T: The COVID-19 Pandemic and Social Psychiatry: Lessons Shared, Lessons Learned – A Japanese Perspective. World Soc Psychiatry 2(2): 134-136, 2020.
 - 2) Yamaguchi S: Editorial: Evaluation of co-productive, student-led, and college-based anti-stigma intervention. Journal of the American Academy of Child and Adolescent Psychiatry 59(4):506-507, 2020.

- 3) Kirihaara K, Tada M, Koshiyama D, Fujioka M, Usui K, Araki T, Kasai K: A Predictive Coding Perspective on Mismatch Negativity Impairment in Schizophrenia. *Frontiers in Psychiatry*, 11: 660, 2020.
- 4) 藤井千代: 精神科における社会復帰支援. レジデントノート 22(15): 2809-2815, 2020.
- 5) 藤井千代: 全国の措置入院の現状およびガイドラインの活用について. 保健師ジャーナル 76(10): 808-812, 2020.
- 6) 藤井千代: 地域共生社会に向けた「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」. 心と社会 51(3): 44-50, 2020.
- 7) 藤井千代: 地域精神保健医療福祉の機能強化推進について—政策研究から「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」を考える—. 日精協誌 40(2): 7-13, 2021.
- 8) 山口創生, 藤井千代: Psychosis and schizophrenia in adults: prevention and management (NICE clinical guideline, CG 178). 精神医学 62(5): 527-531, 2020.
- 9) 山口創生: 精神疾患患者の地域移行支援: エビデンスと多職種・多機関連携. 精神科治療学 35(8): 799-806, 2020.
- 10) 山口創生: 意思決定支援におけるピアサポーターの役割. 精神医学 62(10): 1379-1385, 2020.
- 11) 山口創生: ちょっと知りたい 第68回キーワード: SDM (シェアードデシジョンメイキング). こころの元気+14(10), 61, 2020.
- 12) 山口創生: 海外の精神障害リハビリテーション研究の紹介. 精神障害とリハビリテーション 24(2): 236-237, 2020.
- 13) 山口創生, 岩崎香: 実践の見える化 (第4回): 読み手に伝わる論文を書くために. 精神保健福祉 51(4): 386-389, 2020.
- 14) 佐藤さやか: キーワード 公認心理師. こころの元気プラス, 14(5), 63, 2020.
- 15) 佐藤さやか: 対処および関連する技能. 臨床精神医学特集精神科臨床評価マニュアル, 49(8), 989-995, 2020.
- 16) 佐藤さやか: レジリエンスが教えてくれる大切なこと. こころの元気プラス 14(12), 22-23, 2020.
- 17) 佐藤さやか: 5分野の専門性(職務、多職種連携、専門機関の役割、法・制度など)医療分野. 季刊公認心理師, 4, 46-53, 2021.
- 18) 伊藤正哉, 菊池安希子, 宮前光宏, 正木智子: 心的外傷後ストレス障害に対する認知処理療法の進め方とポイント. 精神療法増刊第7号: 95-104, 2020.
- 19) 菊池安希子: サイコーシスの認知行動療法の動向. 精神医学 63(3): 387-393, 2021.
- 20) 小塩靖崇, 藤井千代, 畠山健介, 水野雅文: アスリートのメンタルヘルスリテラシー教育プログラムに関するナラティブレビュー. 精神医学 62(4): 475-482, 2020.
- 21) 小塩靖崇: 学校における保健教育とスティグマの改善, そこでの当事者の果たす役割について. 日本社会精神医学会雑誌 29(2): 152-160, 2020.
- 22) 松長麻美, 藤井千代: 治療同意判断能力と意思決定支援—医療倫理の観点から. 精神医学 62(10), 1311-1318, 2020.
- 23) 藤岡真生, 切原賢治, 越山太輔, 多田真理子, 臼井 香, 荒木 剛, 笠井清登: 統合失調症早期段階のミスマッチ陰性電位. 臨床神経生理学 48(6): 662-669, 2020.

(3) 著書

- 1) 藤井千代: 入院治療. 最新 精神保健福祉士養成講座(編集 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟) pp236-260, 2021.
- 2) 山口創生: アンチスティグマ.(編集者: 笠井清登 編) 統合失調症, 中山書店, 東京, pp251-257, 2020.

- 3) 山口創生：第3章 第3節 精神障害リハビリテーションのプロセス．（日本ソーシャルワーク教育学校連盟編）精神障害リハビリテーション論，中央法規，東京，pp.76-88，2021.
- 4) 佐藤さやか，松田康裕，古川俊一，梅田典子：第5章 就労支援に特化した認知機能リハビリテーション—VCAT-J—. 精神科臨床とリカバリー支援のための認知リハビリテーション—統合失調症を中心に（松井三枝 編），北大路書房，東京，pp89-110，2020.
- 5) 佐藤さやか：ICF．有斐閣現代心理学辞典（子安増生，丹野義彦，箱田裕司 監），有斐閣，東京，pp3，2020.
- 6) 佐藤さやか：ICD．有斐閣現代心理学辞典（子安増生，丹野義彦，箱田裕司 監），有斐閣，東京，pp3，2020.
- 7) 佐藤さやか：アウトリーチ支援．有斐閣現代心理学辞典（子安増生，丹野義彦，箱田裕司 監），有斐閣，東京，pp5，2020.
- 8) 佐藤さやか：アサーティブ・コミュニティ・トリートメント．有斐閣現代心理学辞典（子安増生，丹野義彦，箱田裕司 監），有斐閣，東京，pp7，2020.
- 9) 佐藤さやか：陰性症状．有斐閣現代心理学辞典（子安増生，丹野義彦，箱田裕司 監），有斐閣，東京，pp45，2020.
- 10) 佐藤さやか：障害調整生命年．有斐閣現代心理学辞典（子安増生，丹野義彦，箱田裕司 監），有斐閣，東京，pp363，2020.
- 11) 佐藤さやか：精神衛生．有斐閣現代心理学辞典（子安増生，丹野義彦，箱田裕司 監），有斐閣，東京，pp433-434，2020.
- 12) 佐藤さやか：精神科リハビリテーション．有斐閣現代心理学辞典（子安増生，丹野義彦，箱田裕司 監），有斐閣，東京，pp434，2020.
- 13) 佐藤さやか：精神保健サービス．有斐閣現代心理学辞典（子安増生，丹野義彦，箱田裕司 監），有斐閣，東京，pp438，2020.
- 14) 佐藤さやか：WHO．有斐閣現代心理学辞典（子安増生，丹野義彦，箱田裕司 監），有斐閣，東京，pp500，2020.
- 15) 佐藤さやか：地域精神保健．有斐閣現代心理学辞典（子安増生，丹野義彦，箱田裕司 監），有斐閣，東京，pp508，2020.
- 16) 佐藤さやか：リカバリー．有斐閣現代心理学辞典（子安増生，丹野義彦，箱田裕司 監），有斐閣，東京，pp780，2020.
- 17) 佐藤さやか：精神科医療機関．有斐閣現代心理学辞典（子安増生，丹野義彦，箱田裕司 監），有斐閣，東京，pp835，2020.
- 18) 菊池安希子：メタ認知トレーニング．精神科臨床とリカバリー支援のための認知リハビリテーション—統合失調症を中心に（松井三枝 編），北大路書房，東京，pp135-148，2020.
- 19) 菊池安希子：医療観察法制度．司法・犯罪心理学（藤岡淳子 編），有斐閣ブックス，東京，pp155-166，2020.
- 20) 菊池安希子：第19章 司法におけるブリーフサイコセラピーの使い方．ブリーフサイコセラピー入門 柔軟で効果的なアプローチに向けて（日本ブリーフサイコセラピー学会編），遠見書房，東京，pp185-189，2020.
- 21) 菊池安希子：医療観察法指定医療における公認心理師の活動．公認心理師の基礎と実践 16，健康・医療心理学（丹野義彦 編），遠見書房，東京，pp141-152，2021.
- 22) 下平美智代：マインドフルネス．第4章 6節リハビリテーションに用いられるその他の手法・プログラム 3，一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集，最新精神保健福祉士養成講座 3，精神障害リハビリテーション論，中央法規，東京，pp96-199，2021.
- 23) 下平美智代：オープンダイアログ．第4章 6節リハビリテーションに用いられるその他の手法・プログラム 4，一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集，最新精神保健福祉士養成講座 3，精神障害リハビリテーション論，中央法規，東京，pp199-202，2021.

- 24) 下平美智代, 白柿 綾, 小宮敬子, 仲野 栄, 鎌田明日香, 森田牧子, 武井麻子: 第 10 章地域におけるケアと支援. 系統看護学講座 精神看護学 2, 精神看護の展開 (第 6 版), 医学書院, 東京, 2021.
- 25) 松長麻美, 北村俊則: 精神疾患を有する者の同意能力. 医事法講座 第 10 巻 精神科医療と医事法 (甲斐克則 編), 信山社, 東京, pp147-165, 2020.
- 26) 小池純子: 精神障害者が法に触れるとき. 現代社会とメンタルヘルス (中谷陽二 編), 星和書店, 東京, pp316-327, 2020.
- 27) 岡坂昌子, 小池純子: ラベリングとスティグマー自閉スペクトラム症を中心にー. 現代社会とメンタルヘルス (中谷陽二 編), 星和書店, 東京, pp137-148, 2020.
- 28) 阿部真貴子: 第 9 章実例. 医療関係者のための脳機能研究入門: 神経心理学と脳賦活化実験 (編集者: 佐藤正之・田部井賢一), 北大路書房, 京都, pp125-138, 2020.

(4) 研究報告書

- 1) 藤井千代: 地域精神保健医療福祉体制の機能強化を推進する政策研究. 厚生労働行政推進調査事業費補助金 障害者政策総合研究事業 (研究代表者: 藤井千代) 令和 2 年度 総括・研究分担報告書, pp1-6, 2021.
- 2) 藤井千代: 精神保健・福祉に関するエビデンスのプラットフォーム構築及び精神科長期入院患者の退院促進後の予後に関する検討のための研究. 厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業「精神保健医療福祉システムのステークホルダーが求めるエビデンスの提示方法に関する検討」(研究代表者: 佐藤さやか) 令和 2 年度 総括・研究分担報告書, pp9-16, 2021.
- 3) 藤井千代: 入院中の精神障害者の円滑な早期の地域移行及び地域定着に資する研究: コホート研究. 厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業「好事例分析」(研究代表者: 山口創生) 令和 2 年度 総括・研究分担報告書. pp101-110, 2021.
- 4) 藤井千代: 地域特性に対応した精神保健医療サービスにおける早期相談・介入の方法の方法と実施システム開発についての研究. 厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業「都市近郊アウトリーチモデル」(研究代表者: 根本隆洋) 令和 2 年度 総括・研究分担報告書, pp36-45, 2021.
- 5) 山口創生: 入院中の精神障害者の円滑な早期の地域移行及び地域定着に資する研究: コホート研究. 厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業 (研究代表者: 山口創生) 令和 2 年度 総括・研究分担報告書. pp1-16, 2021.
- 6) 山口創生: 入院中の精神障害者の円滑な早期の地域移行及び地域定着に資する研究: コホート研究. 厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業 (研究代表者: 山口創生) 平成 30 年～令和 2 年度 総合研究報告書. pp1-40, 2021.
- 7) 山口創生: 精神保健・福祉に関するエビデンスのプラットフォーム構築及び精神科長期入院患者の退院促進後の予後に関する検討のための研究. 厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業「精神保健医療福祉に関するエビデンスの提供と普及を目指し WEB ページの構築と運用」(研究代表者: 佐藤さやか) 令和 2 年度 総括・研究分担報告書, pp17-25, 2021.
- 8) 佐藤さやか: 精神保健・福祉に関するエビデンスのプラットフォーム構築及び精神科長期入院患者の退院促進後の予後に関する検討のための研究. 厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業 (研究代表者: 佐藤さやか) 令和 2 年度 総括・研究分担報告書, pp1-4, 2021.
- 9) 菊池安希子: 配偶者／パートナー間暴力のリスクアセスメント. 「配偶者暴力被害者支援における機関連携及び加害者対応に関する調査研究 ～地域社会内における DV 加害者プログラムの試行実施に向けて～」報告書, pp67-69, 内閣府男女共同参画局, 2020.

- 10) 菊池安希子：入院中の精神障害者の円滑な早期の地域移行及び地域定着に資する研究：コホート研究．厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業「問題行動の評価」（研究代表者：山口創生）令和 2 年度 総括・研究分担報告書．pp65-80, 2021.
- 11) 松長麻美：入院中の精神障害者の円滑な早期の地域移行及び地域定着に資する研究：コホート研究．厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業「処方薬剤データ管理システムの開発」（研究代表者：山口創生）令和 2 年度 総括・研究分担報告書．pp111-114, 2021.
- 12) 杉山直也：精神科救急医療における質向上と医療提供体制の最適化に資する研究．厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業（研究代表者：杉山直也）令和 2 年度 総括・研究分担報告書．pp1-12, 2021.
- 13) 杉山直也：精神科救急医療における質向上と医療提供体制の最適化に資する研究．厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業（研究代表者：杉山直也）令和元年～令和 2 年度 総括報告書．pp1-12, 2021.

(5) 翻訳

(6) その他

- 1) 下平美智代：オープンダイアログと「問う力・聴く力」．臨床心理学 20(4)：415-418, 2020.
- 2) 下平美智代：看護師からみた多職種チームケアの未来とオープンダイアログ．精神科 37(2)：111-115, 2020.
- 3) 下平美智代：視点を変えると気持ち変わるリフレーミング．特集 自責の念から自由になれない．月刊みんなねっと 167：8-9, 2021.
- 4) 中込和幸, 小塩靖崇, 川村 慎, 関崎 亮：アスリートのメンタルヘルス, 精神科臨床 Legato 6(2), 4-11, 2020.
- 5) 相澤和美, 川口敬之：リカバリー全国フォーラム 分科会「医療の場」．こころの元気+, 14(10), 50-51, 2020.
- 6) 塩澤拓亮, 安間尚徳：地域医療における統合失調症患者家族に対する適切な情報提供支援．精神科臨床 Legato 6(3), 132-136, 2020.

B. 学会・研究会における発表

(1) 学会特別講演, 教育講演, シンポジウム, ワークショップ, パネルディスカッション等

- 1) 藤井千代：措置入院者の退院後支援と本人同意．第 17 回日本精神神経学会学術総会, オンライン, 2020.9.28.
- 2) 藤井千代：多職種アウトリーチチームによる早期介入．第 17 回日本精神神経学会学術総会, オンライン, 2020.9.30.
- 3) 藤井千代：精神障害にも対応した地域包括ケアにおける精神科救急・急性期医療の役割．第 28 回日本精神科救急学会学術総会, オンライン, 2020.10.9.
- 4) 藤井千代：精神障害にも対応した地域包括ケアシステム．第 33 回総合病院精神医学会総会, オンライン, 2020.12.7.
- 5) 香田真希子, 池田真砂子, 大島みどり, 本多俊則, 山口創生：IPS って、実際どうなの？～皆さんの疑問にひたすらお答えします～．リカバリーフォーラム 2020, オンライン大会, 2020.9.20.
- 6) 朝波千尋, 富安哲也, 別所晶子, 西 侑紀, 小林清香, 佐藤さやか (企画者/司会者)：医療現場で求められる多職種連携・チーム医療 公認心理師はどう他職種と働くのか．公認心理師の会 2020 年度年次総会, オンライン大会, 2020.10.29.

- 7) 佐藤さやか：生活技能訓練法と公認心理師．公認心理士あり方委員会企画シンポジウム「公認心理師の診療報酬と認知行動療法」．第 20 回日本認知療法・認知行動療法学会，オンライン開催，2020.11.21-23.
- 8) 菊池安希子：公募シンポジウム 12.認知矯正療法（NEAR）における内発的動機付けの役割を考えるー研究と実践の観点からー（指定討論）．第 84 回日本心理学会オンライン開催，2020.9.8-11.2.
- 9) 菊池安希子：司法精神科における EMDR（シンポジスト）．シンポジウム：EMDR の現在．第 19 回日本トラウマティック・ストレス学会，オンライン開催，2020.9.21-10.20.
- 10) 下平美智代，臼井 香，久永文恵：マインドフルネスを体験してみよう．リカバリー全国フォーラム 2020，オンライン開催，2020.9.19-20.
- 11) 大橋優紀子，松長麻美，篠原枝里子，羽田彩子，八巻和子，石橋みちる，馬場香里，山本真実，山田蒔子，竹形みずき，臼井由利子，鈴木大地：周産期メンタルヘルス発 エビデンスに基づく心理支援を看護臨床に．第 40 回日本看護科学学会学術集会，オンライン，2020.12.12.
- 12) 相澤和美，澤田高綱，荒井康行，川口敬之：ピアサポートとつながろう～リカバリー試行の医療の場を実現する 100 のアイデア～．リカバリー全国フォーラム 2020，オンライン大会，2020.9.19.
- 13) 荒木 剛，切原賢治，永井達哉，多田真理子，臼井 香，藤岡真生，越山太輔，笠井清登：統合失調症における MMN，第 116 回日本精神神経学会学術総会，オンライン開催，2020.9.28-30.
- 14) 荒木 剛，切原賢治，永井達哉，多田真理子，臼井 香，藤岡真生，越山太輔，笠井清登：統合失調症の MMN，第 50 回日本臨床神経生理学会，日本臨床神経生理学会，京都，2020.11.26-28.
- 15) 佐藤正之，阿部真貴子：音楽療法ワークショップー理論と実践ー（ワークショップ）．第 39 回日本認知症学会学術集会，Web と現地のハイブリッド開催，2020.11.27.
- 16) 大久保友幸，小野健太郎，河西大介，正田 悠，阿部真貴子：基礎から臨床へのアプローチ．第 14 回日本音楽医療研究会学術集会，オンライン開催，2021.1.24.
- 17) 小林加奈，曹 由寛，山田達人，藤井 靖：シンポジウム 3「認知の多様性を考慮した過敏性腸症候群の発症および維持増悪モデルの考案」．第 22 回日本神経消化器病学会，東京，2020.11.19-20.

(2) 一般演題

- 1) Seto H , Inagaki A, Shimada T, Otsuka T, Fujii C, Ohta J, Iwanaga H, Nakanishi K, Nakamura H, Watanabe J, Tomita M, Kizaki E, Yokoshima T, Kishi Y, Okuno E, Yoshizumi A: PROSPECTIVE COHORT STUDY OF PATIENTS WITH MENTAL ILLNESS HOSPITALIZED COMPULSORILY BY PREFECTURAL GOVERNORS, STATUS OF PATIENTS REGISTRATION.20TH World Psychiatric Association World Congress of Psychiatry, 2021.3.10-13.
- 2) Katayanagi A, Makita K, Oe M, Ito M, Kikuchi A, Nakajima S, Konishi T, Horikoshi M : Development of a Cognitive Processing Therapy Program for Adolescents and Young Adults. 24th World Congress of the International Association for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professionals. Singapore virtual congress, 2020.12.2-4.
- 3) Makita K, Katayanagi A, Oe M, Ito M, Kikuchi A, Nakajima S, Konishi T, Horikoshi M : Development of Optional program for Caregiver of Adolescent and Young Adult Patients undergoing Cognitive Processing Therapy. 24th World Congress of the International Association for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professionals. Singapore virtual congress, 2020.12.2-4.

- 4) Ojio Y, Matsunaga A, Hatakeyama K, Kawamura S, Yoshitani G, Horiguchi M, Fujii C: Developing mental health strategies for Japanese professional athletes through a cross-disciplinary approach, Poster presented at: The 2020 Yokohama Sport Conference, September 8, 2014; Yokohama, Japan.
- 5) Matsunaga A, Ojio Y, Hatakeyama K, Kawamura S, Yoshitani G, Horiguchi M, Fujii C: Suicide prevention for athletes: applying the framework of the interpersonal theory of suicide. The 2020 Yokohama Sport Conference, 2020.9.8-22, online.
- 6) Shiozawa T, Ojio Y, ER Gregorio, CR Leynes, PM Hernandez, CAM Estrada, Fuyama T, Satake N: Development of animation tool for mental health literacy education for students in the Philippines. 24th World Congress of the International Association for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions. Singapore virtual congress, 2020.12.2-4.
- 7) So Y, Kobayashi K, Yamada T, Fujii Y: The effect of Compassion Focused Therapy on process addiction. Canadian Society of Addiction Medicine, online, 2020.11.12-11.14.
- 8) 菊池安希子, 藤井千代, 椎名明大, 平野美紀, 小池純子, 河野稔明, 五十嵐禎人: 英国 Dangerous and Severe Personality Disorder (DSPD) 事業からの示唆. 第 16 回日本司法精神医学会大会. オンライン, 2020.11.12-13.
- 9) 河野稔明, 曾雌崇弘, 菊池安希子, 藤井千代: 共通評価項目のスコア変化からみた医療観察法入院対象者の治療経過パターン. 第 16 回日本司法精神医学会, かがしま (オンライン開催), 2020.11.12-13.
- 10) 牧田 潔, 片柳章子, 大江美佐里, 伊藤正哉, 菊池安希子, 中島聡美, 小西聖子, 堀越 勝: 心的外傷後ストレス症状を呈した青少年を対象とした青少年版認知処理療法の開発. 第 20 回認知療法・認知行動療法学会, オンライン開催, 2020.11.21-23.
- 11) 大橋優紀子, 松長麻美, 篠原枝里子, 羽田彩子, 八巻和子, 石橋みちる, 馬場香里, 山本真実, 山田路子, 竹形みずき, 臼井由利子, 鈴木大地: 周産期メンタルヘルス発 エビデンスに基づく心理支援を看護臨床に. 第 40 回日本看護科学学会学術集会, オンライン, 2020.12.12.
- 12) 松長麻美, 佐竹直子, 山口創生, 藤井千代: 外来診察時の話題および意思決定の方法が患者満足度および治療的關係に及ぼす影響. 第 40 回日本社会精神医学会, オンライン, 2021.3.4-5.
- 13) 市川香織, 鈴木利人, 松長麻美, 山岸由紀子: 精神科疾患を合併した、あるいは合併の可能性のある妊産婦への切れ目ない支援を考える～新たに作成された妊産婦メンタルヘルスの診療ガイドを参考に～. 第 35 回日本助産学会学術集会, オンライン, 2021.3.20-21.
- 14) 小池純子, 山口創生, 長谷川直美, 佐々木渉, 川副泰成, 藤井千代: 外来医療機関におけるケースマネジメントサービス提供量の多い患者の特性と支援のあり方について. 第 116 回精神神経学会, オンライン, 2020.9.30.
- 15) 山田悠至, 竹田康二, 河野稔明, 小池純子, 藤井千代, 平林直次: 医療観察法データベースの研究プロトコル. 第 16 回日本司法精神医学会, 鹿児島, オンライン, 2020.11.12-13.
- 16) 松岡耕史, 渡邊愛記, 川口敬之, 三沢幸史, 福田倫也: ASUHS を用いた脳卒中患者の麻痺側上肢における整容動作の遂行度と予測因子の検討. 第 54 回日本作業療法学会, 2020.9.25-10.25.
- 17) 佐野邦典, 渡邊愛記, 川口敬之, 坂本安令, 福田倫也: せん妄の予防的介入を再考する契機になった心臓血管外科術後患者の経験. 第 54 回日本作業療法学会, 2020.9.25-10.25.
- 18) 森田満恵, 川口敬之, 渡邊愛記: 撓骨遠位端骨折患者の作業参加に対する自己モニタリングシートの効果. 第 54 回日本作業療法学会, 2020.9.25-10.25.
- 19) 及川裕也, 川口敬之, 崎本麻衣, 松岡太一, 渡邊愛記: 精神科入院患者における生活の困難さおよび作業機能障害に基づくリカバリーの要因構造の検討, 第 54 回日本作業療法学会, 2020.9.25-10.25.

- 20) 氏井直樹, 松岡太一, 川口敬之, 渡邊愛記: 長期間保護室対応の統合失調症者に対する作業に焦点を当てた支援の効果. 第54回日本作業療法学会, 2020.9.25-10.25.
- 21) 百瀬あずさ, 松岡太一, 古屋慶一郎, 川口敬之, 渡邊愛記: 作業機能障害に着目した個別支援が認知症のある高齢者におよぼす影響. 第54回日本作業療法学会, 2020.9.25-10.25.
- 22) 塩澤拓亮, 藤井千代, 阿部真貴子, 平田豊明, 兼行浩史, 野田寿恵, 奥村泰之, 杉山直也: 精神科救急医療ニーズの多様化に向けた医療の質向上と医療提供体制の最適化に資する研究. 第28回日本精神科救急学会学術集会, オンライン, 2020.10.9-10.
- 23) 臼井 香, 多田真理子, 笠井清登: 『精神保健サービスにおける実装可能性の評価尺度』日本語版開発の試み, D&I 科学研究会 (保健医療福祉における普及と実装科学研究会) 第5回学術集会, オンライン開催, 2020.11.28.

(3) 研究報告会

- 1) 山口創生: 統合失調症の名称変更とアウトカムとの関連. シンポジウム 精神疾患へのスティグマ形成、影響に関する Bio-Psycho-Social evidence. 根拠に基づくアンチスティグマ活動研究会学術発表会, オンラインシンポジウム, 2020.8.27.
- 2) 山口創生: 援助付き雇用 IPS モデルの概観. 第4回世界の職業リハビリテーション研究会, オンライン研究会, 2020.9.23.
- 3) 松長麻美: 古典を学ぶ: シュヴィングと患者へのよりそい. 第8回周産期メンタルヘルスセミナー, オンライン, 2020.11.29.

(4) その他

C. 講演

- 1) 藤井千代: 精神障害者に対する地域での退院後支援. 特別区職員研修, 東京, 2020.7.2.
- 2) 藤井千代: うつ病対策について. 公明党うつ対策プロジェクトチーム研修会, 東京, 2020.7.29.
- 3) 藤井千代: 精神障害者の地域生活支援と医療のあり方—精神障害にも対応した地域包括ケアの視点から—. 福島県アウトリーチ研修会, オンライン, 福島, 2020.9.2.
- 4) 藤井千代: 都版退院後支援ガイドラインに基づいた退院後支援計画作成について. 荒川区保健師研修会, 東京, 2020.10.29.
- 5) 藤井千代: 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築について. 誰もが安心してかかりたいと思える精神科医療の実現～みんなねっとからの3つの提言～作成に向けた zoom 学習会, オンライン, 東京, 2020.12.17.
- 6) 藤井千代: 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムについて. ワークショップ「みんなで考える精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」, オンライン, 東京, 2021.2.13.
- 7) 山口創生: IPS・援助付き雇用について、わかっていること、いないこと. 2020年度JIPSA実践家向け研修 web オンライン研修, 2020.7.18.
- 8) 山口創生: 研究成果の普及と実装の科学: 精神保健研究の方法論. 東京大学, 2020年度課題解決型高度医療人材養成プログラム「職域・地域架橋型—価値に基づく支援者育成」(2018-2022年), 東京, 2020.9.5.
- 9) 菊池安希子: 暴力のリスクマネジメント. 日本精神科病院協会, 厚生労働省令和2年度精神科医療体制確保研修事業「精神科病院における安心・安全な医療を提供するための研修」オンライン研修, 東京, 2020.11.2.

- 10) 下平美智代：マイノリティ：自らソーシャルサポートにたどり着けない人々．Iiyu Action for Social Minorities (JASMINE) 第1回定例研究会，2020.11.29.

D. 学会活動

(1) 学会主催

(2) 学会役員

- 1) 藤井千代：日本社会精神医学会 副理事長
- 2) 藤井千代：日本精神保健福祉政策学会 理事
- 3) 藤井千代：日本司法精神医学会 評議員
- 4) 藤井千代：日本精神保健・予防学会 評議員
- 5) 藤井千代：日本精神神経学会 医療倫理委員
- 6) 山口創生：こころのバリアフリー研究会 評議員
- 7) 山口創生：日本精神保健福祉学会 編集委員
- 8) 山口創生：日本統合失調症学会 パブリックリレーション委員会 アドバイザリーボード
- 9) 山口創生：日本精神障害者リハビリテーション学会 常任理事
- 10) 山口創生：日本精神障害者リハビリテーション学会 常任理事
- 11) 佐藤さやか：日本精神障害者リハビリテーション学会 常任理事
- 12) 佐藤さやか：公認心理師の会 医療部会委員
- 13) 佐藤さやか：VCAT-J 研究会 理事
- 14) 菊池安希子：日本ブリーフサイコセラピー学会理事 研修委員会委員 専門資格委員会
- 15) 菊池安希子：日本 EMDR 学会理事 トレーニング委員会委員、倫理委員会委員
- 16) 菊池安希子：日本司法精神医学会 評議員
- 17) 菊池安希子：医療観察法心理士ネットワーク 幹事
- 18) 菊池安希子：日本公認心理師協会 司法犯罪分野委員会委員
- 19) 菊池安希子：日本公認心理師協会 専門認定委員会委員
- 20) 菊池安希子：EMDR Asia Scientific Committee (2019～)
- 21) 菊池安希子：CBT for Psychosis (CBTp)ネットワーク 幹事
- 22) 下平美智代：日本精神障害者リハビリテーション学会 常任理事
- 23) 松長麻美：こころのバリアフリー研究会 評議員
- 24) 松長麻美：日本精神障害者リハビリテーション学会

(3) 座長

- 1) 阿部真貴子：一般演題 1. 第14回音楽医療研究会学術集会，オンライン開催，2021.1.29.

(4) 学会誌編集委員等

- 1) 藤井千代：日本社会精神医学会雑誌編集委員長
- 2) 山口創生：日本精神障害者リハビリテーション学会 査読委員
- 3) 山口創生：日本精神障害者リハビリテーション学会 英文監修者
- 4) 山口創生：日本精神障害者リハビリテーション学会 学会誌編集委員
- 5) 山口創生：学会誌投稿論文等査読小委員会及び査読制度の在り方検討小委員会
- 6) 山口創生：Canadian Journal of Psychiatry: reviewer registration

- 7) 山口創生 : Epidemiology and Psychiatric Sciences: reviewer registration
- 8) 山口創生 : American Academy of Child and Adolescent Psychiatry: reviewer registration
- 9) 菊池安希子 : 日本認知療法・認知行動療法学会 編集委員
- 10) 菊池安希子 : 日本 EMDR 学会 英文監修者
- 11) 小塩靖崇 : IACAPAP テキストブック翻訳委員会委員
- 12) 小塩靖崇 : 予防精神医学 編集委員
- 13) 小塩靖崇 : 日本社会精神医学会雑誌 編集委員
- 14) 松長麻美 : Archives of Women's Mental Health: reviewer registration
- 15) 川口敬之 : 日本臨床作業療法研究 査読委員

E. 研修

(1) 研修企画

(2) 研修会講師

- 1) 山口創生 : リカバリー概論 導入編. 2020 年度国立精神・神経医療研究センターPORT 研修会, 小平, 2020.9.17.
- 2) 山口創生 : リカバリー概論 講義編 1. 2020 年度国立精神・神経医療研究センターPORT 研修会, 小平, 2020.10.7.
- 3) 山口創生 : リカバリー概論 講義編 2. 2020 年度国立精神・神経医療研究センターPORT 研修会, 小平, 2020.10.8.
- 4) 山口創生 : 就労支援に役立つ評価表. 2020 年度大阪府作業療法士協会就労支援研修, オンライン研修, 2020.11.25.
- 5) 菊池安希子 : 第 6 回の長崎トラウマ関連症状勉強会 (NSG) (講師), Web 開催, 2020.8.2.
- 6) 菊池安希子 : 事例検討会 (講師), 2020 年度国立精神・神経医療研究センターPORT 研修会, 小平, 2021.3.9.
- 7) 西内絵里沙 : メリデン版訪問家族支援①・ACTIPS 法人内勉強会(オンライン)・特定非営利活動法人リカバリーサポートセンターACTIPS・2021.2.18.
- 8) 西内絵里沙 : メリデン版訪問家族支援②・ACTIPS 法人内勉強会(オンライン)・特定非営利活動法人リカバリーサポートセンターACTIPS・2021.3.18.

F. その他

- 1) 小塩靖崇 : 精神疾患を学べる教材を開発 高校新学習指導要領に対応. 教育新聞, 2020.4.17.
- 2) 小塩靖崇 : “精神的不調” ラグビートップリーグ選手 調査で 4 割余りに上る, NHK, 2021.2.6.
- 3) 小塩靖崇 : 「ゼロか 1 かではない支援を」アスリートの心の病、専門家が分析, 毎日新聞, 2021.3.15.

11. ストレス・災害時こころの情報支援センター

I. 研究部の概要

平成 23 年東日本大震災の被災者に対する継続的な対応、及び今後発生が予想されるその他の災害の発生に備えた体制づくりのための研究や調査を行うことを目的として、災害時こころの情報支援センターが平成 23 年 12 月に国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所に設置され、平成 30 年 4 月に「ストレス・災害時こころの情報支援センター」に改称された。

当センターの活動は、主に以下の通りである。

① 災害及び事故・事件後の精神保健医療に係る助言・技術的支援、情報発信・連携

東日本大震災等の支援内容に関するデータの収集や、大規模事故、犯罪被害等が生じた際の精神保健医療活動に係る事例収集を行い、データの調査・分析、エビデンス蓄積、ガイドライン作成を行う職員を配置し、当該情報を地方自治体・関係機関に提供・発信することにより、今後新たに発生する災害時の対応力を強化した。

令和 2 年度の当センターの構成は以下の通りである。センター長（併任）：金 吉晴，併任研究員：関口 敦，小川眞太郎，客員研究員：宮本有紀，種市康太郎，前田正治，高橋 晶，秋山 剛，富田博秋，本橋 豊，木津喜雅。

Ⅱ. 研究活動

- 1) WHO 版の心理的応急処置（PFA）の普及活動とアジアへの e-learning 普及研究
- 2) 災害後の心理的リカバリースキルの研究
- 3) 災害時精神保健医療対応に係るガイドライン作成

Ⅲ. 社会的活動に関する評価

(1) 市民社会に対する一般的な貢献

以下を通じて研究成果の社会還元を行った。

- 1) 信濃毎日新聞：御嶽山噴火 痛みなお 精神面の傷重く職離れる人も，2020.9.27.（金）

(2) 専門教育面における貢献

- 1) 令和 2 年度「こころの健康づくり対策事業」補助金による PTSD 対策専門研修事業

災害・事故・犯罪・児童虐待などのトラウマ的体験をされた方々に対して、基本的な精神保健医療対応（こころのケア）を提供する人材を確保するため、精神保健医療福祉業務従事者等に対し、下記 3 コースをオンラインで実施した。

・心理的トラウマに関する理解を深め、初期対応、PTSD 等の治療の知識を得、基本的対応スキルを習得する通常コース（527 名受講）

A.通常コース 1 令和 2 年 11 月 5 日

A.通常コース 2 令和 2 年 11 月 18 日

・認知行動療法（持続エクスポージャー療法）による実際の治療事例を呈示し、患者の回復の可能性と経路を学習し、そうした回復に向けての治療と支援のあり方についてのグループディスカッションを通じて、高度な専門支援のあり方を学ぶ専門コース（386 名受講）

B.専門コース 1 令和 2 年 12 月 3 日～4 日

B.専門コース 2 令和 3 年 1 月 21 日～22 日

・犯罪・性犯罪被害者への適切な対応を行うために必要な専門的知識と心理社会的支援・治療対応について習得する犯罪・性犯罪被害者コース（313 名受講）

C.犯罪・性犯罪被害者コース 令和 3 年 2 月 12 日

- 2) WHO 版 PFA を日本に導入し、WHO との研究協力書の下で、一般研修を継続した。
- 3) PFA の e-learning を作成し、マレーシア、フィリピン、タイへの普及研究を進めた (AMED 研究)。
- 4) オーストラリア国立 PTSD センターと共同で災害後の心理的リカバリースキルの研究に着手し、資料の翻訳を行った。
- 5) 各種学術団体で、心のマネジメントや災害時の精神的健康について講演を行った。
- 6) 専門家向けに PTSD や災害精神医療等についての講演を行った。
- 7) メディア取材を通じて専門知識の社会普及を行った。

(3) 精研の研修の主催と協力

- ・ 2020 年度精神保健に関する技術研修。第 5 回および第 6 回 災害時 PFA と心理対応研修を開催した (オンライン)。2021.3.16. 2020.12.15. (金, 大沼)

(4) 保健医療行政政策に関連する研究・調査、委員会等への貢献

- ・ ふくしま心のケアセンター 顧問 (金)
- ・ みやぎ心のケアセンター 顧問 (金)
- ・ 被災 3 県心のケア総合支援調査研究等事業 実施委員会 委員 (金)
- ・ 日本医療政策機構 アドバイザリーボードメンバー (金)
- ・ 新型コロナウイルス感染症に係るメンタルヘルスに関する調査・分析検討会 委員 (金)
- ・ 全国精神保健福祉センター長会 研究倫理審査委員会 委員 (金)
- ・ 厚生労働省「健康増進総合支援システム (e—ヘルスネット)」情報専門委員 (金)

(5) センター内における臨床的活動

(6) その他

IV. 研究業績

A. 刊行物

(1) 原著論文

- 1) Uemura N, Miyazaki M, Okuda H, Haruyama S, Ishikawa M, Kim Y: Competency framework, methods, evaluation, and outcomes of natural disaster preparedness and response training: a scoping review protocol. JBI Evidence Synthesis 19(1):208-214, 2021.
- 2) Newnham EA, Dzidic PL, Mergelsberg ELP, Guragain B, Chan EYY, Kim Y, Leaning J, Kayano R, Wright M, Kaththiriarachchi L, Kato H, Osawa T, Gibbs L.: The Asia Pacific Disaster Mental Health Network: Setting a Mental Health Agenda for the Region. International Journal of Environmental Research and Public Health. 17(17),6144: 1-9, 2020.

(2) 総説

(3) 著書

- 1) 中島実穂, 金 吉晴: IV 現在まで、そしてこれからの課題 これからの心理・社会的被災地支援。前田正治, 松本和紀, 八木淳子 編。東日本大震災とこころのケア。日本評論社, 東京, pp217-224, 2021.

(4) 研究報告書

(5) 翻訳

(6) その他

- 1) 堤 敦朗, 井筒 節, 金 吉晴: AMED (日本医療研究開発機構) 地球規模保健課題解決推進のための研究「A Study on Rights-based Self-learning Tools to Promote Mental Health, Well-being & Resilience after Disasters」の概要について. 海外便り, ト라우マティックストレス 18(1): pp95-99, 2020.
- 2) 金 吉晴: PTSD 研修会を主催して. 各論 公益財団法人精神・神経科学振興財団の事業など, 第二章 研修事業 1. PTSD 研修, 公益財団法人精神・神経振興財団 記念誌・業績集: p34, 2021.

B. 学会・研究会における発表

(1) 学会特別講演, 教育講演, シンポジウム, ワークショップ, パネルディスカッション等

- 1) Tsutsumi A, Izutsu T, Kim Y: A Study on Rights-based Self-Learning Tools to Promote Mental Health / Well-Being & Resilience after Disasters. Global Alliance for Chronic Diseases Annual Scientific Meeting, Online event, 2020.11.10-13.
- 2) 金 吉晴: タイ、フィリピンにおける災害時 PFA 実装の取り組み. 企画セッション講演 3, D&I 科学研究会 (保健医療福祉における普及と実装科学研究会) 第 5 回学術集会, WEB 開催, 2020.11.28.
- 3) 金 吉晴: 災害と精神療法: コロナとトラウマの視点から. 講演と討論, 日本精神分析的精神医学会学術集会第 18,19 合同大会, オンライン開催, 2021.3.20-21.

(2) 一般演題

- 1) 奥田博子, 宮崎美砂子, 春山早苗, 石川麻衣, 植村直子, 金 吉晴: 実務保健師の災害時対応能力育成のための研修ガイドラインによる研修効果: A 県の検証. 第 79 回日本公衆衛生学会総会, オンライン開催, 2020.10.20-22.
- 2) 宮崎美砂子, 奥田博子, 春山早苗, 石川麻衣, 植村直子, 金 吉晴: 実務保健師の災害時の対応能力育成のための研修ガイドラインの作成と精練. 第 79 回日本公衆衛生学会総会, オンライン開催, 2020.10.20-22.
- 3) 植村直子, 宮崎美砂子, 奥田博子, 春山早苗, 石川麻衣, 金 吉晴: 公衆衛生従事者を対象とした国内外の災害研修方法の概観. 第 79 回日本公衆衛生学会総会, オンライン開催, 2020.10.20-22.

(3) 研究報告会

(4) その他

C. 講演

D. 学会活動

(1) 学会主催

(2) 学会役員

- 1) 金 吉晴: 日本トラウマティック・ストレス学会 理事
- 2) 金 吉晴: 自殺予防学会 理事
- 3) 金 吉晴: 日本不安症学会 評議員

- 4) 関口 敦：日本心身医学会 幹事
- 5) 関口 敦：日本心身医学会 代議員
- 6) 関口 敦：日本摂食障害学会 評議員

(3) 座長

(4) 学会誌編集委員等

- 1) Kim Y: Cognitive Neuropsychiatry, editorial board member
- 2) 金 吉晴：日本トラウマティック・ストレス学会 編集委員長

E. 研修

(1) 研修企画

- 1) 金 吉晴：令和 2 年度 PTSD 対策専門研修 A.通常コース 1. オンライン開催，2020.11.5.
- 2) 金 吉晴：令和 2 年度 PTSD 対策専門研修 A.通常コース 2. オンライン開催，2020.11.18.
- 3) 金 吉晴：令和 2 年度 PTSD 対策専門研修 B.通常コース 1. オンライン開催，2020.12.2-3.
- 4) 金 吉晴，大沼麻実：2020 年度精神保健に関する技術研修 第 6 回災害時 PFA と心理対応研修．オンライン開催，2020.12.15.
- 5) 金 吉晴：令和 2 年度 PTSD 対策専門研修 B.通常コース 2. オンライン開催，2021.1.21-22.
- 6) 金 吉晴：令和 2 年度 PTSD 対策専門研修 C.犯罪・性犯罪被害者コース．オンライン開催，2021.2.12.
- 7) 金 吉晴：令和 2 年度 厚生労働省認知行動療法研修事業 PTSD の持続エクスポージャー療法研修（1 日間）．オンライン開催，2021.2.12.
- 8) 金 吉晴，大沼麻実：2020 年度精神保健に関する技術研修 第 5 回災害時 PFA と心理対応研修．オンライン開催，2021.3.16.

(2) 研修会講師

- 1) 金 吉晴：地域における健康危機管理～災害時の心のケア～．国立保健医療科学院 令和 2 年度専門課程要請訓練 専門課程 I 保健福祉行政管理分野，埼玉（オンラインによる遠隔研修），2020.5.27.
- 2) 金 吉晴：サイコロジカルファーストエイドの基礎と実践．公認心理士の会 ウェブセミナー 新型コロナ禍を乗り切るための支援スキルを学ぶ，ウェビナー配信，2020.6.14.
- 3) 金 吉晴：災害時における心のケア 総論．長野県精神保健福祉センター，令和 2 年度災害時のこころのケア・PFA オンライン研修会，長野，ライブ配信，2020.9.24.
- 4) 金 吉晴：PTSD の理解とケア．令和 2 年度 PTSD 対策専門研修 A. 通常コース 2，オンライン開催，2020.11.18.
- 5) 金 吉晴：PTSD の診断と評価 1. 令和 2 年度 PTSD 対策専門研修 B. 専門コース 1，オンライン開催，2020.12.3-4.
- 6) 金 吉晴：PTSD の心理療法 1、2. 令和 2 年度 PTSD 対策専門研修 B. 専門コース 1，オンライン開催，2020.12.3-4.
- 7) 金 吉晴：PTSD の理解と治療－複雑性 PTSD をふまえて．立正大学心理臨床センター主催 令和 2 年度心理臨床セミナー，オンライン開催，2020.12.6.
- 8) 金 吉晴：災害時のこころのケア－総論．2020 年度精神保健に関する技術研修 第 6 回災害時 PFA と心理対応研修，オンライン開催，2020.12.15.
- 9) 金 吉晴：PTSD の診断と評価 1. 令和 2 年度 PTSD 対策専門研修 B. 専門コース 2，オンライン開催，2021.1.21-22.

- 10) 金 吉晴：PTSD の心理療法 1、2. 令和 2 年度 PTSD 対策専門研修 B. 専門コース 2, オンライン開催, 2021.1.21-22.
- 11) 金 吉晴：PE 概要. 令和 2 年度 厚生労働省認知行動療法研修事業 PTSD の持続エクスポージャー療法研修 (1 日間), オンライン開催, 2021.2.12.
- 12) 金 吉晴：災害時のこころのケア～総論. 新潟県精神保健福祉センター 令和 2 年度災害時 PFA と心理対応研修会, オンライン開催及び新潟, 2021.3.5.
- 13) 金 吉晴：災害時のこころのケア～総論. 2020 年度精神保健に関する技術研修 第 5 回災害時 PFA と心理対応研修, オンライン開催, 2021.3.16.

F. その他

- 1) 金 吉晴：信濃毎日新聞. 御嶽山噴火 痛みなお 精神面の傷重く職離れる人も, 2020.9.27.

Ⅲ. 研 修 実 績

令和2年度研修報告

研究所事務局

精神保健研究所における研修は、国、地方公共団体精神保健福祉法第19条の規定による指定病院等において精神保健の業務に従事する医師、保健師、看護師、作業療法士、臨床心理業務に従事する者、精神科ソーシャルワーカー等を対象に、精神保健技術者として必要な資質の向上を図ることを目的として精神保健各般にわたり必要な知識及び技術の研修を行うものである。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い対面形式での研修実施が困難なため、オンライン開催をメインに災害時PFAと心理対応研修（2回）、発達障害者支援研修（3回）、認知行動療法の手法を活用した薬物依存症に対する集団療法研修の計6回の研修を合計310名に対して実施した。

《発達障害支援研修》

令和2年11月10日から11月11日まで、第1回発達障害者支援研修：指導者養成研修パートⅢを実施し、「発達障害の診断・治療と支援の実際」を主題に、病院、保健所、発達障害支援センター等に勤務し、発達障害に関心を有する医師（特に指導について責任的立場にある者）、自治体（都道府県、政令指定都市）において、行政的な立場で地域の研修実施に携わる者もしくは発達障害者支援センター職員57名に対して研修を行った。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、オンライン開催に変更した。

課程主任 岡田 俊 課程副主任 北 洋輔・魚野 翔太

11月10日（火）

発達障害に対する行政施策	加藤 永歳
学童期における問題と教育における支援	小平 雅基
就労、生活、余暇活動への支援	本田 秀夫
ライフステージに応じた援助方法	井上 祐紀

11月11日（木）

発達障害のある子の療育	広瀬 宏之
発達障害の早期兆候と養育支援	田中 恭子
発達障害のある子の思春期と性	小野 和哉
発達障害当事者の老いと支え	日詰 正文

講師名簿

岡田 俊	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部部長
北 洋輔	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部室長
魚野 翔太	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部室長
加藤 永歳	厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課障害児・発達障害者支援室発達障害対策専門官
小平 雅基	恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター愛育クリニック小児精神保健科部長
本田 秀夫	信州大学医学部子どものこころの発達医学教室教授 信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部部長
井上 祐紀	東京慈恵会医科大学附属病院精神医学講座准教授
広瀬 宏之	横須賀市療育相談センター所長
田中 恭子	国立成育医療研究センターこころの診療部 児童・思春期リエゾン診療科診療部長
小野 和哉	聖マリアンナ医科大学神経精神医学教室特任教授
日詰 正文	国立重度知的障害者総合施設のぞみの園総務企画局研究部部長

《認知行動療法の手法を活用した薬物依存症に対する集団療法研修》

令和2年11月16日から11月18日まで、第12回認知行動療法の手法を活用した薬物依存症に対する集団療法研修を実施し、「薬物依存症者の臨床的特徴と治療に関するエビデンスを理解し、直面化を避けた動機づけ面接の重要性を理解し、薬物依存症に対する集団認知行動療法のファシリテーションの実際を学ぶとともに、家族支援への理解を深める」を主題に、医療機関、行政機関、司法機関、民間回復施設等で薬物依存症者の援助に従事している者27名に対して研修を行った。

また新型コロナウイルス感染拡大に伴い、受講人数を減らし、東京近郊からの参加のみに限定して開催した。

課程主任 松本 俊彦 課程副主任 船田 正彦・嶋根 卓也・近藤 あゆみ

11月16日(月)

薬物依存症患者への対応の基本	成瀬 暢也
SMARPP の理念と意義	松本 俊彦
SMARPP の実際	近藤 あゆみ
SMARPP ビデオ学習	近藤 あゆみ
グループワーク (1)	今村 扶美

11月17日(火)

薬物中毒・乱用・依存の概念と最近の薬物関連障害患者の動向	嶋根 卓也
薬物依存症臨床における司法的問題への対応	松本 俊彦
社会資源 (1) ～精神保健福祉センターにおける支援～	源田 圭子
社会資源 (2) ～民間リハビリ施設と自助グループ～	加藤 隆
デモセッション	今村 扶美・川地 拓・加藤 隆
グループワーク (2)	今村 扶美
まとめとディスカッション	松本 俊彦

11月18日(水)

薬物依存症と性的マイノリティおよび HIV 感染	嶋根 卓也
動機づけ面接の基礎	澤山 透
CRAFT の基礎	吉田 精次
急性期病棟など短期的介入のためのツール—FARPP	船田 大輔
ディスカッション	松本 俊彦

講師名簿

松本 俊彦	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部部長
船田 正彦	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部室長
嶋根 卓也	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部室長
近藤 あゆみ	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部室長

今村 扶美	国立精神・神経医療研究センター病院臨床心理部臨床心理室長
川地 拓	国立精神・神経医療研究センター病院臨床心理部心理療法士
船田 大輔	国立精神・神経医療研究センター病院第二精神診療部第一司法精神科医師
成瀬 暢也	埼玉県立精神医療センター副病院長
源田 圭子	東京都立精神保健福祉センター地域援助医長
加藤 隆	NPO 法人八王子ダルク代表理事
澤山 透	相模が丘病院院長
吉田 精次	藍里病院副院長

《災害時 PFA と心理対応研修》

令和2年12月15日、第6回災害時 PFA と心理対応研修を実施し、「サイコロジカル・ファーストエイド（心理的応急処置：PFA）」に関する基本技能を習得する。また悲嘆、子どもの反応について理解し、不安軽減のためのスキルを習得する。」を主題に、自然災害、甚大事故、犯罪、テロ等のトラウマ的出来事に際して、実際に被災者、被害者へのこころのケア対応にあたる可能性のある、精神保健医療福祉業務に従事する医師、看護師、保健師、精神保健福祉士、臨床心理技術者、行政職員、教育関係者等 46 名に対して研修を行った。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、研修期間を2日間から1日に変更した。研修は演習を実施せず概論のみとなり、リカバリースキル研修は行われなかった。

課程主任 金 吉晴 課程副主任 大沼 麻実

12月15日（火）

災害時のこころのケア-総論

金 吉晴

PFA 概論（1）

大沼 麻実

PFA 概論（2）・リラクゼーション実習

大沼 麻実・大滝 涼子

災害時の子どものトラウマと反応

福地 成

講師名簿

金 吉晴

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 行動医学研究部部長

大沼 麻実

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 行動医学研究部研究員

大滝 涼子

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 行動医学研究部研究生

福地 成

公益社団法人宮城県精神保健福祉協会みやぎ心のケアセンター副センター長

《発達障害支援研修》

令和3年1月19日から1月20日まで、第1回発達障害者支援研修：行政実務研修を実施し、「自治体における発達障害者支援体制の整備およびかかりつけ医研修」を主題に、行政的な立場で各自治体の「かかりつけ医等発達障害対応力向上研修」の企画・実施に携わる者、もしくは発達障害者支援センター職員25名に対して研修を行った。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、オンライン開催に変更した。

課程主任 住吉 太幹 課程副主任 熊崎 博一

1月19日（火）

最新の障害福祉行政	加藤 永歳
地域支援の実践（横須賀市）	広瀬 宏之
地域支援の実践（長崎県）	今村 明
対応の難しい子ども達のための、各支援施設の役割－各施設の教育の構造化に焦点化して－	松浦 直己
豊田市における早期支援システムについて	若子 理恵
鹿児島県の地域支援体制作り	外岡 資朗

1月20日（水）

発達障害の最近の研究紹介	小坂 浩隆
地域支援の実践（新潟県）	杉本 篤言
地域支援の実践（北海道）	齋藤 卓弥
ペアレントトレーニング	井上 雅彦
地域支援体制の整備（ワークショップ）	田中 尚樹

講師名簿

熊崎 博一	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所児童・予防精神医学研究部室長
加藤 永歳	厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課障害児・発達障害者支援室 発達障害対策専門官
広瀬 宏之	横須賀市療育相談センター所長
今村 明	長崎大学病院地域連携児童思春期精神医学診療部教授
松浦 直己	三重大学教育学部教授
若子 理恵	豊田市こども発達センターセンター長
外岡 資朗	鹿児島県こども総合療育センター所長
小坂 浩隆	福井大学医学部 精神医学教授
杉本 篤言	新潟大学大学院医歯学総合研究科地域精神医療学寄附講座特任講師
齋藤 卓弥	北海道大学病院児童思春期精神医学研究部門特任教授

井上 雅彦	鳥取大学大学院医学系研究科教授
田中 尚樹	厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課障害児・発達障害者支援室 発達障害施策調整官

《災害時 PFA と心理対応研修》

令和 3 年 3 月 16 日、第 5 回災害時 PFA と心理対応研修を実施し、「「サイコロジカル・ファーストエイド（心理的応急処置：PFA）」に関する基本技能を習得する．また悲嘆，子どもの反応について理解し，不安軽減のためのスキルを習得する．」を主題に，自然災害，甚大事故，犯罪，テロ等のトラウマ的出来事に際して，実際に被災者，被害者へのこころのケア対応にあたる可能性のある，精神保健医療福祉業務に従事する医師，看護師，保健師，精神保健福祉士，臨床心理技術者，行政職員，教育関係者等 83 名に対して研修を行った．

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い，研修期間を 2 日間から 1 日に変更した．研修は演習を実施せず概論のみとなり，リカバリースキル研修は行われなかった．

課程主任 金 吉晴 課程副主任 大沼 麻実

3 月 16 日（火）

災害時のこころのケア・総論

金 吉晴

PFA 概論（1）

大沼 麻実

PFA 概論（2）・リラクゼーション実習

大沼 麻実・大滝 涼子

災害時の子どものトラウマと反応

福地 成

講師名簿

金 吉晴

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所行動医学研究部部長

大沼 麻実

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所行動医学研究部研究員

大滝 涼子

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所行動医学研究部研究生

福地 成

公益社団法人宮城県精神保健福祉協会みやぎ心のケアセンター副センター長

《発達障害者支援研修》

令和3年3月23日から3月24日まで、第1回発達障害者支援研修：指導者養成研修パートⅠを実施し、「発達障害の診断・治療と支援の実践」を主題に、病院、保健所、発達障害支援センター等に勤務し、発達障害に関心を有する医師（特に指導について責任的立場にある者）、自治体（都道府県、政令指定都市）において、行政的な立場で地域の研修実施に携わる者もしくは発達障害者支援センター職員72名に対して研修を行った。また新型コロナウイルス感染拡大に伴い、オンライン開催に変更した。

課程主任 岡田 俊 課程副主任 北 洋輔・魚野 翔太

3月23日（火）

併存する心理的、精神医学的問題—いわゆる二次障害	岡田 俊
強度行動障害	會田 千重
発達障害と併存症に対する薬物療法とその課題	宇佐美 政英
家族支援—ペアレントメンター、ペアレントトレーニングを含めて	吉川 徹

3月24日（水）

発達障害と虐待—養育者の対応も含めて	山下 浩
重度心身障害（児）者への医療と支援	小沢 浩
発達障害と睡眠、ネット・ゲーム依存など生活をめぐる問題	堀内 史枝
かかりつけ医の役割と移行期医療【トランジション】	奥野 正景

講師名簿

岡田 俊	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部部長
魚野 翔太	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部室長
會田 千重	国立病院機構肥前精神医療センター療育指導科長
宇佐美 政英	国立国際医療研究センター国府台病院 子どものこころ総合診療センターセンター長・児童精神科診療科長
吉川 徹	愛知県医療療育総合センター中央病院子どものこころ科部長
山下 浩	さいたま市子ども家庭総合センター副理事
小沢 浩	島田療育センターはちおうじ所長
堀内 史枝	愛媛大学医学部附属病院子どものこころセンターセンター長
奥野 正景	医療法人サヂカム会三国丘こころのクリニック理事長

研修の推移

国 立 精 神 衛 生 研 究 所				
36年6月～			54年度～	61年度
研 修 課 程	・医学科研修	→	・医学課程研修	・医学課程研修
	・心理学学科研修		・心理学課程研修	・心理学課程研修
	・社会福祉学科研修		・社会福祉学課程研修	・社会福祉学課程研修
	・精神衛生指導課程研修		・精神衛生指導課程研修	・精神衛生指導課程研修
			・精神科デイ・ケア課程研修	・精神科デイ・ケア課程研修

国立精神・神経センター精神保健研究所						
研 修 課 程	61年度		62年度～	18年度～	20年度	21年度
	・医学課程研修	→	・医学課程研修	・精神保健指導過程研修	・自殺総合対策企画研修	・自殺総合対策企画研修
	・心理学課程研修		・心理学課程研修	・精神科デイ・ケア課程研修	・地域自殺対策支援研修	・地域自殺対策支援研修
	・社会福祉学課程研修		・社会福祉学課程研修	・発達障害支援課程研修	・心理職等自殺対策研修	・心理職等自殺対策研修
	・精神衛生指導課程研修		・精神保健指導過程研修	・摂食障害治療課程研修	・自殺対策相談支援研修	・自殺対策相談支援研修
	・精神科デイ・ケア課程研修		・精神科デイ・ケア課程研修	・社会復帰リハビリテーション研修	・精神保健指導課程研修	・精神保健指導課程研修
				・ACT研修	・精神科医療評価・均てん化研修	・精神科医療評価・均てん化研修
				・薬物依存臨床課程研修	・発達障害早期総合支援研修	・発達障害早期総合支援研修
				・児童思春期精神医学研修	・発達障害支援医学研修	・発達障害支援医学研修
				・司法精神医学課程研修	・発達障害精神医療研修	・発達障害精神医療研修
				・犯罪被害者メンタルケア研修	・摂食障害治療研修	・摂食障害治療研修
					・摂食障害看護研修	・摂食障害看護研修
					・社会復帰リハビリテーション研修	・社会復帰リハビリテーション研修
					・薬物依存臨床看護研修	・薬物依存臨床看護研修
					・薬物依存臨床医師研修	・薬物依存臨床医師研修
					・PTSD精神療法研修	・PTSD精神療法研修
					・犯罪被害者メンタルケア研修	・犯罪被害者メンタルケア研修
					・司法精神医学研修	・司法精神医学研修
					・ACT研修	・ACT研修
						・アウトリーチによる地域ケアマネジメント並びに訪問型生活訓練研修

独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所			
研 修 課 程	22年度	23年度	24年度
	・精神科医療評価・均てん化研修	・精神科医療評価・均てん化研修	・精神科医療評価・均てん化研修
	・発達障害早期総合支援研修	・発達障害早期総合支援研修	・発達障害早期総合支援研修
	・精神保健指導課程研修	・心理職自殺予防研修	・心理職自殺予防研修
	・心理職自殺予防研修	・発達障害支援医学研修	・発達障害支援医学研修
	・発達障害支援医学研修	・精神保健指導課程研修	・精神保健指導課程研修
	・司法精神医学研修	・不眠症の認知行動療法研修	・自殺総合対策企画研修
	・PTSD医療研修	・自殺総合対策企画研修	・摂食障害治療研修
	・自殺総合対策企画研修	・摂食障害治療研修	・精神科医療従事者自殺予防研修
	・摂食障害治療研修	・精神科医療従事者自殺予防研修	・薬物依存臨床医師研修
	・薬物依存臨床医師研修	・薬物依存臨床医師研修	・薬物依存臨床看護等研修
	・薬物依存臨床看護等研修	・薬物依存臨床看護等研修	・発達障害精神医療研修
	・精神科医療従事者自殺予防研修	・発達障害精神医療研修	・司法精神医学研修
	・発達障害精神医療研修	・PTSD認知行動療法基本研修	・アウトリーチによる地域ケアマネジメント並びに訪問による生活訓練研修
	・アウトリーチによる地域ケアマネジメント並びに訪問型生活訓練研修	・司法精神医学研修	・ACT研修
	・自殺予防のための自傷行為とパーソナリティ障害の理解と対応研修	・アウリーチによる地域ケアマネジメント並びに訪問型生活訓練研修	・自殺予防のための自傷行為とパーソナリティ障害の理解と対応研修
	・摂食障害看護研修	・ACT研修	・摂食障害看護研修
	・犯罪被害者メンタルケア研修	・摂食障害看護研修	・薬物依存症に対する認知行動療法研修
	・ACT研修	・薬物依存症に対する認知行動療法研修	・犯罪被害者メンタルケア研修
		・犯罪被害者メンタルケア研修	

独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所			国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所
研 修 課 程	25年度	26年度	27年度
	・精神科医療評価・均てん化研修 ・発達障害早期総合支援研修 ・心理職自殺予防研修 ・発達障害支援医学研修 ・精神保健指導課程研修 ・自殺総合対策企画研修 ・摂食障害治療研修 ・精神科医療従事者自殺予防研修 ・薬物依存臨床医師研修 ・薬物依存臨床看護等研修 ・発達障害精神医療研修 ・司法精神医学研修 ・アウトリーチによる地域ケアマネジメント並びに訪問による生活訓練研修 ・ACT研修 ・自殺予防のための自傷行為とパーソナリティ障害の理解と対応研修 ・摂食障害看護研修 ・薬物依存症に対する認知行動療法研修 ・犯罪被害者メンタルケア研修 ・精神障害者に対する医療機関と連携した就労支援研修	・精神科医療評価・均てん化研修 ・発達障害早期総合支援研修 ・心理職自殺予防研修 ・発達障害支援医学研修 ・精神保健指導課程研修 ・自殺総合対策企画研修 ・摂食障害治療研修 ・精神科医療従事者自殺予防研修 ・薬物依存臨床医師研修 ・薬物依存臨床看護等研修 ・発達障害精神医療研修 ・司法精神医学研修 ・アウトリーチによる地域ケアマネジメント(福祉型)研修 ・ACT・多職種アウトリーチ研修 ・自殺予防のための自傷行為とパーソナリティ障害の理解と対応研修 ・摂食障害看護研修 ・薬物依存症に対する認知行動療法研修 ・犯罪被害者メンタルケア研修 ・医療における個別就労支援研修 ・司法精神医学ワンデイセミナー	・発達障害早期総合支援研修 ・精神保健指導課程研修 ・発達障害支援医学研修 ・自殺総合対策企画研修 ・摂食障害治療研修 ・アウトリーチによる地域ケアマネジメント(福祉型)研修 ・医療における包括型アウトリーチ研修 ・医療における個別就労支援研修 ・司法精神医学ワンデイセミナー ・薬物依存臨床医師研修 ・薬物依存臨床看護等研修 ・発達障害精神医療研修 ・心理職自殺予防研修 ・メンタルヘルス問題への初期対応指導者研修 ・司法精神医学研修 ・摂食障害看護研修 ・薬物依存症に対する認知行動療法研修 ・精神科医療従事者自殺予防研修 ・精神科急性期医療の質を考える研修 ・精神科医療従事者自殺予防研修 ・犯罪被害者メンタルケア研修

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所			
研 修 課 程	28年度	29年度	30年度
	・発達障害早期総合支援研修 ・発達障害支援医学研修 ・地域自殺対策推進企画研修 ・摂食障害治療研修 ・多職種による包括型アウトリーチ研修 ・医療における個別就労支援研修 ・薬物依存臨床医師研修 ・薬物依存臨床看護等研修 ・発達障害精神医療研修 ・自殺対策・相談支援研修 ・精神保健指導課程研修 ・司法精神医学研修 ・認知行動療法の手法を活用した薬物依存症に対する集団療法研修 ・摂食障害看護研修	・発達障害地域包括支援研修：早期支援 ・発達障害支援医学研修 ・摂食障害治療研修 ・地域精神科モデル医療研修プレセミナー ・多職種による包括型アウトリーチ研修 ・医療における個別就労支援研修 ・薬物依存臨床医師研修 ・薬物依存臨床看護等研修 ・自殺対策・相談支援研修 ・発達障害地域包括支援研修：精神保健・精神医療 ・精神保健指導課程研修 ・司法精神医学研修 ・摂食障害看護研修 ・認知行動療法の手法を活用した薬物依存症に対する集団療法研修	・災害時PFAと心理対応研修 ・精神保健指導課程研修 ・発達障害支援医学研修 ・発達障害地域包括支援研修：早期支援 ・摂食障害治療研修 ・精神障害者地域包括支援研修 ・多職種による包括型アウトリーチ研修 ・医療における個別就労支援研修 ・地域におけるリスクアセスメント研修 ・薬物依存臨床医師研修 ・薬物依存臨床看護等研修 ・発達障害地域包括支援研修：精神保健・精神医療 ・摂食障害看護研修 ・認知行動療法の手法を活用した薬物依存症に対する集団療法研修
課 程	31・令和1年度	令和2年度	
	・災害時PFAと心理対応研修 ・精神保健指導課程研修 ・発達障害支援医学研修 ・発達障害地域包括支援研修：早期支援 ・摂食障害治療研修 ・多職種による包括型アウトリーチ研修 ・医療における個別就労支援研修 ・地域におけるリスクアセスメント研修 ・薬物依存臨床医師研修 ・薬物依存臨床看護等研修 ・発達障害地域包括支援研修：精神保健・精神医療 ・認知行動療法の手法を活用した薬物依存症に対する集団療法研修	・災害時PFAと心理対応研修 ・発達障害者支援研修：指導者養成研修 ・発達障害者支援研修：行政実務研修 ・認知行動療法の手法を活用した薬物依存症に対する集団療法研修	

令和2年度精神保健に関する技術研修課程 実施計画表

研 修 日 程	課 程 名	申込み方法		申込み期間	受講料	会 場	定 員	主 任
		WEB	自治体 推薦					副主任
令和2年 7月8日(水)～9日(木) 【延期】	(第1回) 発達障害者支援研修: 指導者養成研修パートⅠ		○	4月1日(水)～5月7日(木) (5月21日(木))	無料	ユ	50	岡田 俊
9月8日(火)～9日(水) 【延期】	(第5回) 災害時PFAと心理対応研修	○*		6月30日(火)～7月20日(月)	¥12,000	ユ	50	金 吉晴 大沼 麻実
9月8日(火)～11日(金) 【中止】	(第34回) 薬物依存臨床医師研修 (第22回) 薬物依存臨床看護等研修	○		6月26日(金)～7月17日(金)	¥24,000	セ	20 30	松本 俊彦 船田 正彦 嶋根 卓也 近藤あゆみ
9月11日(金) 【中止】	(第58回) 精神保健指導課程研修	○		7月2日(木)～7月22日(水)	無料	ユ	35	山之内芳雄
9月15日(火)～19日(金) 【中止】	(第18回) 摂食障害治療研修	○*		7月10日(金)～7月30日(木)	¥24,000	セ	60	安藤 哲也 関口 敦
9月29日(火)～30日(水) 【中止】	(第1回) 発達障害者支援研修: 指導者養成研修パートⅡ		○	6月22日(月)～7月28日(火) (8月11日(火))	無料	ユ	50	住吉 太幹 熊崎 博一
11月10日(火)～11日(水)	(第1回) 発達障害者支援研修: 指導者養成研修パートⅢ		○	8月3日(月)～9月9日(水) (9月23日(水))	無料	オンライン	50	福垣 真澄 加賀 佳美
11月11日(水)～13日(金) 【中止】	(第16回) 摂食障害看護研修	○*		9月3日(木)～9月23日(水)	¥18,000	セ	60	安藤 哲也 関口 敦
11月16日(月)～18日(水)	(第12回) 認知行動療法の手法を活用した 薬物依存症に対する集団療法研修	○		9月7日(月)～9月28日(月)	¥18,000	ユ	20	松本 俊彦 船田 正彦 嶋根 卓也 近藤あゆみ
12月15日(火)	(第6回) 災害時PFAと心理対応研修	○*		10月6日(火)～10月26日(月)	¥6,000	オンライン	80	金 吉晴 大沼 麻実
令和3年 1月19日(火)～20日(水)	(第1回) 発達障害者支援研修:行政実務研修		○	10月16日(金)～11月18日(水) (12月2日(水))	無料	オンライン	67 組	住吉 太幹 熊崎 博一
3月16日(火)	(第5回) 災害時PFAと心理対応研修	○*		6月30日(火)～7月20日(月)	¥6,000	オンライン	80	金 吉晴 大沼 麻実
3月23日(火)～24日(水)	(第1回) 発達障害者支援研修: 指導者養成研修パートⅠ		○	12月1日(火)～1月25日(月) (2月8日(月))	無料	オンライン	50	岡田 俊

※推薦状
が必要な
研修

Ⅳ．令和２年度委託および受託研究課題

	研究者氏名	主任,代表 分担の別	研究課題名	研究費の区分	研究費 交付機関
公共精神健康医療研究部	白田謙太郎	主任研究者/ 分担研究者	「精神医療政策への萌芽的取組と行政効果検証に関する研究」内「医療記録を用いた医療観察法病棟入院患者の入院長期化予測に関する研究」	精神・神経疾患研究開発費	国立精神・神経医療研究センター
	堀口寿広	分担研究者	「精神医療政策への萌芽的取組と行政効果検証に関する研究」内「レセプト病名等情報から臨床診断を推定するロジックの開発に関する研究」	精神・神経疾患研究開発費	国立精神・神経医療研究センター
	羽澄 恵	分担研究者	「精神医療政策への萌芽的取組と行政効果検証に関する研究」内「精神保健指定医の研修実施に関する政策評価」	精神・神経疾患研究開発費	国立精神・神経医療研究センター
	白田謙太郎	研究分担者	「精神保健医療福祉施設におけるトラウマ（心的外傷）への対応の実態把握と指針開発のための研究」内「精神保健福祉センターと保健所におけるTICに関する実態把握」	厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）	厚生労働省
	羽澄 恵	研究代表者	「精神科入院医療における心理職の関与が医療の質に及ぼす影響～縦断的な診療記録システムを用いて～」	（公財）政策医療振興財団研究助成金	公益財団法人政策医療振興財団
	羽澄 恵	研究代表者	「眠気に伴う精神的苦痛が中枢性過眠症の治療経過に与える影響」	科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（若手研究））	日本学術振興会
薬物依存研究部	松本俊彦	研究代表者	再犯防止推進計画における薬物依存症者の地域支援を推進するための政策研究	厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）	厚生労働省
	松本俊彦	研究代表者	「再犯防止推進計画における薬物依存症者の地域支援を推進するための政策研究」内「保護観察の対象となった薬物依存症者のコホート調査システムの開発とその転帰に関する研究」	厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）	厚生労働省
	松本俊彦	研究開発代表者	物質使用障害を抱える女性に対する治療プログラムの開発と有効性評価に関する研究	日本医療研究開発機構 長寿・障害総合研究事業 障害者対策総合研究開発事業（精神障害分野）	日本医療研究開発機構
	松本俊彦	研究開発代表者	薬物使用障害に対する多様な治療法の開発	精神・神経疾患研究開発費	国立精神・神経医療研究センター
	松本俊彦	研究開発分担者	「乱用防止に資する医薬品の開発のための製剤学的アプローチに関する研究」内「日本における医療用麻薬の乱用の状況に関する情報収集と解析およびガイドラインに盛り込むべき事項に関する提言・Q&Aの作成」	日本医療研究開発機構（医薬品等規制調和・評価研究事業）	日本医療研究開発機構
	松本俊彦	研究分担者	「薬物乱用・依存状況の実態把握と薬物依存症者の社会復帰に向けた支援に関する研究」内「全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査」	厚生労働行政推進調査事業補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業）	厚生労働省
	松本俊彦	研究分担者	「医療用麻薬の乱用リスク要因の分析と適正使用促進のための研究」内「医療用麻薬の乱用リスク要因の分析と適正使用促進のための研究」	厚生労働科学研究費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業）	厚生労働省
	松本俊彦	研究分担者	「難治てんかんに対するカンナビノイド由来新規抗てんかん薬の治験体制整備に関する緊急研究」内「依存症における検討」	厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）	厚生労働省
	松本俊彦	研究分担者	「アルコール・薬物使用者の行動変容促進アプリと適切なフィードバックAIモデルの開発」内「RCTリクルート、アプリ有用性評価」	文部科学省基盤研究（B）	文部科学省
	松本俊彦	治験	S-812217の第1相単回及び反復投与並びに食事の影響試験	独立安全性評価委員会委員 塩野義製薬（受-320）	塩野義製薬
	松本俊彦	拠点病院	拠点センター（薬物依存症）	厚生労働省依存症対策全国拠点機関設置運営事業	厚生労働省
	船田正彦	分担研究者	「危険ドラッグの有害作用発現機序の解明と評価技術開発に関する研究」内「危険ドラッグの検出技術開発に関する研究」	精神・神経疾患研究開発費	国立精神・神経医療研究センター
	船田正彦	研究代表者	危険ドラッグ及び関連代謝産物の有害作用解析と乱用実態把握に関する研究	厚生労働科学研究費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業）	厚生労働省

Ⅳ 令和2年度委託および受託研究課題

薬物依存研究部	船田正彦	研究分担者	「危険ドラッグ及び関連代謝産物の有害作用解析と乱用実態把握に関する研究」内「フェンタニル類縁化合物の中樞作用解析法に関する研究」	厚生労働科学研究費補助金(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業)	厚生労働省
	船田正彦	研究代表者	精神活性物質の迅速検出法ならびに有害作用評価法開発に関する研究	厚生労働科学研究費補助金(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業)	厚生労働省
	船田正彦	研究分担者	「若年者を対象としたより効果的な薬物乱用予防啓発活動の実施等に関する研究」内「大麻を巡る国際社会の動向：米国及びカナダの規制状況について」	厚生労働科学研究費補助金(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業)	厚生労働省
	嶋根卓也	研究代表者	薬物乱用・依存状況等の実態把握と薬物依存症者の社会復帰に向けた支援に関する研究	厚生労働行政推進調査事業費補助金(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業)	厚生労働省
	嶋根卓也	研究分担者	「薬物乱用・依存状況等の実態把握と薬物依存症者の社会復帰に向けた支援に関する研究」内「飲酒・喫煙・薬物乱用についての全国中学生意識・実態調査(2020年)」	厚生労働行政推進調査事業費補助金(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業)	厚生労働省
	嶋根卓也	研究分担者	「危険ドラッグ及び関連代謝産物の有害作用解析と乱用実態把握に関する研究」内「新規危険ドラッグの乱用実態把握のための効果的な調査手法の確立」	厚生労働科学研究費補助金(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業)	厚生労働省
	嶋根卓也	研究分担者	「刑の一部執行猶予制度下における薬物依存者の地域支援に関する政策研究」内「民間支援団体利用者のコホート調査と支援の課題に関する研究」	厚生労働科学研究費補助金(障害者政策総合研究事業 精神障害分野)	厚生労働省
	嶋根卓也	分担研究者	「覚せい剤事犯者の理解とサポートに関する研究」	厚生労働省依存症に関する調査研究事業	厚生労働省
	嶋根卓也	分担研究者	「薬物使用と生活に関する全国高校生調査」	厚生労働省依存症に関する調査研究事業	厚生労働省
	嶋根卓也	分担研究者	「薬物使用障害の病因・病態・治療反応性に関する多面的研究」内「HIV陽性者における薬物使用障害罹患脆弱性の要因とその支援に関する研究」	精神・神経疾患研究開発費	国立精神・神経医療研究センター
	近藤あゆみ	研究分担者	「薬物乱用・依存状況等の実態把握と薬物依存症者の社会復帰に向けた支援に関する研究」内「精神保健福祉センターにおける家族心理教育プログラムの開発研究」	厚生労働行政推進調査事業費補助金(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業)	厚生労働省
	近藤あゆみ	分担研究者	「物質使用障害を抱える女性に対する治療プログラムの開発と有効性評価に関する研究」	日本医療研究開発機構 障害者対策総合研究開発事業	日本医療研究開発機構
	近藤あゆみ	分担研究者	「女性薬物依存症者の回復支援に関する研究」	厚生労働省依存症に関する調査研究事業	厚生労働省
行動医学研究部	猪浦智史	研究分担者	「薬物乱用・依存状況等の実態把握と薬物依存症者の社会復帰に向けた支援に関する研究」内「薬物使用のモニタリングに関する国際比較研究」	厚生労働行政推進調査事業費補助金(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業)	厚生労働省
	金澤由佳	研究代表者	精神障害者および触法精神障害者に対する強制的な医療と支援の包括的研究	科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 若手研究	日本学術振興会
	金 吉晴	研究代表者	恐怖記憶消去に関する脳神経回路を基盤としたPTSDの病態と回復経路の解明	文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(A)	日本学術振興会
	金 吉晴	研究代表者	ストレス関連疾患の認知行動療法の治療反応性と遺伝子・バイオマーカーの探索	精神・神経疾患研究開発費	国立精神・神経医療研究センター
	金 吉晴	研究代表者	災害・児童虐待等のトラウマ体験を有する人の心のケア支援の充実・改善に関する研究	革新的自殺研究推進プログラム委託研究	厚生労働大臣指定法人いのち支える自殺対策推進センター
	金 吉晴	分担研究者	実装科学推進のための基盤構築事業	国立高度専門医療研究センター医療研究連携推進本部 横断的研究推進費研究	厚生労働省
	金 吉晴	分担研究者	電子化医療情報を活用した疾患横断的コホート研究情報基盤整備事業	国立高度専門医療研究センター医療研究連携推進本部 横断的研究推進費研究	厚生労働省
	安藤哲也	分担研究者	ストレス関連疾患の認知行動療法の治療反応性と遺伝子・バイオマーカーの探索	精神神経疾患研究開発費	国立精神・神経医療研究センター
	安藤哲也	研究代表者	摂食障害の治療支援センター設置運営事業(全国拠点機関分)	精神保健対策費補助金	厚生労働省
	安藤哲也	研究分担者	過敏性腸症候群に対する認知行動療法のランダム化比較試験と治療効果の神経基盤の解明	文部科学省学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)	日本学術振興会

行動医学研究部	安藤哲也	研究代表者	摂食障害および支援の実態把握および好事例の把握に関する検討	障害者総合福祉推進事業	厚生労働省
	堀 弘明	研究代表者	遺伝子発現プロファイリングによるストレス対処方略の個別最適化	武田科学振興財団医学系研究助成（精神・神経・脳領域）	武田科学振興財団
	堀 弘明	研究代表者	日常的な運動によるストレス関連精神疾患の予後改善効果：炎症系に着目した検討	富健康科学振興財団研究助成	中富健康科学振興財団
	堀 弘明	研究代表者	うつ病とPTSDにおける視床下部-下垂体-副腎系と炎症系の概日リズム解析	文部科学省学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)	日本学術振興会
	堀 弘明	研究代表者	概日リズムのプロファイリングに基づくメンタル不調の早期発見	公益財団法人テルモ生命科学振興財団研究助成（予防医療研究）	テルモ生命科学振興財団
	堀 弘明	研究分担者	恐怖記憶消去に関する脳神経回路を基盤としたPTSDの病態と回復経路の解明	文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(A)	日本学術振興会
	関口 敦	研究代表者	シナプス可塑性の個人差評価によるストレス関連疾患の治療反応性予測	文部科学省学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)	日本学術振興会
	関口 敦	研究代表者	ヒトのシナプス可塑性評価によるストレス関連疾患の治療反応性予測	武田科学振興財団医学系研究助成（精神・神経・脳領域）	武田科学振興財団
	関口 敦	研究分担者	ストレス関連疾患の認知行動療法の治療反応性と遺伝子・バイオマーカーの探索	精神・神経疾患研究開発費	国立精神・神経医療研究センター
	関口 敦	研究代表者	疼痛性障害の新規治療プログラムの脳科学的エビデンスの構築	中富健康科学振興財団研究助成	中富健康科学振興財団
	関口 敦	研究分担者	恐怖記憶消去に関する脳神経回路を基盤としたPTSDの病態と回復経路の解明	文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(A)	日本学術振興会
	関口 敦	研究代表者	摂食障害に対する認知行動療法の有効性の神経科学的エビデンスの創出	日本医療研究開発機構 戦略的国際脳科学研究推進プログラム	日本医療研究開発機構
	関口 敦	研究分担者	摂食障害を抱える家族のピアサポート研修プログラムの開発	日本医療研究開発機構 障害者対策総合研究開発事業	日本医療研究開発機構
	小川眞太郎	研究代表者	プラズマローゲンを新たな軸とした精神疾患の前臨床研究—治療・病態・バイオマーカー	文部科学省学術研究助成基金助成金 若手研究	日本学術振興会
	大沼麻実	研究代表者	心理的応急処置（PFA）e-ラーニング開発と効果検証及び有効な普及方法の考察	文部科学省学術研究助成基金助成金 若手研究	日本学術振興会
	河西ひとみ	研究代表者	自己臭恐怖の病態と神経基盤の解明：精神症状と消化器症状の相互作用に焦点を当てて	文部科学省学術研究助成基金助成金 若手研究	日本学術振興会
	河西ひとみ	研究分担者	過敏性腸症候群に対する認知行動療法のランダム化比較試験と治療効果の神経基盤の解明	文部科学省学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)	日本学術振興会
	上田奈津貴	研究代表者	時間感覚障害に着目した統合失調症の学習デザインの構築	文部科学省学術研究助成基金助成金 若手研究	日本学術振興会
	船場美佐子	研究代表者	過敏性腸症候群に対する認知行動療法のランダム化比較試験と治療効果の神経基盤の解明	文部科学省学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)	日本学術振興会
	船場美佐子	研究代表者	過敏性腸症候群に対する内部感覚曝露を用いた認知行動療法(CBT-IE)の実装研究	メンタルヘルス岡本記念財団研究活動助成金	メンタルヘルス岡本記念財団
神児医学・研究防部精	菅原彩子	研究代表者	医療機関を受診していない摂食障害患者と家族の支援ニーズに関する調査研究	やずや食と健康研究所助成研究	やずや食と健康研究所
	菅原彩子	研究代表者	医療機関を受診していない摂食障害患者と家族の支援ニーズの解明	文部科学省学術研究助成基金助成金 若手研究	日本学術振興会
	林 明明	研究代表者	オンライン調査・実験の信頼性に関する研究：同一回答者のデータ比較を通して	文部科学省学術研究助成基金助成金 若手研究	日本学術振興会
	中島実穂	研究代表者	児童期トラウマがもたらす心理的影響メカニズムの解明	文部科学省学術研究助成基金助成金 若手研究	日本学術振興会
	伊藤(丹羽)まどか	研究代表者	複雑性心的外傷後ストレス障害に対する介入法の検証	文部科学省科学研究費補助金 特別研究員奨励費	日本学術振興会
	住吉太幹	研究代表者	経頭蓋直流刺激による統合失調症治療効果のモノアミン神経活動に基づく生体指標の開発	科学研究費助成事業(科学研究費補助金)(基盤研究(B))	日本学術振興会
	住吉太幹	研究分担者	精神疾患のNVS(negative valence system)に対する治療法の開発	精神・神経疾患研究開発費	国立精神・神経医療研究センター

IV 令和2年度委託および受託研究課題

児童・予防精神医学研究部	住吉太幹	研究分担者	双方向性のニューロモデュレーション機構の解明と臨床応用の基盤整備	精神・神経疾患研究開発費	国立精神・神経医療研究センター
	住吉太幹	研究分担者	NCNPブレインバンクの運営および生前登録システムの推進	精神・神経疾患研究開発費	国立精神・神経医療研究センター
	住吉太幹	研究分担者	3つの神経伝達系の非侵襲的同時測定法を用いた統合失調症の認知機能障害の解明	科学研究費助成事業(学術研究助成基金)(基盤研究(C))	日本学術振興会
	住吉太幹	研究分担者	事象関連電位と瞳孔経変化から解明する発達障害におけるパニックの神経基盤	科学研究費助成事業(学術研究助成基金)(基盤研究(C))	日本学術振興会
	住吉太幹	研究分担者	医療前のライフログデータおよび健診結果を活用する予測先制医療のための研究	横断的研究推進事業	国立高度専門医療研究センター
	住吉太幹	研究分担者	精神疾患レジストリの構築・統合により新たな診断・治療法を開発するための研究	長寿・障害総合研究事業 障害者対策総合研究開発事業(精神障害分野)	日本医療研究開発機構
	住吉太幹	研究分担者	COVID-19等による社会変動下に即した応急的遠隔対応型メンタルヘルスケアの基盤システム構築と実用化促進にむけた効果検証	長寿・障害総合研究事業 障害者対策総合研究開発事業(精神障害分野)	日本医療研究開発機構
	住吉太幹	研究分担者	超ハイリスク基準群における生体情報評価及びサイトカイン測定による統合失調症の発現予測因子の探索研究	共同研究	ヤンセンファーマ株式会社
	住吉太幹	研究分担者	気分状態の安定した双極性障害患者の認知機能改善に対するLurasidone併用療法(ELICE-BD)の有効性評価のための6週間ランダム化二重盲検プラセボ対照多施設試験	共同研究	British Columbia大学
	住吉太幹	研究分担者	統合失調症患者及び統合失調感情障害患者を対象としたデジタル服薬管理システム(プロテウス 服薬管理システム、大塚メディカルソフトウェア)の使用研究、探索的研究	共同研究	大塚製薬株式会社/武田薬品工業
	住吉太幹	研究分担者	統合失調症の社会認知機能障害に対する経頭蓋直流電気刺激の効果に対するパイロット研究	若手臨床研究グループ活動奨励研究費	国立精神・神経医療研究センター
	住吉太幹	研究分担者	前治療抗精神病薬からプレクスピプラゾールの切り替えを実施する統合失調症患者及び統合失調感情障害患者を対象とした服薬継続率に関する多施設共同単群非盲検介入研究	共同研究	大塚製薬株式会社
	住吉太幹	研究代表者	大うつ病性障害患者を対象とした中央評価の妥当性に関する予備研究 ～対面評価と情報通信機器を導入した遠隔評価との一致性の検討～	共同研究	大日本住友製薬株式会社/武田薬品工業株式会社/Meiji Seikaファルマ株式会社/塩野義製薬株式会社/大塚製薬株式会社/ヤンセンファーマ株式会社
	熊崎博一	研究代表者	アンドロイドを媒介した相互コミュニケーションによる主体価値発展支援システムの確立	科学研究費助成事業(学術研究助成補助金) 新学術領域公募班	日本学術振興会
	熊崎博一	研究代表者	自閉スペクトラム症者へのアンドロイドを用いた面接訓練法の確立	科学研究費助成事業(学術研究助成補助金)(基盤研究(B))	日本学術振興会
	熊崎博一	研究代表者	精神科外来のための対人恐怖症患者への診療支援ロボットの開発/	科学研究費助成事業(学術研究助成補助金) 新学術領域公募班	日本学術振興会
	熊崎博一	研究代表者	自閉スペクトラム症者の自己開示を促す多数体ロボットシステムの開発	科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 挑戦的研究(萌芽)	日本学術振興会
	熊崎博一	研究分担者	対話支援のための遠隔操作ロボットシステムの研究開発	科学研究費助成事業(学術研究助成補助金)(基盤研究(A))	日本学術振興会
	熊崎博一	研究分担者	発達障害者の交流を支援する半自律対話ロボットに関する研究	科学研究費助成事業(学術研究助成補助金)(基盤研究(A))	日本学術振興会
	熊崎博一	研究分担者	誰もが自在に活躍できるアバター共生社会の実現	ムーンショット型研究開発事業(JST)	JST
	熊崎博一	研究代表者	幼児用MEGを用いた自閉スペクトラム症児における嗅覚特性と社会的認知発達の因果関係についての解明	武田科学振興財団医学系研究助成	武田科学振興財団
	藤里紘子	研究代表者	子どもの感情障害に対する認知行動療法の統一プロトコルの有効性	科学研究費助成事業(科学研究費補助金)(基盤研究(B))	日本学術振興会
	白間 綾	研究代表者	瞳孔径測定による統合失調症の非定型アラートネスの研究	研究活動スタート支援	日本学術振興会

精神薬理研究部	山田光彦	分担研究者	「精神疾患のNVS(negative valence systems)に対する治療法の開発」内「Negative Valence Systemsにかかる神経回路特性に基づく新規向精神薬の研究開発」	精神・神経疾患研究開発費	国立精神・神経医療研究センター
	山田光彦	分担研究者	「ゲノム編集技術を用いたモデル動物作出による精神神経筋疾患の病態解明」内「ゲノム編集技術を用いたモデル動物の新規医薬品・医療機器開発のための非臨床試験への応用可能性の検討」	精神・神経疾患研究開発費	国立精神・神経医療研究センター
	山田光彦	研究代表者	統合失調症のグルタミン酸神経伝達異常におけるリゾホスファチジン酸の役割	科学研究費助成事業(基盤研究C)	日本学術振興会
	山田光彦	研究分担者	「うつ病の病態におけるアストロサイトの機能異常へのリゾホスファチジン酸受容体の関与」内「高速液体クロマトグラフィーによるアミノ酸分析」	科学研究費助成事業(基盤研究C)	日本学術振興会
	山田光彦	研究分担者	「統合失調症モデルマウスを用いた「幻覚・妄想」の神経基盤の解明」内「計画の実施(行動実験)」	科学研究費助成事業(基盤研究C)	日本学術振興会
	山田光彦	研究代表者	救急医療を起点とした自殺未遂者支援のエビデンスと社会実装	ヘルスリサーチ研究助成金	ファイザーヘルスリサーチ振興財団
	山田光彦	研究分担者	げっ歯類脳波データをを用いた睡眠スピンドル波解析方法	受託研究契約	大日本住友製薬(株)
	山田光彦	研究協力者	「実装科学推進のための基盤構築事業」内「精神医学における標準化治療と評価法の実装研究」	医療研究連携推進本部横断的研究推進費	国立高度専門医療研究センター
	三輪秀樹	研究代表者	統合失調症における注意機構異常の神経基盤	科学研究費助成事業国際共同研究加速基金	日本学術振興会
	三輪秀樹	研究代表者	統合失調症モデルマウスを用いた「幻覚・妄想」の神経基盤の解明	科学研究費助成事業(基盤研究C)	日本学術振興会
	三輪秀樹	分担研究者	「統合失調症のグルタミン酸神経伝達異常におけるリゾホスファチジン酸の役割」内「電気生理学的解析」	科学研究費助成事業(基盤研究C)	日本学術振興会
	三輪秀樹	分担研究者	「うつ病の病態におけるアストロサイトの機能異常へのリゾホスファチジン酸受容体の関与」内「脳スライスをを用いた電気生理学的解析」	科学研究費助成事業(基盤研究C)	日本学術振興会
	三輪秀樹	分担研究者	「脳高次機能の発達と老化の制御に共通する分子機構の解明」内「電気生理学的解析」	科学研究費助成事業(基盤研究B)	日本学術振興会
	三輪秀樹	研究代表者	ドーパミン神経回路の幻覚・妄想への影響の実体とは？	内藤記念科学奨励金・研究助成	公益財団法人内藤記念科学振興財団
	三輪秀樹	研究代表者	睡眠による脳機能回復	リバネス研究費ウェルネス・エイジングケア賞	(株)リバネス
	三輪秀樹	分担研究者	「危険ドラッグによる有害作用の新規評価法開発に関する研究」内「合成カナビノイドおよびPCP系薬物の中樞神経系への影響に関する脳波による評価」	精神・神経疾患研究開発費	国立精神・神経医療研究センター
	三輪秀樹	研究代表者	げっ歯類脳波データをを用いた睡眠スピンドル波解析方法	受託研究契約	大日本住友製薬(株)
	古家宏樹	研究代表者	統合失調症モデル動物における現実認識能力の障害とその脳内機構	科学研究費助成事業(若手研究)	日本学術振興会
	古家宏樹	研究分担者	「統合失調症のグルタミン酸神経伝達異常におけるリゾホスファチジン酸の役割」内「行動薬理学的解析」	科学研究費助成事業(基盤研究C)	日本学術振興会
	古家宏樹	研究分担者	「うつ病の病態におけるアストロサイトの機能異常へのリゾホスファチジン酸受容体の関与」内「in vivoマイクロダイアリシスを用いた行動薬理学的解析」	科学研究費助成事業(基盤研究C)	日本学術振興会
	古家宏樹	研究分担者	「神経発達障害仮説に基づく統合失調症モデルラットの行動異常と脳形態異常の関連」内「統合失調症モデルラットの行動解析を行う」	加齢共同研究	東北大学加齢医学研究所
	國石 洋	研究代表者	情動を制御する眼窩前頭皮質―扁桃体回路の発達様式とストレスが与える影響の解明	科学研究費助成事業(若手研究)	日本学術振興会
	小林桃子	研究代表者	関連候補遺伝子WDR3に着目した統合失調症の女性に特異的な分子病態の解明	科学研究費助成事業(若手研究)	日本学術振興会

IV 令和2年度委託および受託研究課題

精神薬理研究部	山田美佐	研究代表者	うつ病の病態におけるアストロサイトの機能異常へのリゾホスファチジン酸受容体の関与	科学研究費助成事業 (基盤研究C)	日本学術振興会
	山田美佐	研究分担者	「統合失調症のグルタミン酸神経伝達異常におけるリゾホスファチジン酸の役割」内「生化学的解析」	科学研究費助成事業 (基盤研究C)	日本学術振興会
	山田美佐	研究分担者	「難治性うつ病に対する新規治療戦略：報酬系・免疫系クロストークから探る疾患制御」内「関連遺伝子発現解析、細胞機能解析」	科学研究費助成事業 (基盤研究C)	日本学術振興会
	米本直裕	研究代表者	自殺予防対策の普及と適応に関するプロセス・アウトカム指標の開発	科学研究費助成事業 (基盤研究C)	日本学術振興会
	米本直裕	研究分担者	「国際レジストリ連携(iCRN)の臨床的意義と医療機関における課題に関する研究」内「国際レジストリ連携(iCRN)の社会医学的側面に関する研究」	科学研究費助成事業 (基盤研究C)	日本学術振興会
	米本直裕	研究分担者	「子育て世代包括支援センターへのユニバーサルアプローチ導入検証のためのコホート研究」内「研究デザインの監督・解析」	科学研究費助成事業 (基盤研究C)	日本学術振興会
精神疾患病態研究部	橋本亮太	研究代表者	大規模患者リソース及びiPS技術を用いた統合失調症の病態予測のバイオマーカー開発	科学研究費助成事業 基盤研究 (B) 特設分野研究	日本学術振興会
	橋本亮太	研究代表者	多次元脳神経画像とゲノムによる精神疾患の脳病態に基づく新たな診断体系の構築	科学研究費助成事業 基盤研究 (B)	日本学術振興会
	橋本亮太	研究分担者	「発達障害に関わる神経生物学的機構の霊長類基盤の解明」内「発達障害のリスク遺伝子の同定」	科学研究費助成事業 特別推進研究	日本学術振興会
	橋本亮太	研究分担者	「治療抵抗性統合失調症薬の安全性の検証による望ましい普及と体制構築に向けた研究」内「クロザピンモニタリングシステムの国際比較調査」	厚生労働科学研究費 障害者政策総合研究事業 (精神障害分野)	厚生労働省
	橋本亮太	研究分担者	「精神科領域におけるより適切な向精神薬長期使用等の出口戦略の実践に資する研究」内「EGUIDEでの調査研究」	厚生労働科学研究費 障害者政策総合研究事業 (精神障害分野)	厚生労働省
	橋本亮太	分担研究者	「精神疾患のNVS(negative valence system)に対する治療法の開発」内「Negative Valence Systemsとドーパミンシステムとの関連研究」	精神・神経疾患研究開発費	国立精神・神経医療研究センター
	橋本亮太	研究代表者	精神医療分野における治療の質を評価するQIとその向上をもたらす介入技法の開発と実用性の検証	長寿・障害総合研究事業 障害者対策総合研究開発事業 (精神障害分野)	日本医療研究開発機構
	橋本亮太	研究分担者	「縦断的MRIデータに基づく成人期気分障害と関連疾患の神経回路の解明」内「気分障害と統合失調症の疾患連続性に関する脳画像等の総合的解析研究」	戦略的国際脳科学研究推進プログラム	日本医療研究開発機構
	橋本亮太	研究分担者	統合失調症の眼球運動による診断法と治療法の開発	AMED橋渡し研究戦略的推進プログラム補助事業 大阪大学拠点 研究シーズ (2020年度橋渡し事業シーズA) 「戦略的TR推進による自立循環型新規医療創出拠点の実現」	日本医療研究開発機構
	橋本亮太	研究分担者	「精神疾患レジストリの構築・統合により新たな診断・治療法を開発するための研究」内「レジストリの構築 (評価項目の品質管理)」	長寿・障害総合研究事業 障害者対策総合研究開発事業 (精神障害分野)	日本医療研究開発機構
	橋本亮太	研究分担者	「精神疾患を持つ人が社会生活目標達成を図るための、WHOのICFモデルに準拠し当事者と評価者の共同を重視した強みと弱点の評価尺度開発研究」内「精神疾患に伴う障害の評価尺度開発一身心機能、主観的体験の評価尺度検討およびAMED精神疾患レジストリ研究との調整」	長寿・障害総合研究事業 障害者対策総合研究開発事業 (精神障害分野)	日本医療研究開発機構
	橋本亮太	研究分担者	「血液メタボローム解析による精神疾患の層別化可能な客観的評価法の確立と治療最適化への応用」内「うつ症状に関する精神疾患横断的な血漿を用いたバイオマーカー開発」	長寿・障害総合研究事業 障害者対策総合研究開発事業 (精神障害分野)	日本医療研究開発機構
	橋本亮太	研究代表者	症状や病態仮説ではなく生物学的なデータに基づく精神神経疾患の新たな診断分類と病態解明に関する研究	共同研究	大塚製薬株式会社/武田薬品工業株式会社/日本たばこ産業株式会社

精神疾患病態研究部	橋本亮太	研究代表者	多次元ビッグデータのデータ駆動型解析による精神疾患の脳病態メカニズムの解明	2020年度 研究助成 精神薬療分野 一般研究助成	先進医薬研究振興財団
	三浦健一郎	研究代表者	精神疾患の視覚認知行動異常のシステム神経科学的研究	科学研究費助成事業 基盤研究 (C)	日本学術振興会
	三浦健一郎	研究分担者	「双方向トランスレーショナルアプローチによる精神疾患の脳予測性障害機序に関する研究開発」内「眼球運動の状況予測性解析法の研究開発と疾患横断的理解」	革新的技術による脳機能ネットワークの全容解明プロジェクト	日本医療研究開発機構
	三浦健一郎	研究分担者	眼球運動と脳波計測を用いたアスリートの視覚認知能力の評価表の開発	科学研究費助成事業 基盤研究 (C)	日本学術振興会
	三浦健一郎	研究分担者	多次元脳神経画像とゲノムによる精神疾患の脳病態に基づく新たな診断体系の構築	科学研究費助成事業 基盤研究 (B)	日本学術振興会
	三浦健一郎	研究分担者	クロザピン抵抗性統合失調症のバイオマーカーの開発	科学研究費助成事業 基盤研究 (C)	日本学術振興会
	松本純弥	研究代表者	心因性疼痛の治療と認知機能障害の関連	科学研究費助成事業 若手研究	日本学術振興会
	松本純弥	研究分担者	多次元脳神経画像とゲノムによる精神疾患の脳病態に基づく新たな診断体系の構築	科学研究費助成事業 基盤研究 (B)	日本学術振興会
	松本純弥	研究分担者	クロザピン抵抗性統合失調症のバイオマーカーの開発	科学研究費助成事業 基盤研究 (C)	日本学術振興会
	松本純弥	研究分担者	精神疾患の視覚認知行動異常のシステム神経科学的研究	科学研究費助成事業 基盤研究 (C)	日本学術振興会
	長谷川尚美	研究分担者	多次元脳神経画像とゲノムによる精神疾患の脳病態に基づく新たな診断体系の構築	科学研究費助成事業 基盤研究 (B)	日本学術振興会
	長谷川尚美	研究分担者	精神疾患の視覚認知行動異常のシステム神経科学的研究	科学研究費助成事業 基盤研究 (C)	日本学術振興会
睡眠・覚醒障害研究部	安田由華	研究分担者	「精神医療分野における治療の質を評価するQIとその向上をもたらす介入技法の開発と実用性の検証」内「患者QOLを反映するQIの開発」	長寿・障害総合研究事業 障害者対策総合研究開発事業（精神障害分野）	日本医療研究開発機構
	安田由華	研究分担者	「精神科領域におけるより適切な向精神薬長期使用等の出口戦略の実践に資する研究」内「実践マニュアルの資料作成と利活用に関する研究」	厚生労働科学研究費 障害者政策総合研究事業（精神障害分野）	厚生労働省
	飯田仁志	研究分担者	「精神医療分野における治療の質を評価するQIとその向上をもたらす介入技法の開発と実用性の検証」内「ウェブを介した講習技法の開発」	長寿・障害総合研究事業 障害者対策総合研究開発事業（精神障害分野）	日本医療研究開発機構
	栗山健一	主任研究者	睡眠障害・睡眠ポリグラフデータバンク構築研究	精神・神経疾患研究開発費	国立精神・神経医療研究センター
	栗山健一	主任研究者	睡眠障害センター	精神・神経疾患研究開発費	国立精神・神経医療研究センター
	栗山健一	代表研究者	「健康づくりのための睡眠指針2014」のブラッシュアップ・アップデートを目指した「睡眠の質」の評価及び向上手法確立のための研究	厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）	厚生労働省
	栗山健一	研究代表者	大脳深部皮質下白質病変が不眠症病態に及ぼす影響の検討	科学研究費助成事業（基盤研究C）	日本学術振興会
	栗山健一	研究分担者	「恐怖記憶消去に関する脳神経回路を基盤としたPTSDの病態と回復経路の解明」内「PTSD治療の生理的指標研究」	科学研究費助成事業（基盤研究A）	日本学術振興会
	栗山健一	研究分担者	アルツハイマー病の病理と睡眠障害－アミロイドPET・タウPETと睡眠指標との関連	科学研究費助成事業（基盤研究B）	日本学術振興会
	栗山健一	研究代表者	遠赤外線加工繊維ベッドパッドが体温および睡眠へ及ぼす影響	受託・共同研究	株式会社PMC
	肥田昌子	研究代表者	概リズム睡眠覚醒障害の遺伝要因とその発症分子メカニズム	科学研究費助成事業（基盤研究C）	日本学術振興会
	北村真吾	研究代表者	子どもの睡眠調節に対する睡眠恒常性機能と概リズム機能の寄与	科学研究費助成事業（基盤研究C）	日本学術振興会
	北村真吾	研究分担者	「子どものメラトニン分泌パターン改善に直結するシンプル・ストラテジーの提案と実践検証」内「睡眠脳波分析、質問紙作成」	科学研究費助成事業（基盤研究B）	日本学術振興会

IV 令和2年度委託および受託研究課題

睡眠・覚醒障害研究部	北村真吾	研究代表者	睡眠状態を在宅で客観評価するためのリストバンド型活動量・睡眠測定ウェアラブル「V1X00CL（仮型番）」の解析アルゴリズムの作成	受託・共同研究	株式会社ヴェルト
	北村真吾	研究代表者	ガンマ帯域フリッカーバイオレット光曝露による睡眠および認知機能への影響	受託・共同研究	株式会社坪田ラボ
	吉池卓也	研究代表者	脳構造の可塑性ダイナミクスと気分障害病態の関連探索	科学研究費助成事業（若手研究）	日本学術振興会
	吉池卓也	研究分担者	遷延性悲嘆障害の多層的治療技法の開発と効果検証および生物学的基盤の解明	科学研究費助成事業（基盤研究B）	日本学術振興会
	綾部直子	研究代表者	睡眠・覚醒相後退障害に対する認知行動的アプローチに基づく治療プログラムの構築	科学研究費助成事業（若手研究）	日本学術振興会
	綾部直子	研究分担者	睡眠教育プログラムの教育現場における実証研究	科学研究費助成事業（基盤研究B）	日本学術振興会
知的・発達障害研究部	岡田 俊	研究代表者	「新規オキシトシン製剤を用いた自閉スペクトラム症の革新的治療法の開発と治療効果予測技術の開発、および発症とその改善効果発現のメカニズム解明に基づく次世代治療薬シーズの創出」内「自閉スペクトラム症に対する新規オキシトシン製剤の有効性・安全性の検討とオキシトシン反応性を予測する診断法開発」	AMED 脳科学研究戦略推進プログラム	日本医療研究開発機構
	岡田 俊	研究代表者	「表情認知障害を起点とする自閉スペクトラム症の二次障害の成立過程の解明」	文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（C）	文部科学省
	岡田 俊	研究分担者	「疾患コホートをを用いた22q11.21欠失症候群の表現型の追跡とゲノムバリエーション探索」	文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（C）	文部科学省
	岡田 俊	研究分担者	「子どものための診断アセスメントとサービス改善プロジェクト」	文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（C）	文部科学省
	岡田 俊	研究分担者	「自閉症スペクトラム障害をもつ人のための「未来語りのダイアログ」実践モデルの開発」	文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（C）	文部科学省
	岡田 俊	研究分担者	「向精神薬の適切な継続・減量・中止等の精神科薬物療法の出口戦略の実践に資する研究」	厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業（精神障害分野））	厚生労働省
	岡田 俊	研究分担者	「国立機関・専門家の連携と地域研修の実態調査による発達障害児者支援の効果的な研修の開発」	厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）	厚生労働省
	岡田 俊	分担研究者	「発達障害の治療法の確立をめざすトランスレーショナルリサーチ」内「発達障害の認知神経科学的アプローチに基づく病態解明」	精神・神経疾患研究開発費	国立精神・神経医療研究センター
	魚野翔太	研究代表者	「社会認知機能の個人差を生み出す基礎的な心的機能の解明」	文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（C）	文部科学省
	江頭優佳	研究代表者	「脳活動と行動に基づく注意欠如・多動症児の時間認知系機能検査バッテリーと治療法開発」	科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（若手研究）	文部科学省
	江頭優佳	研究分担者	「漢字書字障害特異的脳内機能ネットワークの解明と治療法開発」	文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（C）	文部科学省
	請園正敏	研究代表者	「社会的促進の観察効果と共行動効果の発生機序解明に向けて」	科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（若手研究）	文部科学省
	請園正敏	研究分担者	「母体免疫活性化による胎児発達と生後予後に関する生理学的特徴の抽出」	文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（C）	文部科学省
	白川由佳	研究代表者	「幼児間の相互交渉が神経基盤に与える影響の解明と育児支援環境の構築」	科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（若手研究）	文部科学省
	上田理誉	研究代表者	「後方離断術がもたらす薬剤抵抗性てんかん乳児の脳機能と発達の変化・乳幼児のてんかん外科手術前後の神経学的予後・脳機能変化の客観評価に基づく検討」	明治安田こころの健康財団 研究助成	明治安田こころの健康財団
	稲垣真澄	研究代表者	「漢字書字障害特異的脳内機能ネットワークの解明と治療法開発」	文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（C）	文部科学省
	稲垣真澄	研究分担者	「自閉スペクトラム症における学習困難の神経科学的解明と介入法の提案」	文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（C）	文部科学省
	稲垣真澄	研究分担者	「適応的歩行障害における神経性制御メカニズムの解明」	文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（C）	文部科学省

地域・司法精神医療研究部	藤井千代	研究代表者	地域精神保健医療福祉体制の機能強化を推進する政策研究	厚生労働行政推進調査事業費補助金 障害者政策総合研究事業	厚生労働省
	藤井千代	研究分担者	「地域特性に対応した精神保健医療サービスにおける早期相談・介入の方法と実施システム開発についての研究」内「都市近郊アウトリーチモデル」	厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業	厚生労働省
	藤井千代	研究分担者	「障害者ピアサポートの専門性を高めるための研修に係る講師を担える人材の養成及び普及のための研究」内「ピアサポートの専門性を高めるための研修プログラムの実施とモニタリング」	厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業	厚生労働省
	藤井千代	研究分担者	「入院中の精神障害者の円滑な早期の地域移行及び地域定着に資する研究:コホート研究」内「好事例の収集と分析」	厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業	厚生労働省
	藤井千代	研究分担者	「精神保健・福祉に関するエビデンスのプラットフォーム構築及び精神科長期入院患者の退院促進後の予後に関する検討のための研究」内「地域精神保健システムのステークホルダーに対するインタビュー、ニーズの集積研究全体への助言」	厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業	厚生労働省
	藤井千代	研究分担者	「地域で暮らす障害者の地域生活支援の実態把握及び効果的な支援方法、その評価方法についての研究」内「調査設計・分析に関する助言」	厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業	厚生労働省
	藤井千代	主任研究者	「重症精神障害者とその家族の効果的な地域生活支援体制に関する基盤的研究」内「アウトリーチによる家族支援の効果に関する研究」	精神・神経疾患研究開発費	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター
	藤井千代	研究分担者	重症精神障害者を対象としたアウトリーチ支援における認知行動療法の効果検討と普及	科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）	日本学術振興会
	藤井千代	研究分担者	重症精神障害者の地域支援を目的とした認知行動療法の遠隔トレーニングシステムの開発	科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）	日本学術振興会
	藤井千代	研究分担者	処遇の難しい精神障害者に対する医療支援体制の整備に向けた当事者参画研究	科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）	日本学術振興会
	山口創生	研究代表者	入院中の精神障害者の円滑な早期の地域移行及び地域定着に資する研究:コホート研究	厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業	厚生労働省
	山口創生	研究分担者	「精神保健・福祉に関するエビデンスのプラットフォーム構築及び精神科長期入院患者の退院促進後の予後に関する検討のための研究」内「プラットフォーム構築および運用への助言」	厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業	厚生労働省
	山口創生	研究分担者	「障害者ピアサポートの専門性を高めるための研修に係る講師を担える人材の養成及び普及のための研究」内「ピアサポートの専門性を高めるための研修を担う人材育成プログラムに関する評価」	厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業	厚生労働省
	山口創生	研究分担者	「就労継続支援B型事業所における精神障害者等に対する支援の実態と効果的な支援プログラム開発に関する研究」内「量的研究」	厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業	厚生労働省
	山口創生	研究分担者	「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた障害福祉サービス等の推進に資する研究」内「評価尺度及び障害福祉サービス利用状況に関する分析」	厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業	厚生労働省
	山口創生	分担研究者	「重症精神障害者とその家族の効果的な地域生活支援体制に関する基盤的研究」内「地域精神科医療・精神保健福祉実践におけるアウトカムについてのコンセンサスの模索」	精神・神経疾患研究開発費	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター
	山口創生	研究代表者	精神障害者就労支援における当事者視点の評価とサービス品質の自己管理システムの開発	科学研究費助成事業（科学研究費補助金）基盤研究（B）	日本学術振興会
	山口創生	研究分担者	重症精神障害者の地域支援を目的とした認知行動療法の遠隔トレーニングシステムの開発	科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）	日本学術振興会

IV 令和2年度委託および受託研究課題

地域・司法精神医療研究部	佐藤さやか	研究代表者	精神保健・福祉に関するエビデンスのプラットフォーム構築及び精神科長期入院患者の退院促進後の予後に関する検討のための研究	厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業	厚生労働省
	佐藤さやか	研究代表者	重症精神障害者を対象としたアウトリーチ支援における認知行動療法の効果検討と普及	科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）	日本学術振興会
	佐藤さやか	研究代表者	重症精神障害者の地域支援を目的とした認知行動療法の遠隔トレーニングシステムの開発	科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）	日本学術振興会
	菊池安希子	研究分担者	「入院中の精神障害者の円滑な早期の地域移行及び地域定着に資する研究：コホート研究」内「地域ケアにおけるリスクアセスメントの評価」	厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業	厚生労働省
	菊池安希子	分担研究者	「重症精神障害者とその家族の効果的な地域生活支援体制に関する基盤的研究」内「医療観察法通院処遇者における暴力および自傷・自殺の予測因子に関する研究」	精神・神経疾患研究開発費	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター
	菊池安希子	研究分担者	重症精神障害者の地域支援を目的とした認知行動療法の遠隔トレーニングシステムの開発	科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）	日本学術振興会
	菊池安希子	研究分担者	処遇の難しい精神障害者に対する医療支援体制の整備に向けた当事者参画研究	科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）	日本学術振興会
	曾雌崇弘	研究分担者	ライフスタイルと脳の働き－超高齢社会を生き抜くための心理科学－	科学研究費助成事業（科学研究費補助金）基盤研究（S）	日本学術振興会
	曾雌崇弘	研究分担者	特殊詐欺状況下における中高年者の意思決定過程の解明と詐欺防止策の提言	科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）挑戦（萌芽）	日本学術振興会
	曾雌崇弘	研究分担者	加齢による意思決定過程の変容に影響を及ぼす心理的・環境的要因の解明	科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）	日本学術振興会
	小塩靖崇	研究代表者	アスリートへのメンタルヘルス支援アプリの実装による効果検証：対人サービスへの先端技術導入の利点と課題の抽出	2019年度「先端技術と共創する新たな人間社会」	公益財団法人トヨタ財団
	小塩靖崇	研究代表者	日本文化・慣習に合わせた学校での精神保健教育の開発に関する研究		公益財団法人メンタルヘルス岡本記念財団
	松長麻美	研究分担者	精神障害者就労支援における当事者視点の評価とサービス品質の自己管理システムの開発	科学研究費助成事業（科学研究費補助金）基盤研究（B）	日本学術振興会
	小池純子	研究代表者	精神障害者による他害行為の予防に対する精神保健医療福祉体制の整備に関する研究	科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）	日本学術振興会
	小池純子	研究代表者	処遇の難しい精神障害者に対する医療支援体制の整備に向けた当事者参画研究	科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）	日本学術振興会
	小池純子	研究分担者	出所後に子育てが必要な女子受刑者への刑務所内支援モデルの開発	科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）挑戦的萌芽研究	日本学術振興会
	小池純子	研究分担者	精神障害者就労支援における当事者視点の評価とサービス品質の自己管理システムの開発	科学研究費助成事業（科学研究費補助金）基盤研究（B）	日本学術振興会
	川口敬之	研究代表者	精神障害者におけるリカバリーと生活の困難さの関連に基づく生活支援システムの構築	科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）若手研究	日本学術振興会
	川口敬之	研究代表者	精神障害当事者と支援者との共創によるリカバリー促進に向けた協働意思決定モデルの構築	三菱財団助成 社会福祉事業・研究助成	三菱財団
	阿部真貴子	研究分担者	音楽が誘発する身体運動の生起機序：その認知神経過程の解明および音楽療法への応用	科学研究費助成事業（科学研究費補助金）基盤研究（B）	日本学術振興会
	杉山直也	研究代表者	精神科救急医療における質向上と医療提供体制の最適化に資する研究	厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業	厚生労働省
	杉山直也	研究分担者	持続可能で良質かつ適切な精神医療とモニタリング体制の確保に関する研究	厚生労働行政推進調査事業費補助金 障害者政策総合研究事業	厚生労働省
	河野稔明	研究分担者	「医療観察法の制度対象者の治療・支援体制の整備のための研究」内「指定入院医療機関データベースシステムを活用した研究」	厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業	厚生労働省
	河野稔明	研究代表者	自治体における精神保健福祉法の通報等事例と支援をモニタリングする基盤の構築	科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）	日本学術振興会

スト レス ・ 災 害 時 こ こ ろ の 情 報 支 援 セ ン タ ー	金 吉晴	研究代表者	恐怖記憶消去に関する脳神経回路を基盤としたPTSDの病態と回復経路の解明	文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(A)	日本学術振興会
	金 吉晴	研究代表者	ストレス関連疾患の認知行動療法の治療反応性と遺伝子・バイオマーカーの探索	精神・神経疾患研究開発費	国立精神・神経医療研究センター
	金 吉晴	研究代表者	災害・児童虐待等のトラウマ体験を有する人の心のケア支援の充実・改善に関する研究	革新的自殺研究推進プログラム委託研究	厚生労働大臣指定法人いのち支える自殺対策推進センター
	金 吉晴	分担研究者	実装科学推進のための基盤構築事業	国立高度専門医療研究センター医療研究連携推進本部 横断的研究推進費研究	厚生労働省
	金 吉晴	分担研究者	電子化医療情報を活用した疾患横断的コホート研究情報基盤整備事業	国立高度専門医療研究センター医療研究連携推進本部 横断的研究推進費研究	厚生労働省
	金 吉晴	実務担当者	令和2年度こころの健康づくり対策事業 PTSD対策専門研修事業	補助金	厚生労働省
	関口 敦	研究代表者	シナプス可塑性の個人差評価によるストレス関連疾患の治療反応性予測	文部科学省学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)	日本学術振興会
	関口 敦	研究代表者	ヒトのシナプス可塑性評価によるストレス関連疾患の治療反応性予測	武田科学振興財団医学系研究助成(精神・神経・脳領域)	武田科学振興財団
	関口 敦	研究分担者	ストレス関連疾患の認知行動療法の治療反応性と遺伝子・バイオマーカーの探索	精神・神経疾患研究開発費	国立精神・神経医療研究センター
	関口 敦	研究代表者	疼痛性障害の新規治療プログラムの脳科学的エビデンスの構築	中富健康科学振興財団研究助成	中富健康科学振興財団
	関口 敦	研究分担者	恐怖記憶消去に関する脳神経回路を基盤としたPTSDの病態と回復経路の解明	文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(A)	日本学術振興会
	関口 敦	研究代表者	摂食障害に対する認知行動療法の有効性の神経科学的エビデンスの創出	日本医療研究開発機構 戦略的国际脳科学研究推進プログラム	日本医療研究開発機構
	関口 敦	研究分担者	摂食障害を抱える家族のピアサポート研修プログラムの開発	日本医療研究開発機構 障害者対策総合研究開発事業	日本医療研究開発機構
	小川眞太郎	研究代表者	ブラズマローゲンを新たな軸とした精神疾患の前臨床研究—治療・病態・バイオマーカー	文部科学省学術研究助成基金助成金 若手研究	日本学術振興会

精神保健研究所年報No.34（通号No.67）2021

令和3年9月30日発行

編集責任者 金 吉晴

発行所 国立研究開発法人
国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所
〒187-8553

東京都小平市小川東町4-1-1

（非売品） 電話 042（341）2711

印刷：有限会社 太平印刷

©2021, All rights reserved, Printed in Japan

